
各務原市「まちづくりに関する市民意識調査」 結果報告書

令和5年3月
各 務 原 市

目 次

I.調査の概要	1
1. 市民意識調査（18歳以上）の概要	2
（1）調査の目的	2
（2）実施概要	2
（3）調査結果の見方	2
2. 市民意識調査（中高生）の概要	4
（1）調査の目的	4
（2）実施概要	4
（3）調査結果の見方	4
II.調査結果のまとめ	5
1. 市民意識調査（18歳以上）結果の概要	6
2. 市民意識調査（中高生）結果の概要	14
III.調査の結果	17
1. 市民意識調査（18歳以上）結果	18
（1）最初に、あなたご自身についてうかがいます	18
（2）わたしたちのまち各務原市についてうかがいます	26
（3）人口減少対策についてうかがいます	69
（4）今後の公共施設の在り方についてうかがいます	77
（5）環境対策についてうかがいます	88
（6）協働のまちづくりについてうかがいます	100
（7）あなたの幸せについてうかがいます	108
（8）自由意見	114
2. 市民意識調査（中高生）結果	115
（1）最初に、あなたご自身についてうかがいます	115
（2）各務原市への愛着や住みやすさについてうかがいます	118
（3）各務原市のまちの魅力についてうかがいます	126
（4）日常生活における満足度についてうかがいます	128
（5）まちづくりへの関心についてうかがいます	132
（6）あなたの幸せについてうかがいます	135
（7）あなたのアイデアをうかがいます	138
IV.調査票	139
1. 市民意識調査（18歳以上）の調査票	140
2. 市民意識調査（中高生）の調査票	156

I .調査の概要

1. 市民意識調査（18歳以上）の概要

（1）調査の目的

本調査は、市の施策への満足度やまちづくりへの意識を調査し、次期総合計画の策定の参考にすることを目的とします。

（2）実施概要

① 調査方法

調査方法：各務原市在住の18歳以上から3,000人を無作為抽出

回答方法：郵送又はウェブ回答

調査期間：令和4年11月22日（火）～12月5日（月）

② 回収結果

調査対象者数（配布数）：3,000件

有効回収数：1,178件

有効回収率：39.3%

- 地区別の人口構成比と回収数構成比は概ね一致しており、集計結果に関する地区別の偏りはないと考えられます。

対象人口及び回収結果と構成比

区分	那加地区	稲羽地区	鵜沼地区	蘇原地区	川島地区	合計
住基人口	35,081	12,743	56,418	29,559	11,876	145,677
18歳以上人口	29,482	11,070	47,981	24,942	9,706	123,181
人口構成比	23.9%	9.0%	39.0%	20.2%	7.9%	100.0%
回収数	284	90	428	241	91	1,134
回収数構成比	25.0%	7.9%	37.7%	21.3%	8.0%	100.0%

※人口は令和4年10月1日現在、回収数は「わからない」「無回答」除く

③ 「校区」から「地区」への集約

那加地区	那加第一小学校、那加第二小学校、那加第三小学校、尾崎小学校
稲羽地区	稲羽西小学校、稲羽東小学校
川島地区	川島小学校
鵜沼地区	鵜沼第一小学校、鵜沼第二小学校、鵜沼第三小学校、緑苑小学校、八木山小学校、陵南小学校、各務小学校、中央小学校※
蘇原地区	蘇原第一小学校、蘇原第二小学校、中央小学校※

※中央小学校については、便宜上、回答数が鵜沼地区と蘇原地区で1：1になるよう按分しました。

（3）調査結果の見方

- 各集計の構成比は百分率で表し、四捨五入して小数点以下1位で表示しているため、合計が100%にならない場合があります。

- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中及び文章中、選択肢などを一部省略して表記している場合があります。図表中の n（number of case）は回答者数を表します。

2. 市民意識調査（中高生）の概要

（１）調査の目的

本調査は、数年後に社会人として、また、まちづくりの担い手として活躍される各務原市在住の中高生を対象として、市の施策への満足度やまちづくりへの意識を調査し、次期総合計画の策定の参考にすることを目的とします。

（２）実施概要

① 調査方法

調査方法：市立の8中学校から3年生の1クラス、市内に所在する県立の3高等学校の3年生または2年生から市内在住者60人/校を選出し実施

回答方法：ウェブ回答

調査期間：令和4年11月22日（火）～12月13日（火）

② 回収結果

調査対象者数（配布数）：500件

有効回収数：422件

有効回収率：84.4%

③ 「校区」から「地区」への集約

那加地区	那加第一小学校、那加第二小学校、那加第三小学校、尾崎小学校
稲羽地区	稲羽西小学校、稲羽東小学校
川島地区	川島小学校
鵜沼地区	鵜沼第一小学校、鵜沼第二小学校、鵜沼第三小学校、緑苑小学校、八木山小学校、陵南小学校、各務小学校、中央小学校※
蘇原地区	蘇原第一小学校、蘇原第二小学校、中央小学校※

※中央小学校については、便宜上、回答数が鵜沼地区と蘇原地区で1：1になるよう按分しました。

（３）調査結果の見方

- 各集計の構成比は百分率で表し、四捨五入して小数点以下1位で表示しているため、合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中及び文章中、選択肢などを一部省略して表記している場合があります。図表中のn（number of case）は回答者数を表します。

Ⅱ.調査結果のまとめ

1. 市民意識調査（18歳以上）結果の概要

（1）まちへの親しみ度（問9、問13）

①各務原市に「自分のまち」といった愛着、親しみを感じるかについて

- 全体では、「感じている」が62.8%と最も高くなっています。
- 前回調査（平成30年）の結果では「感じている」が63.7%で、今回の調査結果もほぼ同じといえます。
- 男女ともに「感じている」が最も高くなっています。
- 全年代で「感じている」が最も高くなっています。
- 全ての地区で「感じている」が最も高くなっています。

②これからも各務原市に住みたいと思うかについて

- 全体では、「ずっと住みたい」が58.7%と最も高くなっています。
- 前回調査（平成30年）の結果では「ずっと住みたい」が58.4%で、今回の調査結果もほぼ同じといえます。
- 男女ともに「ずっと住みたい」と答えています。
- 60歳代、70歳以上は他の年代よりも「ずっと住みたい」が高くなっています。
- 全ての地区で「ずっと住みたい」が最も高くなっています。

（2）住みやすさについて（問10～問12）

①各務原市の住みやすさについてどのように感じるかについて

- 全体では、「とても住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」を合わせると81.5%となっています。
- 前回調査（平成30年）よりも「どちらかといえば住みやすい」が高く、「とても住みやすい」、「どちらかといえば住みにくい」が低くなっています。
- 男女ともに「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっています。
- 全世代で「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっています。
- 全ての地区で「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっています。

②住みやすいと思う理由について

- 「生活環境が良いから」、「自然環境が良いから」、「買い物に便利だから」が高い割合となっています。自然環境など環境の良さや買い物の利便性が高いことが、各務原市を「住みやすい」とする評価に繋がっていることがわかります。
- 前回調査（平成30年）と今回の調査は全体の状況はほぼ同じですが、「生活環境が良いから」、「買い物に便利だから」が高くなり、「友人・知人が多いから」が低くなっています。
- 男性は女性よりも「通勤・通学に便利だから」が高くなっています。
- 10歳代は他の年代よりも「友人・知人が多いから」が高く、50歳代は「通勤・通学に便利だから」が高くなっています。
- 那加地区は他の地区よりも「交通事情や交通の便が良いから」、「通勤・通学に便利だから」が、川島地区は「自然環境が良いから」が、蘇原地区は「買い物に便利だから」が高くなっています。

③住みにくいと思う理由について

- 「交通事情や交通の便が良くないから」、「通勤・通学に不便だから」、「買い物に不便だから」が高い割合となっています。

（３）各務原市のイメージについて（問15、問16）

①各務原市にどのようなイメージを持っているかについて

- 「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合では、「自然と都市機能が調和しているまち」が最も高く、次いで「高品質のものづくりなど産業が盛んなまち」、「スポーツと健康づくりを推進するまち」となっています。このことから、自然の豊かさと共に都市機能の備え、産業も発展するバランスのとれたまちと捉えていると言えます。
- 「市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち」、「世界に向けて情報発信するまち」で、「そう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた割合が高くなっています。このことから、各務原市の魅力を対外的にアピールすることが弱いと考えられます。
- 前回調査（平成30年）と比べると、今回の調査と結果は変わりませんが、項目ごとの比較では、「自然と都市機能が調和しているまち」と「交通や都市基盤が発達した便利なまち」で「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が増加しています。また、「そう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた割合が高かった「世界に向けて情報発信するまち」は前回よりも増加しています。

②将来の都市の姿として、どのようなまちになってほしいと思うかについて

- 「医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が最も高く、次いで「高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」となっています。
- 前回調査（平成30年）と比べると、「若者にとって魅力的な個性的でおしゃれなまち」、「自然と都市機能が調和している環境と共生したまち」、「教育に積極的で子育てしやすいまち」が増加し、「高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」、「防犯、防災体制が整った安全なまち」、「交通や都市基盤が発達した便利なまち」が減少しています。
- 男女ともに「医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が最も高く、女性が男性を上回っています。
- 20歳代と40歳代から60歳代は「医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が、70歳以上は「高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が最も高くなっており、医療・福祉関連の施策の充実が求められています。
- 那加地区、稲羽地区、鵜沼地区、蘇原地区は「医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が、川島地区は「高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が最も高くなっています。

（４）施策の満足度、重要度（問17）

市で実施する37の施策について、満足度と重要度の回答結果を点数化しました。「重点課題（満足度は低い、重要度は高い。今後の重点課題として検討が必要な施策）」は下表のとおり、青少年教育、社会保障、高齢者福祉、障がい児者福祉、子ども福祉、交通体系、公共交通、雇用、財政運営に関するものとなっています。前回調査で重点課題に分類されていた地域福祉は「課題（満足度は低く、重要度も低い。満足度および重要度が低い、廃止もしくは実施方法の変更が必要な施策）」に分類されています。

■重点課題（満足度が低く、重要度が高い）に分類されている施策

番号	施策名	満足度	重要度
5	青少年教育（地域教育力の向上、家庭教育の充実 等）	0.45	2.84
16	社会保障（国民健康保険制度、介護保険制度等の適正な運用等）	0.44	3.33
17	高齢者福祉（地域包括ケア体制の構築、高齢者の自立支援・生活支援、高齢者の生きがいづくりの推進 等）	0.41	3.10

18	障がい児者福祉（障がい児者の自立支援や社会参加の促進、障がい児者施設の充実 等）	0.36	2.89
19	子ども福祉（地域ぐるみの子育て支援体制の強化、乳幼児保育・教育の充実 等）	0.46	3.26
25	交通体系（幹線道路・生活道路の整備 等）	0.60	3.14
28	公共交通（公共交通ネットワークの形成、ふれあいバスの運行 等）	0.07	2.98
34	雇用（多様な人材の育成、就労を支援する環境整備 等）	0.17	2.99
36	財政運営（計画的な財政運営 等）	0.13	2.91

（５）まちづくりの評価（問18、問19）

①各務原市のまちづくりとして、ここ５年間で、特に改善した（＝進展した）と思う取り組み・悪化した（＝進んでいない）と思う取り組み

- 学びの機会、学校教育、都市空間、スポーツ、交通体系は「改善・進展した」と評価されています。
- 公共交通、交通体系、雇用、都市ブランド、農業、財政運営は「悪化・進んでいない」と評価されています。
- 交通体系は、「改善・進展した」と「悪化・進んでいない」のどちらも上位に位置しています。
- 前回調査では、観光・交流、公共交通が「改善・進展した」と評価されましたが、代わって学校教育、スポーツが上位に入りました。また、農業と同率で財政運営（前回と同率）が「悪化・進んでいない」と評価されている他は、前回調査と同項目が上位に位置しています。

■ここ５年間で、特に改善した（＝進展した）と思う取り組み・悪化した（＝進んでいない）と思う取り組み

順位	改善した（進展した）と思う取り組み		順位	悪化した（進んでいない）と思う取り組み	
	項目名	割合		項目名	割合
1	学びの機会（生涯学習の充実、図書館サービスの充実 等）	12.9%	1	公共交通（公共交通ネットワークの形成、ふれあいバスの運行 等）	12.2%
2	学校教育（学校教育の充実、地域資源の活用、施設・設備の充実 等）	11.8%	2	交通体系（幹線道路・生活道路の整備 等）	10.5%
3	都市空間（魅力的な都市空間の形成、公園・緑地の保全 等）	11.4%	3	雇用（多様な人材の育成、就労を支援する環境整備 等）	9.4%
4	スポーツ（スポーツ機会の創出、スポーツ施設の充実 等）	10.2%	4	都市ブランド（かかみがはらブランドの形成・発信 等）	8.5%
5	交通体系（幹線道路・生活道路の整備 等）	9.8%	5	農業（農地の保全と活用、地産地消の推進 等）	6.9%
				財政運営（計画的な財政運営 等）	6.9%

②５年前に比べて「まちづくり」全般について改善したと思うかについて

- 「まあ改善したと思う」が36.6%で最も高く、次いで「変わっていない」が34.2%となっています。
- 前回調査（平成30年調査）と比べると、「変わっていない」が高くなっています。
- 男性は「変わっていない」が38.3%、女性は「まあ改善したと思う」が37.3%で最も高くなっています。

- 10歳代、20歳代、40歳代、50歳代及び70歳以上は「まあ改善したと思う」が、30歳代は「わからない」が高くなっています。また、60歳代は「変わっていない」が最も高く、他の年代よりも高くなっています。
- 那加地区、鵜沼地区、蘇原地区は「まあ改善したと思う」が、川島地区は「変わっていない」が最も高くなっています。稲羽地区は「まあ改善したと思う」と「変わっていない」が同率で最も高くなっています。

（６）人口減少対策について（問20～問23）

①各務原市の人口が減少していくことについて、どのように思うかについて

- 「人口減少は望ましくない」が61.2%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が35.8%となっています。
- 男女ともに「人口減少は望ましくない」が最も高くなっており、男性が女性より割合が高くなっています。

②人口の減少に対して、市はどのように取り組むべきだと思うかについて

- 「人口が増加するよう努力すべき」が25.6%で最も高くなっています。
- 前回調査（平成30年調査）よりも「人口が増加するよう努力すべき」が高くなっています。
- 男性が「人口が増加するよう努力すべき」が、女性が「現在程度の人口を維持するように努力すべき」が最も高くなっています。
- 10歳代、20歳代、60歳代は「現在程度の人口を維持するように努力すべき」、30歳代、40歳代及び70歳以上は「人口が増加するよう努力すべき」、50歳代は「人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき」が最も高くなっています。
- 稲羽地区、鵜沼地区、蘇原地区は「人口が増加するよう努力すべき」が、那加地区は「現在程度の人口を維持するように努力すべき」が、川島地区は「人口減少の幅が少しでも小さくなるよう努力すべき」が最も高くなっています。

③居住地域で、人口減少や少子高齢化の影響が出ている（と感じる）ことがあるかについて

- 「高齢者のみ世帯の増加」が65.4%で最も高く、次いで「子どもの減少」が53.3%、「空き家の増加」が33.1%となっています。
- 10歳代を除く年代で「高齢者のみ世帯の増加」が、10歳代では「子どもの減少」が最も高くなっています。
- 全ての地区で「高齢者のみ世帯の増加」が最も高くなっています。

④人口減少対策としてどのような施策が有効だと思うかについて

- 「子育て環境の充実」が60.4%と最も高く、次いで「結婚・妊娠・出産・産後への支援」が48.6%、「雇用の確保や就労支援」が46.0%となっています。
- 10歳代は「結婚・妊娠・出産・産後への支援」が、20歳代から50歳代と70歳以上は「子育て環境の充実」が、60歳代は「雇用の確保や就労支援」が最も高くなっています。
- 全ての地区で「子育て環境の充実」が最も高くなっており、鵜沼地区は他の地区よりも「産業の活性化」が高くなっています。

（７）今後の公共施設の在り方について（問24～問26）

①あなたは今後の公共施設の在り方について、どのように思うかについて

- 「必要性の低い施設は削減する」が57.0%と最も高く、次いで「建替え時に規模（大きさ・機能）を縮小する」が22.7%、「現状維持する」が15.2%となっています。
- 20歳代、60歳代は他の年代よりも「現状維持する」が高く、30歳代は「建替え時に規模（大きさ・機能）を縮小する」が高くなっています。

- 全ての地区で「必要性の低い施設は削減する」が最も高くなっています。

②どのような施設から削減していけば良いと思うかについて

- 「利用度や稼働率が低い施設」が63.2%と最も高く、次いで「一部の個人・団体にしか使われない施設」が50.8%、「老朽化した施設」が44.3%となっています。
- 男女とも「利用度や稼働率が低い施設」が最も高くなっており、男性は女性よりも「一部の個人・団体にしか使われない施設」が高く、女性は「老朽化した施設」が高くなっています。
- 全年代で「利用度や稼働率が低い施設」が最も高くなっています。
- 全ての地区で「利用度や稼働率が低い施設」が最も高くなっています。

③1～8の方策について、それぞれに対する考えについて

- 「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合は、「今ある施設の統廃合、複合化、多機能化によって施設数を減らす」が62.3%で最も高く、次いで「計画的な保全を行うことにより、施設や設備を長寿命化させる」が54.4%、「民間のノウハウや資金を積極的に活用し、施設の建替えや管理運営を行う」が48.1%となっています。
- 男性は「施設の一部や土地を売却、貸付することにより収入を確保する」で「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が高くなっています。
- 10歳代は「地域と密着した施設については、地域住民が運営し、維持管理できるようにする」、「施設におけるサービス水準を引き下げ、維持管理経費を減らす」、20歳代は「民間のノウハウや資金を積極的に活用し、施設の建替えや管理運営を行う」、「施設におけるサービス水準を引き下げ、維持管理経費を減らす」、「近隣の市町村と共同で施設を運営する」で「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が高くなっています。また、40歳代は「地域と密着した施設については、地域住民が運営し、維持管理できるようにする」、70歳以上は「近隣の市町村と共同で施設を運営する」、60代以上は「施設の一部や土地を売却、貸付することにより収入を確保する」で「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が高くなっています。
- 稲羽地区、鵜沼地区は「計画的な保全を行うことにより、施設や設備を長寿命化させる」で「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が高く、川島地区は「地域と密着した施設については、地域住民が運営し、維持管理できるようにする」で「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が高くなっています。

(8) 環境対策について (問27～問35)

①家庭でできるCO2(二酸化炭素)削減に積極的に取り組んでいるかについて

- 「どちらかといえば取り組んでいる」が50.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が30.1%となっています。
- 男女とも「どちらかといえば取り組んでいる」が最も高くなっており、男性は女性より「どちらともいえない」が高く、女性は「どちらかといえば取り組んでいる」が高くなっています。
- 10歳代で「どちらともいえない」、その他の年代で「どちらかといえば取り組んでいる」が最も高くなっています。また、10歳代は他の年代よりも「どちらともいえない」が高く、70歳以上は「どちらかといえば取り組んでいる」が高くなっています。
- 川島地区は「どちらともいえない」が、その他の地区は「どちらかといえば取り組んでいる」が最も高くなっています。

②どのような取り組みをしているかについて

- 「買い物にはマイバッグを持参している」が91.6%と最も高く、次いで「エアコンの冷暖房の温度に気を付けている」が77.2%となっています。

- 男性は女性よりも「エコドライブ（ふんわりアクセル、アイドリングストップ）を心掛けている」が高く、女性は「冷蔵庫の中を整理整頓している」が高くなっています。
- 10歳代で「エアコンの冷暖房の温度に気を付けている」と「買い物にはマイバッグを持参している」が同率で最も高くなっており、その他の年代で「買い物にはマイバッグを持参している」が最も高くなっています。
- 全ての地区で「買い物にはマイバッグを持参している」が最も高くなっています。

③取り組んでいない理由について

- 「どんな取り組みがあるかわからないため」が62.2%と最も高く、次いで「取り組みが面倒なため」が21.6%となっています。
- 男女ともに「どんな取り組みがあるかわからないため」が最も高くなっています。
- 70歳以上で「取り組みが面倒なため」、その他の年代で「どんな取り組みがあるかわからないため」が最も高くなっています。
- 全ての地区で「どんな取り組みがあるかわからないため」が最も高くなっています。

④生ごみを捨てる時の水切りについて

- 「水を軽く切ってから捨てている」が54.6%と最も高く、次いで「水をよくしぼってから捨てている」が35.2%となっています。
- 男女ともに「水を軽く切ってから捨てている」が最も高くなっています。
- 70歳以上で「水をよくしぼってから捨てている」、その他の年代で「水を軽く切ってから捨てている」が最も高くなっています。
- 全ての地区で「水を軽く切ってから捨てている」が最も高くなっています。

⑤食品ロスを意識して、その削減に取り組んでいるかについて

- 「取り組んでいる」が81.1%で、「取り組んでいない」が16.6%となっています。
- 男女ともに「取り組んでいる」が高くなっており、「取り組んでいない」は、男性が女性よりも高くなっています。
- 全年代で「取り組んでいる」が高くなっており、「取り組んでいる」は、70歳以上が他の年代よりも高くなっています。
- 全ての地区で「取り組んでいる」が高くなっています。

⑥食品ロスを削減するために取り組んでいることについて

- 「賞味期限が過ぎていても食べられるものは食べる」が80.8%と最も高く、次いで「買い物前に家庭にある食品を確認して必要なものだけ買う」が77.7%となっています。
- 10歳代で「外食では食べられる分だけ注文する」が、20歳代から60歳代で「賞味期限が過ぎていても食べられるものは食べる」が、70歳以上で「買い物前に家庭にある食品を確認して必要なものだけ買う」が最も高くなっています。
- 全ての地区で「賞味期限が過ぎていても食べられるものは食べる」が最も高くなっています。

⑦残骨灰には金・銀・プラチナ・パラジウム等の有価物が含まれていることを知っているかについて

- 「いいえ」が62.7%となっています。
- 女性が男性よりも「いいえ」が高くなっています。
- 10歳代から50歳代で「いいえ」が高く、60歳代、70歳以上で「はい」が高くなっています。
- 全ての地区で「いいえ」が高くなっています。

⑧残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収益を公益（斎場の運営経費など）のために活用することをどう思うかについて

- 「取り組むべきである」が69.3%となっています。
- 男性は女性よりも「取り組むべきである」が高くなっています。
- 70歳以上は他の年代よりも「取り組むべきである」が高くなっています。

- 全ての地区で「取り組むべきである」が最も高くなっています。

（９）協働のまちづくりについて（問36～問39）

①各務原市のまちづくりを進めていくとき、市民と行政との関係はどうあるべきだと思うかについて

- 「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が65.4%と最も高く、次いで「行政が主体となって、まちづくりを進める」が17.5%となっています。
- 男女ともに「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高くなっています。
- 全年代で「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高くなっています。
- 全ての地区で「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高くなっています。

②まちづくり活動に対する市民参加の機会がある場合、参加したいと思うかについて

- 「参加したいと思うが参加できない」が30.6%と最も高くなっています。
- 男女とも「参加したいと思うが参加できない」が最も高くなっています。
- 10歳代は「できるだけ参加したい」が、30歳代以上は「参加したいと思うが参加できない」が最も高くなっています。また、20歳代は「できるだけ参加したい」と「参加したいと思うが参加できない」が同率で最も高くなっています。
- 稲羽地区は「参加したいと思うが参加できない」と「わからない」が同率で最も高く、その他の地区は「参加したいと思うが参加できない」が最も高くなっています。

③どのような形で参加したいかについて

- 「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が50.6%と最も高くなっています。
- 前回調査（平成30年）と比べると、今回と同様に「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が最も高くなっています。
- 男性は「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」が、女性は「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が最も高くなっており、女性では、直接的な参加の形ではなく、アンケートやモニターといった、気軽に参加できる仕組みが望まれています。
- 10歳代から40歳代は「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が、50歳代以上は「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」が最も高くなっています。若い世代では、直接的な参加の形ではなく、アンケートやモニターといった、気軽に参加できる仕組みが望まれています。
- 川島地区、鵜沼地区、蘇原地区は「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が最も高く、那加地区、稲羽地区は「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」と「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が同率で最も高くなっています。

④参加できない、または参加したいと思わないと思う理由について

- 「仕事が忙しくて参加する時間がない」が49.0%と最も高く、次いで「余暇の時間を使ってまで参加しようとは思わない」が32.3%となっています。
- 上位の「仕事が忙しくて参加する時間がない」、「家事・育児・介護などで時間がない」、「人間関係がわずらわしい」では、前回調査（平成30年調査）よりも割合が高くなっています。
- 男女とも「仕事が忙しくて参加する時間がない」が最も高くなっており、「家事・育児・介護などで時間がない」は、女性が男性よりも高くなっています。
- 10歳代で「余暇の時間を使ってまで参加しようとは思わない」が、20歳代から60歳代で「仕事が忙しくて参加する時間がない」が最も高くなっており、70歳以上で「人間関係がわずらわしい」が高くなっています。
- 全ての地区で「仕事が忙しくて参加する時間がない」が最も高くなっています。

(10) 幸福度について (問40、問41)

①現在、どの程度幸せか

- 「7点」が22.2%と最も高く、次いで「8点」が20.1%となっています。平均値は6.77となっています。
- 男性で「7点」が、女性で「8点」が最も高く、平均値は男性が6.52で、女性が7.00となっています。
- 10歳代から50歳代で「7点」が、60歳代と70歳以上で「8点」が最も高くなっています。平均値は10歳代が6.36、20歳代が6.89、30歳代が7.07、40歳代が6.88、50歳代が6.67、60歳代が6.73、70歳以上6.58となっています。
- 川島地区、鵜沼地区、蘇原地区は「7点」が、那加地区は「8点」が最も高く、稲羽地区は「5点」、「7点」、「8点」が同率で最も高くなっています。平均値は那加地区が6.99、稲羽地区が6.70、川島地区が6.67、鵜沼地区が6.83、蘇原地区6.58となっています。

②幸せであるために重要だと思うことについて

- 「家計（所得・消費）の状況」が58.2%と最も高く、次いで「自分や家族の健康状況」が58.0%となっています。
- 前回調査（平成30年調査）と比べると、「仕事と生活のバランス」が高くなっています。
- 男性は「家計（所得・消費）の状況」が、女性は「自分や家族の健康状況」が最も高くなっています。
- 10歳代で「自由な時間」が、30歳代と40歳代で「家計（所得・消費）の状況」が、50歳代以上で「自分や家族の健康状況」が最も高くなっています。また、20歳代で「家計（所得・消費）の状況」と「仕事と生活のバランス」が同率で最も高くなっています。
- 鵜沼地区、蘇原地区は「家計（所得・消費）の状況」が、那加地区、稲羽地区、川島地区は「自分や家族の健康状況」が最も高くなっています。

2. 市民意識調査（中高生）結果の概要

（１）愛着や住みやすさについて（問５～問１１）

①各務原市のことが好きかについて

- 「とても好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合が89.6%となっています。
- 女性は「とても好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合が男性を上回っています。
- 高校生は「とても好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合が中学生を上回っています。

②各務原市の住みやすさをどのように感じるかについて

- 「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が84.4%となっています
- 前回調査（平成30年）よりも、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が高くなっています。
- 高校生は「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が中学生を上回っています。

③住みやすいと思う理由について

- 「生活環境が良いから」が54.2%で最も高く、次いで「友達や知り合いが多いから」が49.2%となっています。
- 中学生は「友達や知り合いが多いから」、高校生は「生活環境が良いから」が最も高くなっています。「生活環境が良いから」では、高校生が中学生よりも割合が高くなっています。

④住みにくいと思われる理由について

- 「交通事情や交通の便が良くないから」が68.2%で最も高く、次いで「買い物に不便だから」が50.0%となっています。
- 男女ともに「交通事情や交通の便が良くないから」が最も高くなっています。
- 中学生、高校生ともに「交通事情や交通の便が良くないから」が最も高くなっています。

⑤将来、各務原市に住み続けたいと思うかについて

- 「わからない」が32.9%と最も高く、次いで「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」が32.7%となっています。
- 前回調査（平成30年調査）と比べると、「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」は前回よりも高くなっています。
- 中学生は「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」、高校生は「わからない」が最も高くなっています。

（２）まちの魅力について（問12）

①各務原市のまちとしての魅力はどのようなことかについて

- 「自然が豊かであること」が58.1%と最も高く、次いで「広大な公園や桜並木など、美しい景観があること」が40.5%、「交通の利便性がよいこと（岐阜や名古屋に行きやすい）」が39.6%となっており、自然や利便性をまちの魅力として高く評価しています。
- 前回調査（平成30年）と比べると、「広大な公園や桜並木など、美しい景観があること」が前回よりも高くなっています。
- 中学生、高校生ともに「自然が豊かであること」が最も高く、中学生は「広大な公園や桜並木など、美しい景観があること」、高校生は「交通の利便性がよいこと（岐阜や名古屋に行きやすい）」が次いで高くなっています。

（３）まちの満足度、重要度（問13、問14）

①身近な生活環境について、どの程度満足しているかについて

- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合が高い項目は、「身近な緑や河川などの自然環境」が81.5%と最も高く、次いで「病院や診療所などの医療サービス」が80.8%、「日常の買い物の便利さ」が78.9%となっています。
- 「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた割合が高い項目は「騒音・振動・悪臭などの公害対策」となっています。
- 前回調査（平成30年）では、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合が高い項目は「病院や診療所などの医療サービス」、「身近な緑や河川などの自然環境」、「公園や緑地、広場などの遊び場の数」でした。また、「身近な緑や河川などの自然環境」、「日常の買い物の便利さ」、「小・中学校での教育環境」は前回調査よりも「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合が増加しています。
- 前回調査（平成30年）では、「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた割合が高い項目は「電車・バス・道路などの交通の便利さ」でした。また、「騒音・振動・悪臭などの公害対策」は前回調査よりも「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた割合が増加しています。

②生活環境がより良くなるために、特に重要だと思う項目について

- 「電車・バス・道路などの交通の便利さ」が37.7%と最も高く、次いで「病院や診療所などの医療サービス」が36.7%、「小・中学校での教育環境」が29.1%となっています。
- 前回調査（平成30年）と比べると、「病院や診療所などの医療サービス」、「小・中学校での教育環境」は前回よりも高くなっています。
- 男性は「病院や診療所などの医療サービス」、「小・中学校での教育環境」が同率で最も高く、女性は「電車・バス・道路などの交通の便利さ」が最も高くなっています。
- 中学生は「電車・バス・道路などの交通の便利さ」が最も高くなっていますが、高校生よりも低く、高校生は「病院や診療所などの医療サービス」が最も高く、中学生よりも高くなっています。

（４）まちづくりへの関心について（問15、問16）

①地域でのボランティア活動や、各務原市のまちをより良くする活動に参加したいと思うかについて

- 「参加したいと思っている」が25.8%で最も高く、次いで「参加したいと思うが参加できない」が22.3%となっています。
- 女性は「積極的に参加したい」と「参加したいと思っている」を合わせた割合が男性を上回っています。
- 高校生は「積極的に参加したい」と「参加したいと思っている」を合わせた割合が中学生を上回っています。

②どのような形で参加したいかについて

- 「ボランティア活動などをする」が50.6%で最も高く、次いで「近所の人と、身近な地域のための活動をする」が41.1%となっており、中高生にボランティア活動への参加意識が定着していることがうかがえます。
- 前回調査（平成30年）と比べると、「ボランティア活動などをする」の割合は減少し、「近所の人と、身近な地域のための活動をする」は増加しています。
- 男性は「ボランティア活動などをする」、女性は「近所の人と、身近な地域のための活動をする」が最も高くなっています。
- 中学生は「ボランティア活動などをする」が最も高く、高校生よりも高くなっています。高校生は「まちづくりの方向性を決める場に出て意見を言う」が最も高く、中学生よりも高くなっています。

③参加できない、または、参加したいと思わないと思われる理由について

- 「勉強が忙しい」が54.9%で最も高く、次いで「自由な時間を割いてまで参加しようとは思わない」が49.1%となっています。
- 前回調査（平成30年）と比べると、「勉強が忙しい」、「自由な時間を割いてまで参加しようとは思わない」が高くなっています。
- 男性は「自由な時間を割いてまで参加しようとは思わない」、女性は「勉強が忙しい」が最も高くなっています。
- 中学生は「勉強が忙しい」が最も高く、高校生は「自由な時間を割いてまで参加しようとは思わない」が最も高くなっています。

（５）幸福度について（問18～問20）

①現在、どの程度幸せか

- 「８点」が20.6%と最も高く、次いで「７点」が20.1%、「１０点」が14.5%となっています。平均値は7.05となっています。
- 前回調査（平成30年）と比べると、「８点」、「９点」、「１０点」が高くなっており、平均値は0.59ポイント高くなっています。
- 男性は「８点」、女性は「７点」が最も高く、平均値は男性よりも女性の方が高くなっています。
- 中学生は「７点」、高校生は「８点」が最も高く、平均値は高校生よりも中学生の方が高くなっています。

②幸せであるために重要だと思うことについて

- 「心身が健康であること」が60.0%と最も高く、次いで「自由な時間があること」が57.1%、「家族と楽しく暮らすこと」が34.6%となっています。
- 前回調査と比べると、「心身が健康であること」、「自由な時間があること」が高くなっています。
- 男性は「自由な時間があること」、女性は「心身が健康であること」が最も高くなっています。
- 中学生、高校生ともに「心身が健康であること」が最も高くなっていますが、中学生は高校生よりも「家族と楽しく暮らすこと」、「友人に恵まれていること」が、高校生は中学生よりも「自由に使えるお金があること」が高くなっています。

③自分の将来が楽しみかについて

- 「まあまあ楽しみ」が41.2%と最も高く、次いで「とても楽しみ」が28.2%となっています。
- 前回調査と比べると、「とても楽しみ」が高くなっています。
- 女性は「とても楽しみ」と「まあまあ楽しみ」を合わせた割合が男性を上回っています。
- 中学生は「とても楽しみ」と「まあまあ楽しみ」を合わせた割合が高校生を上回っています。

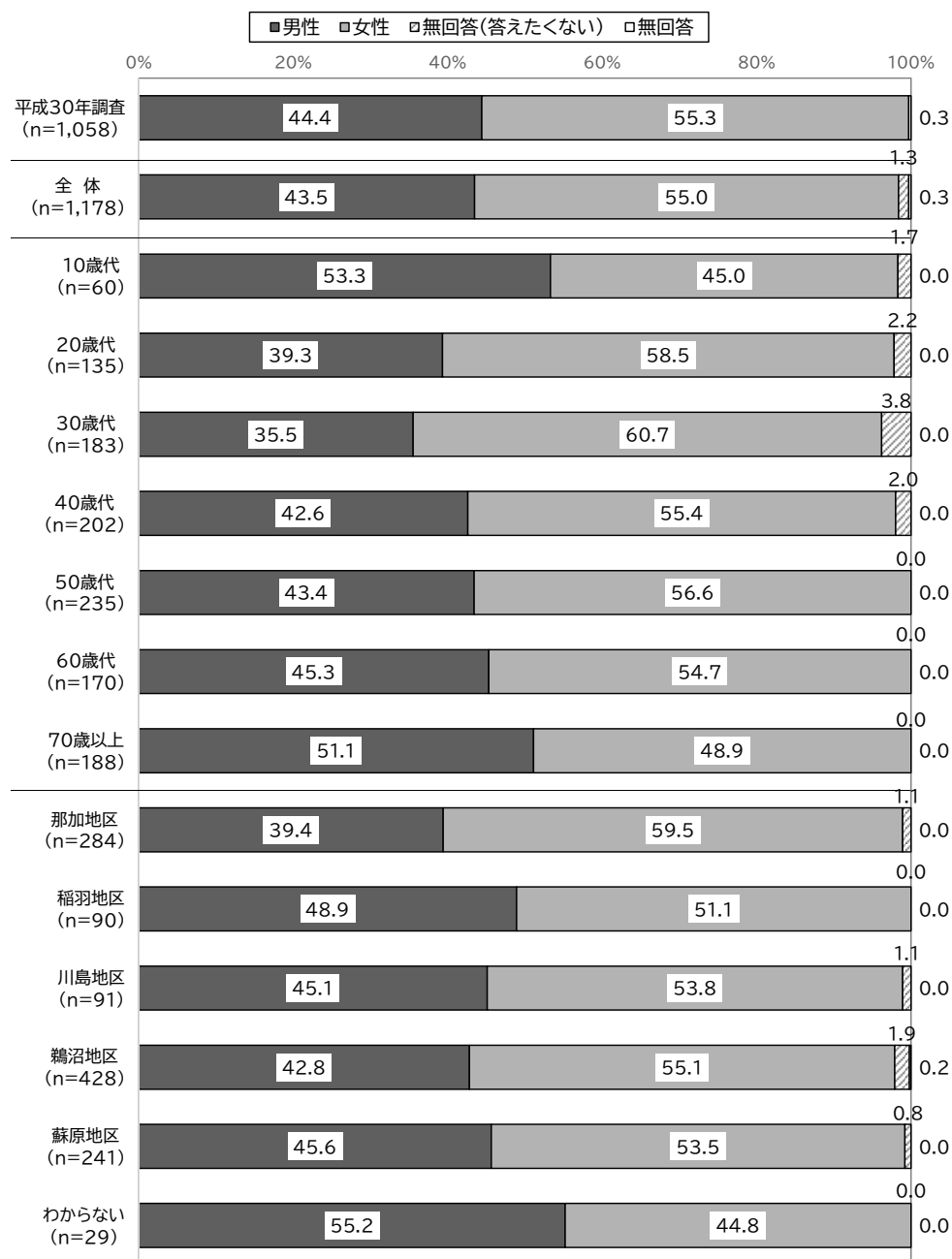
Ⅲ.調査の結果

1. 市民意識調査（18歳以上）結果

（1）最初に、あなたご自身についてうかがいます

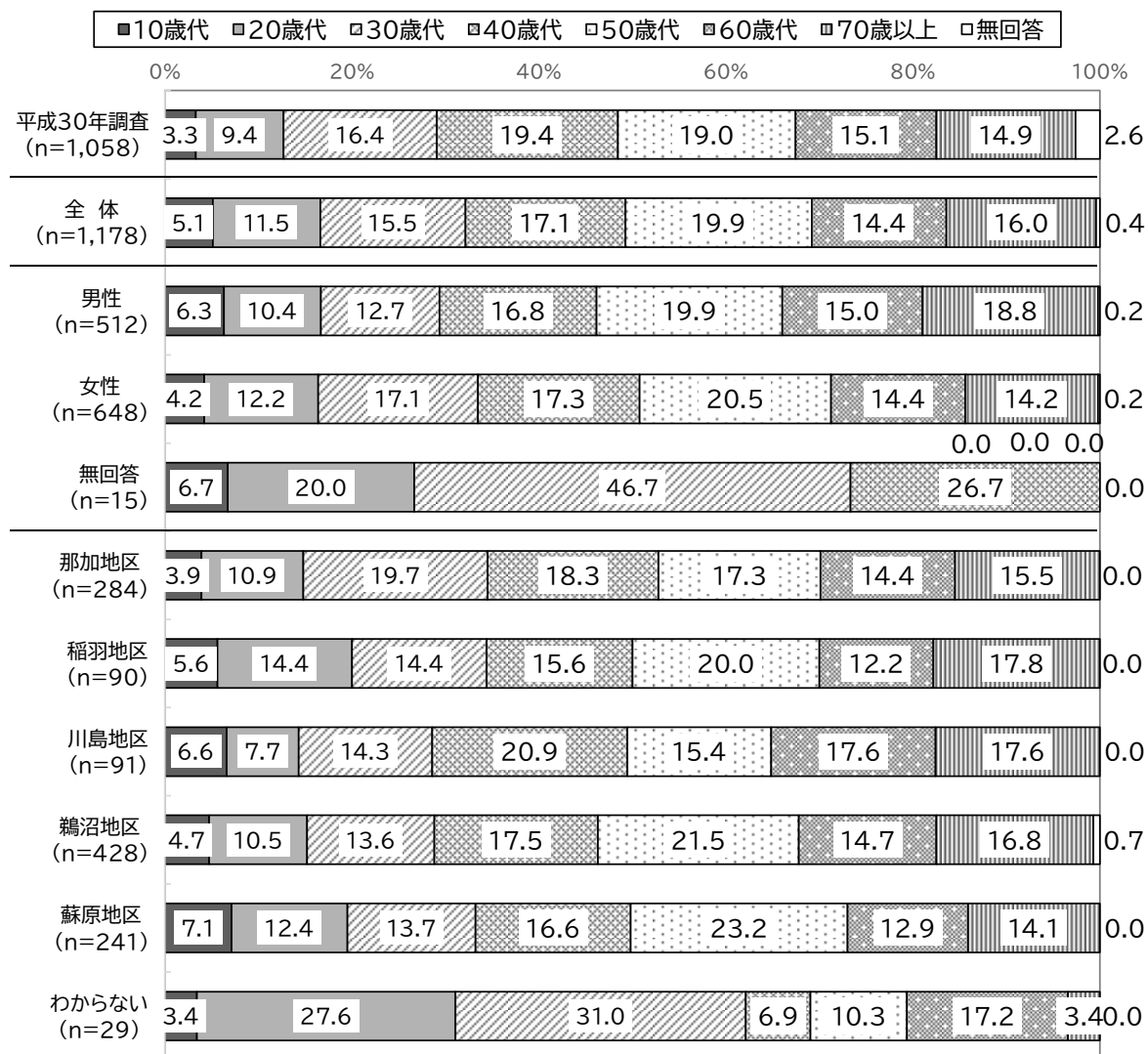
問1 あなたの性別をお答え下さい。（いずれかに○）

- 性別について、「男性」が43.5%、「女性」が55.0%と、「女性」が11.5ポイント上回っています。
- 年齢別について、20歳代から60歳代までは「女性」が「男性」を上回っていますが、10歳代と70歳以上の年代は「男性」が「女性」を上回っています。
- 地区別について、全ての地区で女性が男性を上回っています。



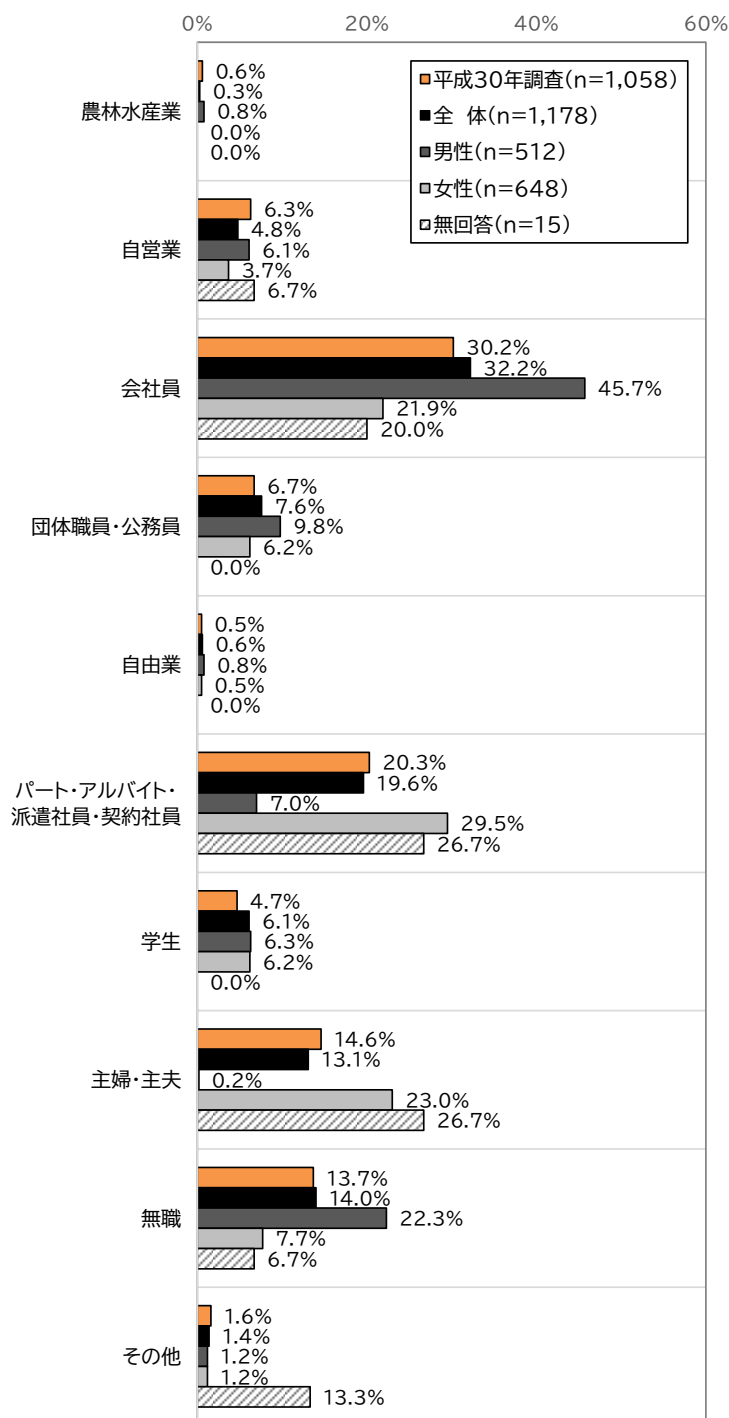
問2 あなたは何歳ですか。(数字を記入)

- 年齢について、「50歳代」が19.9%と最も高く、次いで「40歳代」が17.1%、「70歳以上」が16.0%となっています。
- 性別について、男性、女性とも「50歳代」が最も高くなっています。
- 地区別について、那加地区は「30歳代」が、川島地区は「40歳代」が、稲羽地区、鵜沼地区、蘇原地区は「50歳代」が最も高くなっています。



問3 あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

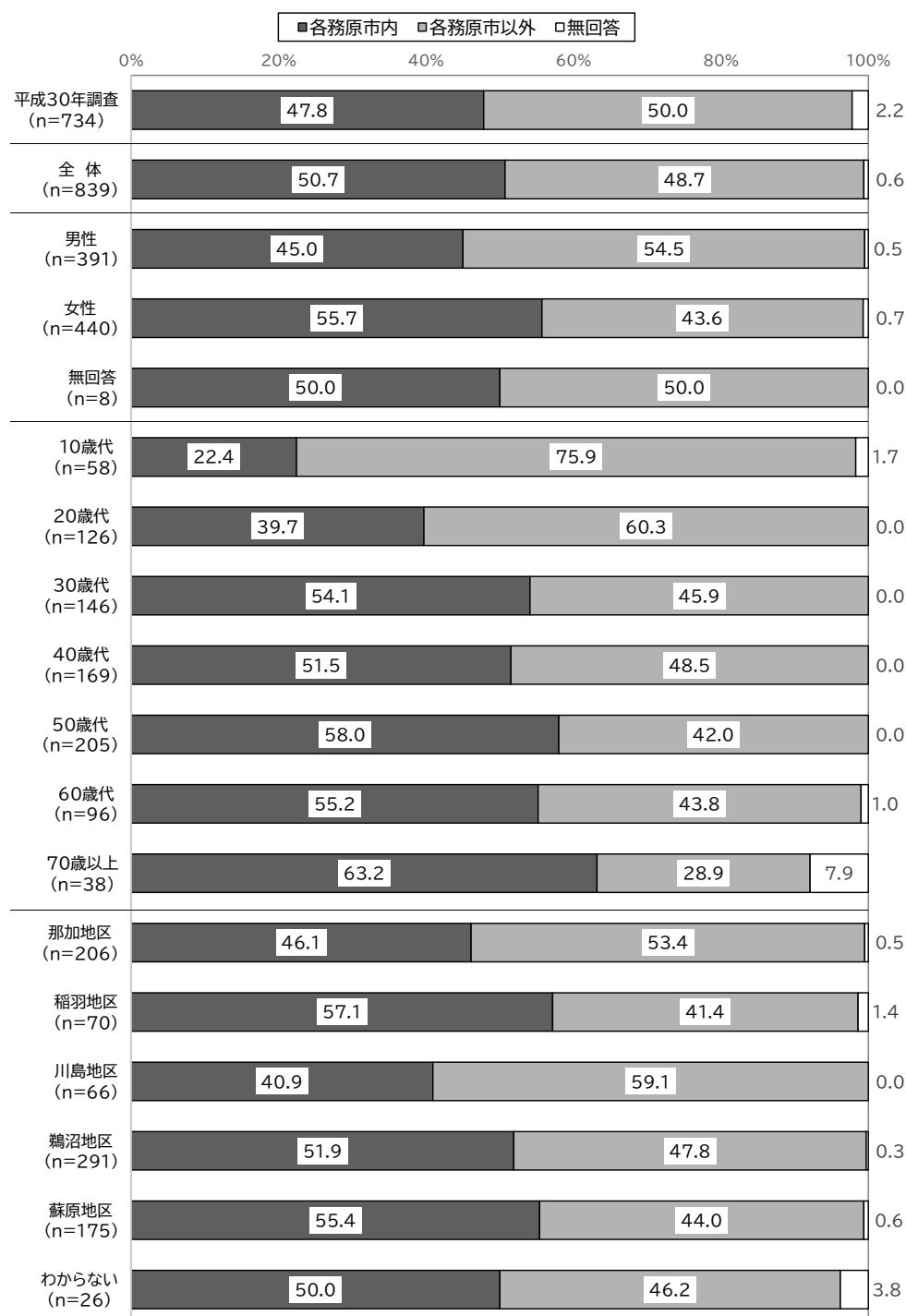
- 職業について、「会社員」が32.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・派遣社員・契約社員」が19.6%、「無職」が14.0%となっています。
- 性別について、男性は「会社員」が45.7%、女性は「パート・アルバイト・派遣社員・契約社員」が29.5%と最も高くなっています。また、男性は女性よりも「会社員」、「無職」が、女性は男性よりも「パート・アルバイト・派遣社員・契約社員」、「主婦・主夫」が高くなっています。



<問3で「1」～「7」と回答した方におたずねします。>

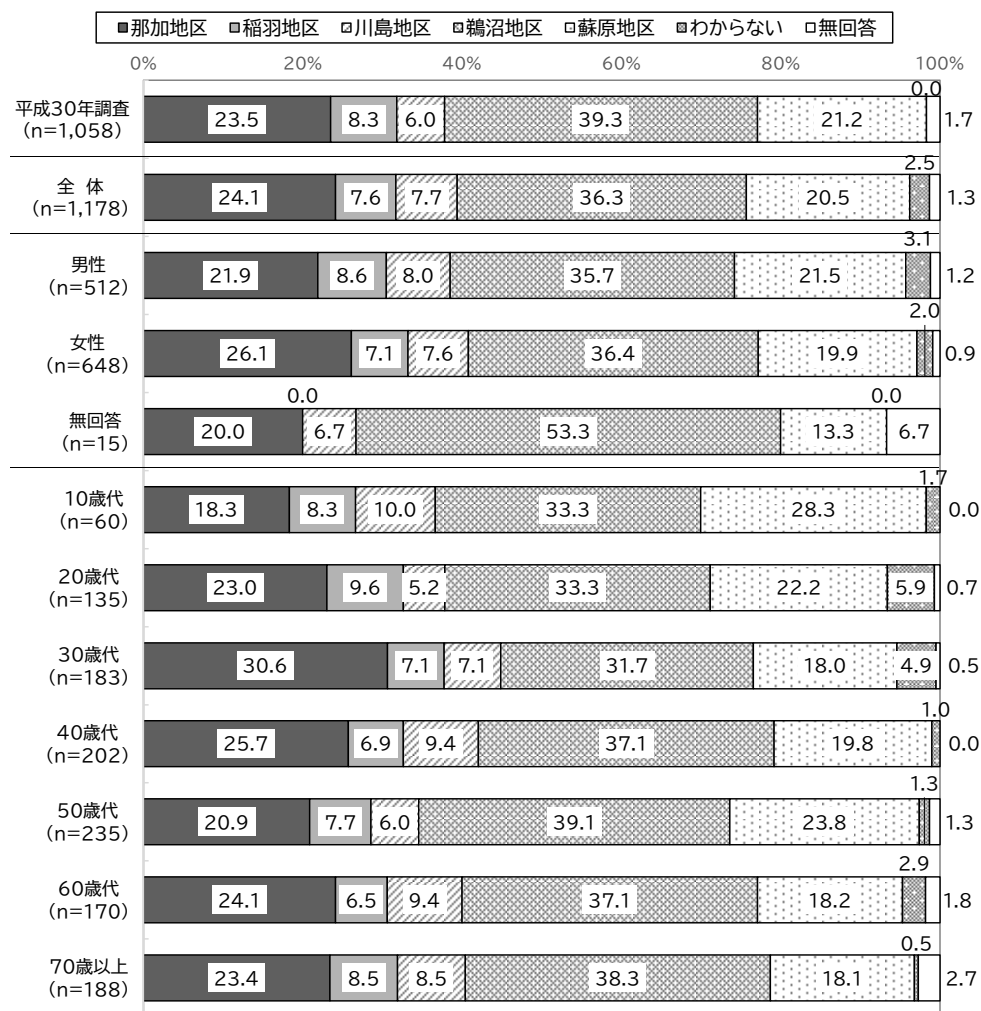
問4 あなたの通勤（または通学）先はどちらですか。（○は1つ）

- 通勤・通学先について、「各務原市内」が50.7%、「各務原市外」が48.7%となっています。
- 性別について、男性は「各務原市外」が54.5%、女性は「各務原市内」が55.7%となっています。また、男性は女性よりも「各務原市以外」が高く、女性は「各務原市内」が高くなっています。
- 年齢別について、10歳代、20歳代は「各務原市外」が高く、他の年代よりも高くなっています。30歳以上は「各務原市内」が高くなっています。
- 地区別について、稲羽地区、鵜沼地区、蘇原地区は「各務原市内」が、那加地区、川島地区は「各務原市以外」が高くなっています。



問5 あなたがお住まいの校区はどちらですか。(○は1つ) ※校区がわからない方は町名を記入

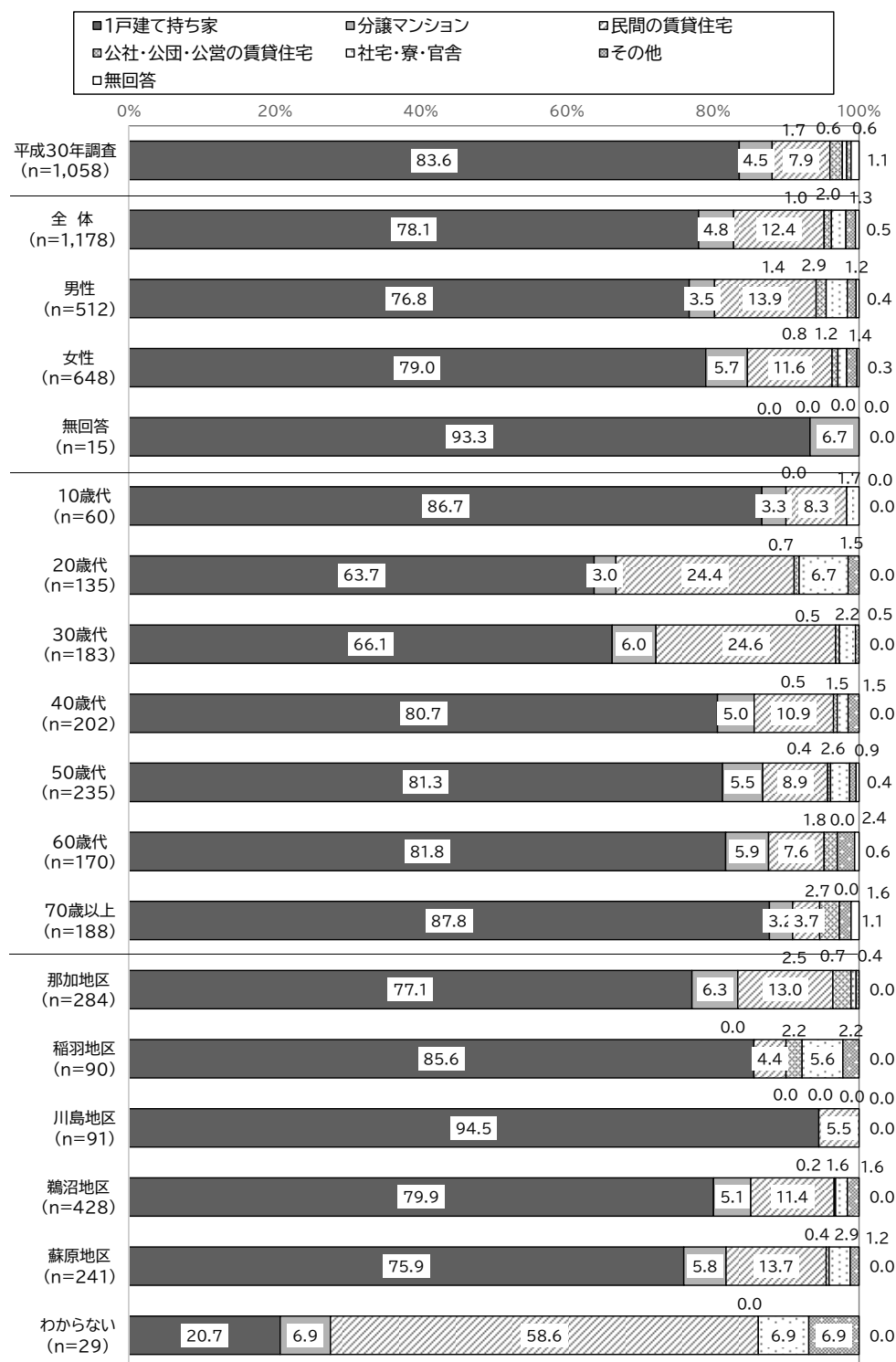
- 住まいの地域について、「校区」を「地区」ごとに集計したところ、「鵜沼地区」が36.3%と最も高く、次いで「那加地区」が24.1%、「蘇原地区」が20.5%となっています。
- 性別について、男女ともに「鵜沼地区」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「鵜沼地区」が最も高くなっています。



※「校区」から「地区」への集約については、Ⅰ．調査の概要を参照

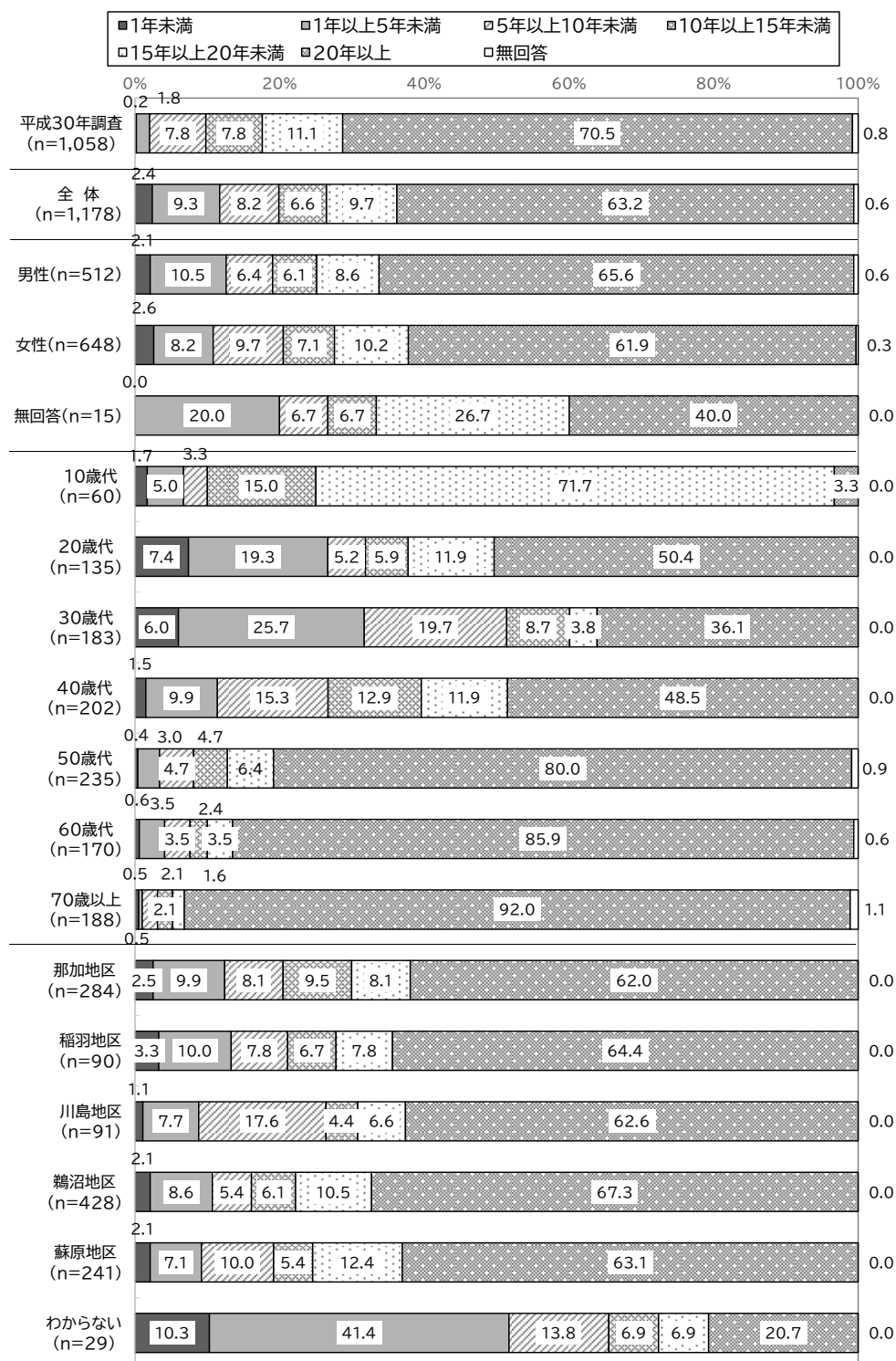
問6 あなたがお住まいの住居はどのような形態ですか。(○は1つ)

- 住居形態について、「1戸建て持ち家」が78.1%と最も高くなっています。
- 性別について、男女ともに「1戸建て持ち家」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「1戸建て持ち家」が最も高く、特に、10歳代と70歳以上は9割近くと高くなっています。また、20歳代、30歳代は他の年代よりも「民間の賃貸住宅」が高く、「1戸建て持ち家」が低くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「1戸建て持ち家」が最も高くなっています。また、川島地区は他の地区よりも「1戸建て持ち家」が高くなっています。



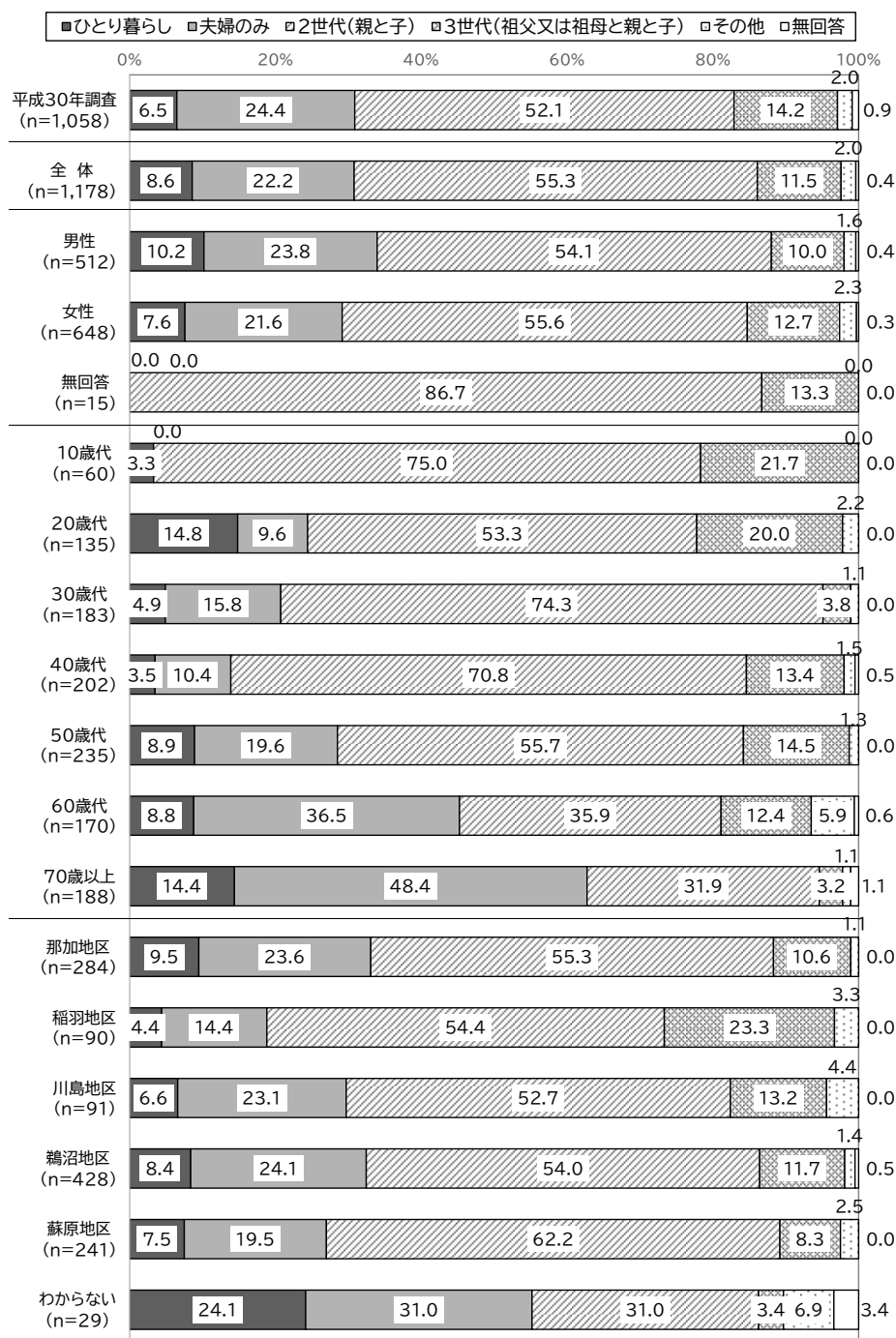
問7 あなたの各務原市での通算居住年数をお答えください。(○は1つ) ※旧川島町での居住年数含む

- 居住年数について、「20年以上」が63.2%と最も高く、次いで「15年以上20年未満」が9.7%となっています。
- 性別について、男女ともに「20年以上」が最も高くなっています。
- 年齢別について、20歳代以上は「20年以上」が最も高くなっています。特に、50歳代以上は「20年以上」が約8割から9割と高くなっています。また、10歳代は他の年代よりも「10年以上15年未満」、「15年以上20年未満」が高く、30歳代は「1年以上5年未満」、「5年以上10年未満」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「20年以上」が最も高くなっています。



問8 あなたの世帯はどのような家族構成ですか。(○は1つ)

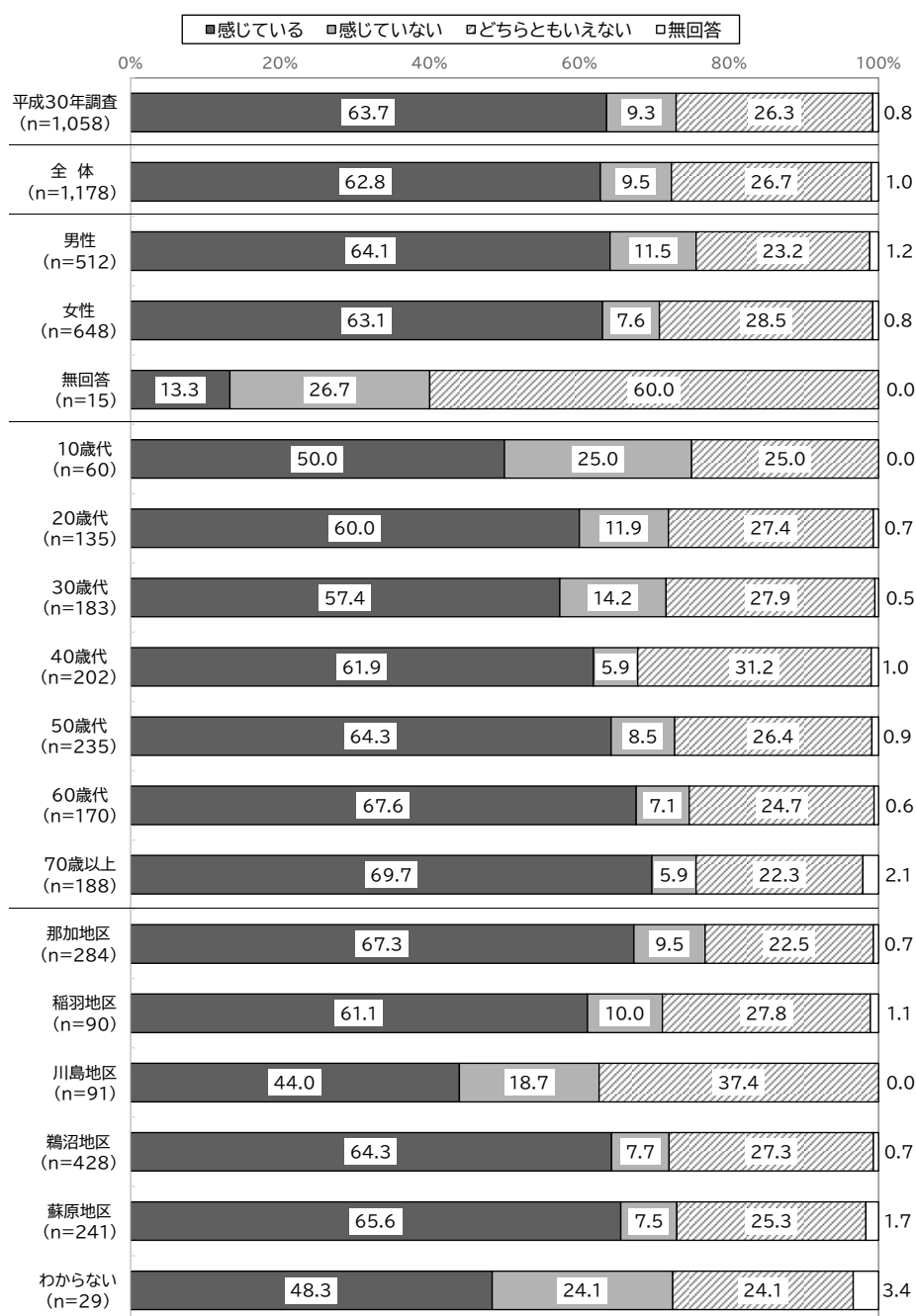
- 家族構成について、「2世代（親と子）」が55.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が22.2%、「3世代（祖父または祖母と親と子）」が11.5%となっています。
- 性別について、男女ともに「2世代（親と子）」が最も高くなっています。
- 年齢別について、10歳代から50歳代は「2世代（親と子）」が最も高くなっています。また、10歳代は他の年代よりも「2世代（親と子）」、「3世代（祖父又は祖母と親と子）」が高く、20歳代は「ひとり暮らし」が高く、30歳代、40歳代は「2世代（親と子）」が高く、60歳代、70歳以上は「夫婦のみ」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「2世代（親と子）」が最も高くなっています。また、蘇原地区は他の地区よりも「2世代（親と子）」が、稲羽地区は「3世代（祖父または祖母と親と子）」が高くなっています。



(2) わたしたちのまち各務原市についてうかがいます

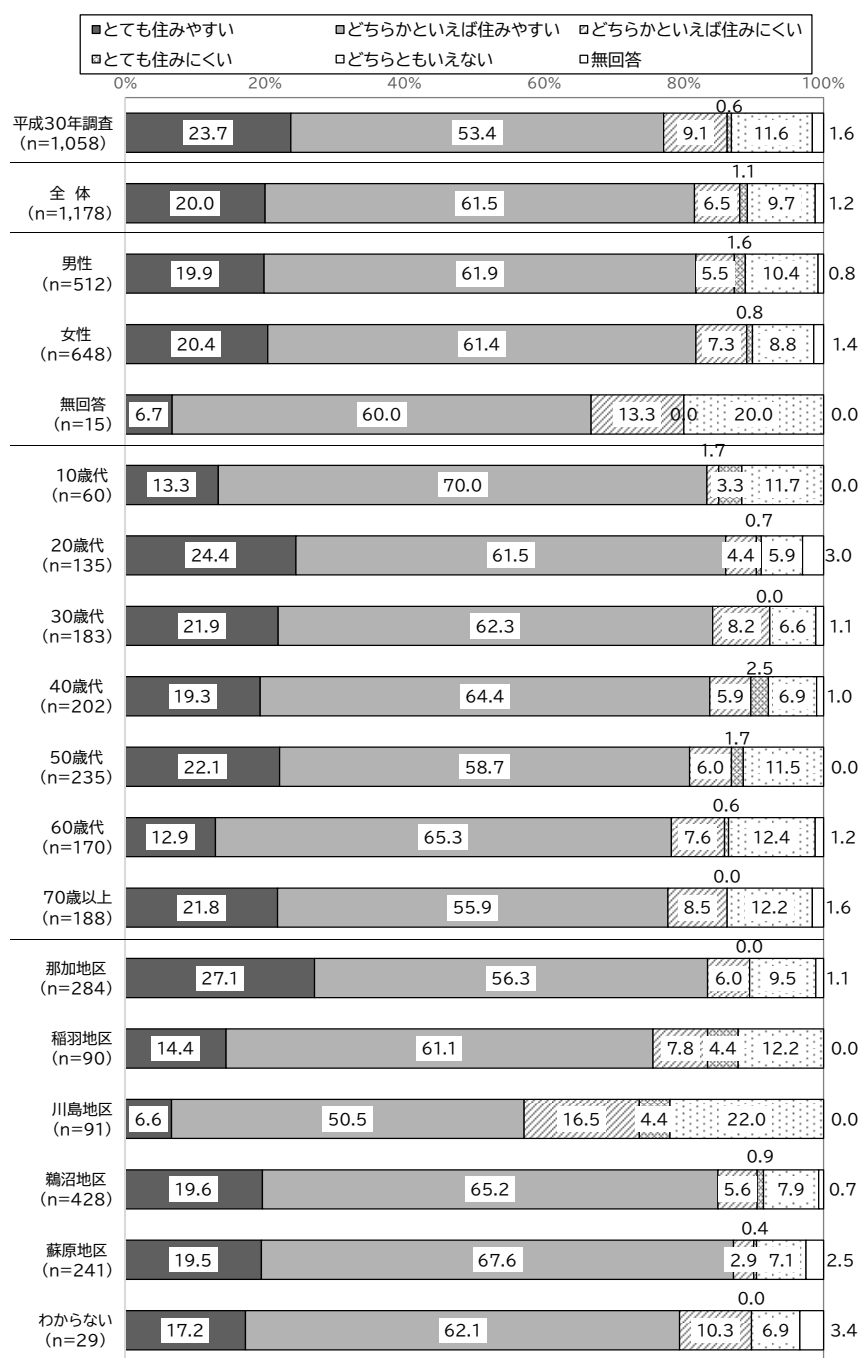
問9 各務原市に「自分のまち」といった愛着、親しみを感じますか。(○は1つ)

- 各務原市に対する愛着、親しみについて、「感じている」が62.8%で、「どちらともいえない」が26.7%となっており、前回調査（平成30年調査）と同様の傾向となっています。
- 性別について、男女ともに「感じている」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「感じていない」が高く、女性は「どちらともいえない」が高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「感じている」が最も高くなっています。また、10歳代、30歳代は他の年代よりも「感じていない」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「感じている」が最も高くなっています。また、川島地区は他の地区よりも「感じていない」が低くなっています。



問10 あなたは、各務原市の住みやすさについてどのように感じますか。(○は1つ)

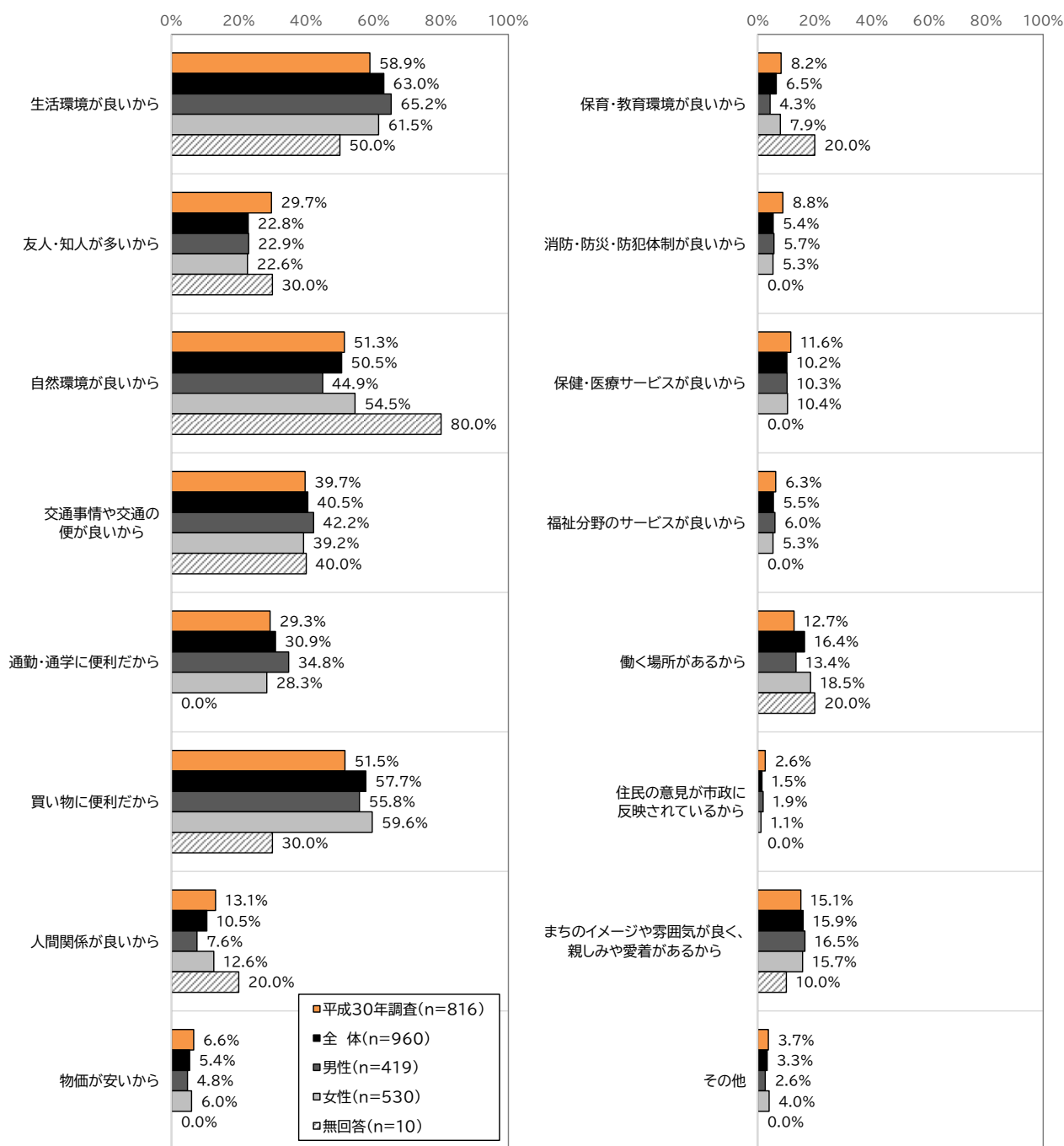
- 各務原市の住みやすさについて、「どちらかといえば住みやすい」が61.5%で最も高くなっており、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が81.5%となっています。また、前回調査（平成30年調査）よりも「どちらかといえば住みやすい」が高く、「とても住みやすい」、「どちらかといえば住みにくい」が低くなっています。
- 性別について、男女ともに「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっています。また、60歳代は他の年代よりも「とても住みやすい」が低くなっています。
- 地区別について、「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっています。また、那加地区は他の地区よりも「とても住みやすい」が、蘇原地区は「どちらかといえば住みやすい」が高く、川島地区は「とても住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」が低くなっています。



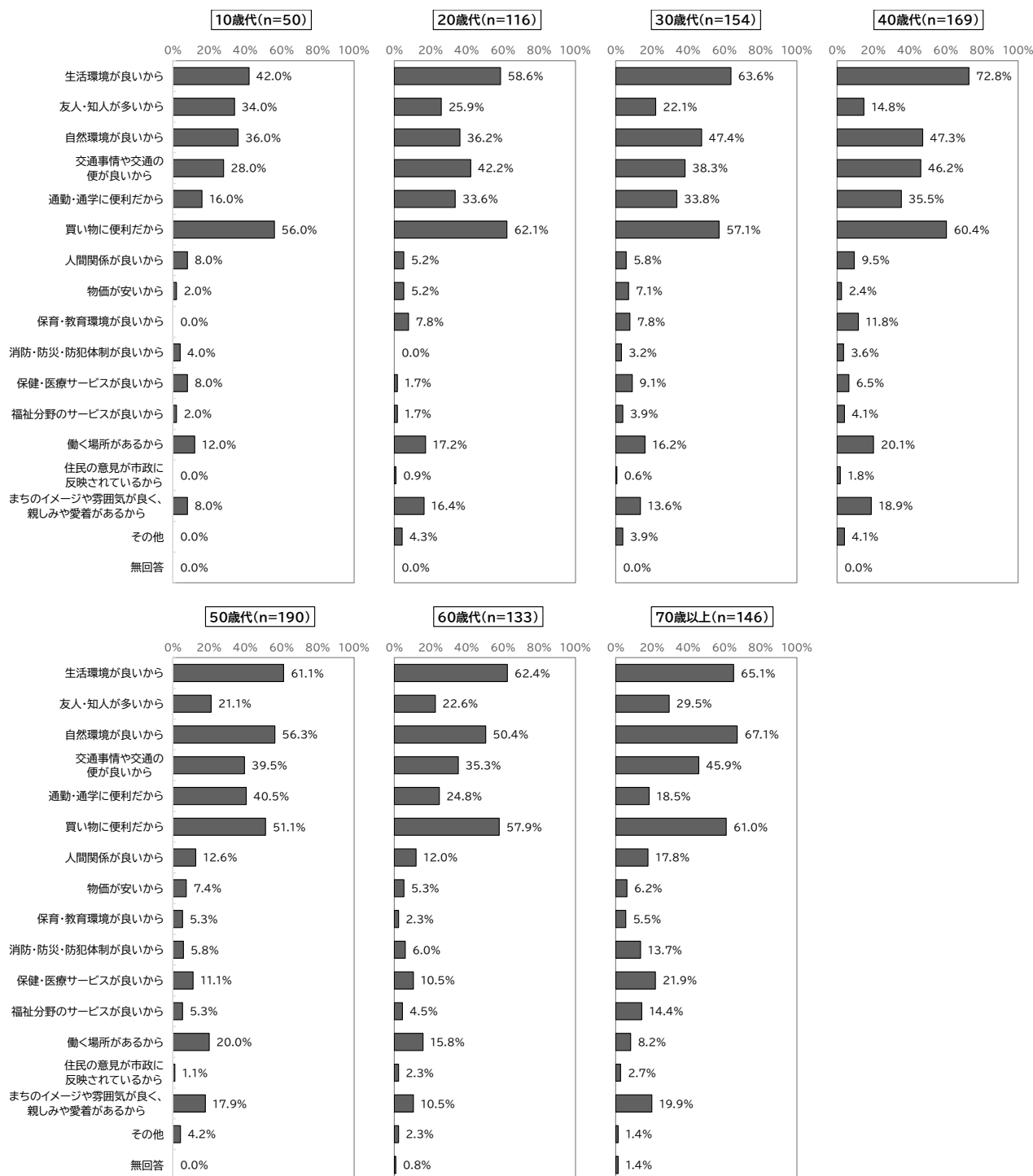
<問10で「1. とても住みやすい」または「2. どちらかといえば住みやすい」と回答した方におたずねします。>

問11 住みやすいと思われる理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

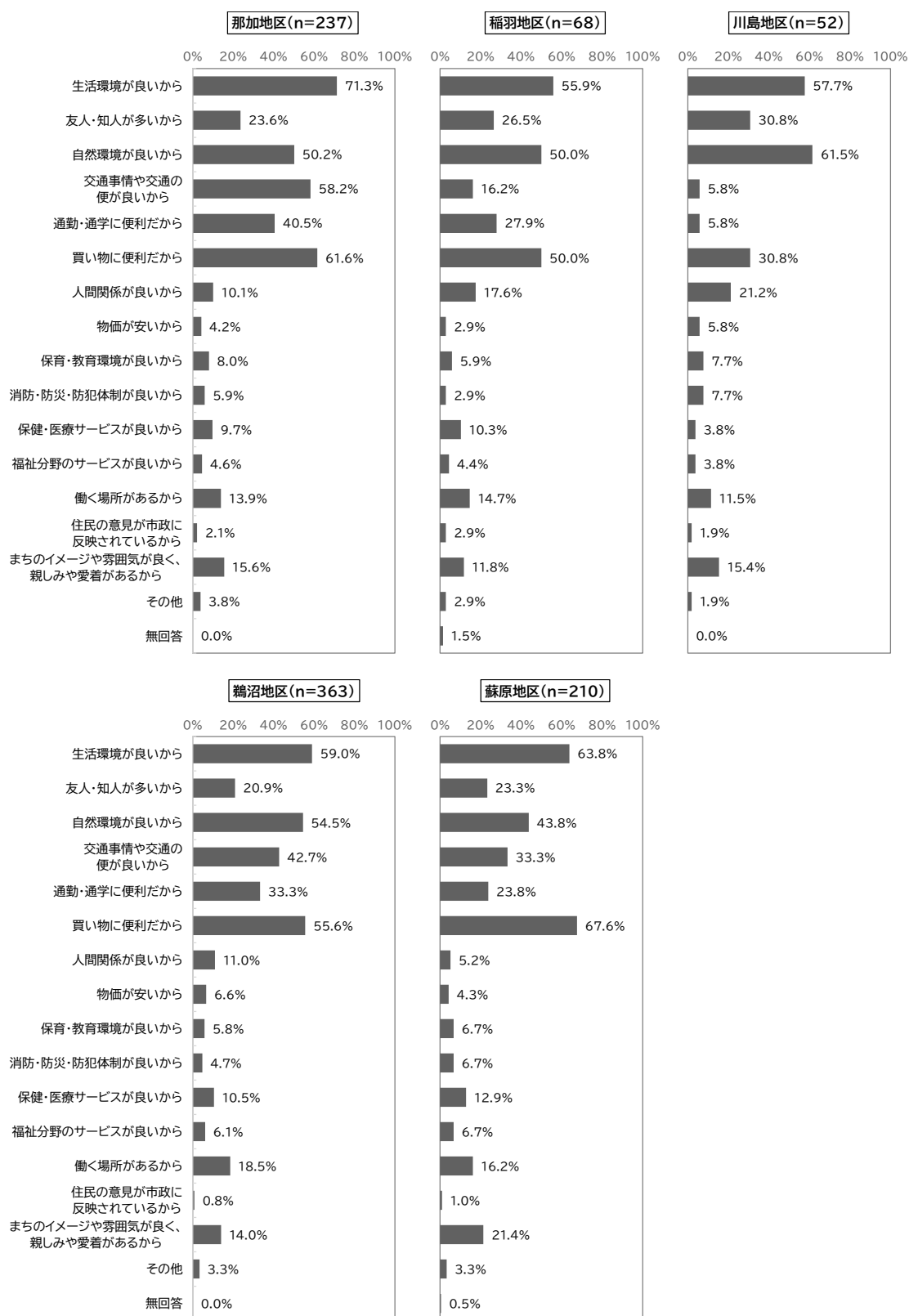
- 各務原市の住みやすさの理由について、「生活環境が良いから」が63.0%と最も高く、次いで「買い物に便利だから」が57.7%、「自然環境が良いから」が50.5%となっています。また、前回調査（平成30年調査）よりも「生活環境が良いから」、「買い物に便利だから」などが高く、「友人・知人が多いから」などが低くなっています。
- 性別について、男女ともに「生活環境が良いから」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「通勤・通学に便利だから」が高くなっています。



- 年齢別について、10歳代と20歳代は「買い物に便利だから」が、30歳代から60歳代は「生活環境が良いから」が、70歳以上は「自然環境が良いから」が最も高くなっています。また、10歳代は他の年代よりも「友人・知人が多いから」が高く、50歳代は「通勤・通学に便利だから」が高くなっています。



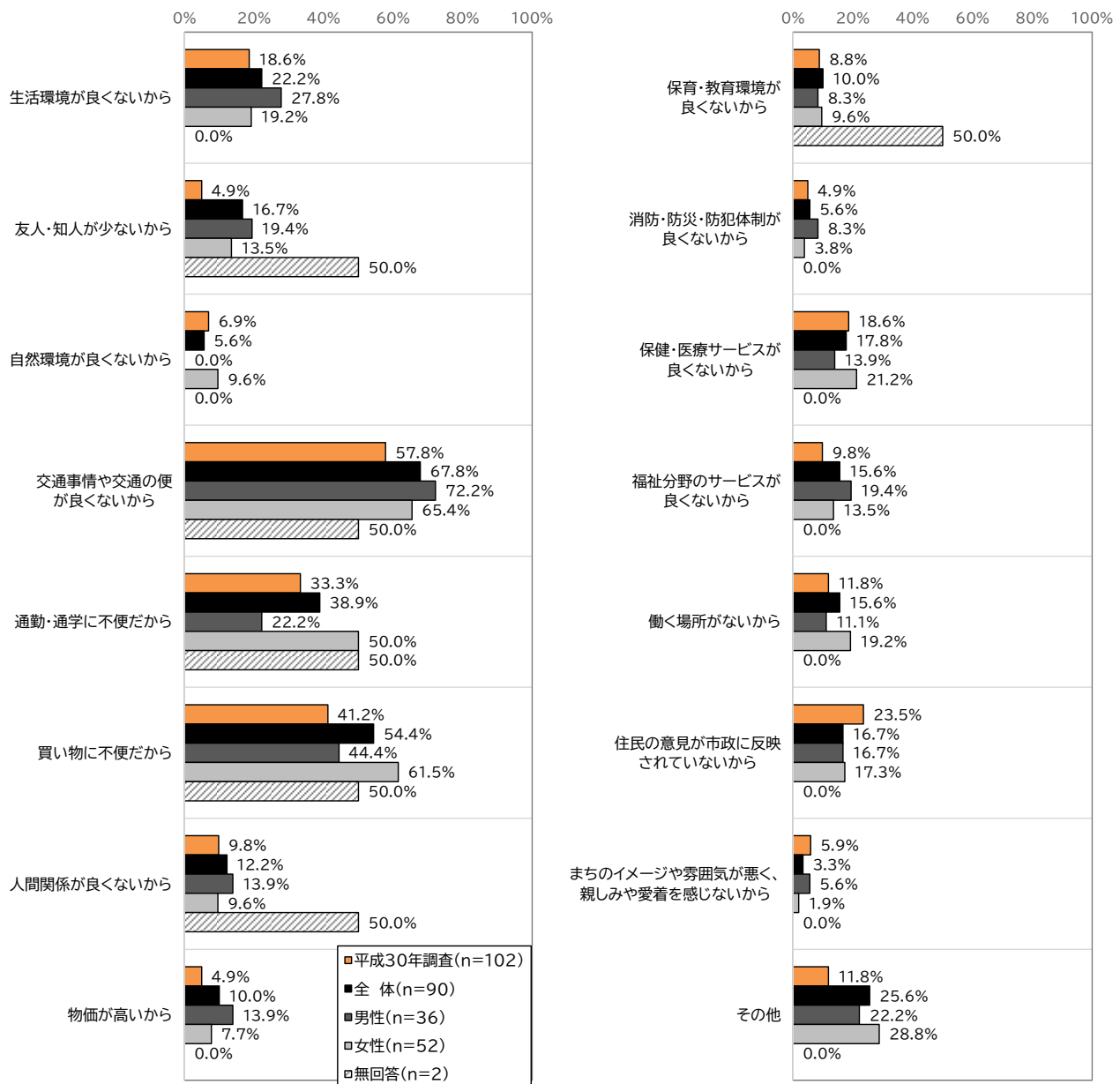
- 地区別について、那加地区、稲羽地区、鵜沼地区は「生活環境が良いから」が、川島地区は「自然環境が良いから」、蘇原地区は「買い物に便利だから」が最も高くなっています。また、那加地区は他の地区よりも「交通事情や交通の便が良いから」、「通勤・通学に便利だから」、川島地区は「自然環境が良いから」、蘇原地区は「買い物に便利だから」が高くなっています。



<問10で「3. どちらかといえば住みにくい」または「4. とても住みにくい」と回答した方におたずねします。>

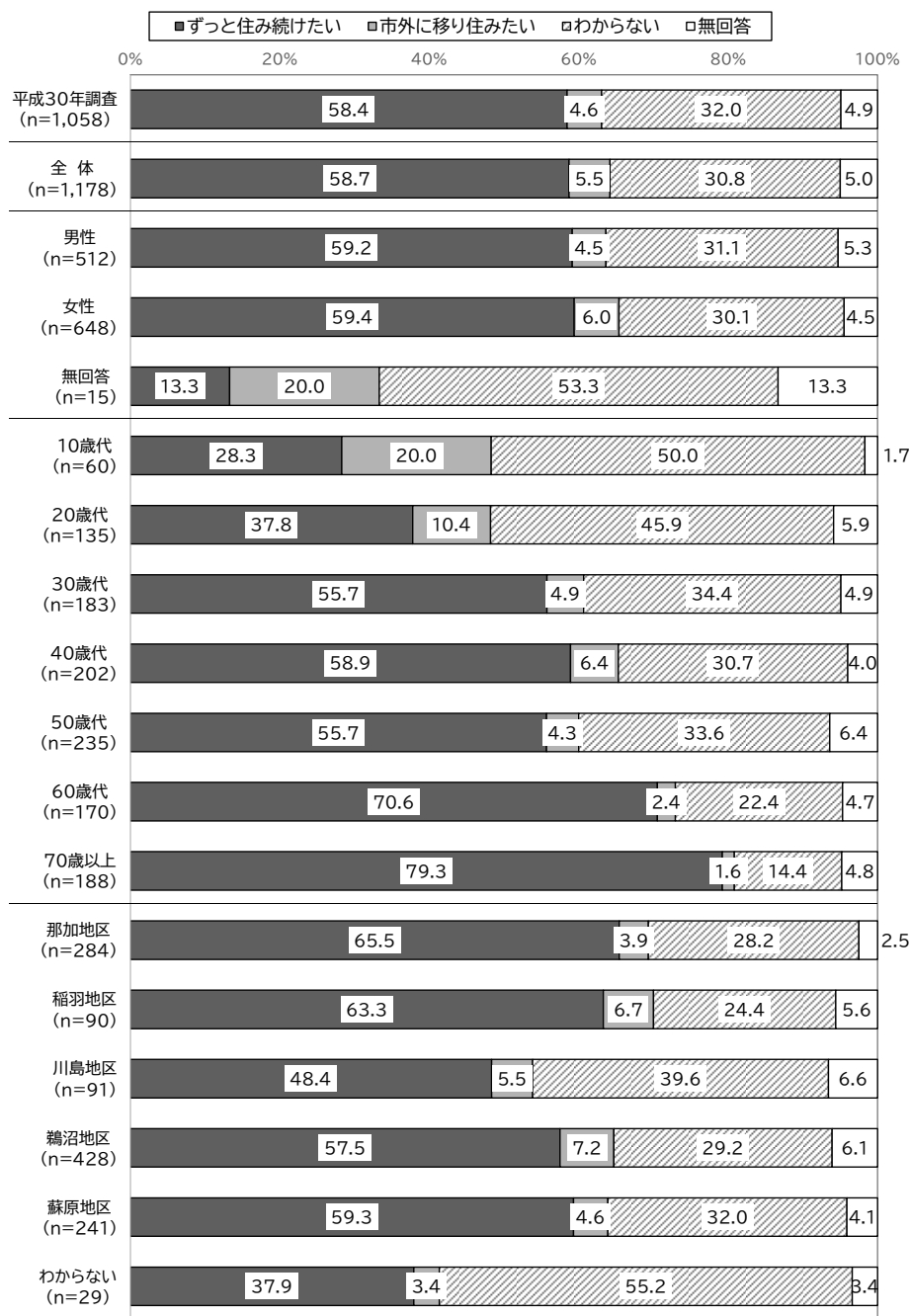
問12 住みにくいと思われる理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 住みにくいと思われる理由について、「交通事情や交通の便が良くないから」が67.8%で最も高く、次いで「買い物に不便だから」が54.4%、「通勤・通学に不便だから」が38.9%となっています。また、前回調査（平成30年調査）よりも「友人・知人が少ないから」、「買い物に不便だから」などが高くなっています。
- 性別について、男女ともに「交通事情や交通の便が良くないから」が最も高くなっています。



問13 あなたは、これからも各務原市に住み続けたいと思いますか。（○は1つ）

- 各務原市に住み続けたいと思うかについて、「ずっと住み続けたい」が58.7%と最も高くなっており、前回調査（平成30年調査）と同様の傾向となっています。
- 性別について、男女ともに「ずっと住み続けたい」が最も高くなっています。
- 年齢別について、70歳以上は「ずっと住み続けたい」が79.3%と最も高く、年齢が下がるにつれ減少する傾向となっています。また、10歳代、20歳代は他の年代よりも「市外に移り住みたい」、「わからない」が高く、60歳代、70歳以上は、「ずっと住み続けたい」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「ずっと住み続けたい」が最も高くなっています。



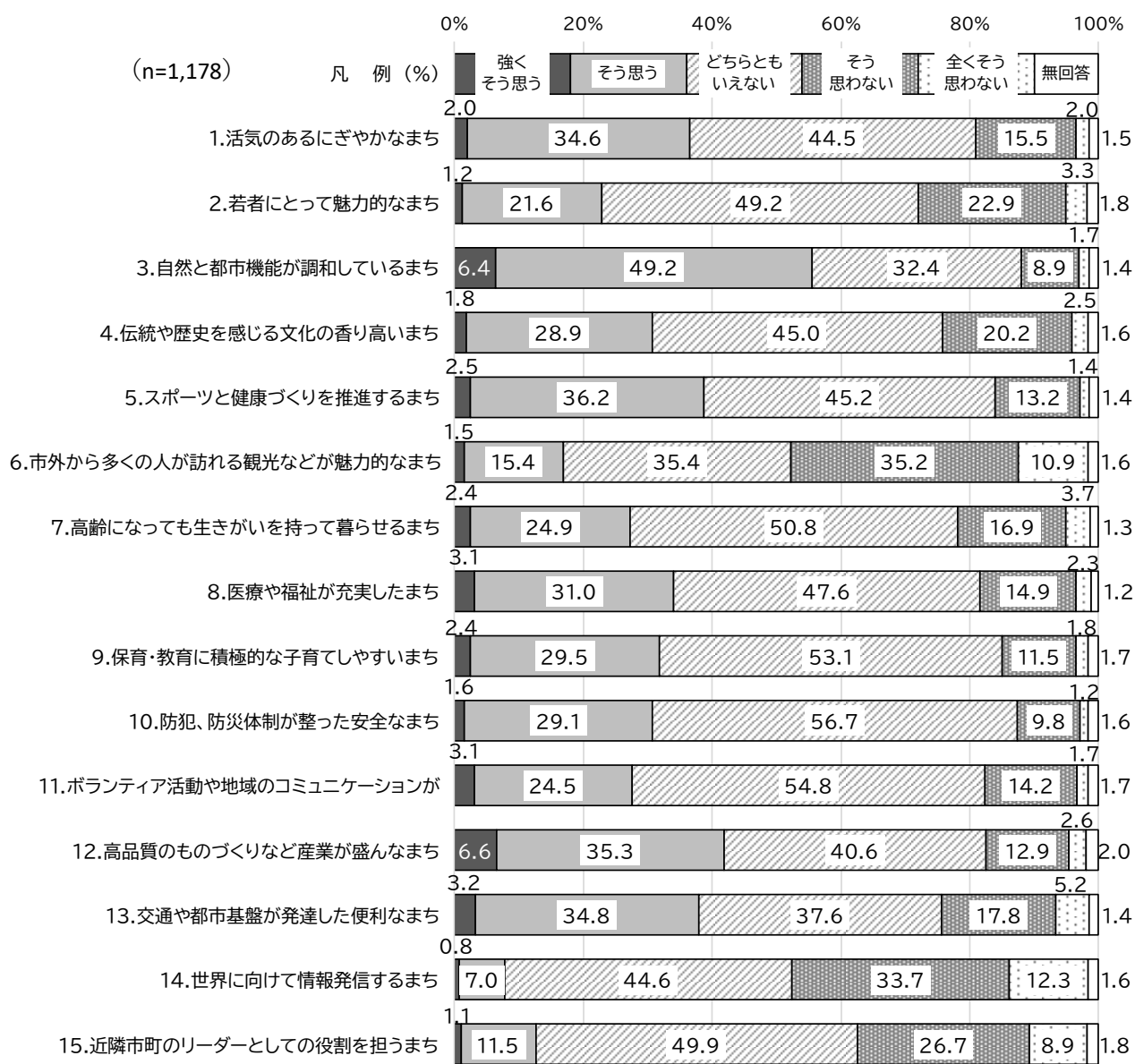
自由記述のため別途「その他・自由意見集」掲載

問14 あなたが、各務原市で最も誇れると思うものは何ですか。（自然、文化、場所、活動など、自由記述）

問15 あなたは、各務原市にどのようなイメージを持っていますか。（1～15までの項目について、それぞれあてはまるもの1つに○）

【全体比較】

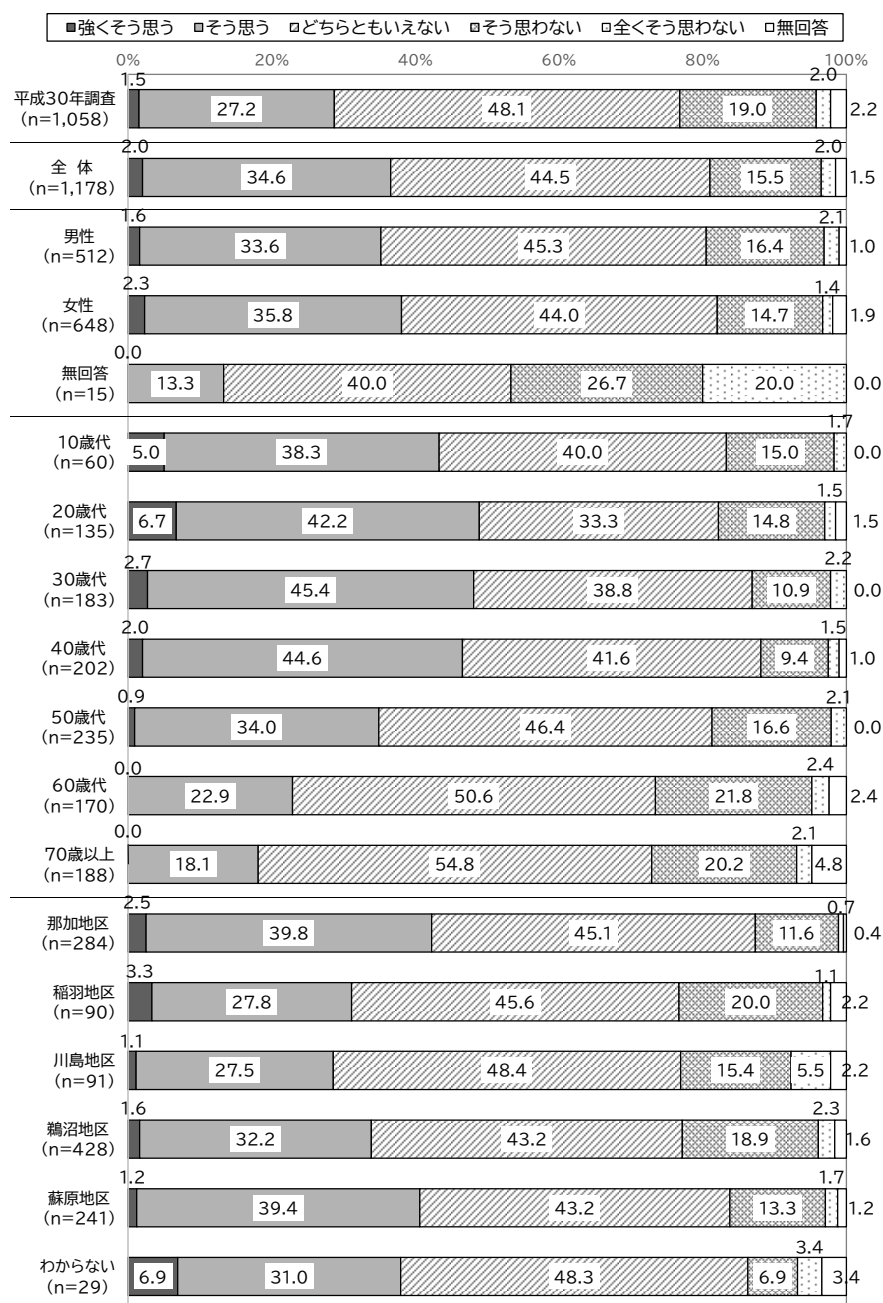
- 各務原市のイメージについて、「3.自然と都市機能が調和しているまち」は「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が55.6%と高くなっています。
- また、「6.市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち」は「そう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた割合が46.1%と高くなっています。



【属性別クロス】

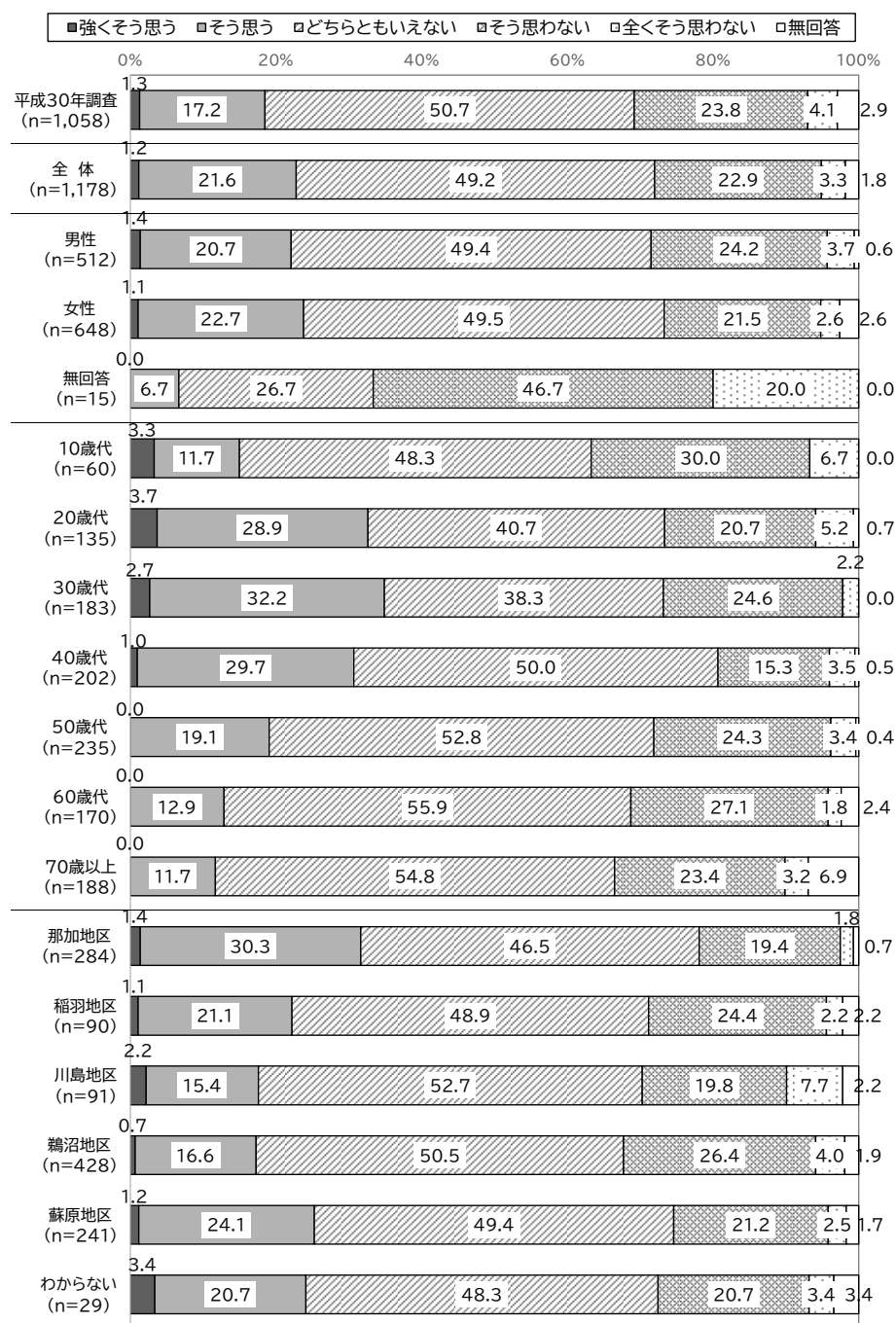
1. 活気のあるにぎやかなまち

- 「活気のあるにぎやかなまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が44.5%と最も高く、次いで「そう思う」が34.6%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は36.6%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は17.5%となっています。前回調査（平成30年調査）よりも、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、10歳代と50歳代以上で「どちらともいえない」が、20歳代から40歳代で「そう思う」が最も高くなっています。また、20歳代から40歳代は他の年代よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高く、60歳代以上は「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、那加地区は他の地区よりも「強くそう思う」と「そう思う」が高くなっています。



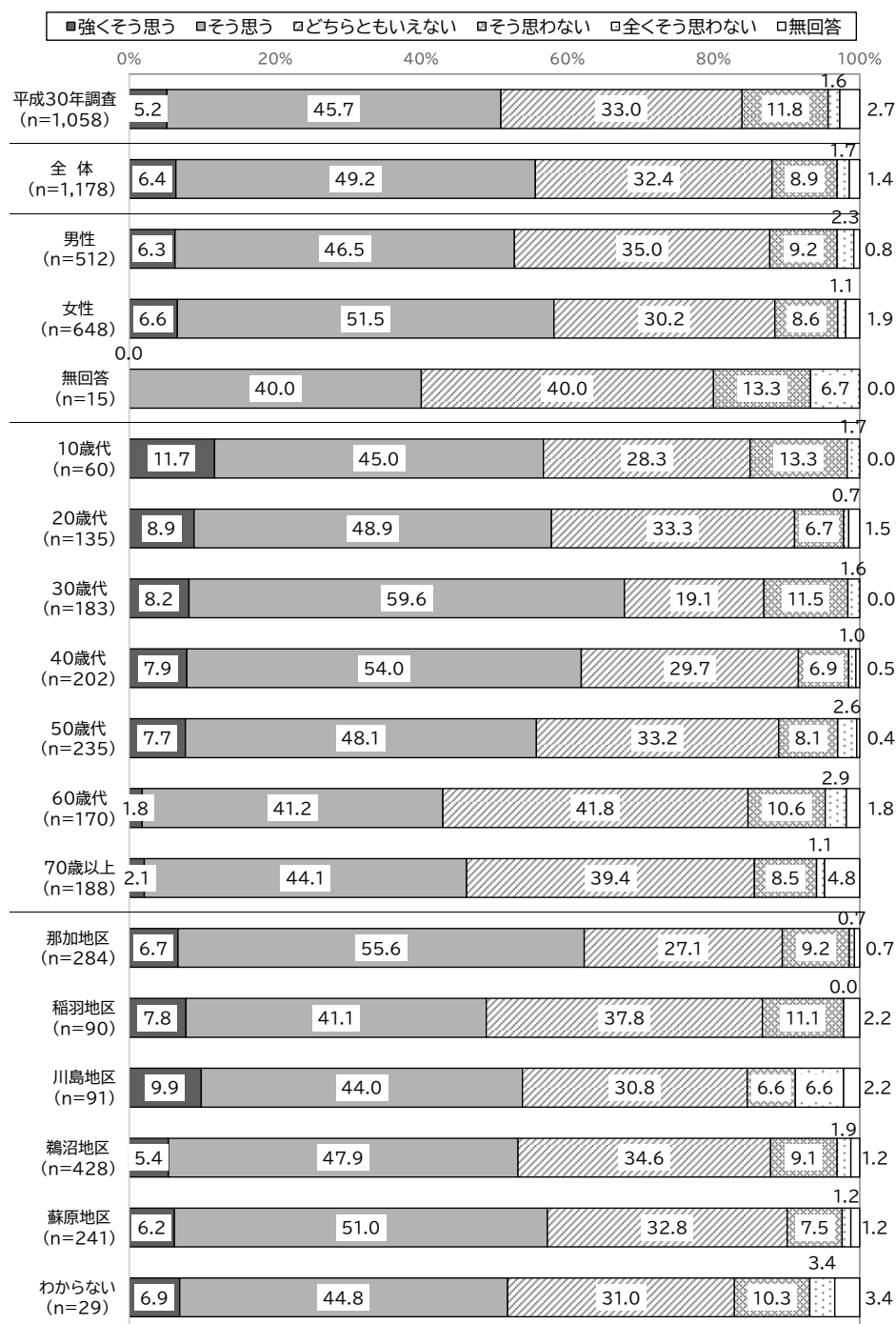
2. 若者にとって魅力的なまち

- 「若者に魅力的なまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が49.2%と最も高く、次いで「そう思わない」が22.9%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は22.8%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は26.2%となっています。前回調査（平成30年調査）よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、10歳代、60歳代以上は他の年代よりも「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高く、20歳代から40歳代は「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、那加地区は他の地区よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。



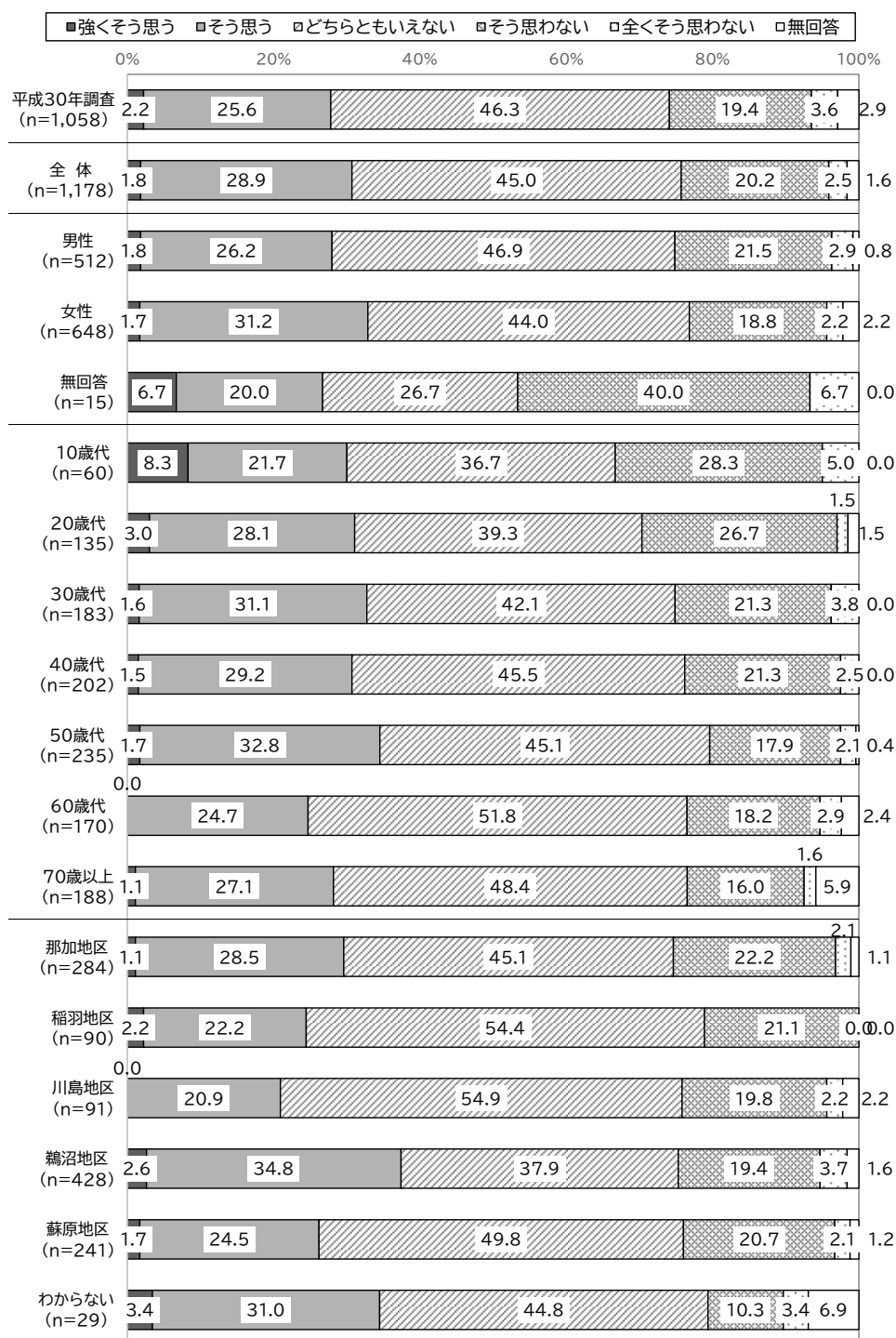
3. 自然と都市機能が調和しているまち

- 「自然と都市機能が調和しているまち」のイメージについて、「そう思う」が49.2と最も高く、次いで「どちらともいえない」が32.4%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は55.6%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は10.6%となっています。前回調査（平成30年調査）よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。
- 性別について、男女ともに「そう思う」が最も高くなっています。
- 年齢別について、60歳代を除く全年代で「そう思う」が最も高くなっています。また、30歳代は他の年代よりも「そう思う」が高く、60歳代以上は「どちらともいえない」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「そう思う」が最も高くなっています。また、那加地区は他の地区よりも「そう思う」が高くなっています。



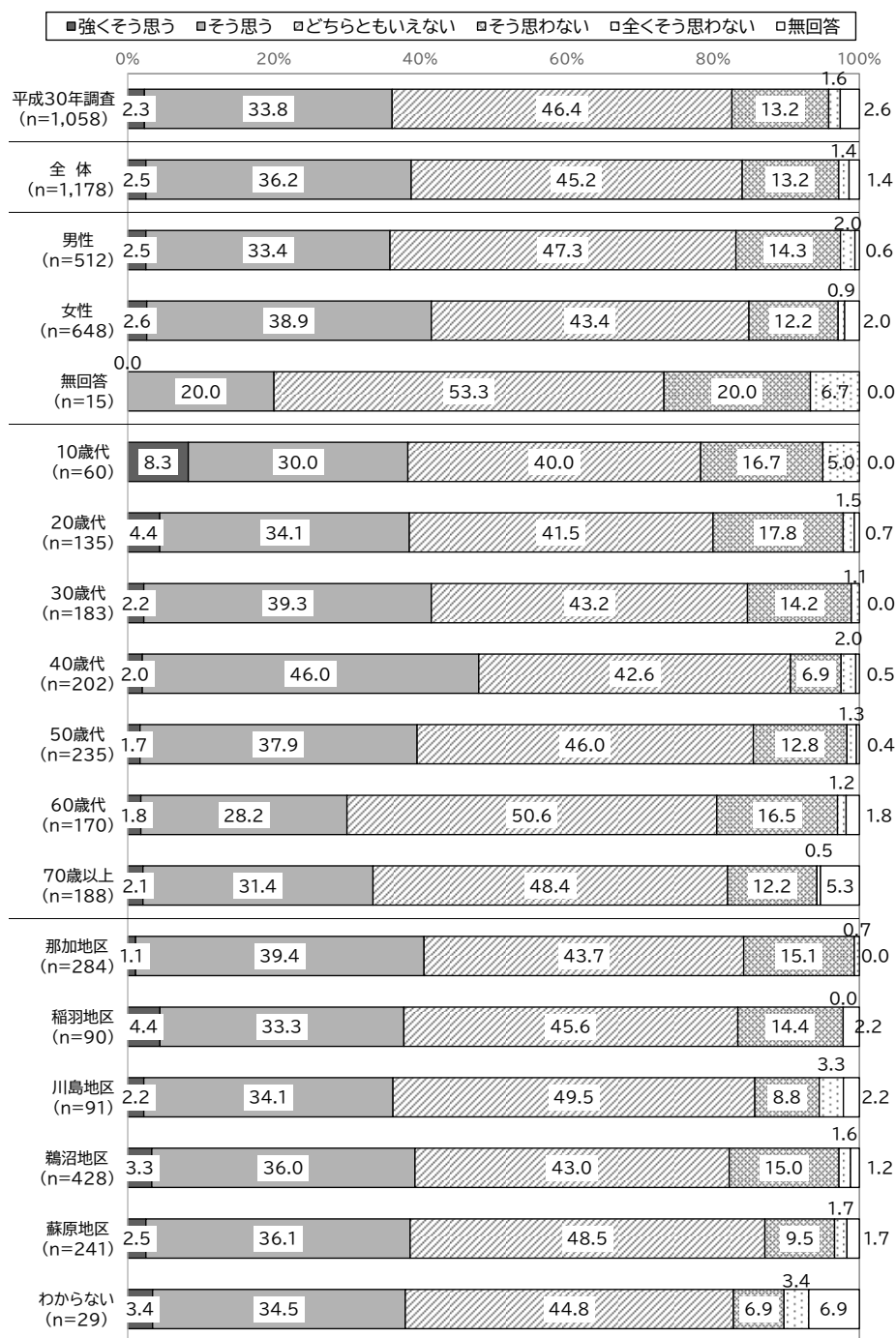
4. 伝統や歴史を感じる文化の香り高いまち

- 「伝統や歴史を感じる文化の香り高いまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が45.0%と最も高く、次いで「そう思う」が28.9%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は30.7%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は22.7%となっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、60歳代は他の年代よりも「どちらともいえない」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。鵜沼地区は他の地区よりも「そう思う」が、川島地区は「どちらともいえない」が高くなっています。



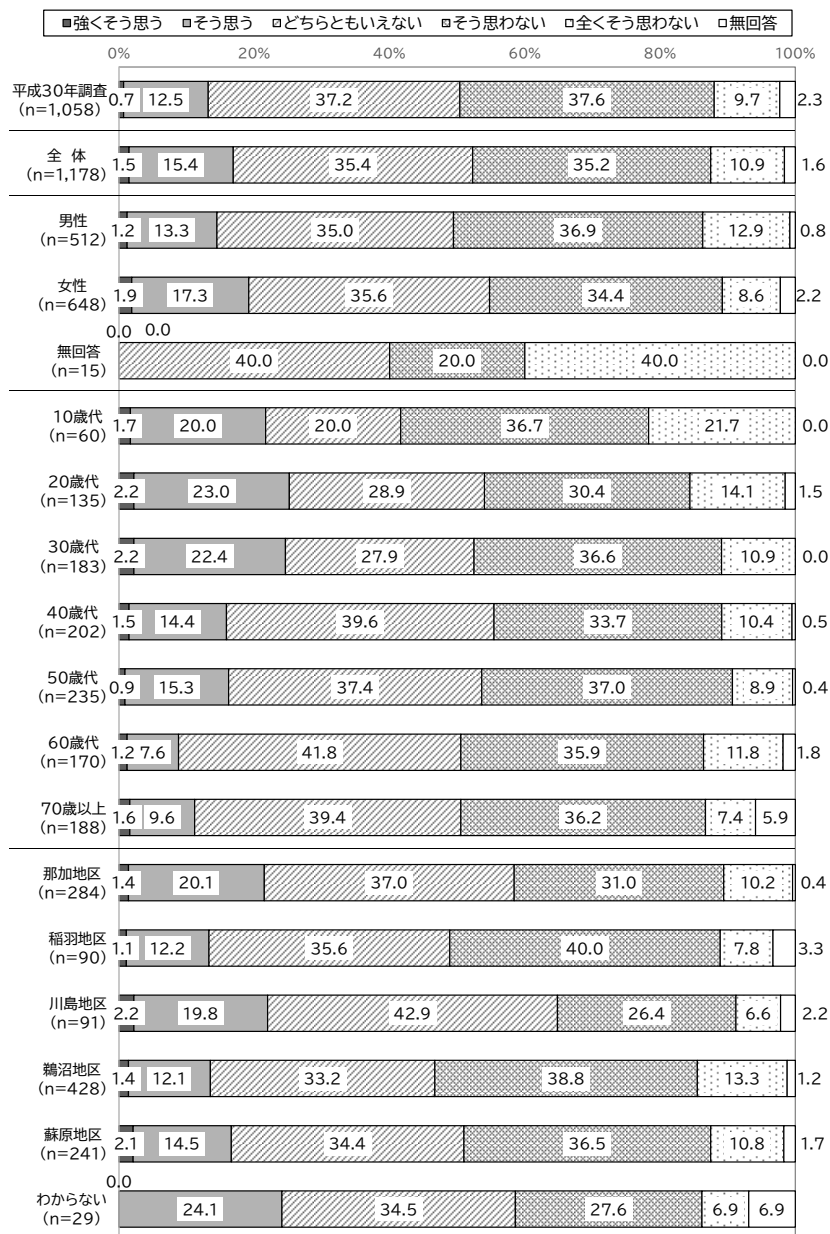
5. スポーツと健康づくりを推進するまち

- 「スポーツと健康づくりを推進するまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が45.2%と最も高く、次いで「そう思う」が36.2%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は38.7%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は14.6%となっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。男性は女性よりも「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高くなっています。
- 年齢別について、40歳代は「そう思う」が最も高く、他の年代よりも高くなっています。その他の年代は「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、40歳代は他の年代よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



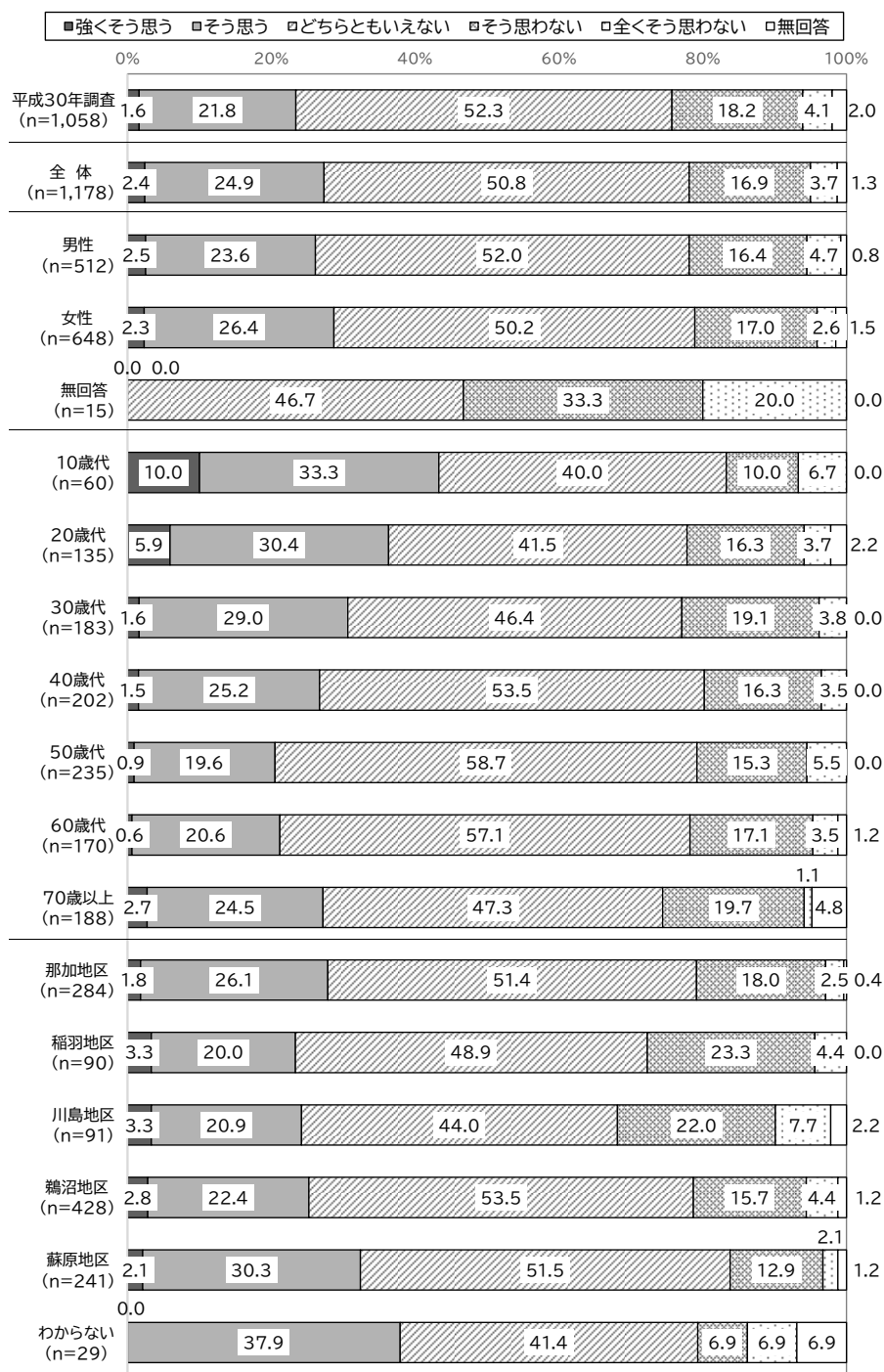
6. 市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち

- 「市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が35.4%と最も高く、次に「そう思わない」が35.2%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は16.9%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は46.1%となっています。前回調査（平成30年調査）よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。
- 性別について、男性は「そう思わない」が36.9%、女性は「どちらともいえない」が35.6%と最も高くなっています。また、女性は男性よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。
- 年齢別について、10歳代から30歳代までは「そう思わない」が、40歳代以上は「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、20歳代、30歳代で他の年代よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高く、60歳代で「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高くなっています。
- 地区別について、那加地区、川島地区は「どちらともいえない」が、稲羽地区、鵜沼地区、蘇原地区は「そう思わない」が最も高くなっています。また、那加地区、川島地区は他の地区よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が、鵜沼地区は「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高くなっています。



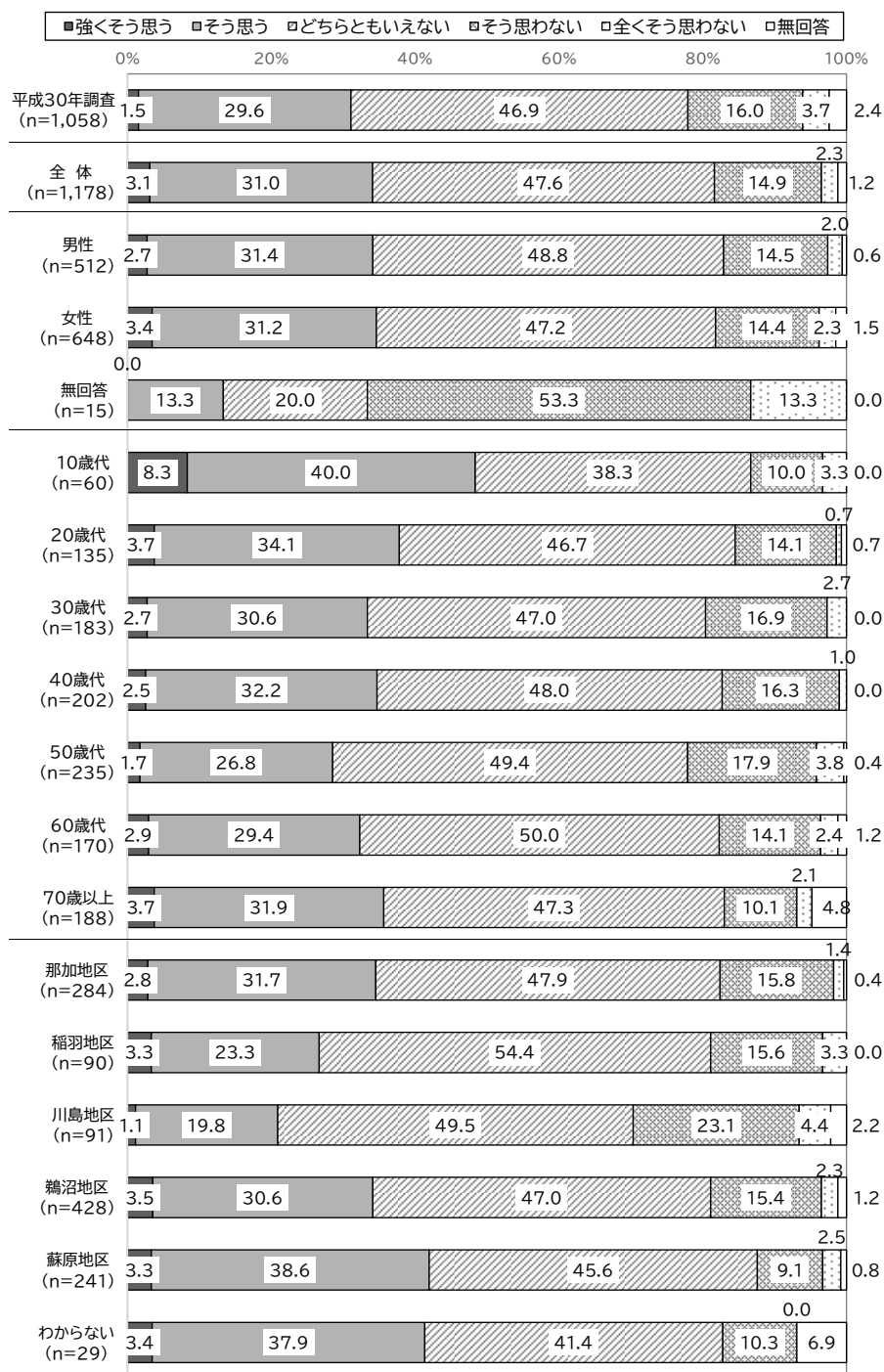
7. 高齢になっても生きがいを持って暮らせるまち

- 「高齢になっても生きがいを持って暮らせるまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が50.8%と最も高く、次いで「そう思う」が24.9%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は27.3%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は20.6%となっています。前回調査（平成30年調査）よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、50歳代は他の年代よりも「どちらともいえない」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、蘇原地区は他の地区よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。



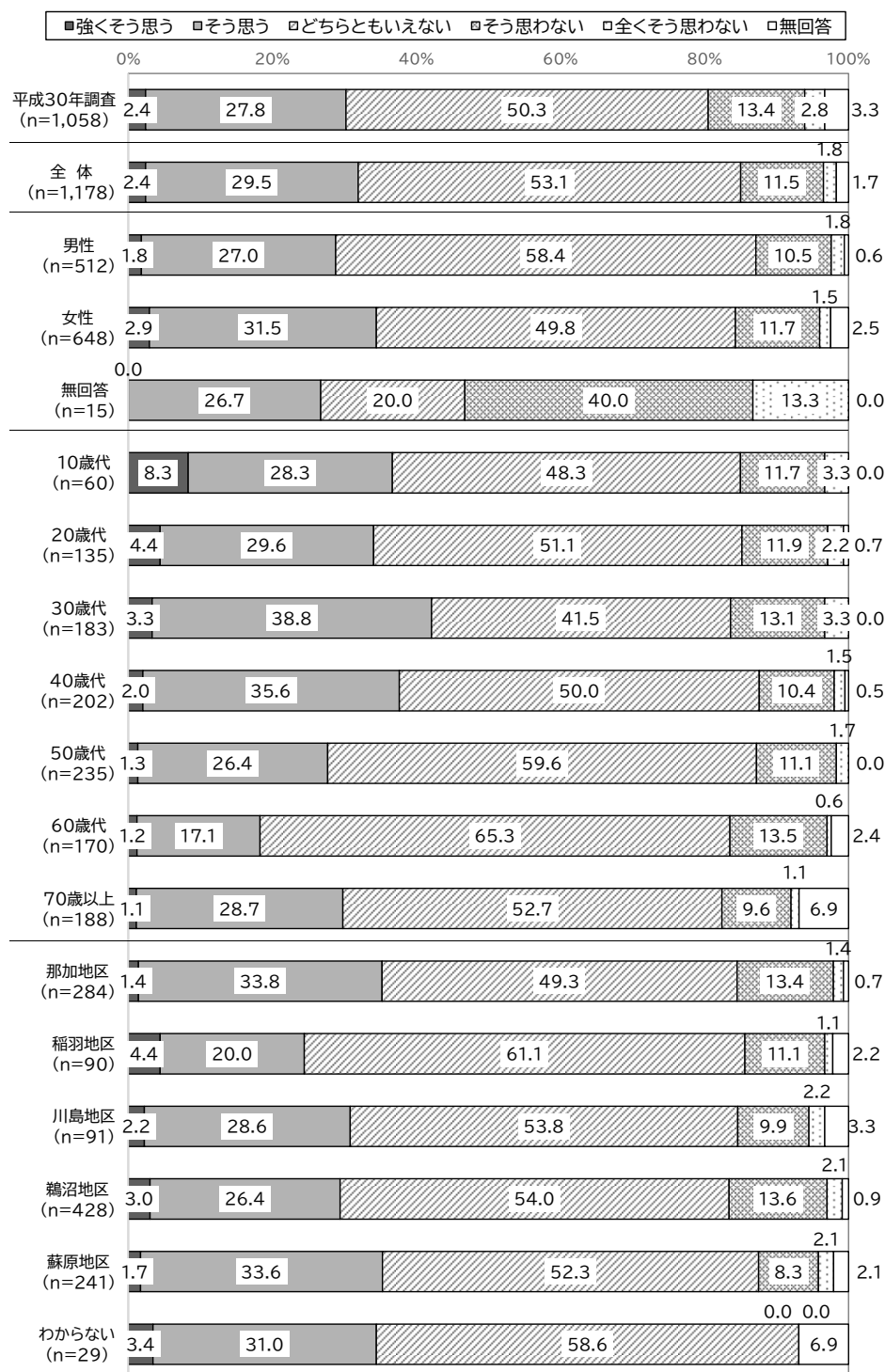
8. 医療や福祉が充実したまち

- 「医療や福祉が充実したまち」について、「どちらともいえない」が47.6%と最も高く、次いで「そう思う」が31.0%となっております。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は34.1%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は17.2%となっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、10歳代を除く年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、10歳代は「そう思う」が40.0%で最も高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。蘇原地区は他の地区よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が、川島地区は「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高くなっています。



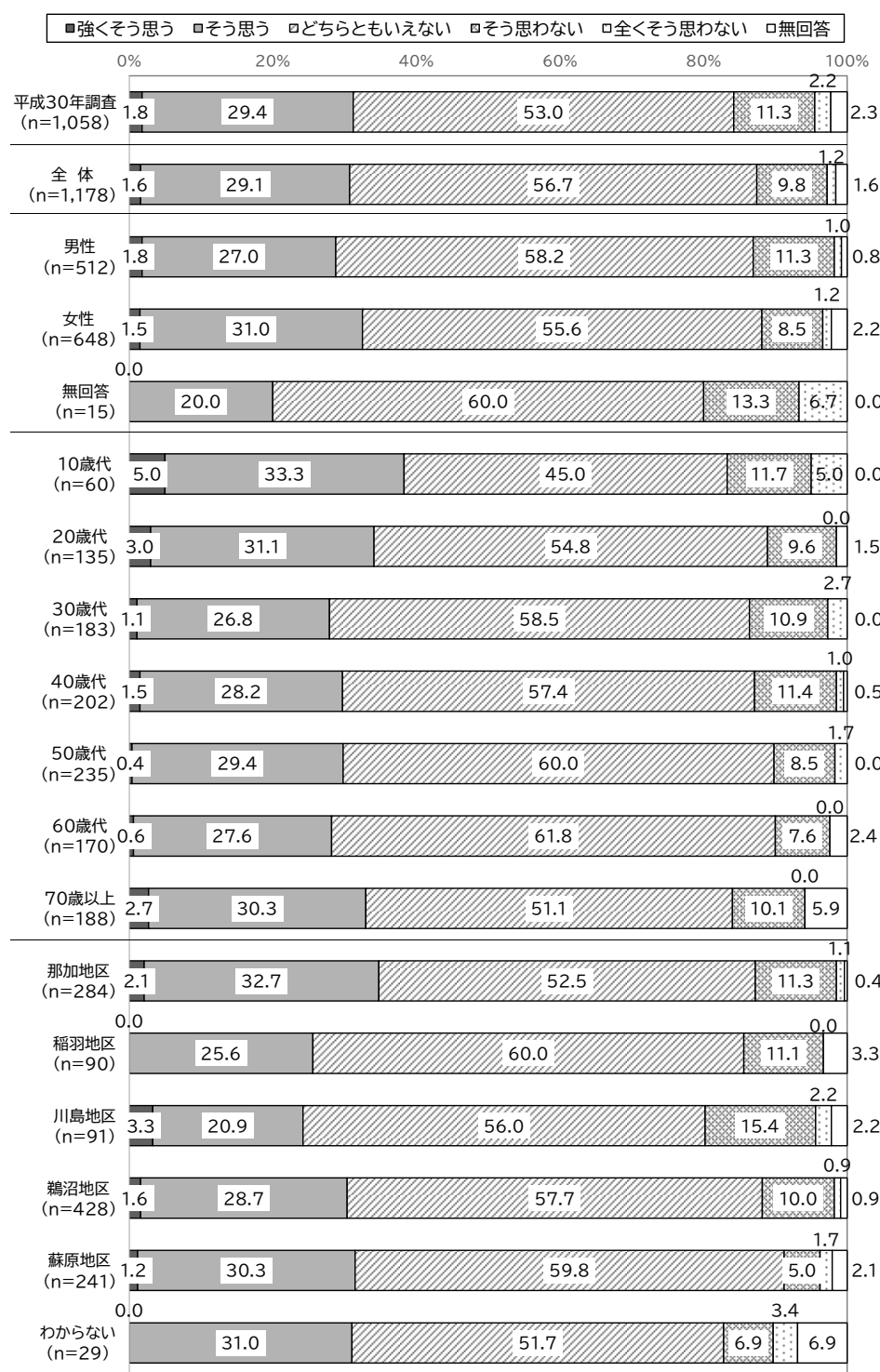
9. 保育・教育に積極的な子育てしやすいまち

- 「保育・教育に積極的な子育てしやすいまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が53.1%と最も高く、次いで「そう思う」が29.5%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は31.9%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は13.3%となっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、30歳代、40歳代は他の年代よりも「そう思う」が高く、60歳代は「どちらともいえない」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



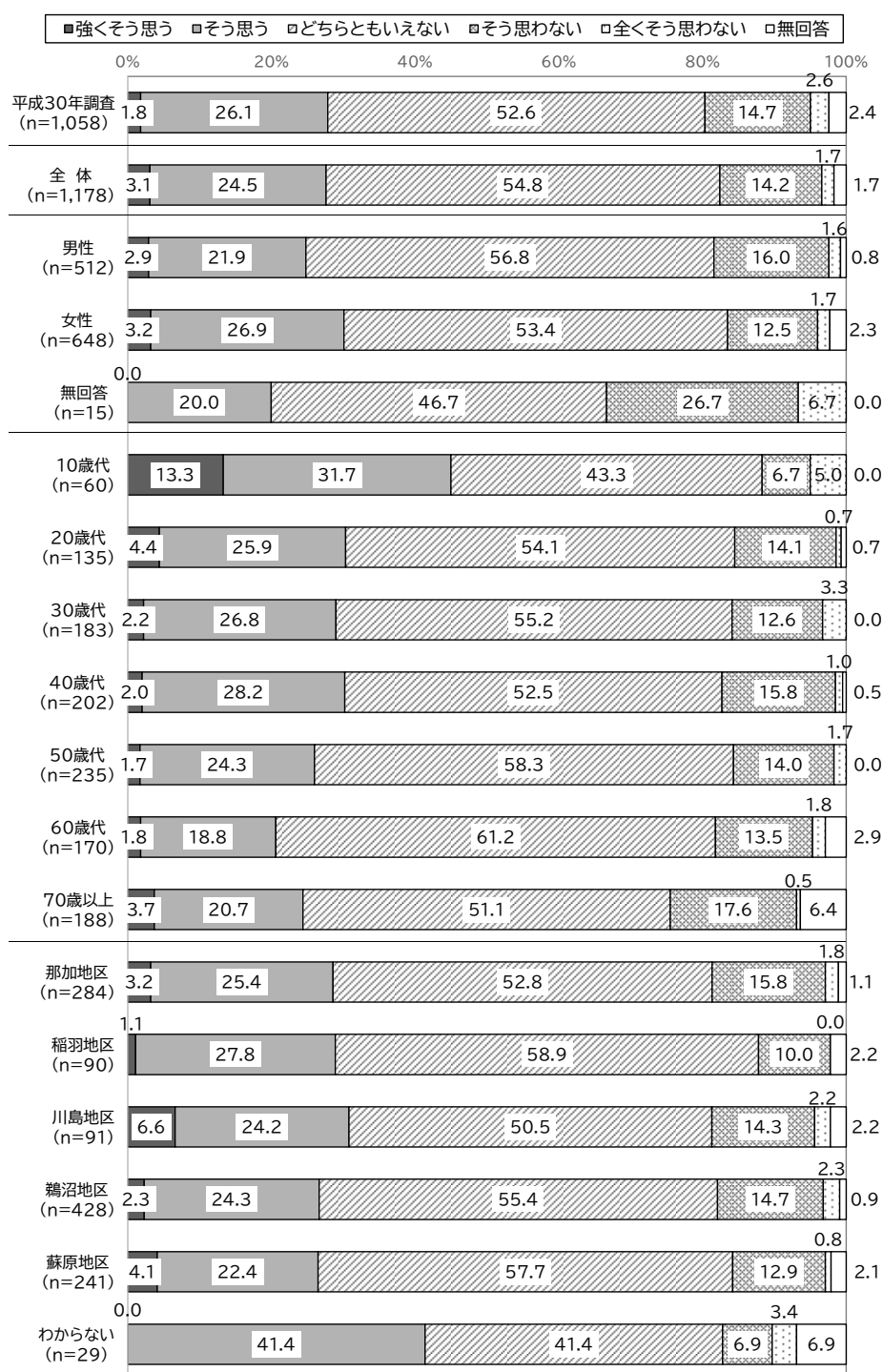
10. 防犯、防災体制が整った安全なまち

- 「防犯、防災体制が整った安全なまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が56.7%と最も高く、次いで「そう思う」が29.1%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は30.7%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は11.0%となっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



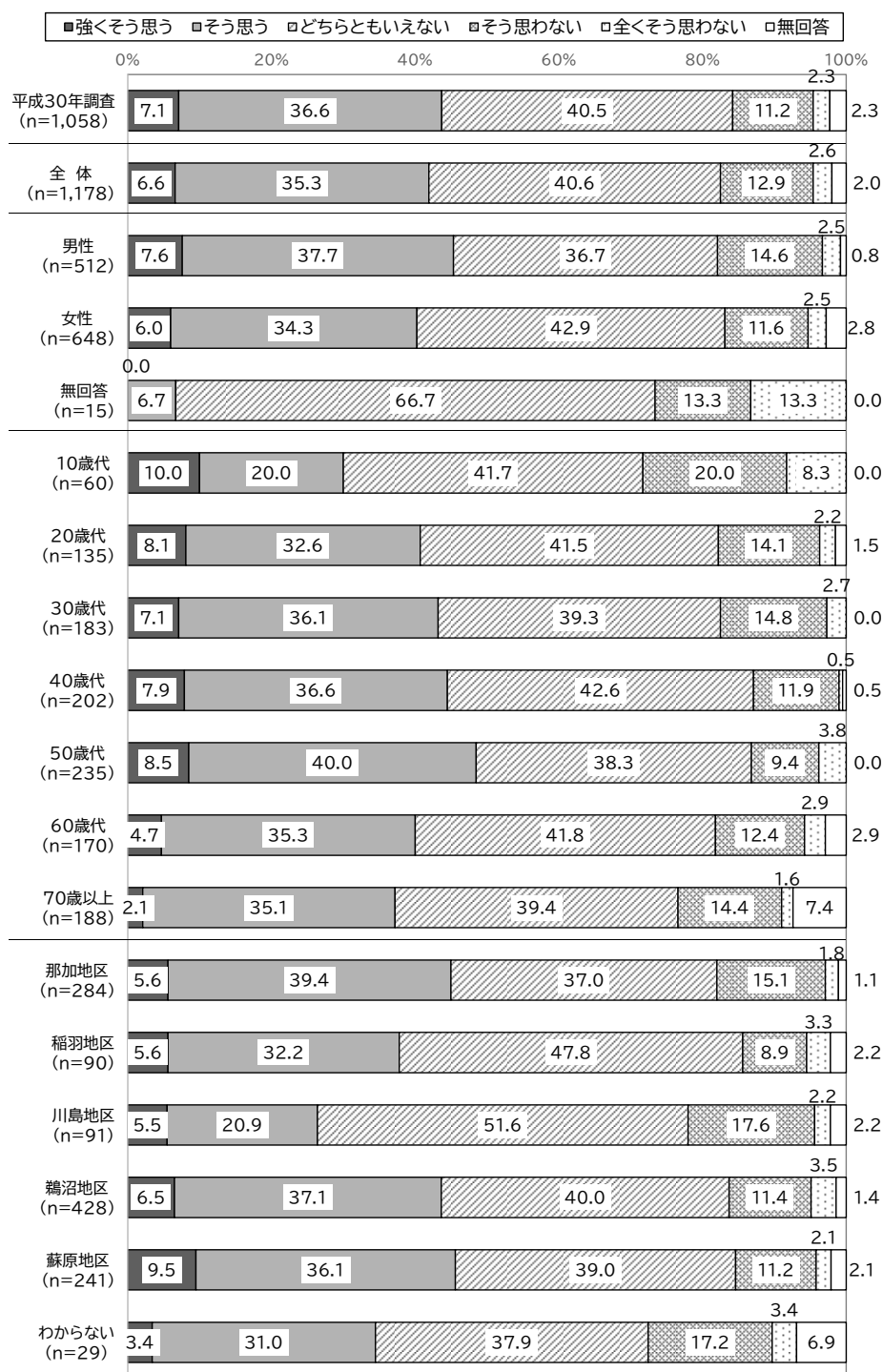
11. ボランティア活動や地域のコミュニケーションが活発なまち

- 「ボランティア活動や地域のコミュニケーションが活発なまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が54.8%と最も高く、次いで「そう思う」が24.5%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は27.6%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は15.9%となっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。また男性は女性よりも「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高くなっています。
- 年齢別に、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。60歳代は他の年代よりも「どちらともいえない」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



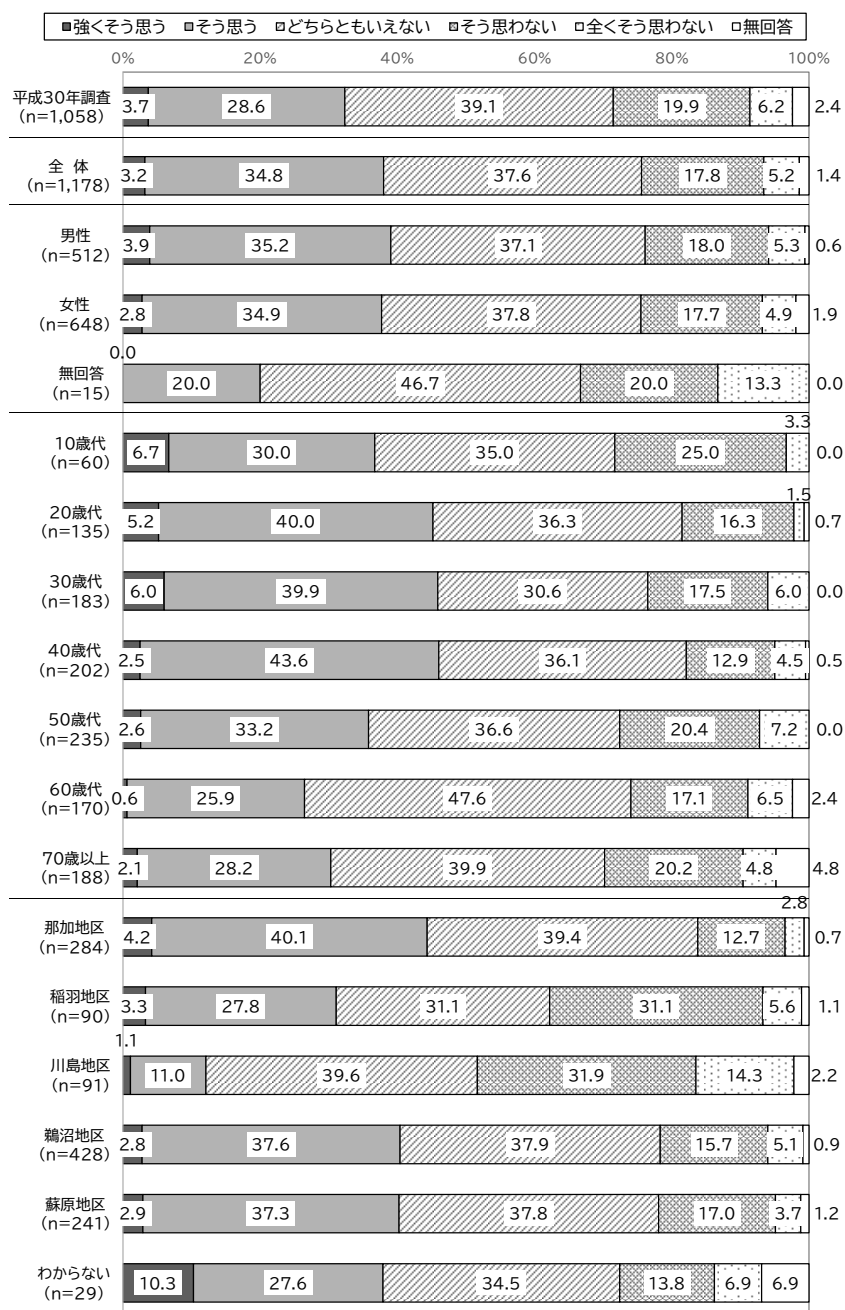
12. 高品質のものづくりなど産業が盛んなまち

- 「高品質のものづくりなど産業が盛んなまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が40.6%と最も高く、次いで「そう思う」が35.3%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は41.9%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は15.5%となっています。
- 性別について、男性は「そう思う」が、女性は「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、50歳代を除く全年代で「どちらともいえない」が最も高く、50歳代で「そう思う」が最も高くなっています。また、10歳代は他の年代よりも「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高くなっています。
- 地区別について、那加地区は「そう思う」が、その他の地区は「どちらともいえない」が最も高くなっています。



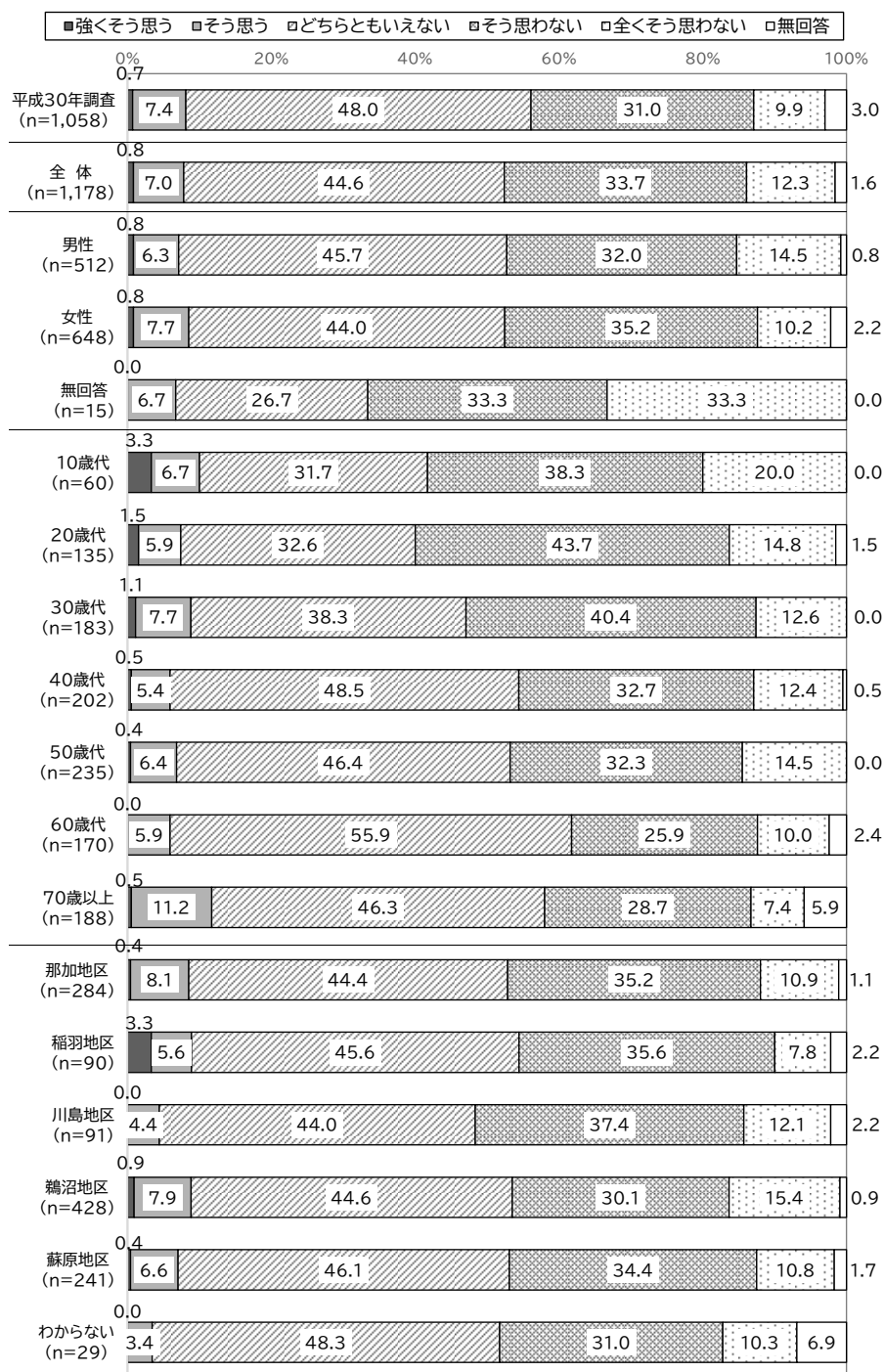
13. 交通や都市基盤が発達した便利なまち

- 「交通や都市基盤が発達した便利なまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が37.6%と最も高く、次いで「そう思う」が34.8%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は38.0%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は23.0%となっています。前回調査（平成30年調査）よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、20歳代から40歳代は「そう思う」が、10歳代、50歳代以上は「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、40歳代は他の年代よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高くなっています。
- 地区別について、那加地区は「そう思う」が、川島地区、鵜沼地区、蘇原地区は「どちらともいえない」が最も高くなっています。稲羽地区は「どちらともいえない」と「そう思わない」が同率で最も高くなっています。また、那加地区は他の地区よりも「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が高く、稲羽地区、川島地区は「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高くなっています。



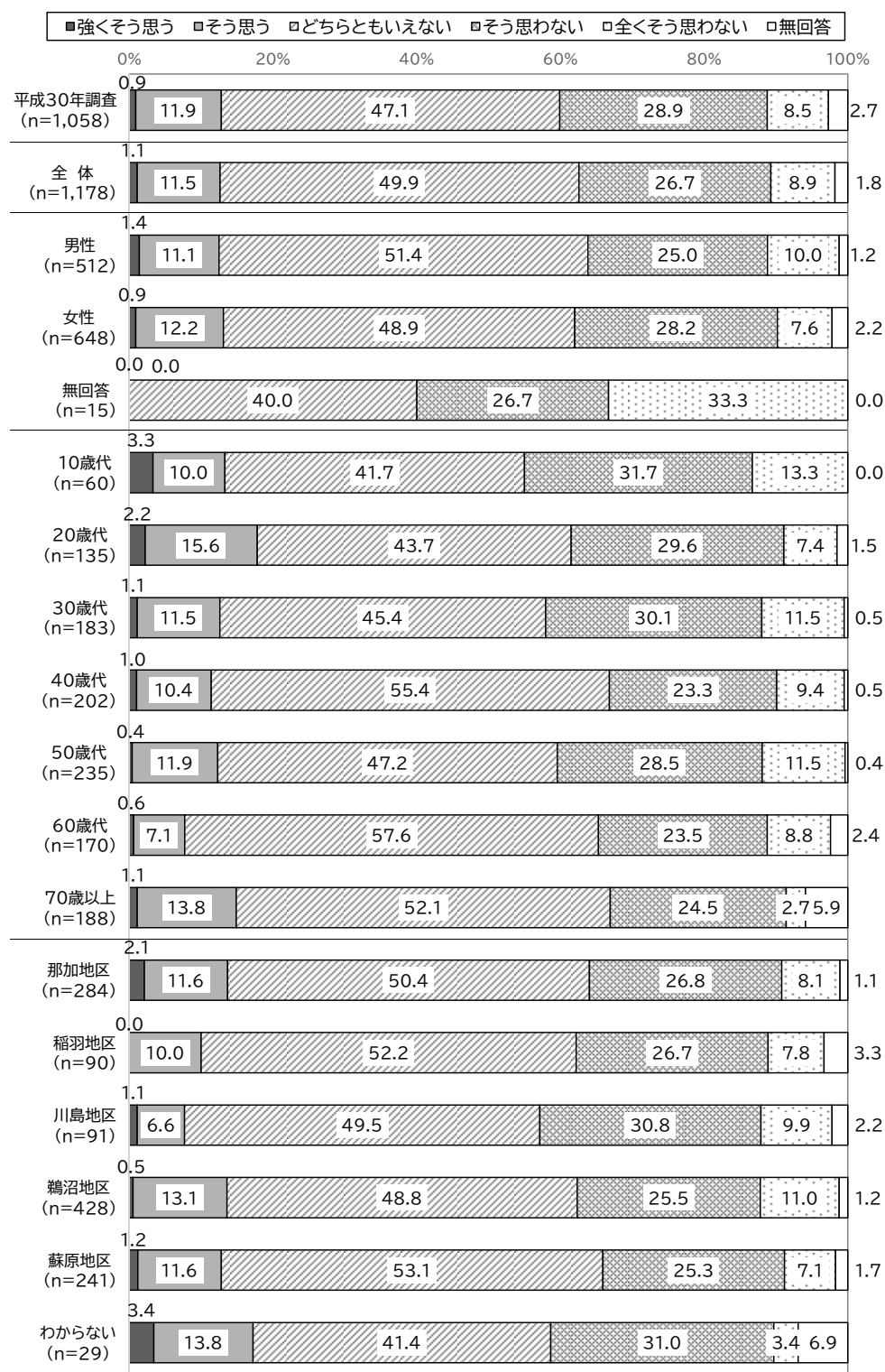
14. 世界に向けて情報発信するまち

- 「世界に向けて情報発信するまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が44.6%と最も高く、次いで「そう思わない」が33.7%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は7.8%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は46.0%となっています。前回調査（平成30年）よりも「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高くなっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、10歳代から30歳代は「そう思わない」が、40歳代以上は「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、20歳代は他の年代よりも「そう思わない」が高く、60歳代は「どちらともいえない」が高く、70歳以上は「そう思う」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



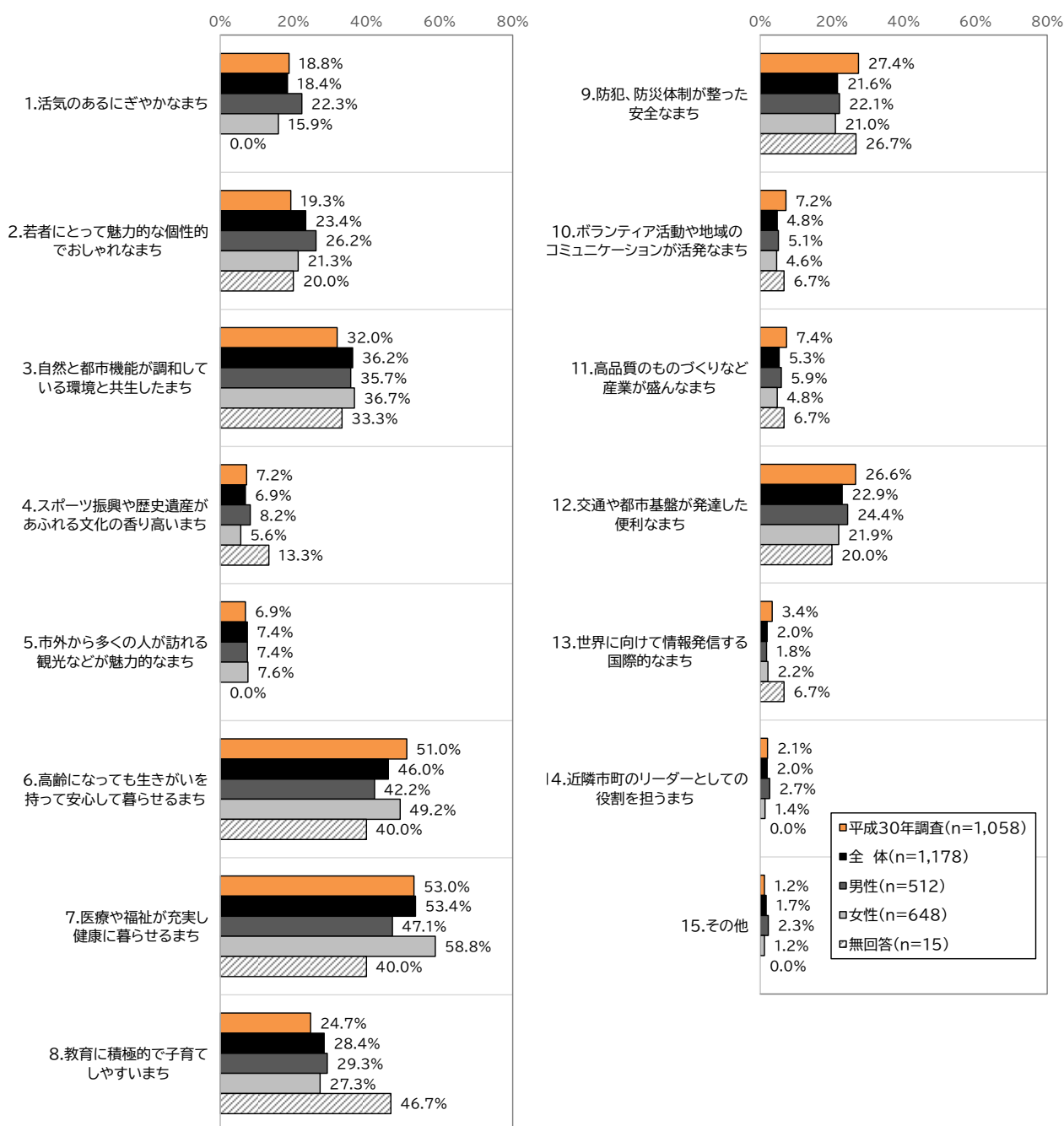
15. 近隣市町のリーダーとしての役割を担うまち

- 「近隣市町のリーダーとしての役割を担うまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が49.9%と最も高く、次いで「そう思わない」が26.7%となっています。また、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は12.6%、「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は35.6%となっています。
- 性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。

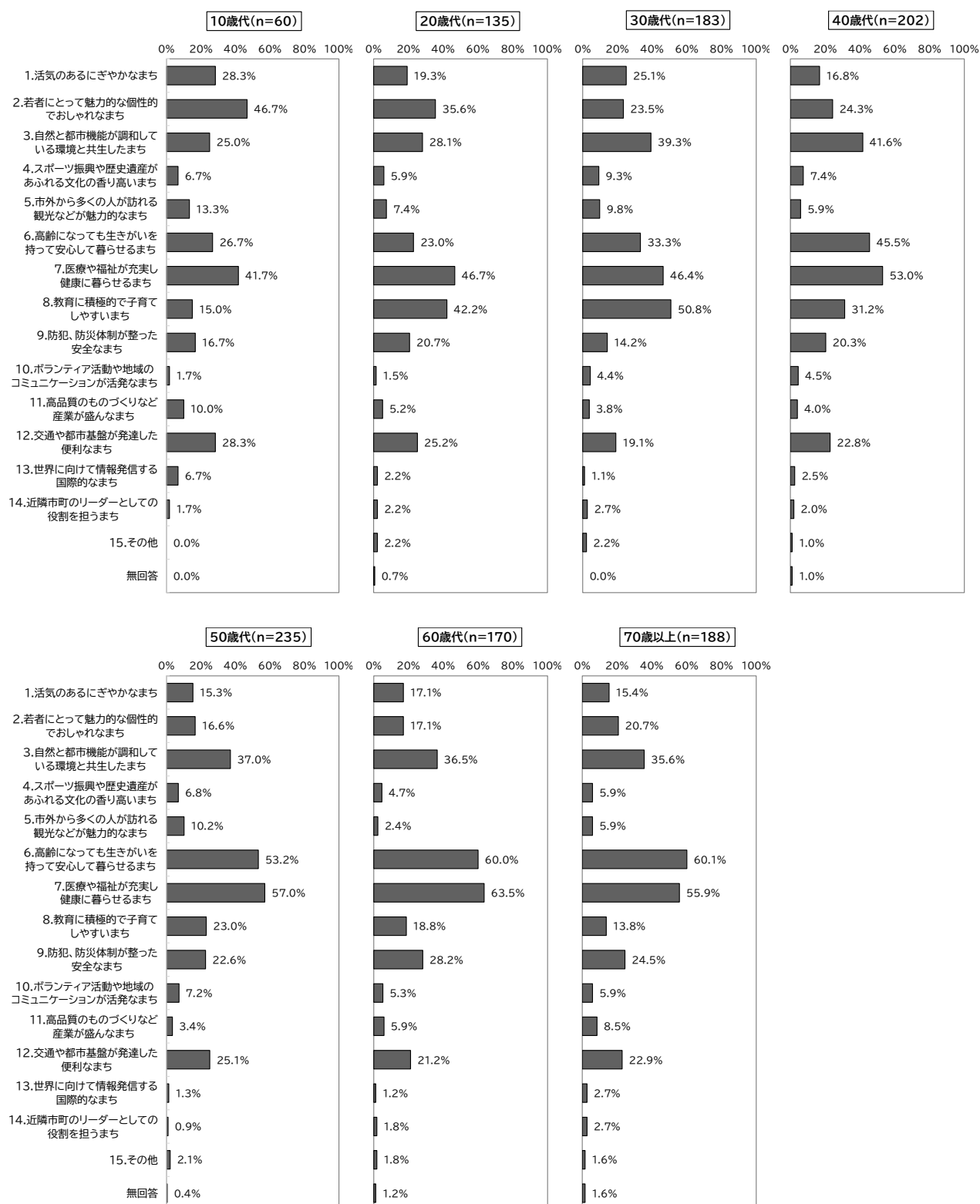


問16 あなたは、各務原市の将来の都市の姿として、どのようなまちになってほしいと思いますか。（〇は3つまで）

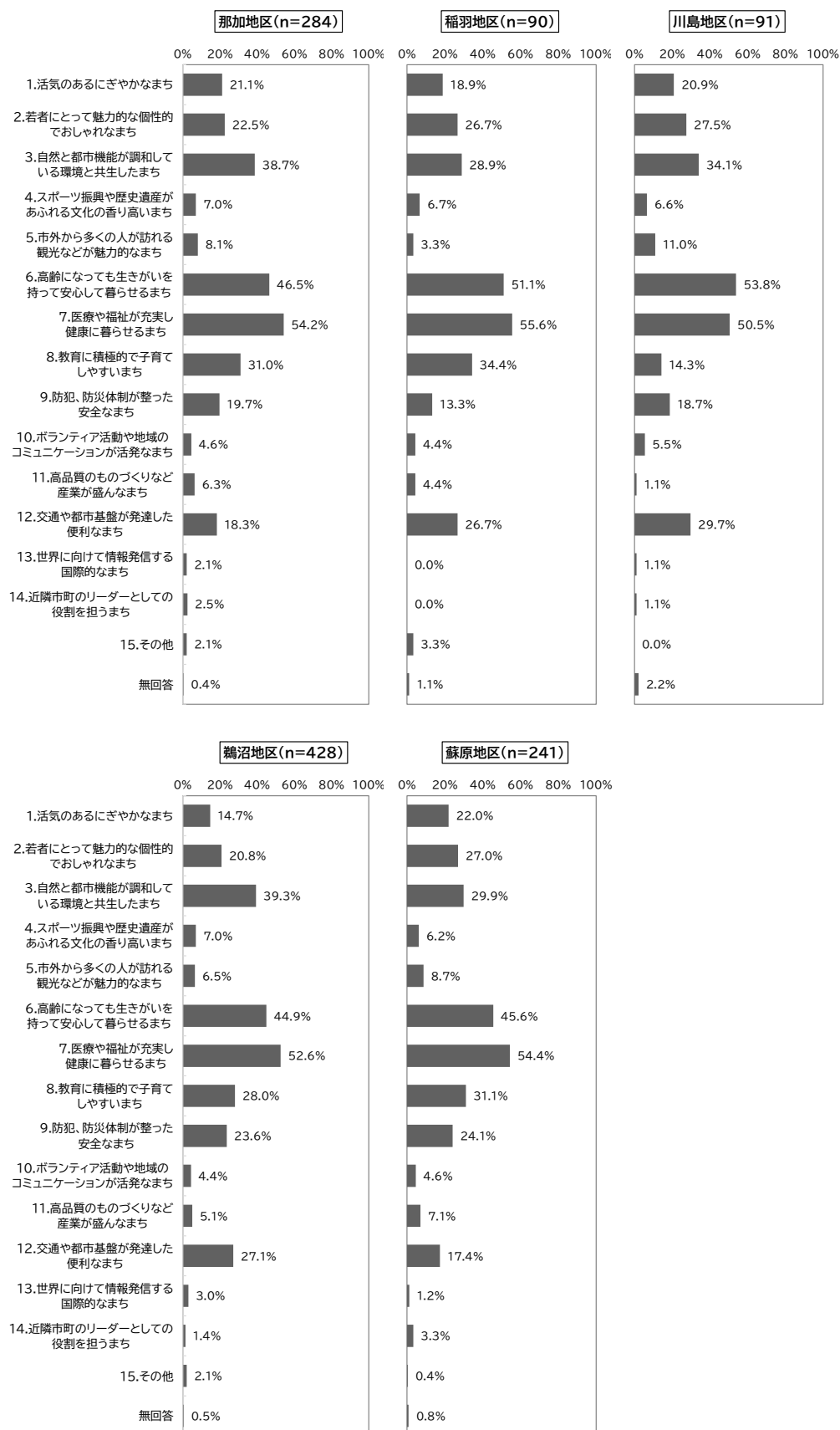
- 将来、各務原市がどのようなまちを目指すべきかについて、「7.医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が53.4%で最も高く、次いで「6.高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が46.0%となっています。また、前回調査（平成30年調査）よりも「2.若者にとって魅力的な個性的でおしゃれなまち」、「3.自然と都市機能が調和している環境と共生したまち」、「8.教育に積極的で子育てしやすいまち」などが高く、「6.高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」、「9.防犯、防災体制が整った安全なまち」、「12.交通や都市基盤が発達した便利なまち」などが低くなっています。
- 性別について、男女ともに「7.医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が最も高くなっています。また、女性は男性よりも「6.高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」、「7.医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が高くなっています。



- 年齢別について、10歳代は「2.若者にとって魅力的な個性的でおしゃれなまち」、20歳代と40歳代から60歳代は「7.医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」、30歳代は「8.教育に積極的で子育てしやすいまち」、70歳以上は「6.高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が最も高くなっています。また、10歳代と20歳代は他の年代よりも「若者にとって魅力的な個性的でおしゃれなまち」が高く、20歳代と30歳代は「教育に積極的で子育てしやすいまち」が高く、60歳代以上は「6.高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が高くなっています。



- 地区別について、川島地区は「6.高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が、その他の地区は「7.医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が最も高くなっています。

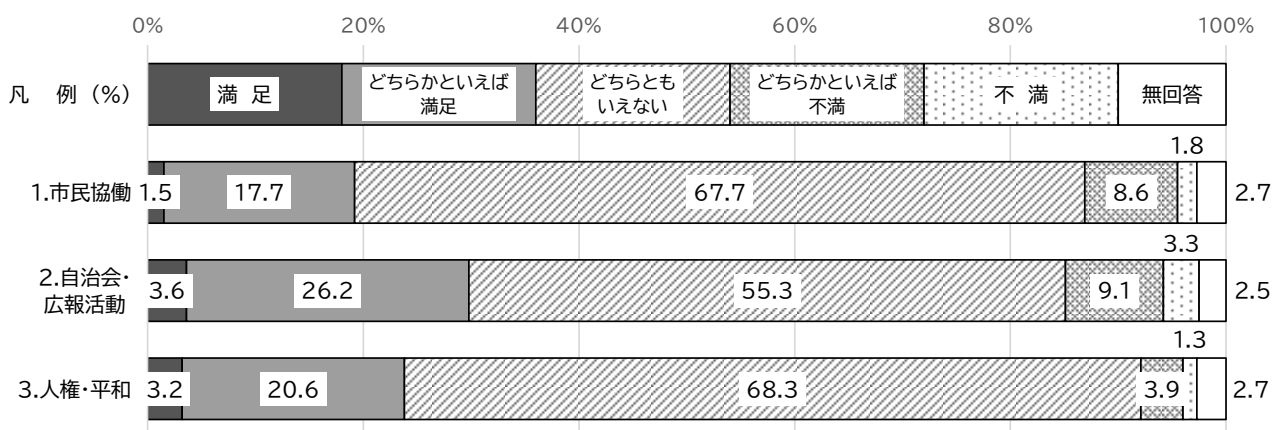


問17 市が展開している次の1～37の施策について、それぞれに対するあなたの満足度、重要度を教えてください。（満足度、重要度、それぞれにあてはまるもの1つずつに○）

満足度【市民協働】

- 市民協働分野の市民満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合では、「2.自治会・広報活動」が29.8%で最も高くなっています。
- また、「1.市民協働」が19.2%で最も低くなっています。

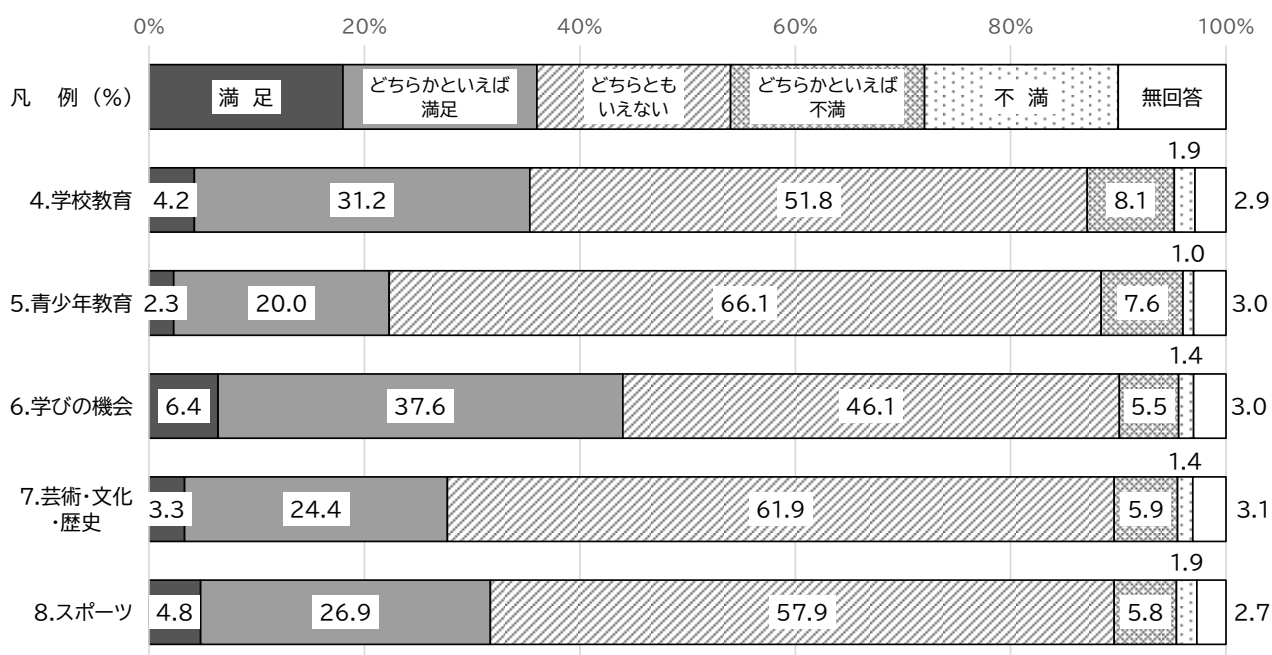
【満足度】思いやりとふれあいのある協働のまち(市民協働)



満足度【教育・文化・スポーツ】

- 教育・文化・スポーツ分野の市民満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合では、「6.学びの機会」が44.0%で最も高くなっています。
- また、「5.青少年教育」が22.3%で最も低くなっています。

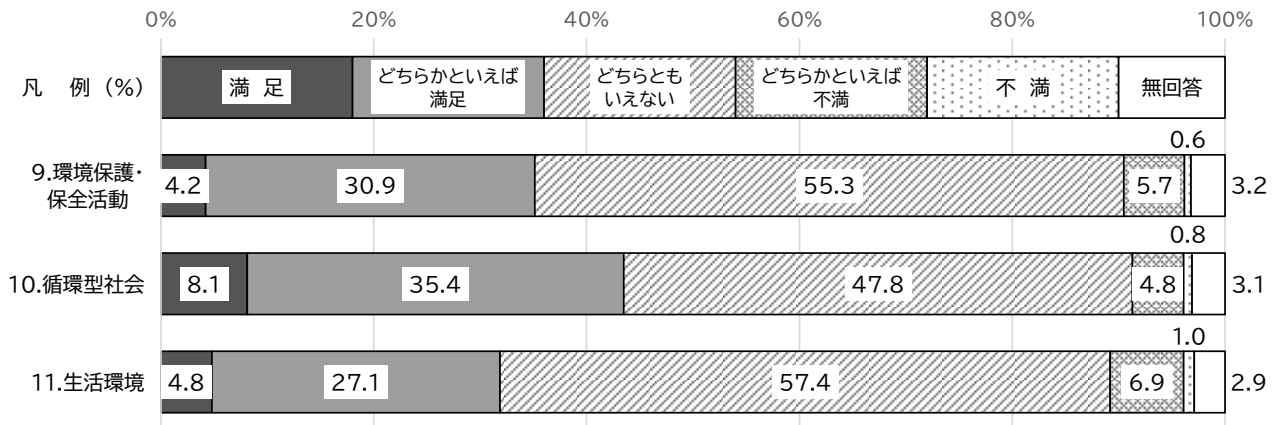
【満足度】心豊かで文化を育む人づくりのまち(教育・文化・スポーツ)



満足度【環境】

- 環境分野の市民満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合では、「10.循環型社会」が43.5%で最も高くなっています。
- また、「11.生活環境」が31.9%で最も低くなっています。

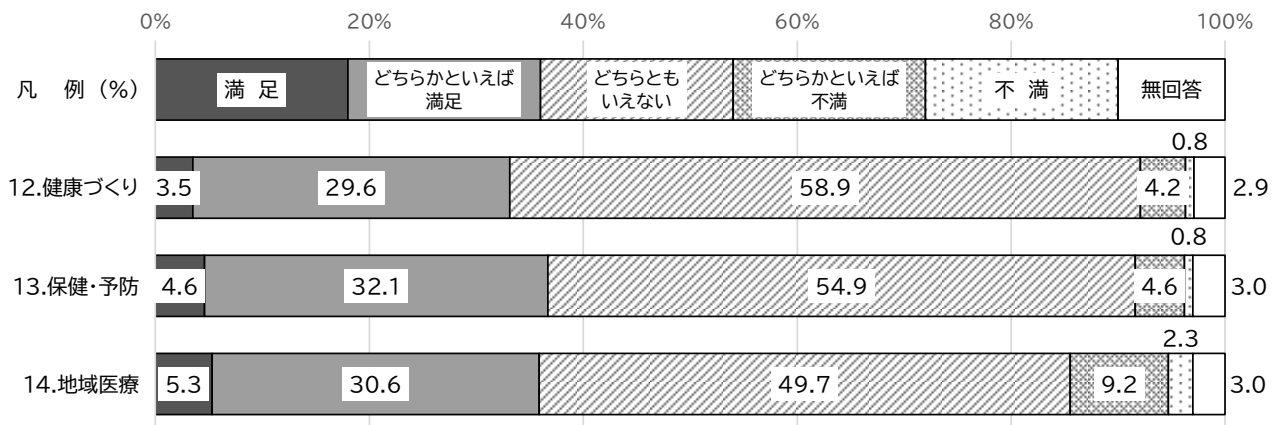
【満足度】豊かな自然と調和する共生のまち(環境)



満足度【保健・医療】

- 保健・医療分野の市民満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合では、「13.保健・予防」が36.7%で最も高くなっています。
- また、「12.健康づくり」が33.1%で最も低くなっています。

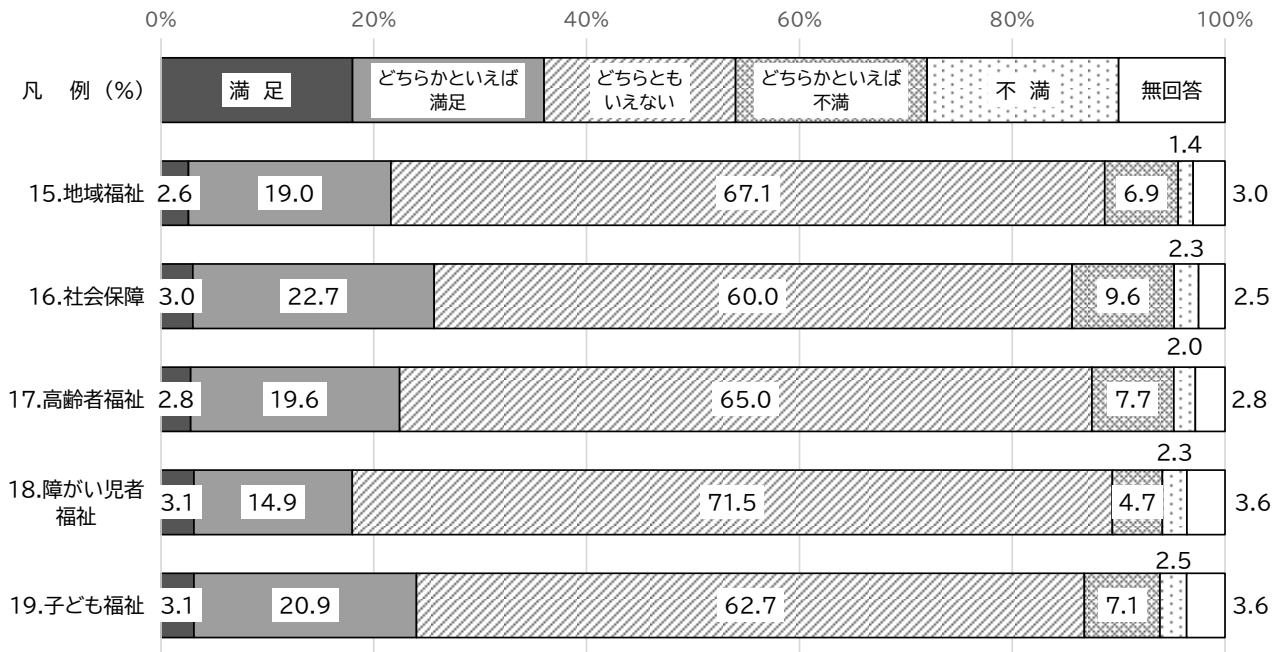
【満足度】元気があふれる健やかなまち(保健・医療)



満足度【福祉・社会保障】

- 福祉・社会保障分野の市民満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合では、「16.社会保障」が25.7%で最も高くなっています。
- また、「18.障害児者福祉」が18.0%で最も低くなっています。

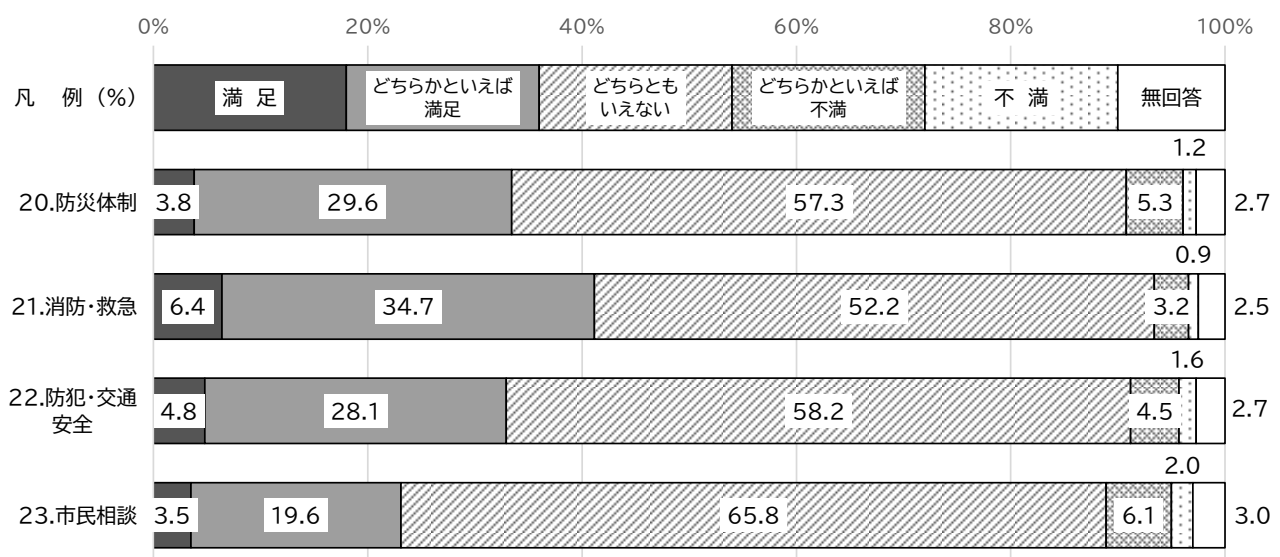
【満足度】 支えあいと笑顔あふれる思いやりのまち(福祉・社会保障)



満足度【防災・防犯】

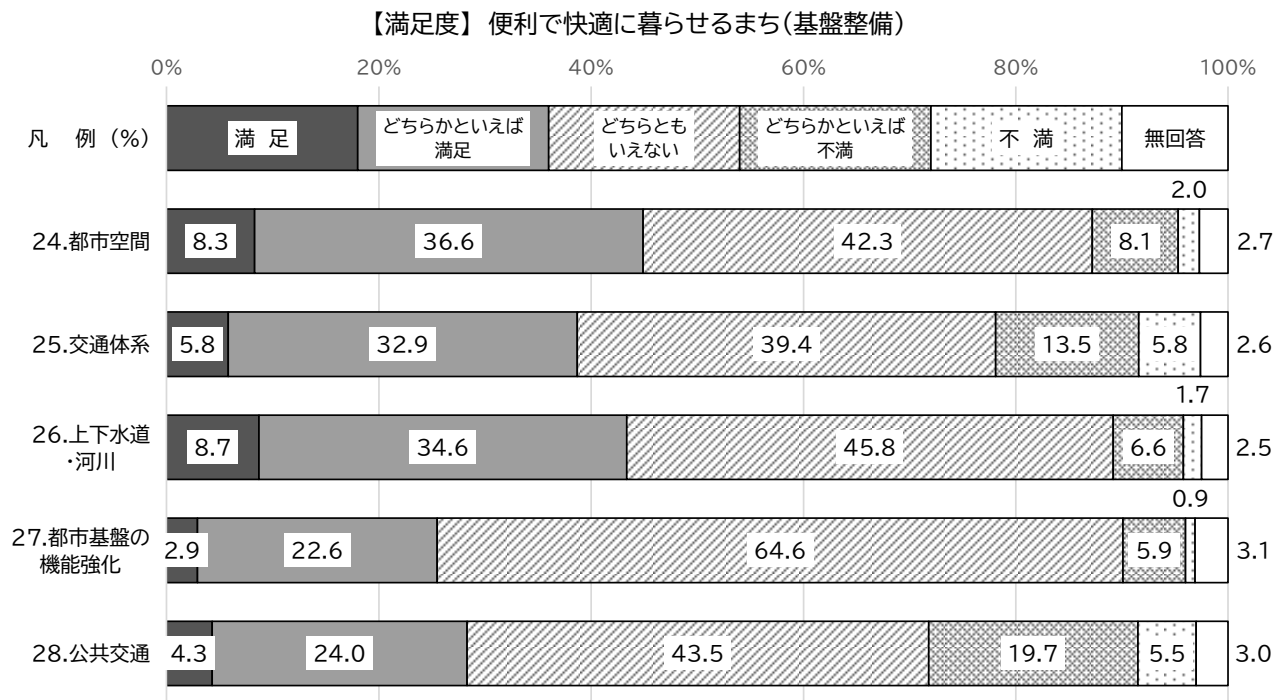
- 防災・防犯分野の市民満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合では、「21.消防・救急」が41.1%で最も高くなっています。
- また、「23.市民相談」が23.1%で最も低くなっています。

【満足度】 いつまでも住み続けたい安全・安心のまち(防災・防犯)



満足度【基盤整備】

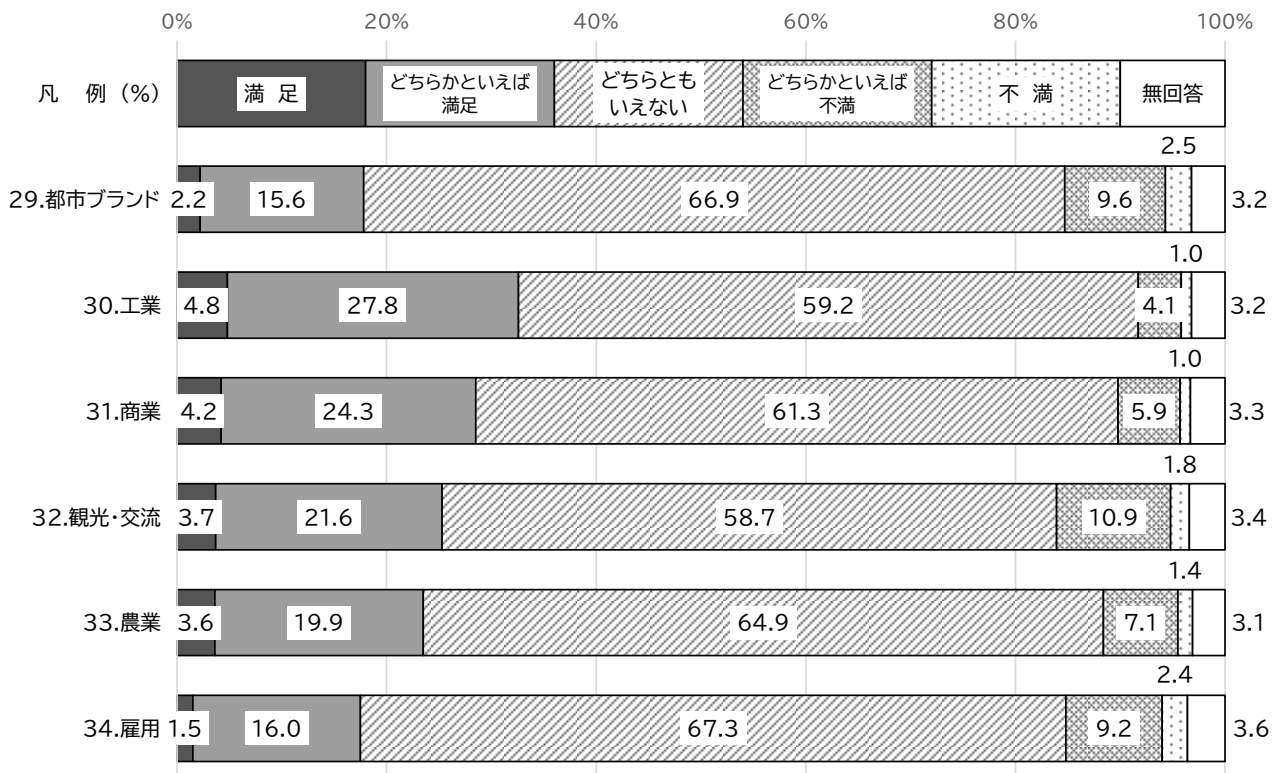
- 基盤整備分野の市民満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合では、「24.都市空間」が44.9%で最も高くなっています。
- また、「27.都市基盤の機能強化」が25.5%で最も低くなっています。



満足度【産業】

- 産業分野の市民満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合では、「30.工業」が32.6%で最も高くなっています。
- また、「34.雇用」が17.5%で最も低くなっています。

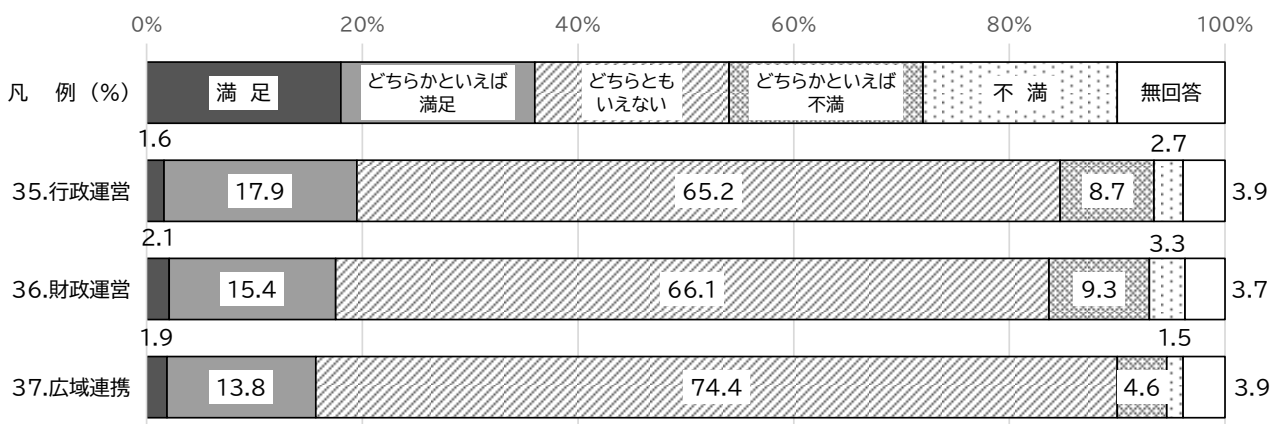
【満足度】 賑わいと創造性を感じる活力あるまち(産業)



満足度【行財政】

- 行財政分野の市民満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合では、「35.行政運営」が19.5%で最も高くなっています。
- また、「37.広域連携」が15.7%で最も低くなっています。

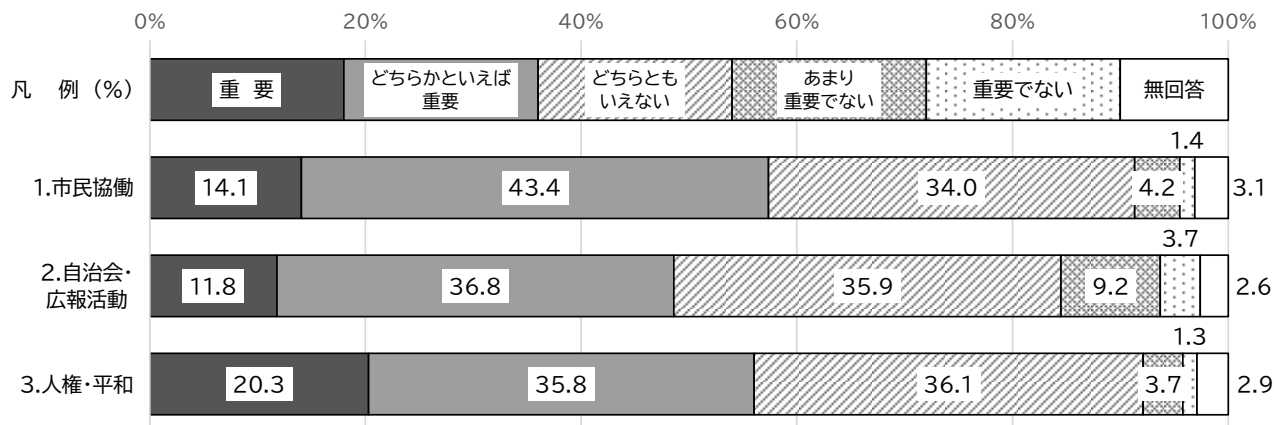
【満足度】 持続可能な自立した地域経営のまち(行財政)



重要度【市民協働】

- 市民協働分野の市民重要度について、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた割合では、「1.市民協働」が57.5%で最も高くなっています。
- また、「2.自治会・広報活動」が48.6%で最も低くなっています。

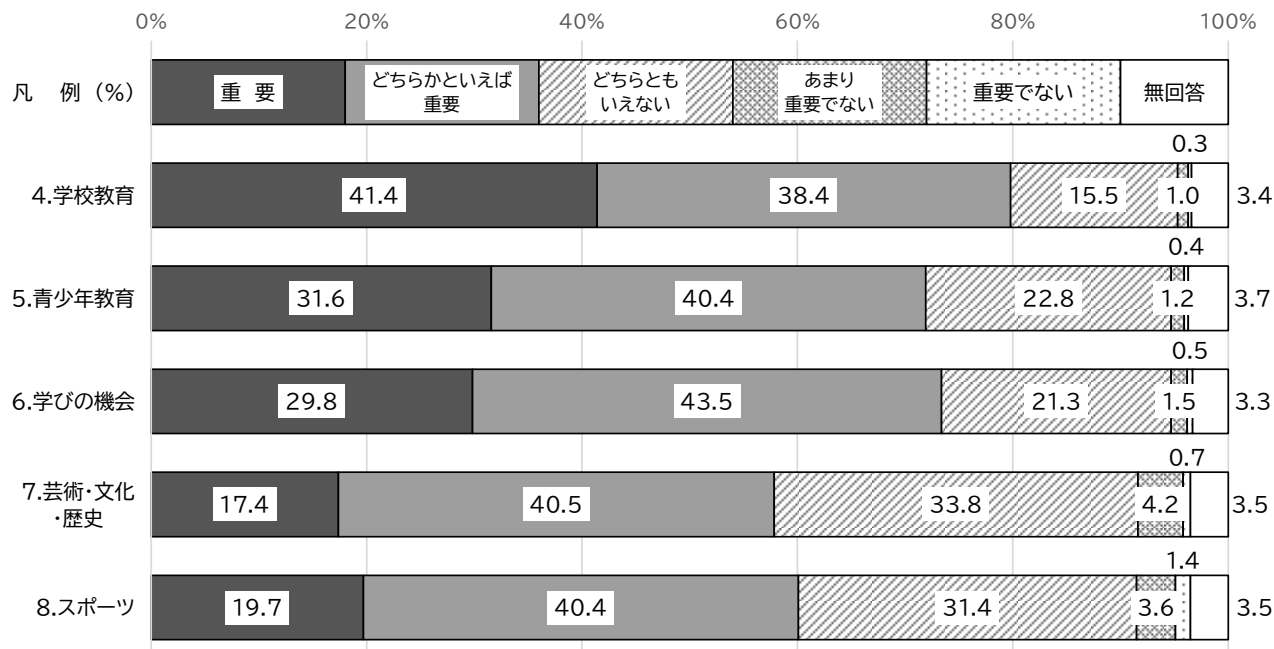
【重要度】思いやりとふれあいのある協働のまち(市民協働)



重要度【教育・文化・スポーツ】

- 教育・文化・スポーツ分野の市民重要度について、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた割合では、「4.学校教育」が79.8%で最も高くなっています。
- また、「7.芸術・文化・歴史」が57.9%で最も低くなっています。

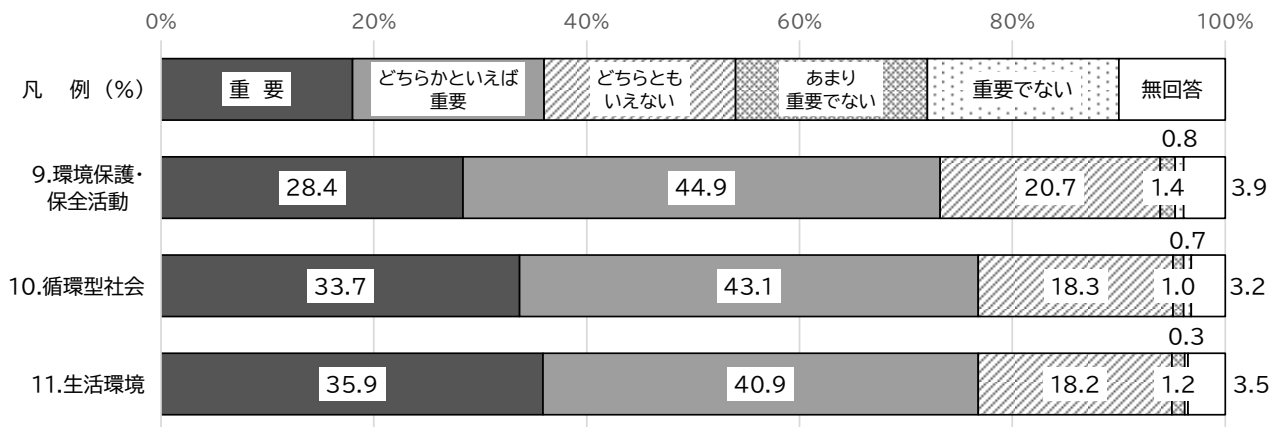
【重要度】心豊かで文化を育む人づくりのまち(教育・文化・スポーツ)



重要度【環境】

- 環境分野の市民重要度について、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた割合では、「10.循環型社会」「11.生活環境」が76.8%で最も高くなっています。
- また、「9.環境保護・保全活動」が73.3%で最も低くなっています。

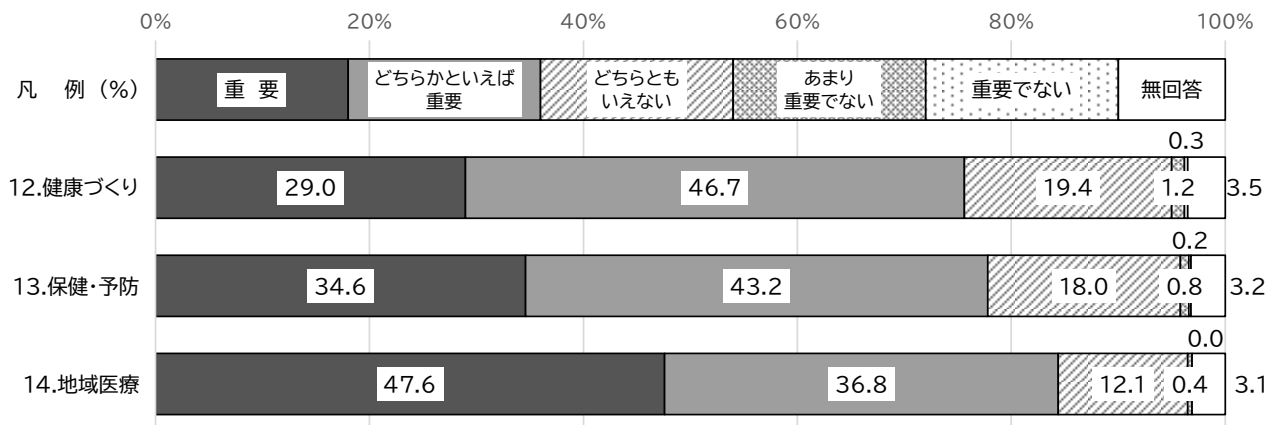
【重要度】豊かな自然と調和する共生のまち(環境)



重要度【保健・医療】

- 保健・医療分野の市民重要度について、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた割合では、「14.地域医療」が84.4%で最も高くなっています。
- また、「12.健康づくり」が75.7%で最も低くなっています。

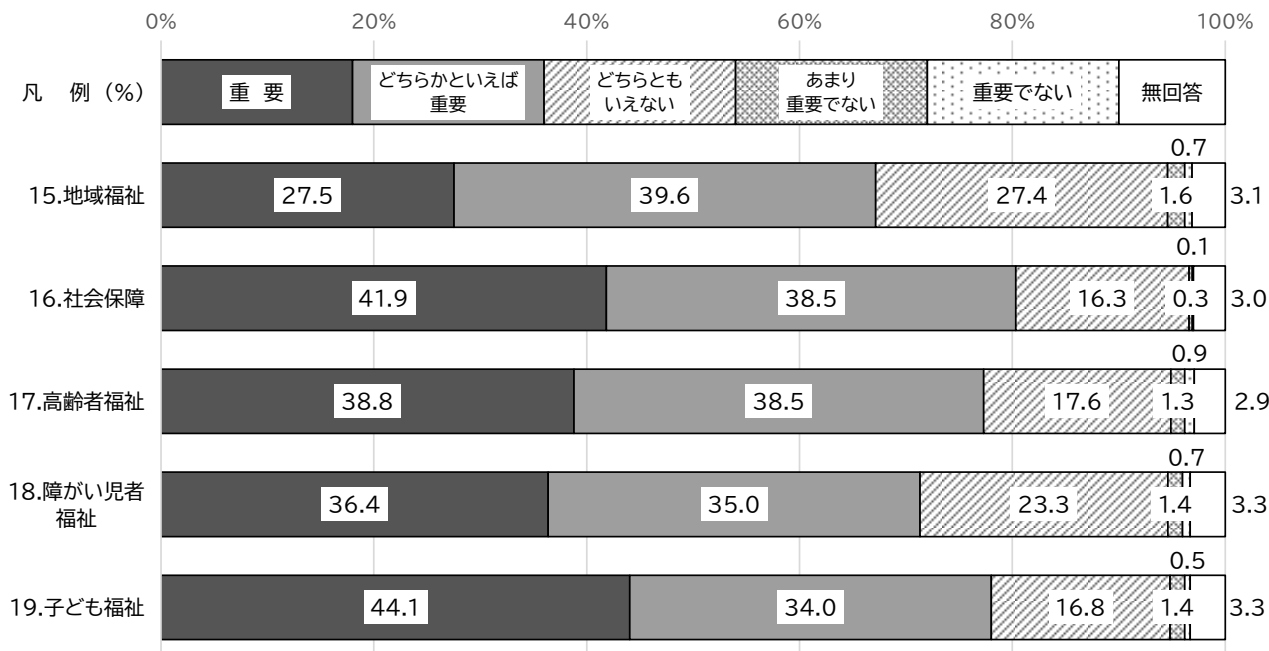
【重要度】元気があふれる健やかなまち(保健・医療)



重要度【福祉・社会保障】

- 福祉・社会保障分野の市民重要度について、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた割合では、「16.社会保障」が80.4%で最も高くなっています。
- また、「15.地域福祉」が67.1%で最も低くなっています。

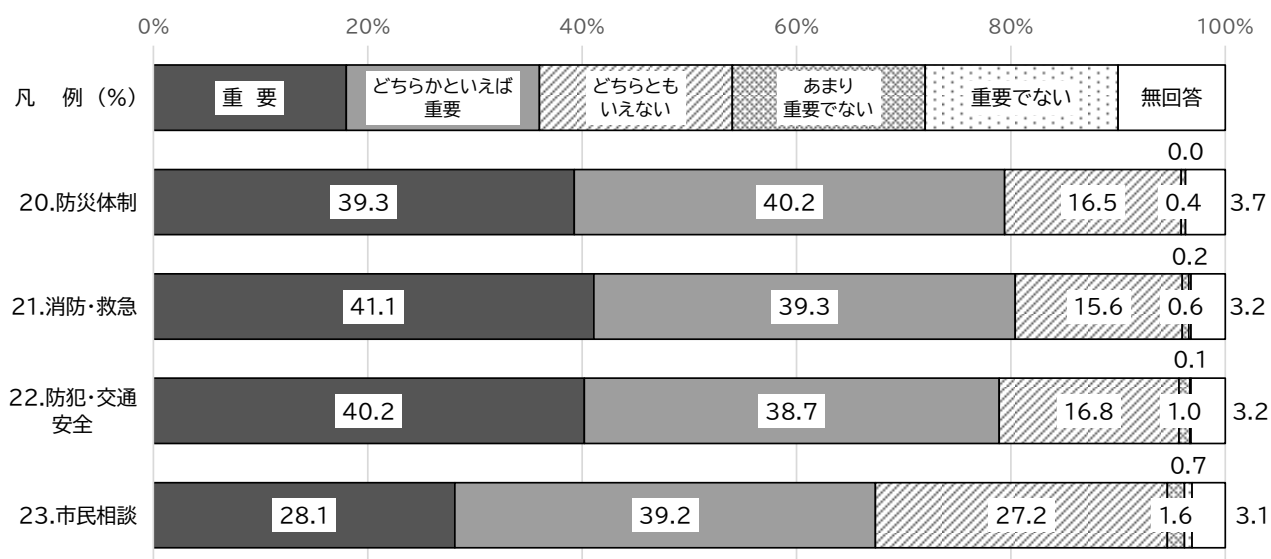
【重要度】 支えあいと笑顔あふれる思いやりのまち(福祉・社会保障)



重要度【防災・防犯】

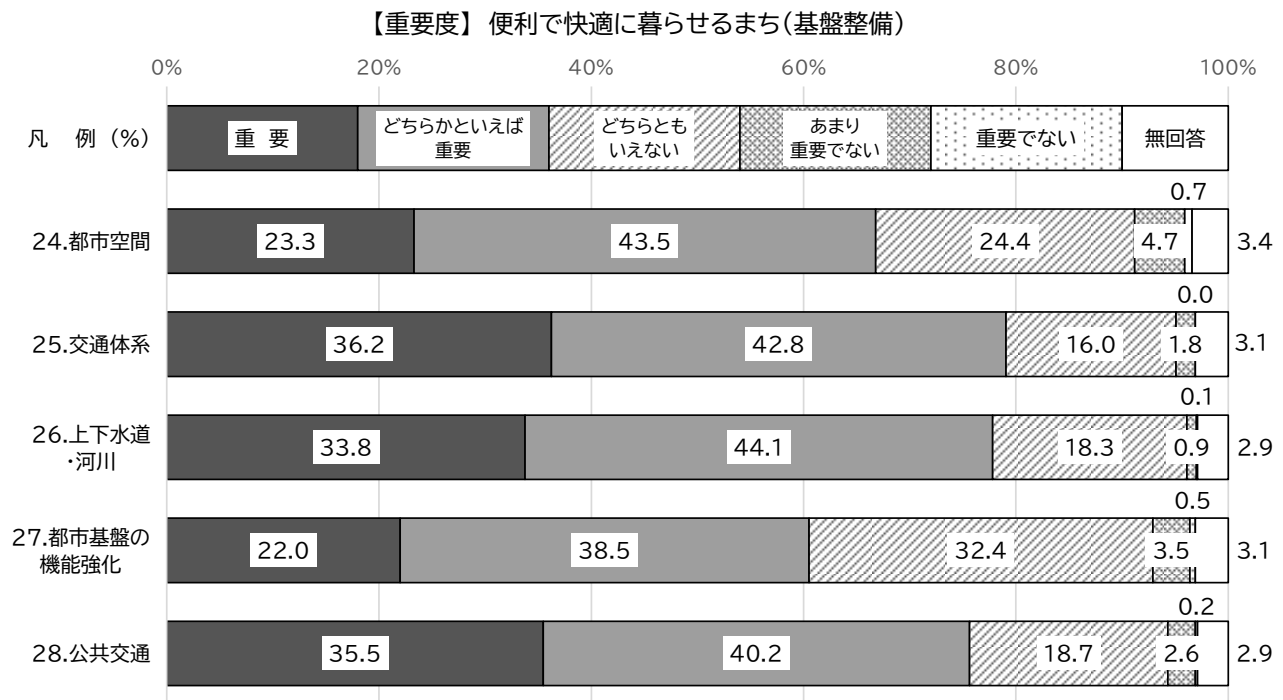
- 防災・防犯分野の市民重要度について、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた割合では、「21.消防・救急」が80.4%で最も高くなっています。
- また、「23.市民相談」が67.3%で最も低くなっています。

【重要度】 いつまでも住み続けたい安全・安心のまち(防災・防犯)



重要度【基盤整備】

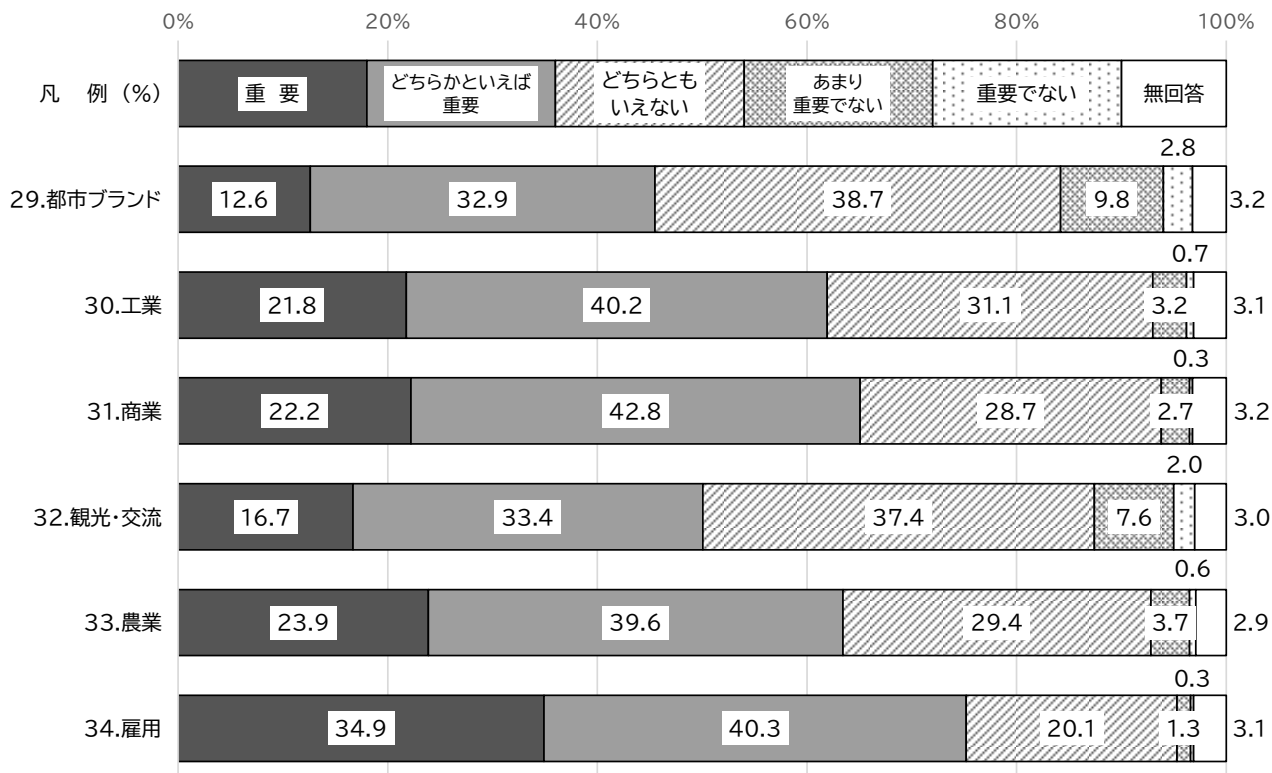
- 基盤整備分野の市民重要度について、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた割合では、「25.交通体系」が79.0%で最も高くなっています。
- また、「27.都市基盤の機能強化」が60.5%で最も低くなっています。



重要度【産業】

- 産業分野の市民重要度について、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた割合では、「34.雇用」が75.2%で最も高くなっています。
- また、「29.都市ブランド」が45.5%で最も低くなっています。

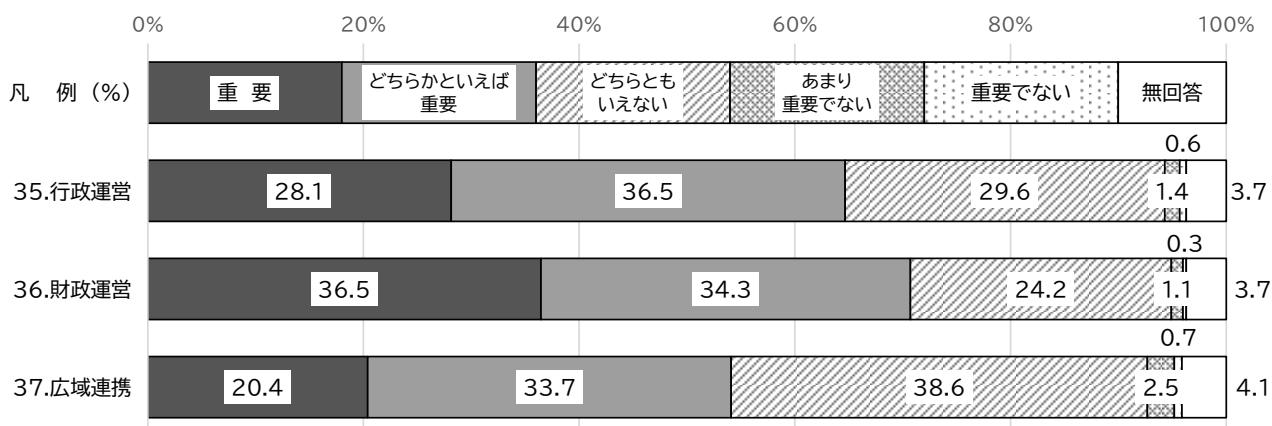
【重要度】 賑わいと創造性を感じる活力あるまち(産業)



重要度【行財政】

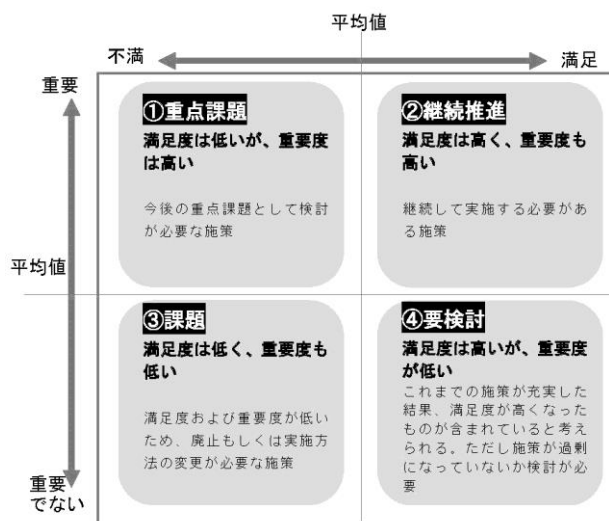
- 行財政分野の市民重要度について、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた割合では、「36.財政運営」が70.8%で最も高くなっています。
- また、「37.広域連携」が54.1%で最も低くなっています。

【重要度】 持続可能な自立した地域経営のまち(行財政)



【ポートフォリオによる分析】

ポートフォリオとは、各属性についての満足度と総合満足度への影響度を二次元にプロットした図です。それぞれの選択肢を4段階評価で聞き、X軸に各属性の満足度、Y軸に重要度（期待値）として総合満足度と各満足度の偏相関係数を表しています。なお、図は4象限に分けられ、象限を分ける境界線は、満足度、重要度の各平均値を使用しています。



【分析の考え方】

37項目について、満足度と重要度を下表のような配分で点数化し、その点数の合計値を、無回答を除いた各設問の回答総数で割り、満足度・重要度を得点化します。

さらに、各項目の満足度と重要度の得点の関係で分布図を作成し、ポートフォリオ分析により今後の方向性を分析します。

【重要度・満足度の得点化の手順】

	満足度	得点化基準
①	満足	5点
②	どちらかといえば満足	3点
③	どちらかといえば不満	-3点
④	不満	-5点
⑤	どちらともいえない	0点
⑥	無回答	母数から除外
	重要度	得点化基準
①	重要	5点
②	どちらかといえば重要	3点
③	あまり重要でない	-3点
④	重要でない	-5点
⑤	どちらともいえない	0点
⑥	無回答	母数から除外

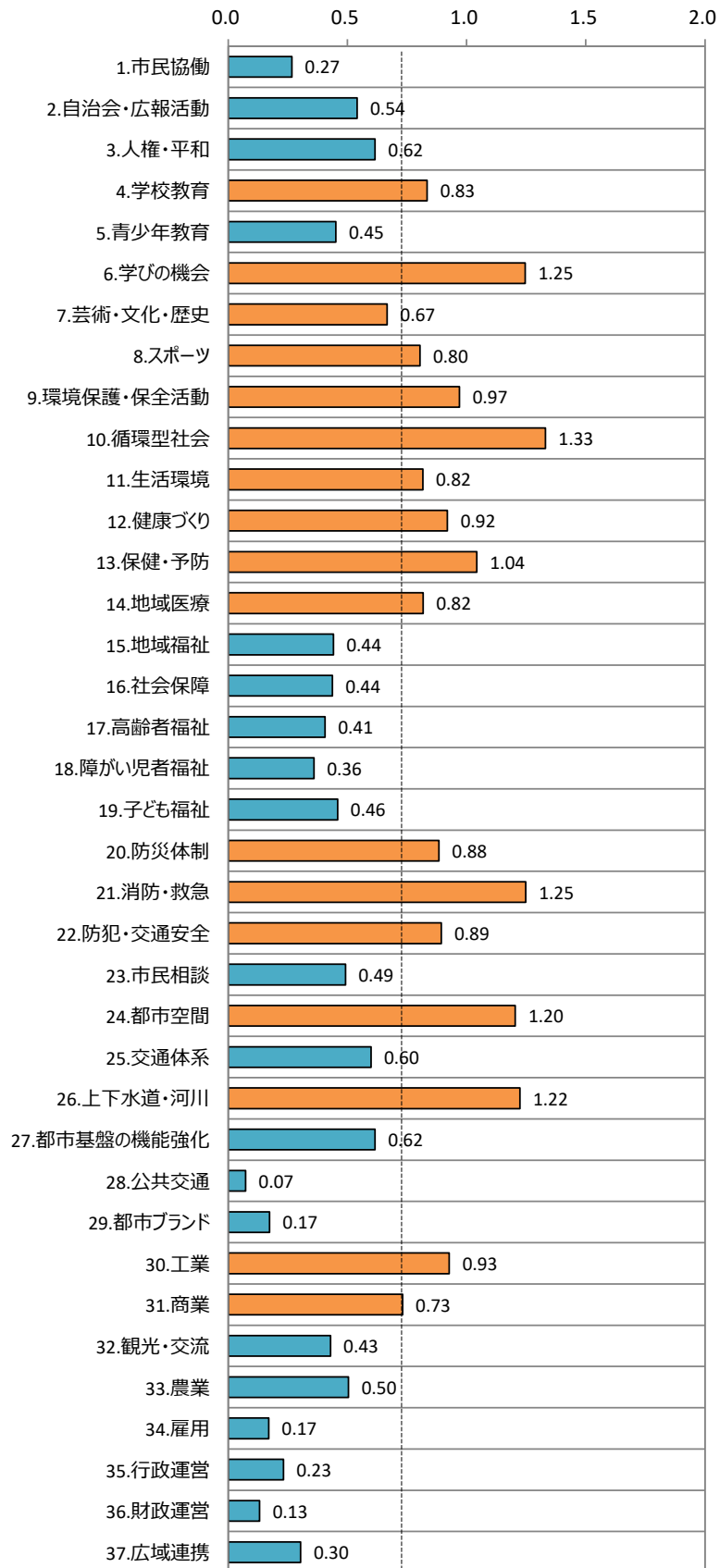
$$\text{得点} = \frac{[\text{①件数}] \times 5 + [\text{②件数}] \times 3 - [\text{③件数}] \times 3 - [\text{④件数}] \times 5}{[\text{件数合計}] - [\text{⑥件数}]}$$

$$\text{得点} = \frac{[\text{①件数}] \times 5 + [\text{②件数}] \times 3 - [\text{③件数}] \times 3 - [\text{④件数}] \times 5}{[\text{件数合計}] - [\text{⑥件数}]}$$

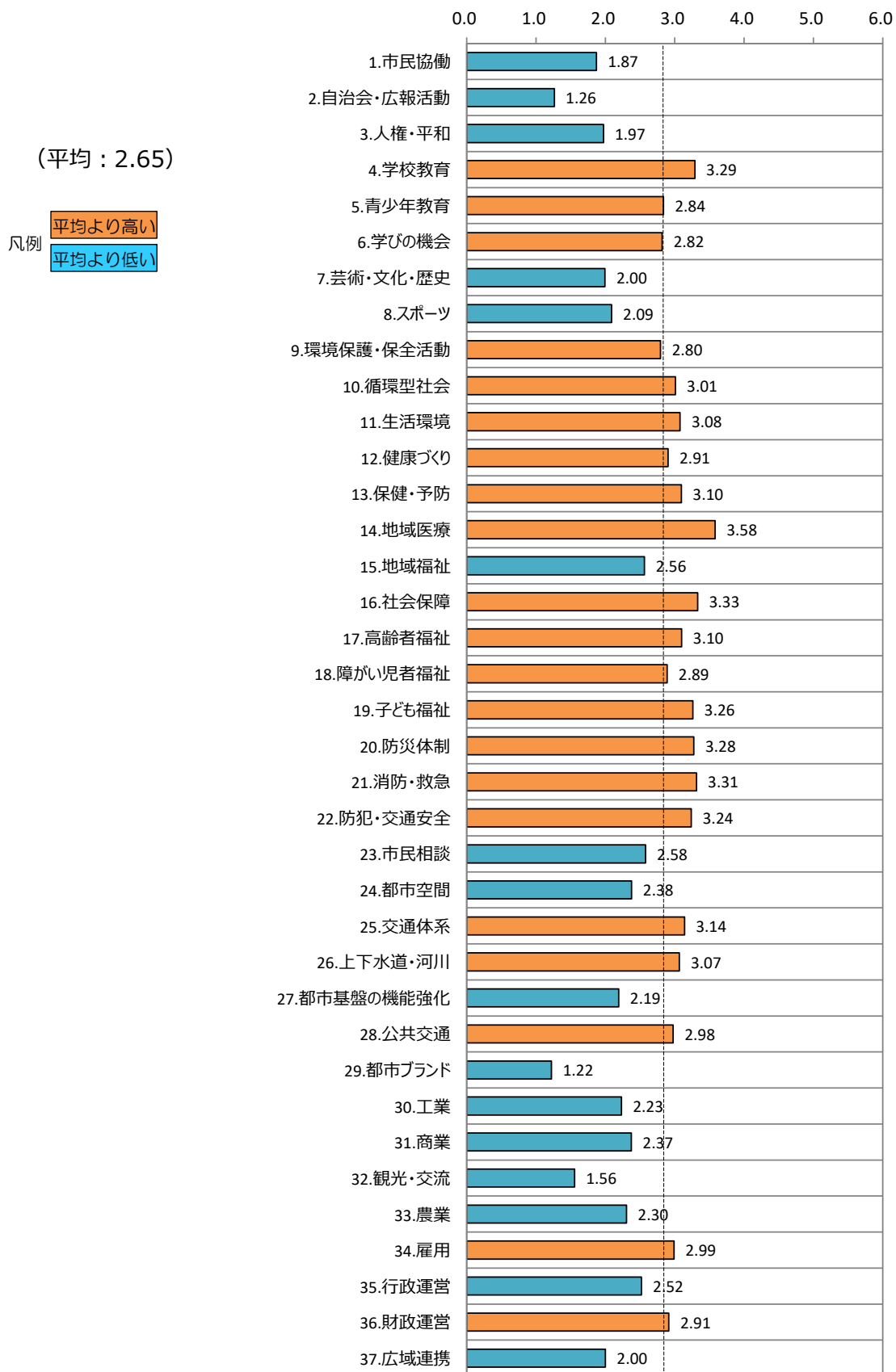
満足度

(平均 : 0.66)

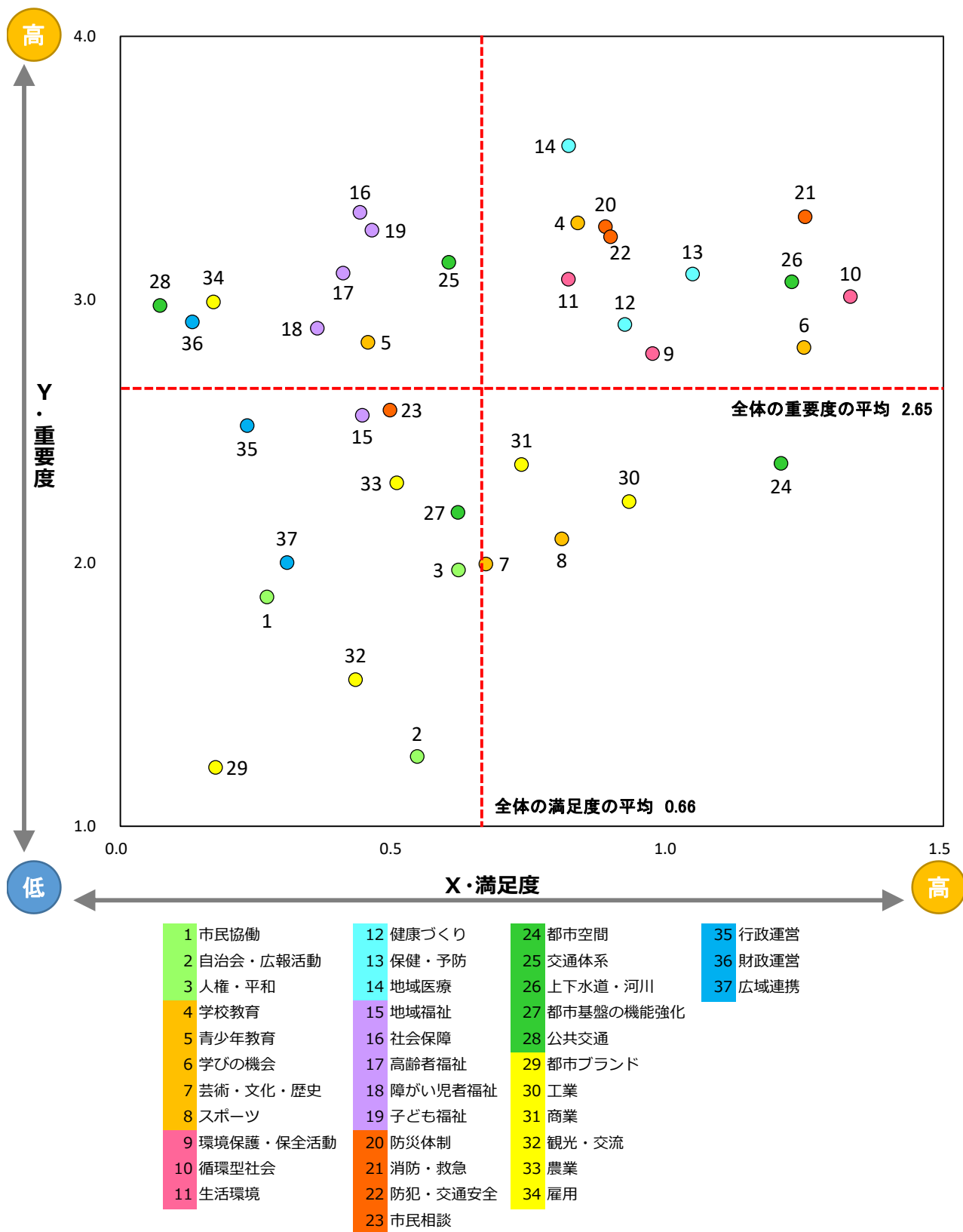
凡例
平均より高い
平均より低い



重要度



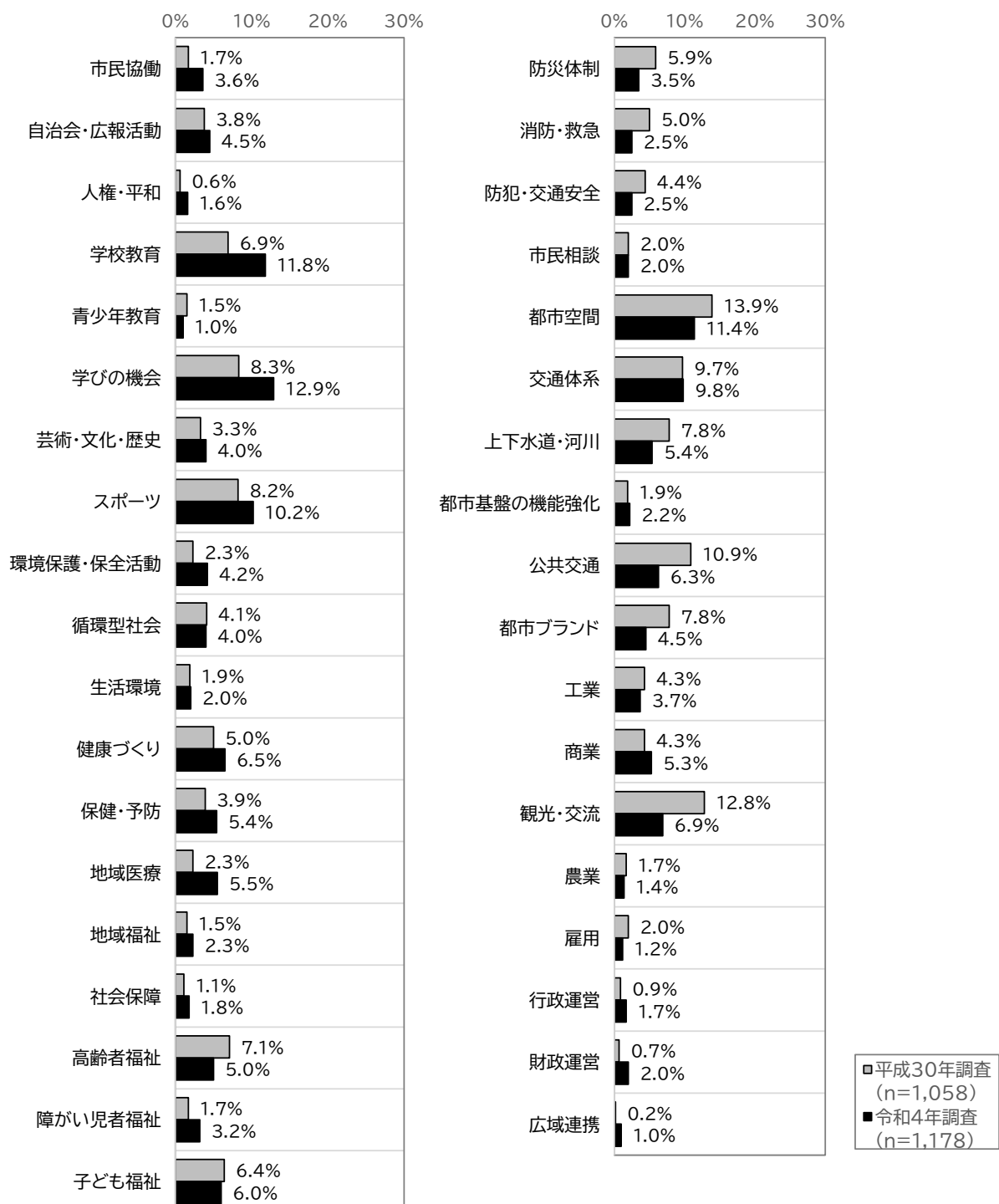
- 重要度が高いのに満足度が低い取り組みとしては、「16.社会保障」、「28.公共交通」、「34.雇用」などとなっています。
- また、重要度が高く満足度が高い分野は、「10.循環型社会」、「21.消防・救急」、「26.上下水道・河川」などとなっています。



問18 各務原市のまちづくりとして、ここ5年間で、特に改善した（＝進展した）と思う取り組み・悪化した（＝進んでいない）と思う取り組みを教えてください。（問17の37項目の中から、改善したもの、悪化したものそれぞれ3つを選んで数字を記入）

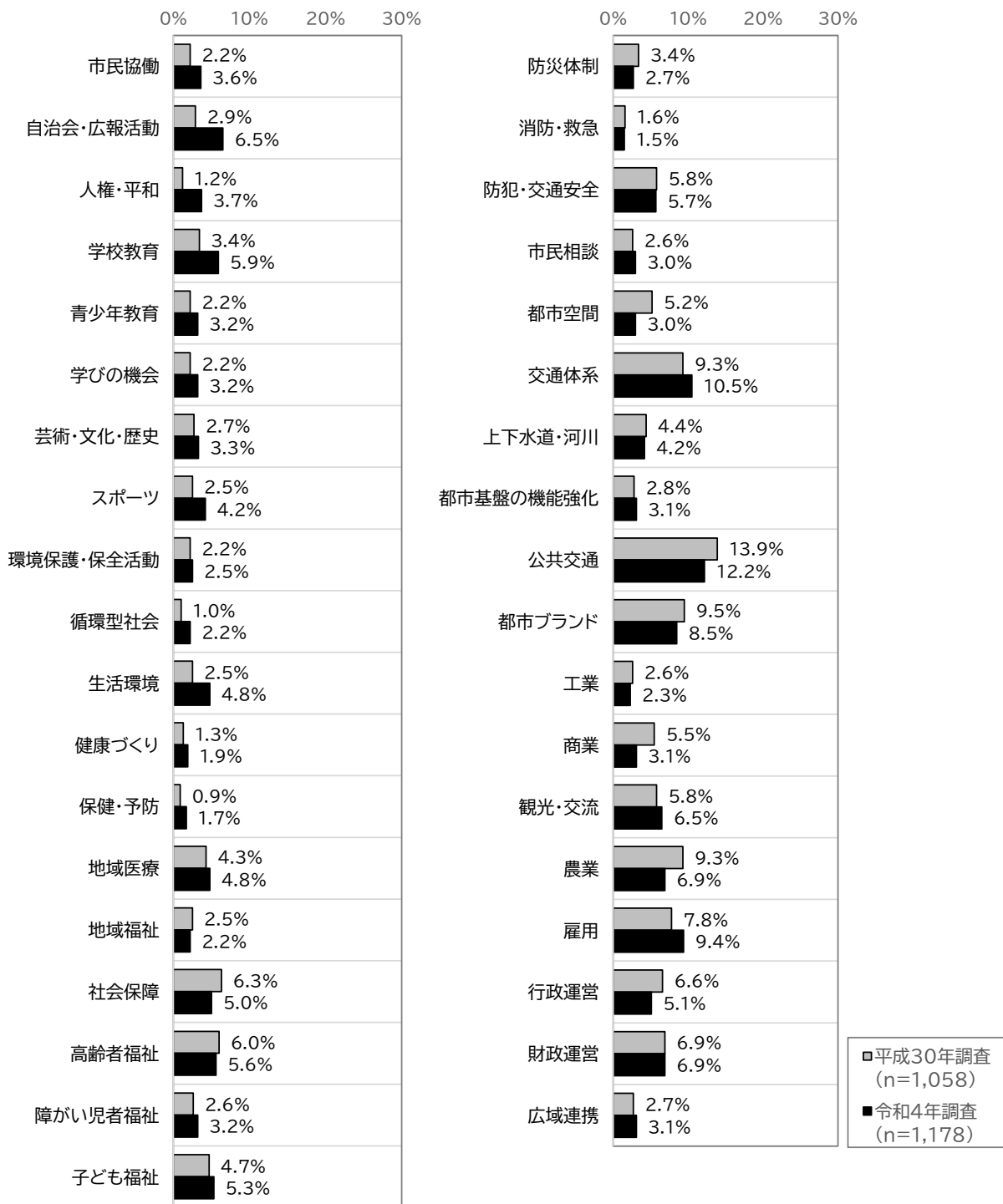
（１）改善した（＝進展した）

- 改善した取り組みについて、「学びの機会」が12.9%で最も高く、次いで「学校教育」が11.8%、「都市空間」が11.4%となっています。
- 前回調査（平成30年調査）よりも「学校教育」、「学びの機会」などが高く、「都市空間」、「公共交通」、「観光・交流」などが低くなっています。



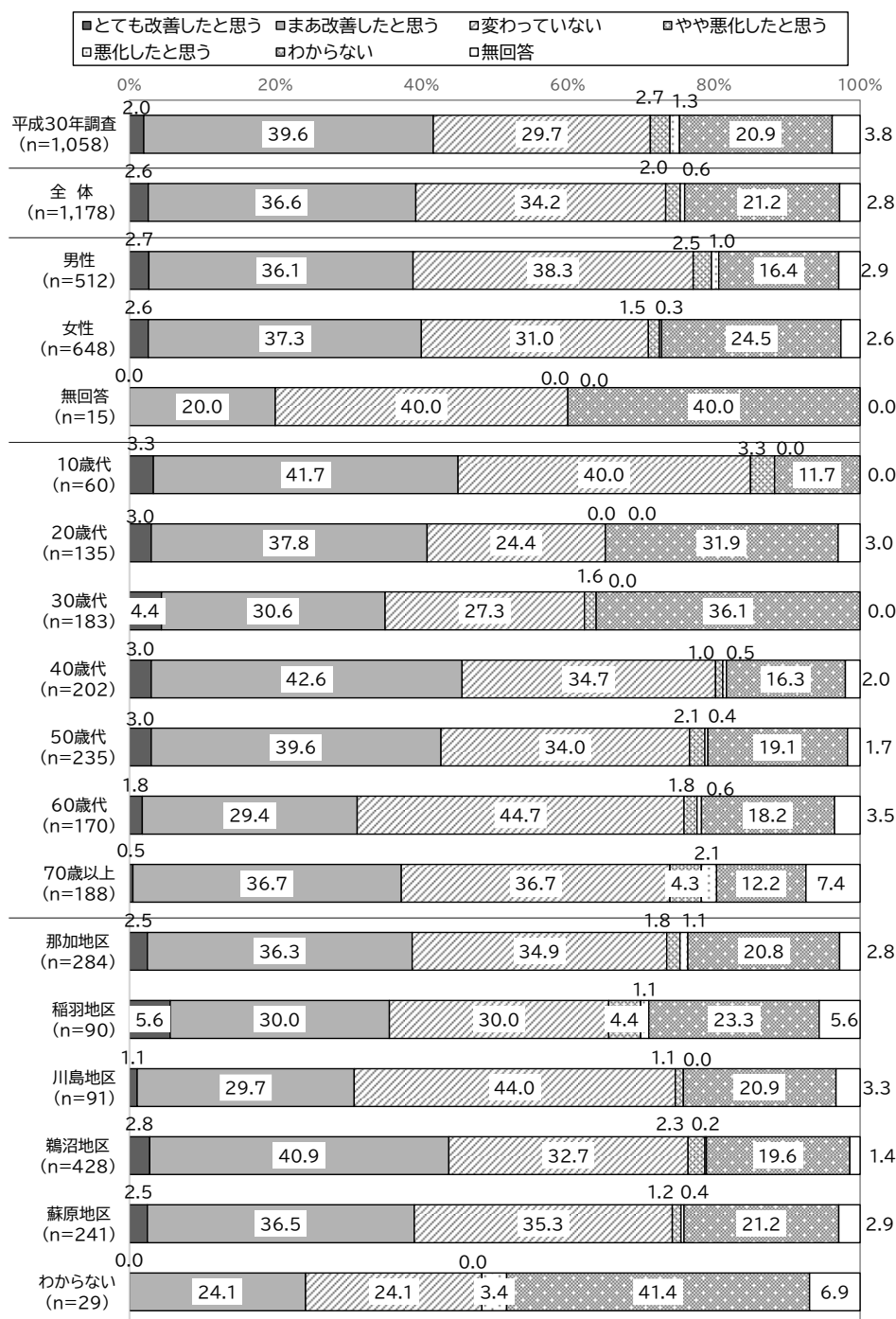
(2) 悪化した(=進んでいない)

- 悪化した取り組みについて、「公共交通」が12.2%で最も高く、次いで「交通体系」が10.5%、「雇用」が9.4%となっています。



問19 5年前に比べて「まちづくり」全般について改善したと思いますか。(○は1つ)

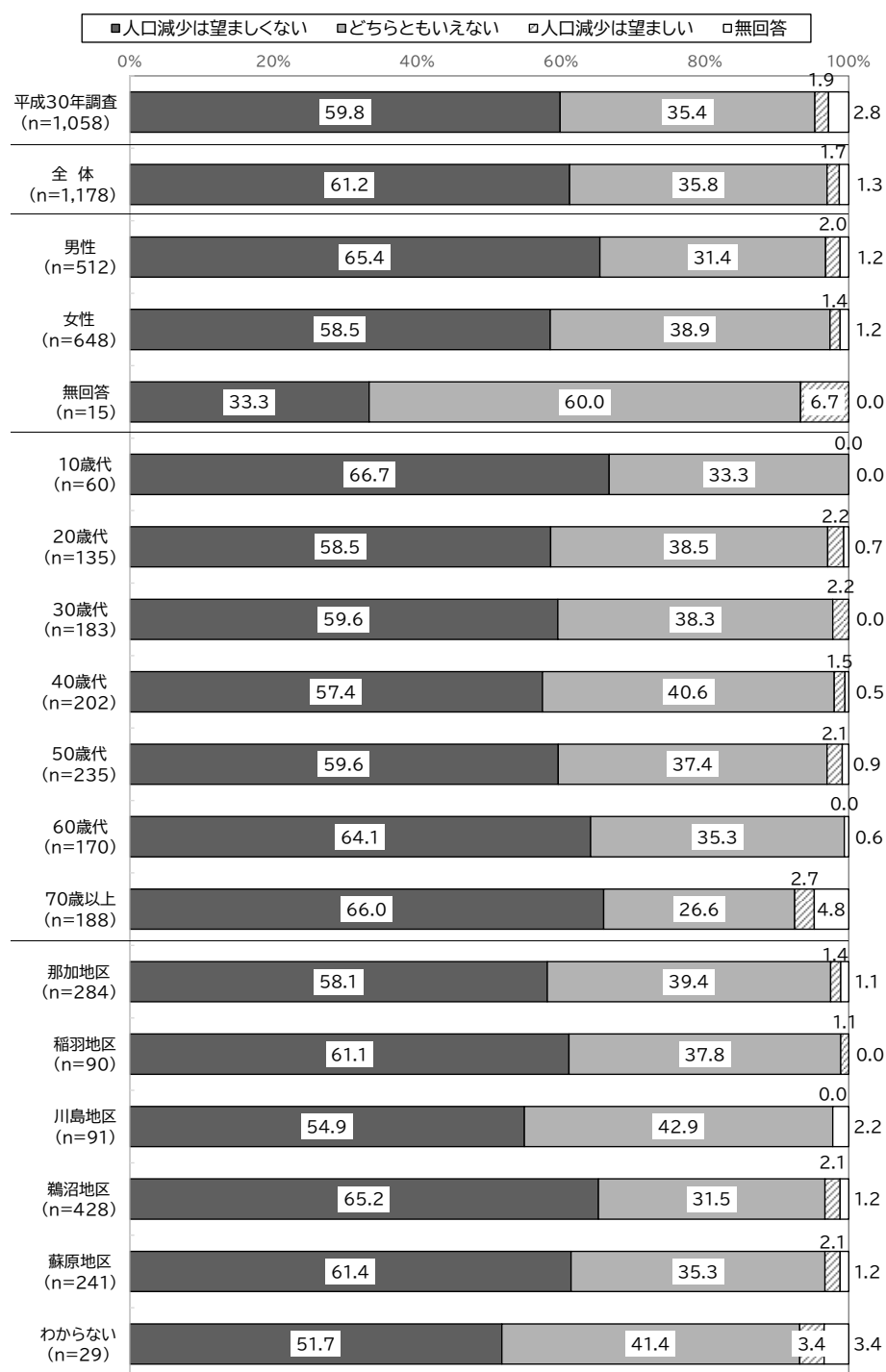
- 5年前に比べて「まちづくり」全般について改善したと思うかについて、「まあ改善したと思う」が36.6%で最も高く、次いで「変わっていない」が34.2%となっています。また、前回調査（平成30年調査）よりも「変わっていない」が高くなっています。
- 性別について、男性は「変わっていない」が、女性は「まあ改善したと思う」が最も高くなっています。
- 年齢別について、10歳代、20歳代、40歳代、50歳代は「まあ改善したと思う」が、30歳代は「わからない」が最も高くなっています。60歳代は「変わっていない」が最も高く、他の年代よりも高くなっています。70歳以上は「まあ改善したと思う」と「変わっていない」が同率で最も高くなっています。
- 地区別について、那加地区、鵜沼地区、蘇原地区は「まあ改善したと思う」が、川島地区は「変わっていない」が最も高くなっています。稲羽地区は「まあ改善したと思う」と「変わっていない」が同率で最も高くなっています。



(3) 人口減少対策についてうかがいます

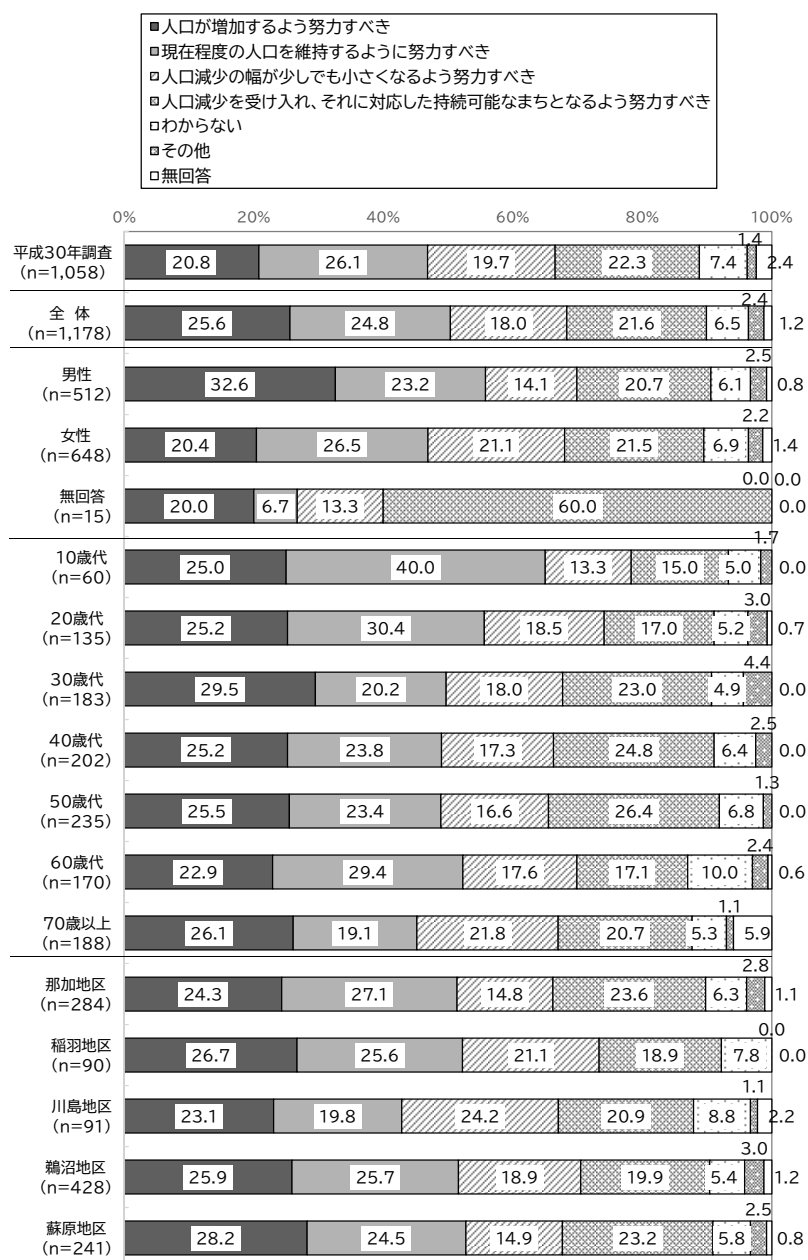
問20 あなたは、各務原市の人口が減少していくことについて、どのように思いますか。(○は1つ)

- 各務原市の人口減少について、「人口減少は望ましくない」が61.2%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が35.8%となっており、前回調査（平成30年調査）と同様の傾向となっています。
- 性別について、男女ともに「人口減少は望ましくない」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「人口減少は望ましくない」が高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「人口減少は望ましくない」が最も高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「人口減少は望ましくない」が最も高くなっています。



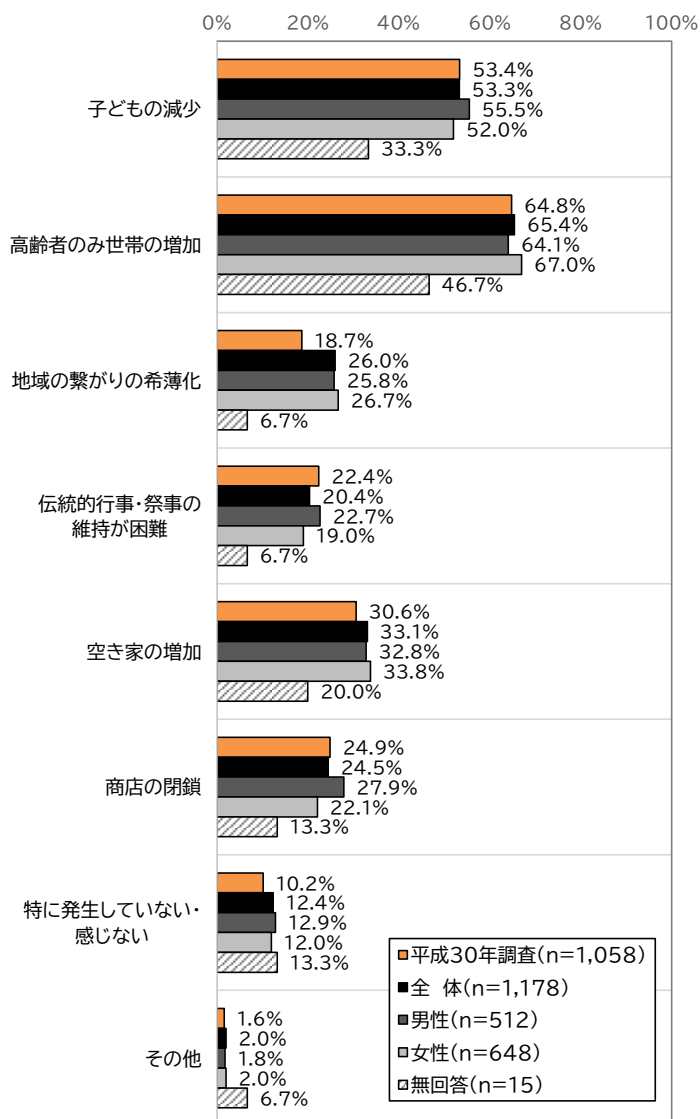
問21 人口の減少に対して、市はどのように取り組むべきだと思いますか。（〇は1つ）

- 各務原市の人口減少に対する取り組みについて、「人口が増加するよう努力すべき」が25.6%で最も高く、次いで「現在程度の人口を維持するよう努力すべき」が24.8%となっています。また、前回調査（平成30年調査）よりも「人口が増加するよう努力すべき」が高くなっています。
- 性別について、男性が「人口が増加するよう努力すべき」が32.6%、女性が「現在程度の人口を維持するよう努力すべき」が26.5%で最も高くなっています。また、男性は女性よりも「人口が増加するよう努力すべき」が高く、女性は「人口減少の幅が少しでも小さくなるよう努力すべき」が高くなっています。
- 年齢別について、10歳代、20歳代、60歳代は「現在程度の人口を維持するよう努力すべき」、30歳代、40歳代及び70歳以上は「人口が増加するよう努力すべき」、50歳代は「人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき」が最も高くなっています。
- 地区別について、稲羽地区、鵜沼地区、蘇原地区は「人口が増加するよう努力すべき」が、那加地区は「現在程度の人口を維持するよう努力すべき」が、川島地区は「人口減少の幅が少しでも小さくなるよう努力すべき」が最も高くなっています。

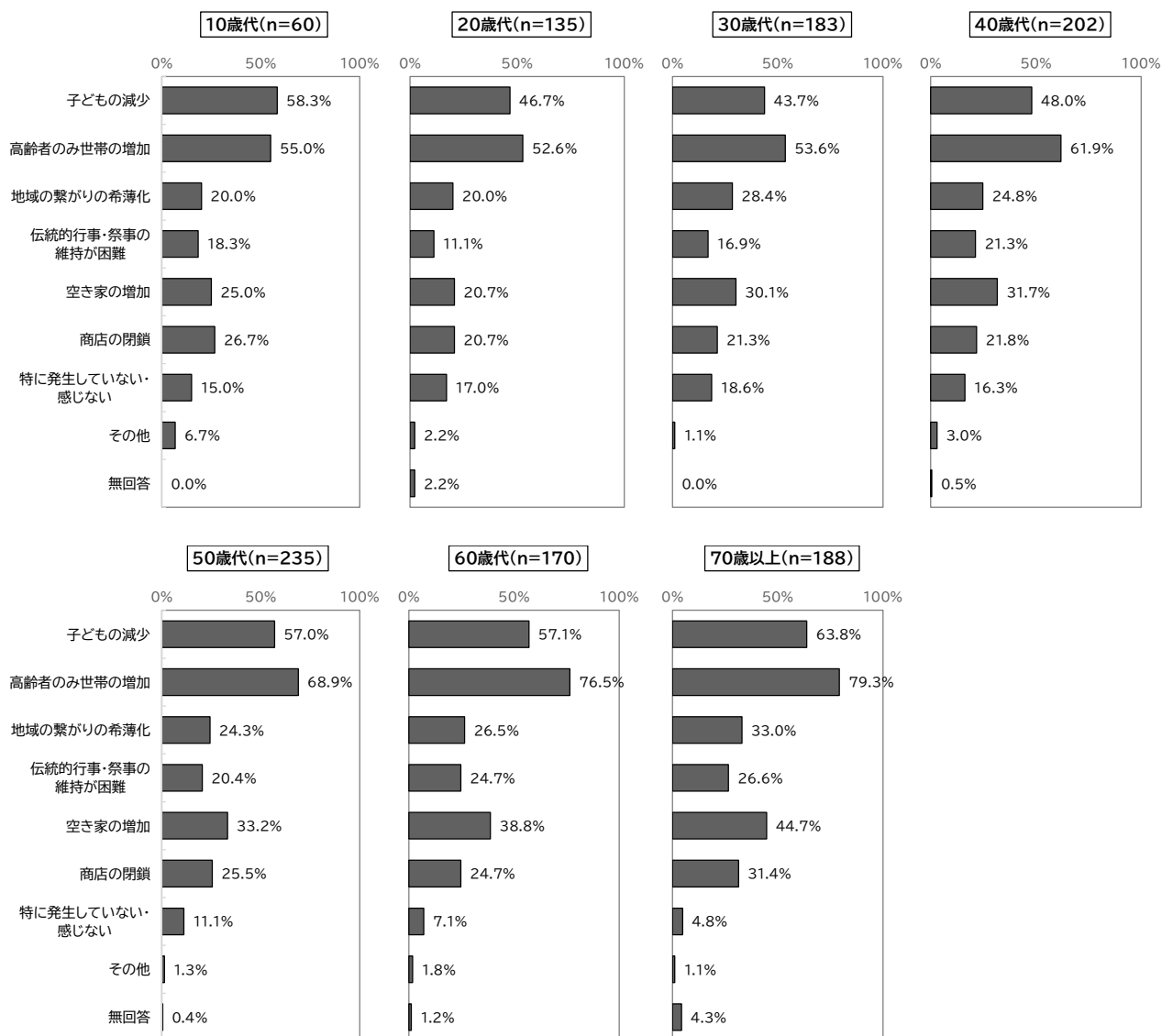


問22 あなたがお住まいの地域で、人口減少や少子高齢化の影響が出ている（と感じる）ことはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

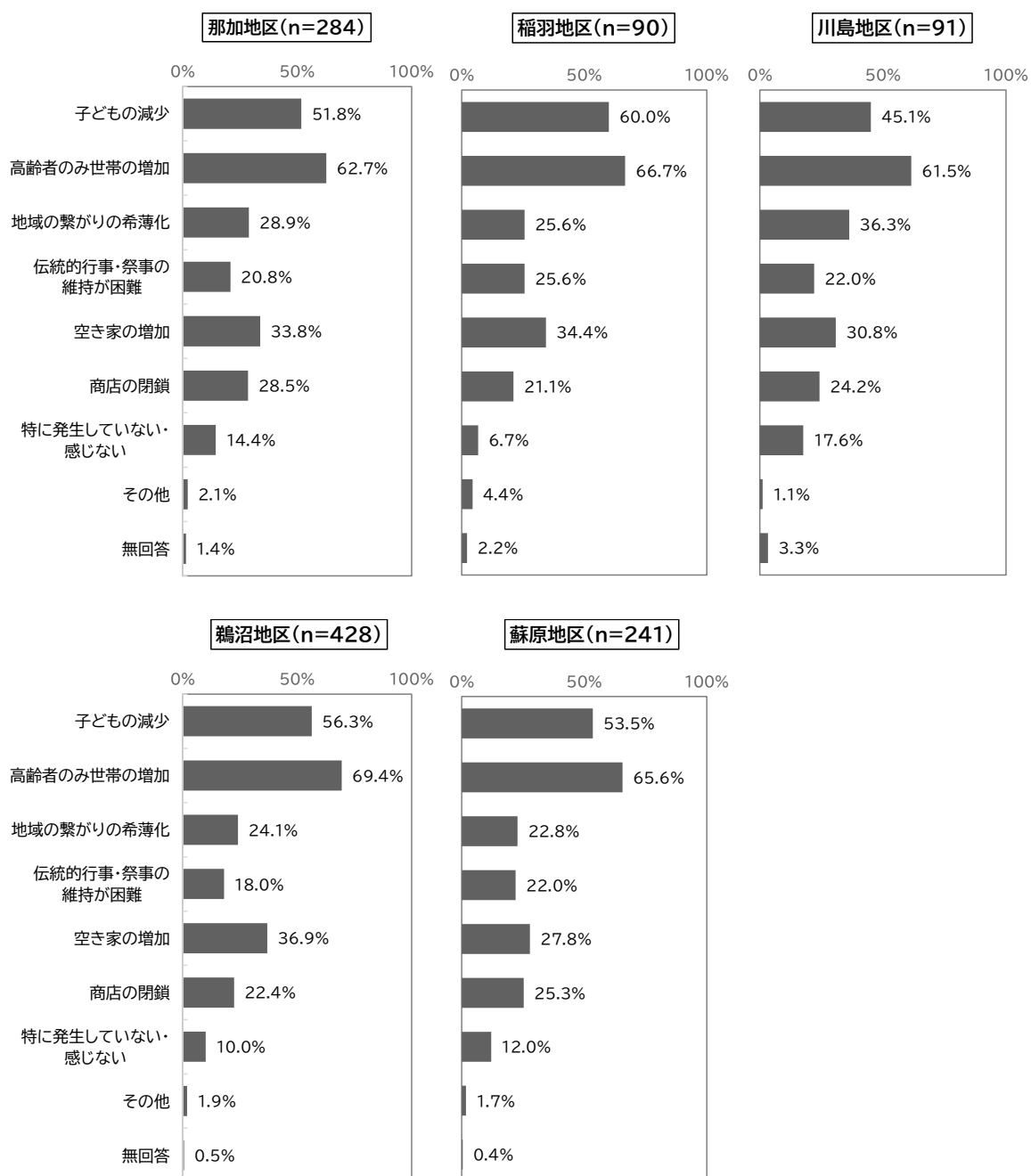
- 地域での人口減少や少子高齢化の影響が出ていることについて、「高齢者のみ世帯の増加」が65.4%で最も高く、次いで「子どもの減少」が53.3%、「空き家の増加」が33.1%となっています。
- 性別について、男女ともに「高齢者のみ世帯の増加」が最も高くなっています。



- 年齢別について、10歳代を除く年代で「高齢者のみ世帯の増加」が、10歳代では「子どもの減少」が最も高くなっています。

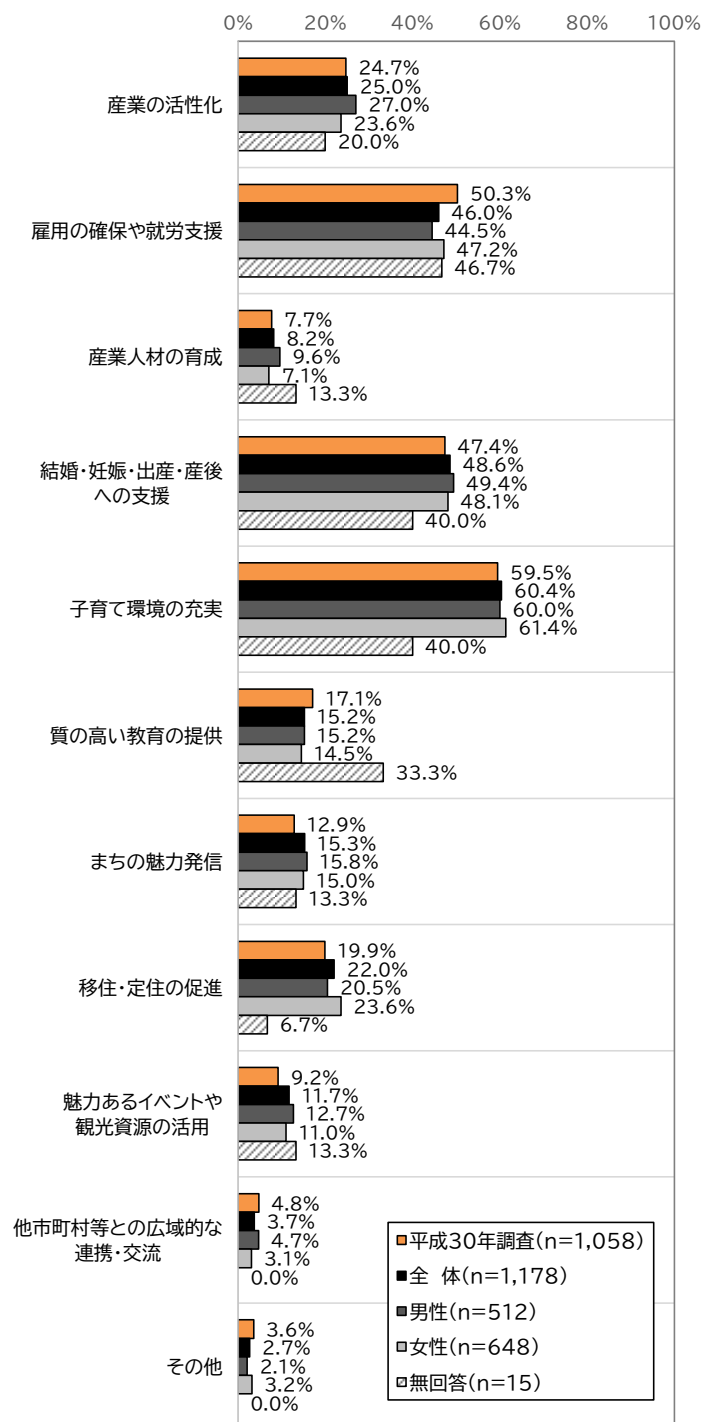


- 地区別について、全ての地区で「高齢者のみ世帯の増加」が最も高くなっています。

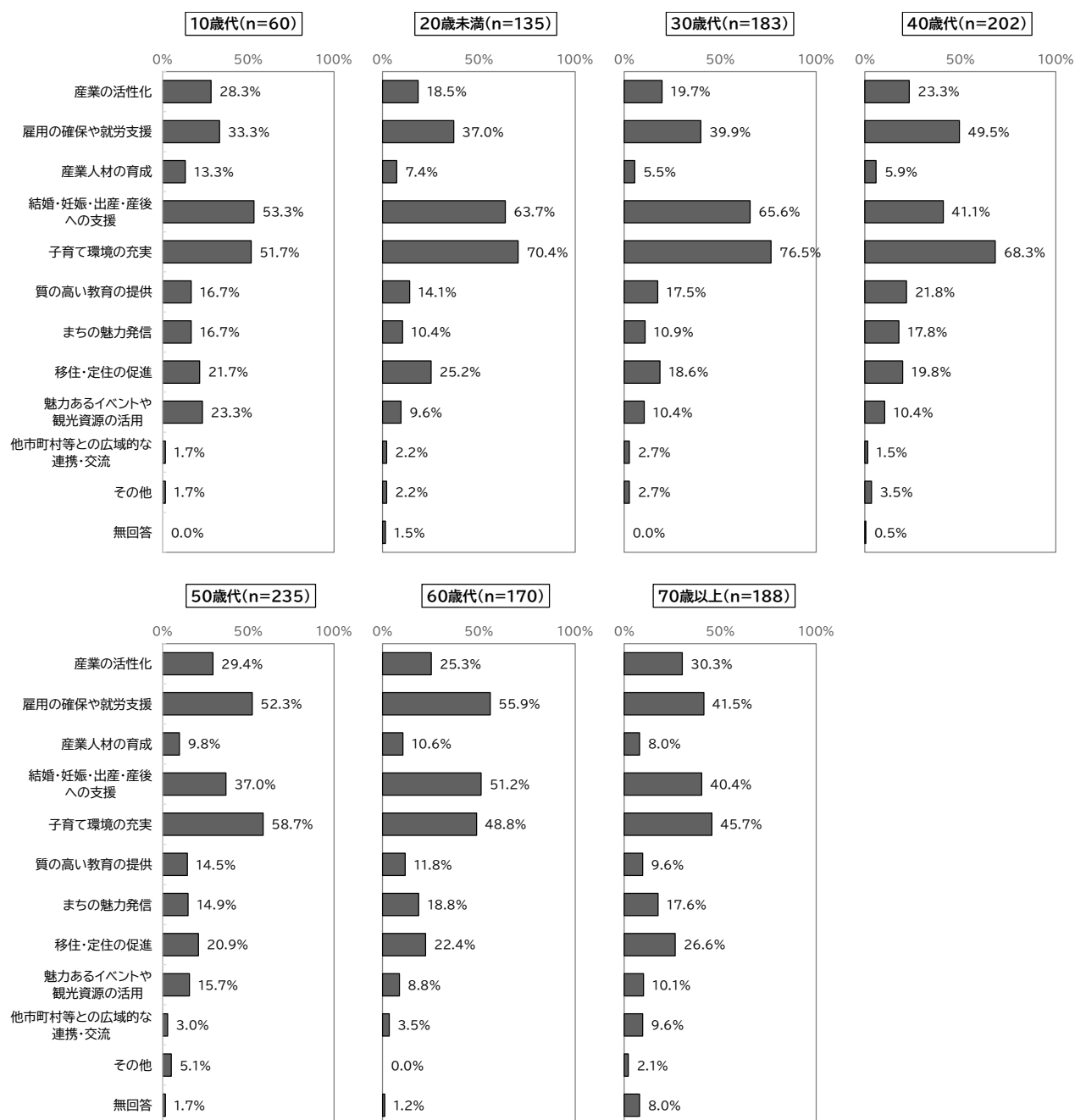


問23 市では、人口減少対策として、＜産業・雇用＞、＜子育て・教育＞、＜魅力向上＞を柱とした取り組みを進めています。あなたは、人口減少対策としてどのような施策が有効だと思いますか。（○は3つまで）

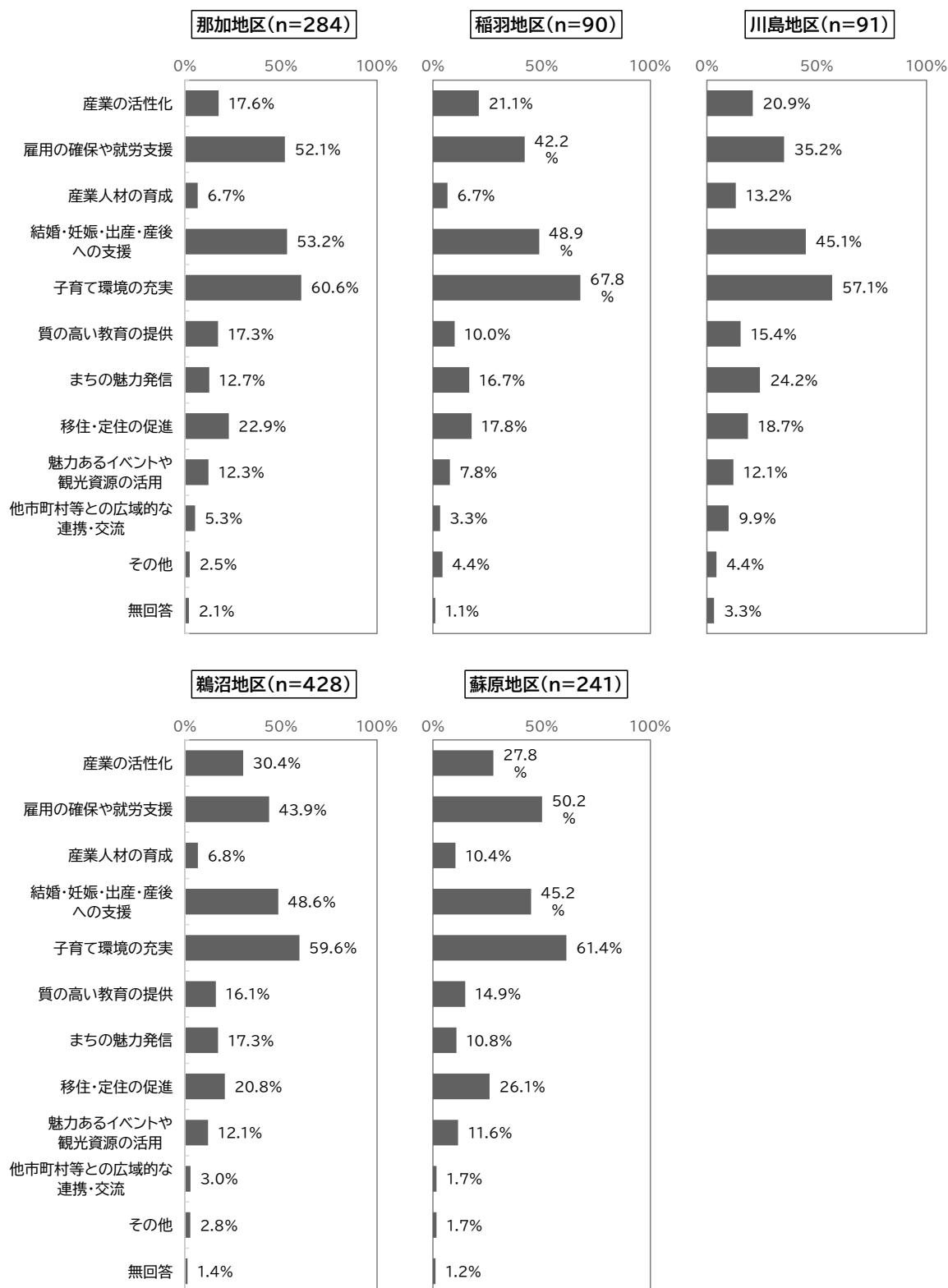
- 各務原市の人口減少対策について、「子育て環境の充実」が60.4%と最も高く、次いで「結婚・妊娠・出産・産後への支援」が48.6%、「雇用の確保や就労支援」が46.0%となっています。
- 性別について、男女とも「子育て環境の充実」が最も高くなっています。



- 年齢別について、10歳代は「結婚・妊娠・出産・産後への支援」が、20歳代から50歳代と70歳以上は「子育て環境の充実」が、60歳代は「雇用の確保や就労支援」が最も高くなっています。また、20歳代、30歳代は他の年代よりも「結婚・妊娠・出産・産後への支援」が高く、30歳代は「子育て環境の充実」が高く、60歳代は「雇用の確保や就労支援」が高くなっています。



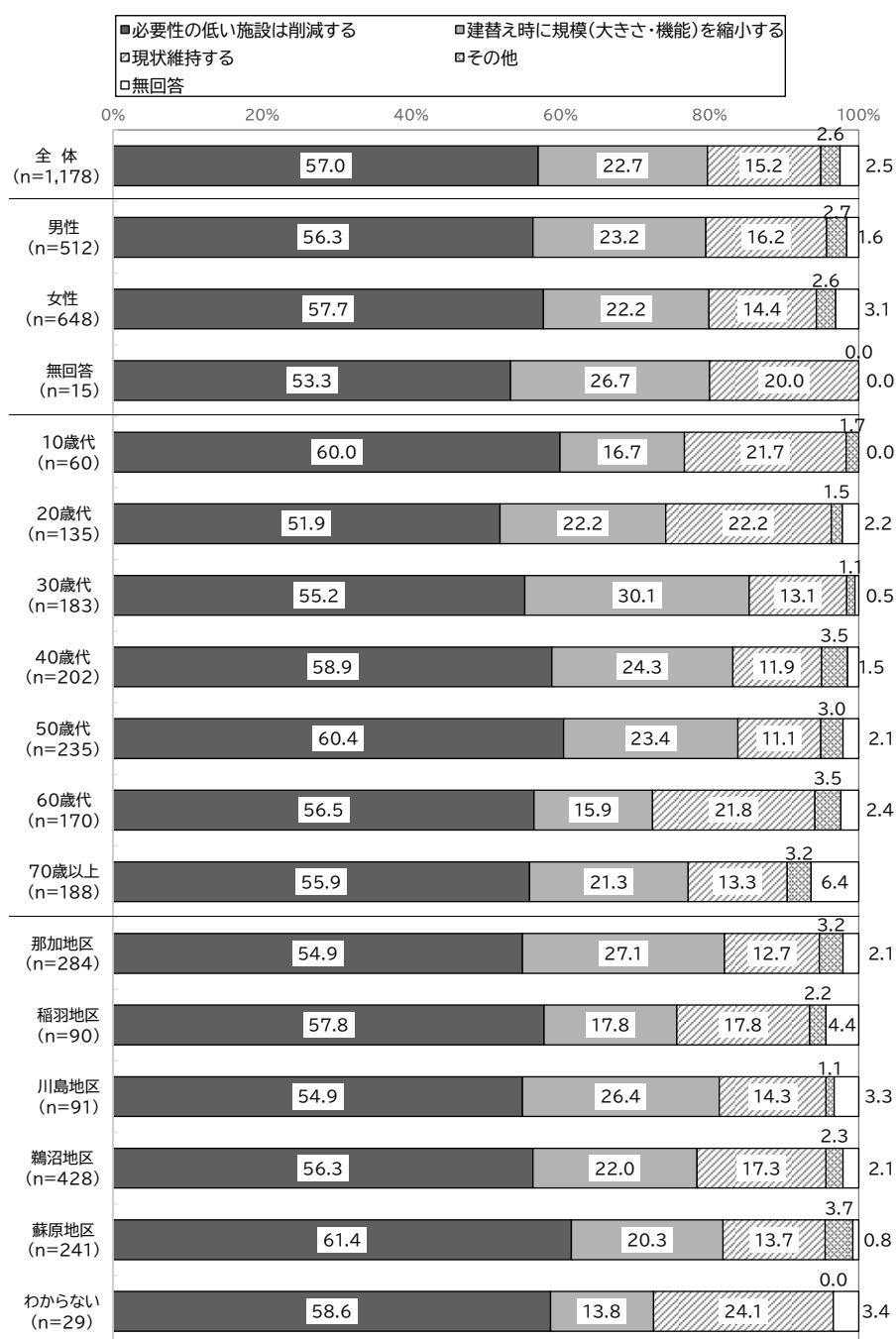
- 地区別について、全ての地区で「子育て環境の充実」が最も高くなっています。また、鵜沼地区は他の地区よりも「産業の活性化」が高くなっています。



（４）今後の公共施設の在り方についてうかがいます

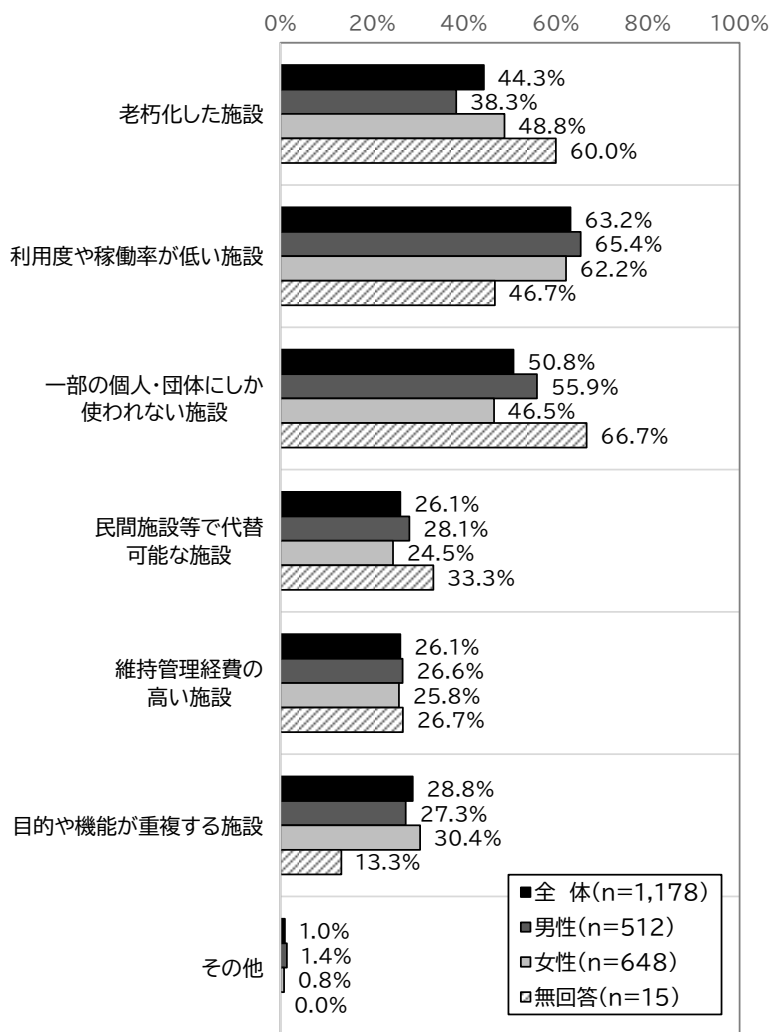
問24 あなたは今後の公共施設の在り方について、どのように思いますか。（○は１つ）

- 今後の公共施設のあり方について、「必要性の低い施設は削減する」が57.0%と最も高く、次いで「建替え時に規模（大きさ・機能）を縮小する」が22.7%、「現状維持する」が15.2%となっています。
- 性別について、男女とも「必要性の低い施設は削減する」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「必要性の低い施設は削減する」が最も高くなっています。また、20歳代、60歳代は他の年代よりも「現状維持する」が高く、30歳代は「建替え時に規模（大きさ・機能）を縮小する」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「必要性の低い施設は削減する」が最も高くなっています。

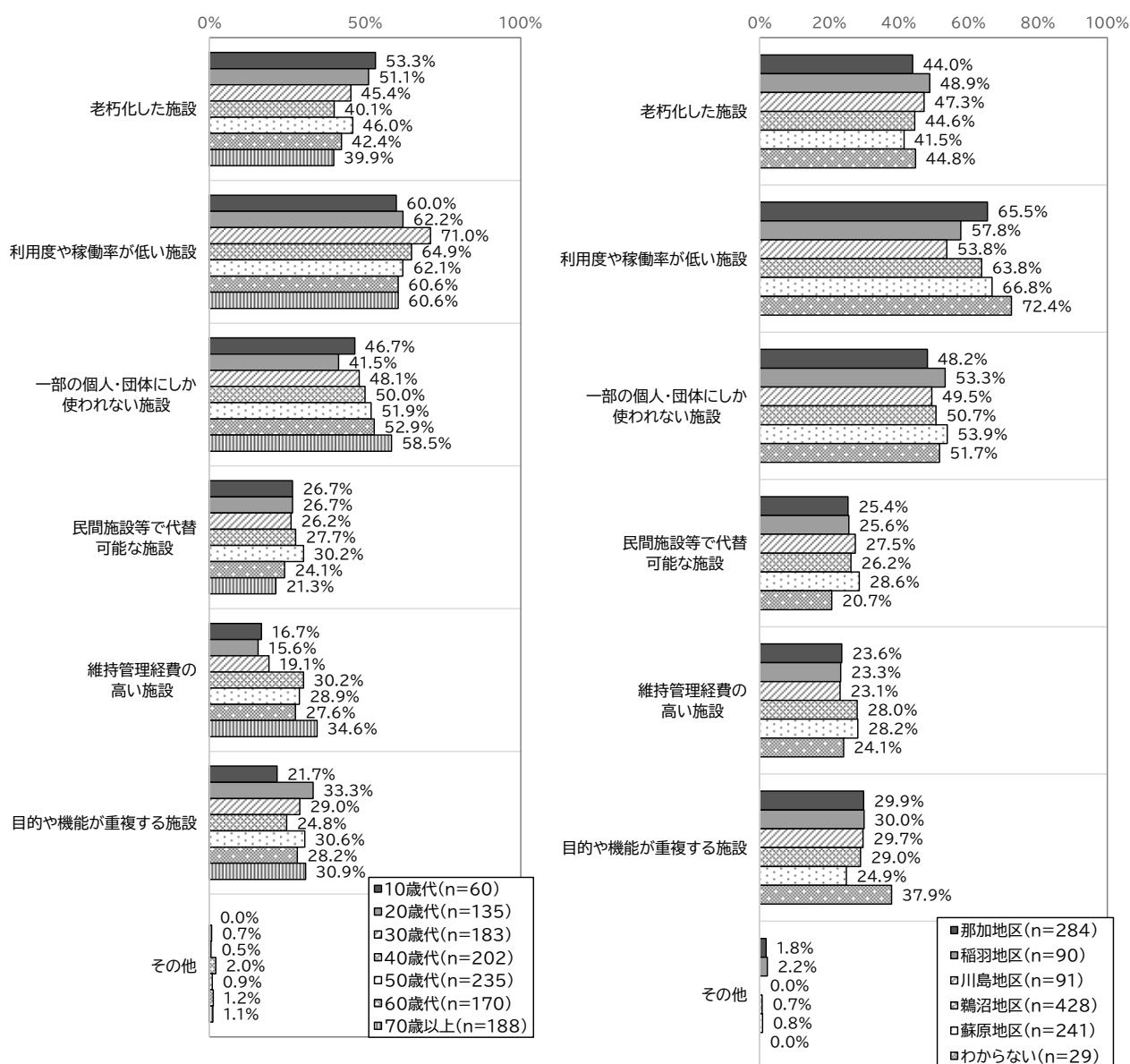


問25 将来的に、今ある公共施設の総量（施設数）を削減していかなければならなくなった場合、どのような施設から削減していけば良いと思いますか。（○は3つまで）

- どのような施設から削除していけば良いかについて、「利用度や稼働率が低い施設」が63.2%と最も高く、次いで「一部の個人・団体にしか使われない施設」が50.8%、「老朽化した施設」が44.3%となっています。
- 性別について、男女とも「利用度や稼働率が低い施設」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「一部の個人・団体にしか使われない施設」が高く、女性は「老朽化した施設」が高くなっています。



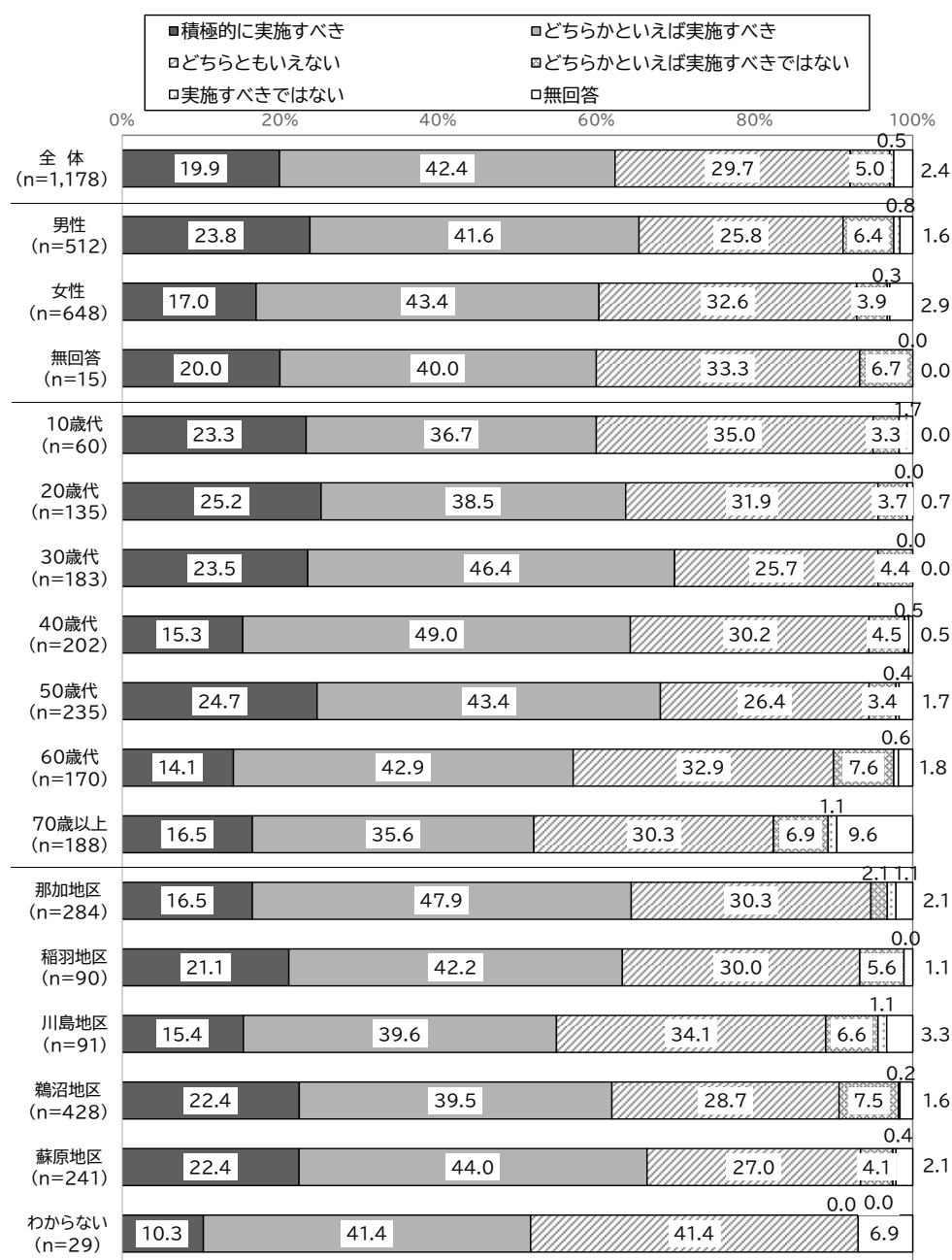
- 年齢別について、全年代で「利用度や稼働率が低い施設」が最も高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「利用度や稼働率が低い施設」が最も高くなっています。



問26 次の1～8の方策について、それぞれに対するあなたのお考えを教えてください。（それぞれにあてはまるものの1つに○）

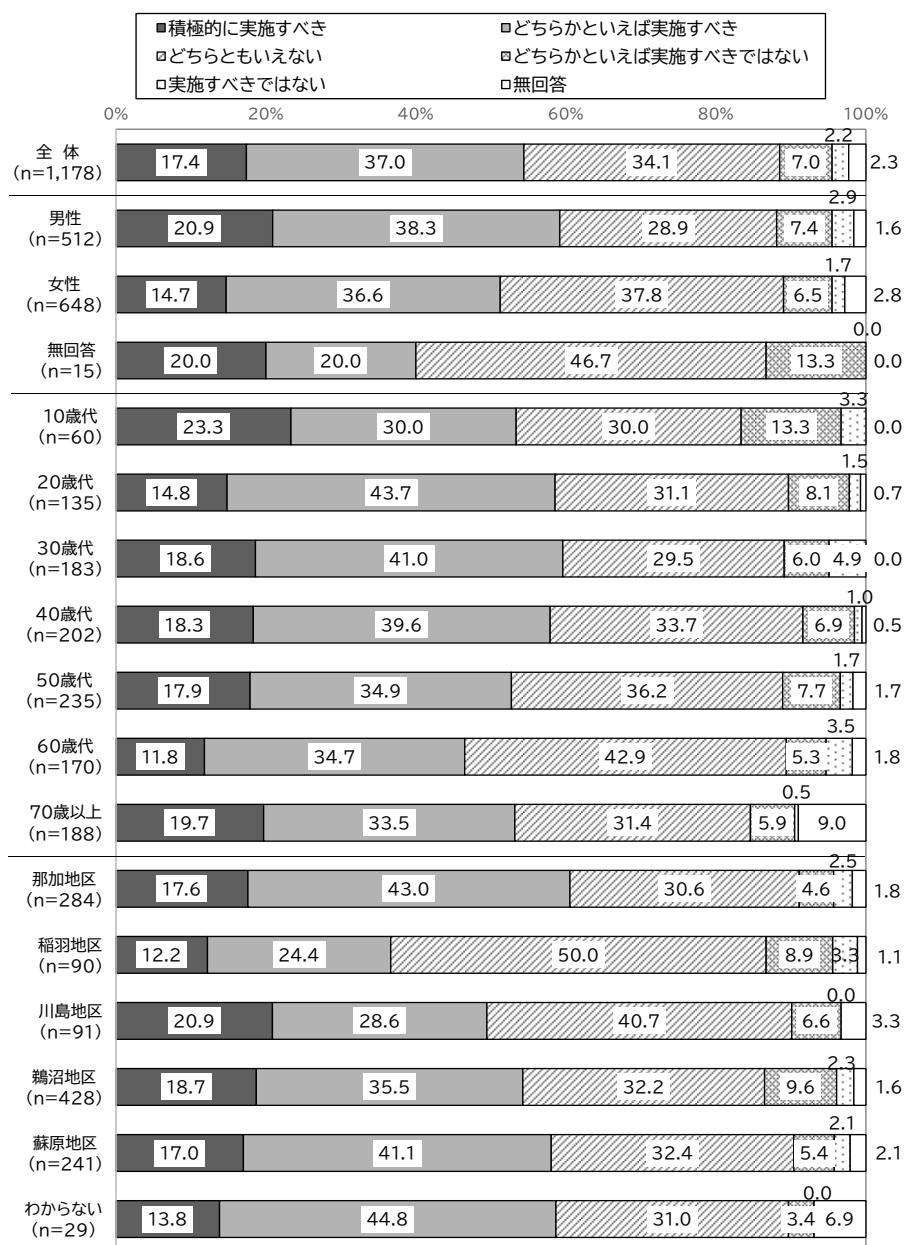
1. 今ある施設の統廃合、複合化、多機能化によって施設数を減らす

- 全体について、「どちらかといえば実施すべき」が42.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が29.7%となっています。また、「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が62.3%、「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせ割合が5.5%となっています。
- 性別について、男女ともに「どちらかといえば実施すべき」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「積極的に実施すべき」が高く、女性は「どちらともいえない」が高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらかといえば実施すべき」が最も高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらかといえば実施すべき」が最も高くなっています。



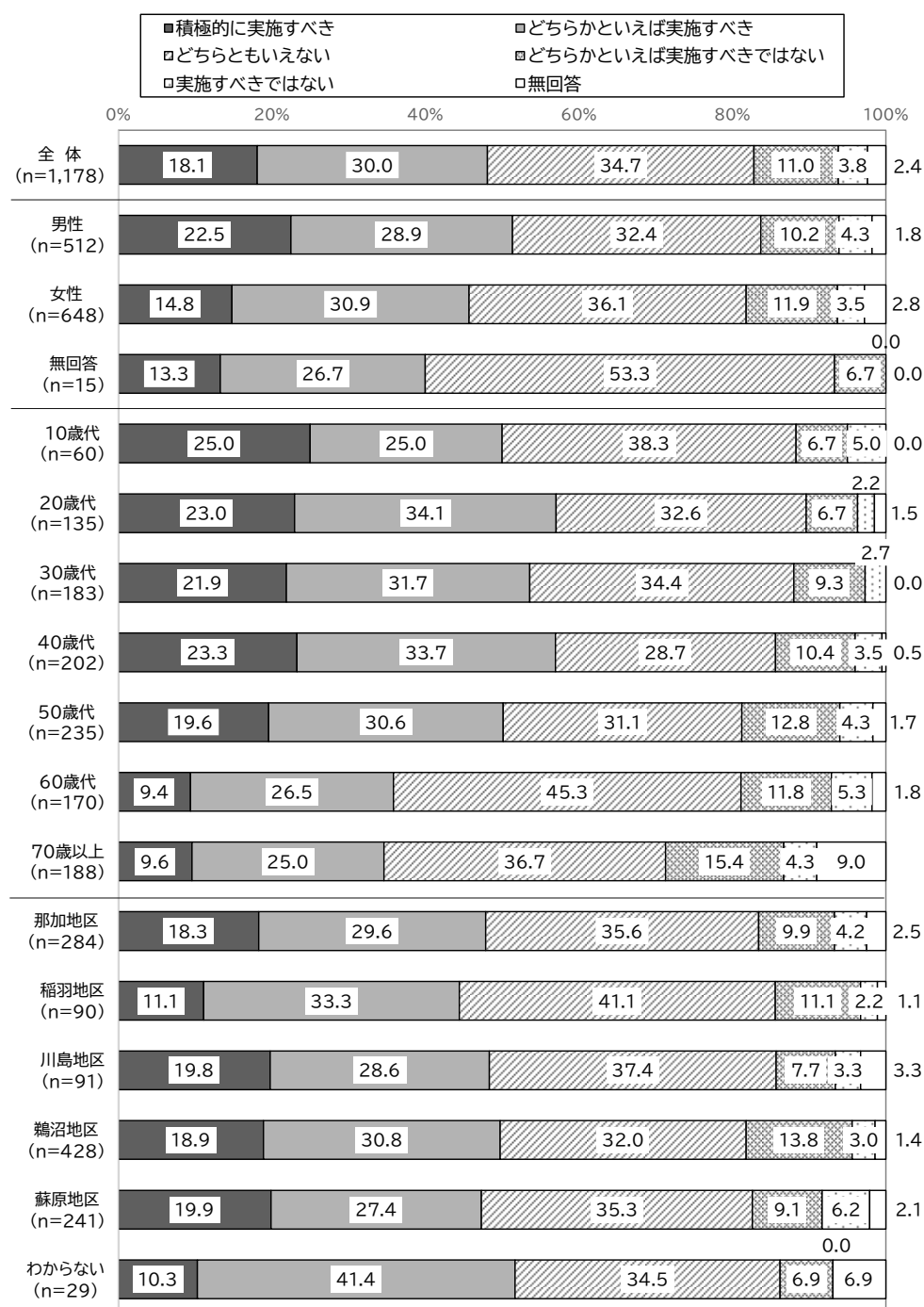
2. 計画的な保全を行うことにより、施設や設備を長寿命化させる

- 全体について、「どちらかといえば実施すべき」が37.0%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が34.1%となっています。また、「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が54.4%、「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が9.2%となっています。
- 性別について、男性は「どちらかといえば実施すべき」、女性は「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「積極的に実施すべき」が高く、女性は「どちらともいえない」が高くなっています。
- 年齢別について、20歳代～40歳代と70歳以上で「どちらかといえば実施すべき」、50歳代と60歳代で「どちらともいえない」が最も高くなっており、10歳代で「どちらかといえば実施すべき」と「どちらともいえない」が同率で最も高くなっています。
- 地区別について、那加地区、鵜沼地区、蘇原地区は「どちらかといえば実施すべき」が、稲羽地区、川島地区は「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、那加地区は他の地区よりも「どちらかといえば実施すべき」が、稲羽地区は「どちらともいえない」が高くなっています。



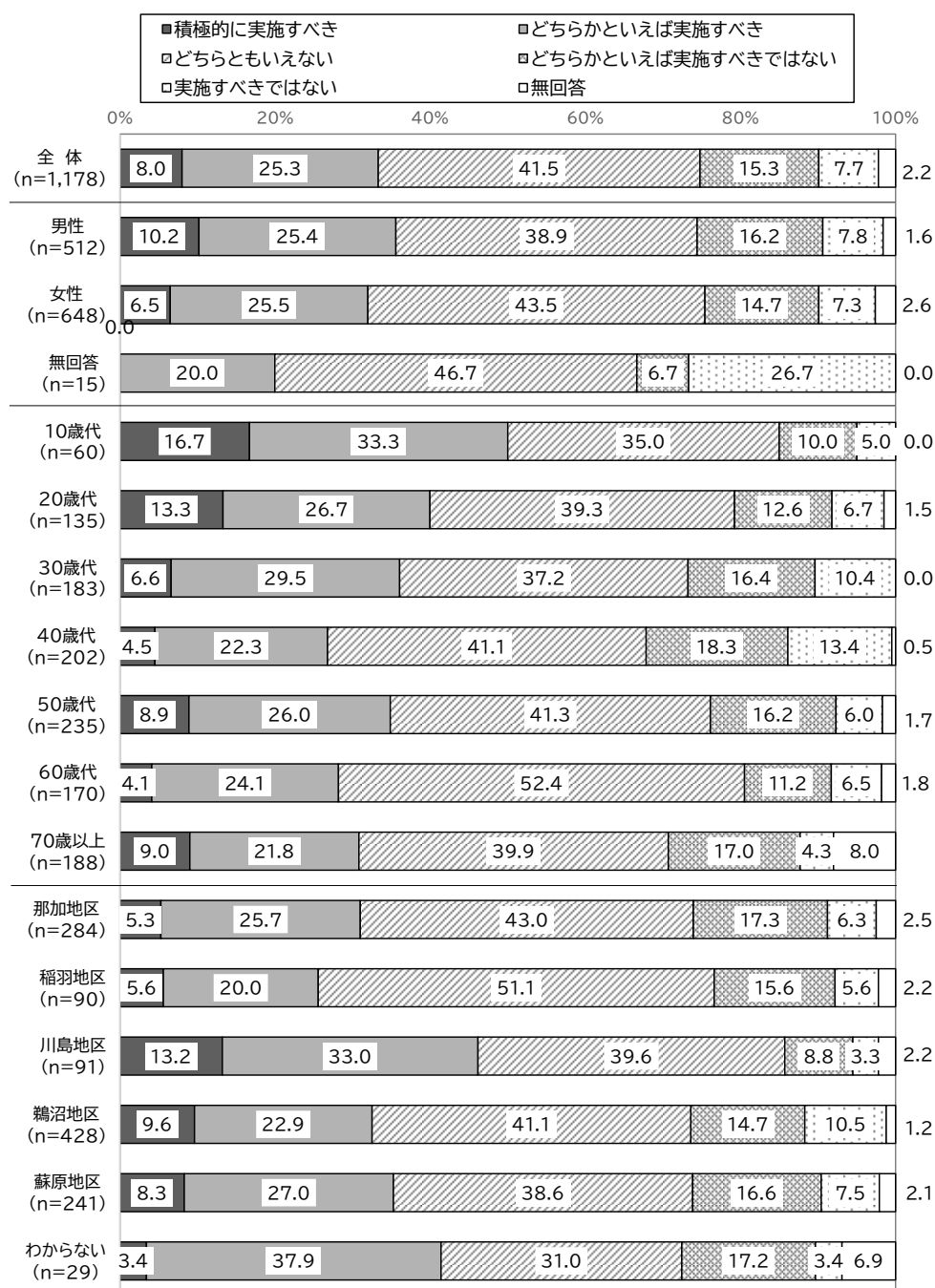
3. 民間のノウハウや資金を積極的に活用し、施設の建替えや管理運営を行う

- 全体について、「どちらともいえない」が34.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば実施すべき」が30.0%となっています。また、「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が48.1%、「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が14.8%となっています。
- 性別について、男女とも「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「積極的に実施すべき」が高くなっています。
- 年齢別について、10歳代、30歳代、50歳代以上で「どちらともいえない」が、20歳代と40歳代で「どちらかといえば実施すべき」が最も高くなっています。また、20歳代で「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が他の年代よりも高く、60歳代、70歳代で低くなっている。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



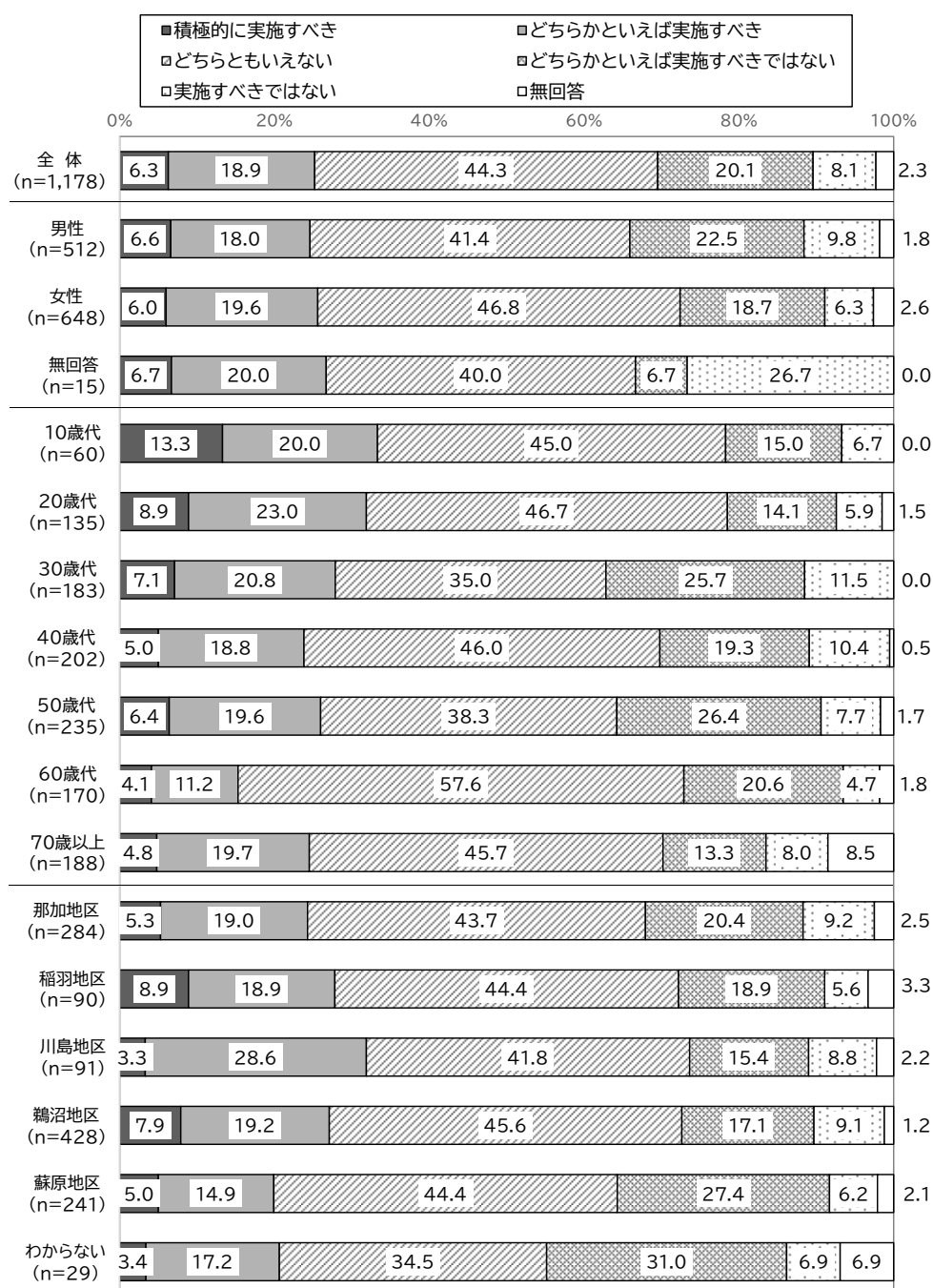
4. 地域と密着した施設については、地域住民が運営し、維持管理できるようにする

- 全体について、「どちらともいえない」が41.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば実施すべき」が25.3%となっています。また、「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が33.3%、「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が23.0%となっています。
- 性別について、男女とも「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、10歳代は「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が高く、40歳代は「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、川島地区は他の地区よりも「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が高くなっています。



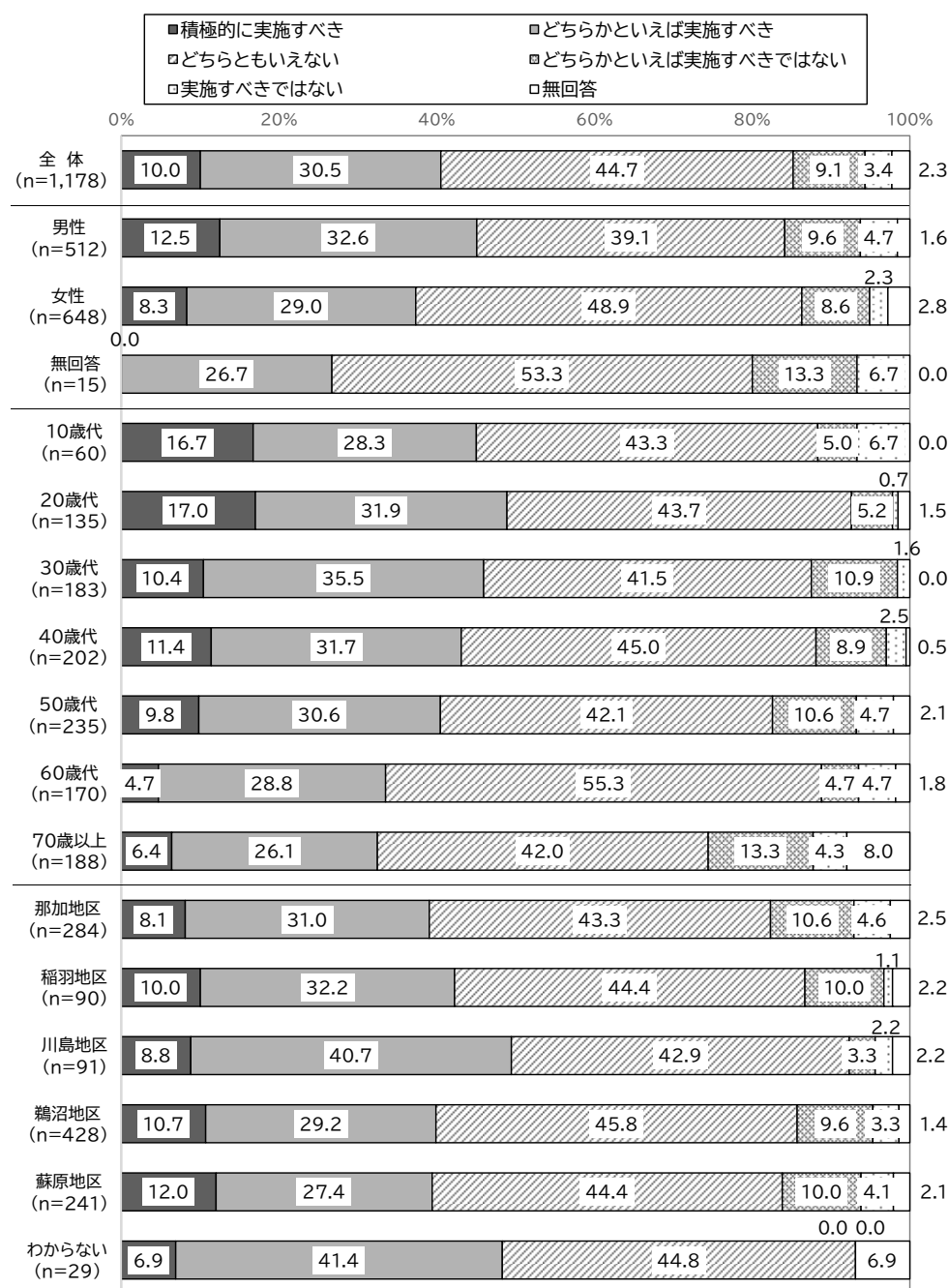
5. 施設におけるサービス水準を引き下げ、維持管理経費を減らす

- 全体について、「どちらともいえない」が44.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば実施すべきではない」が20.1%となっています。また、「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が25.2%、「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が28.2%となっています。
- 性別について、男女とも「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、10歳代、20歳代は他の年代よりも「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



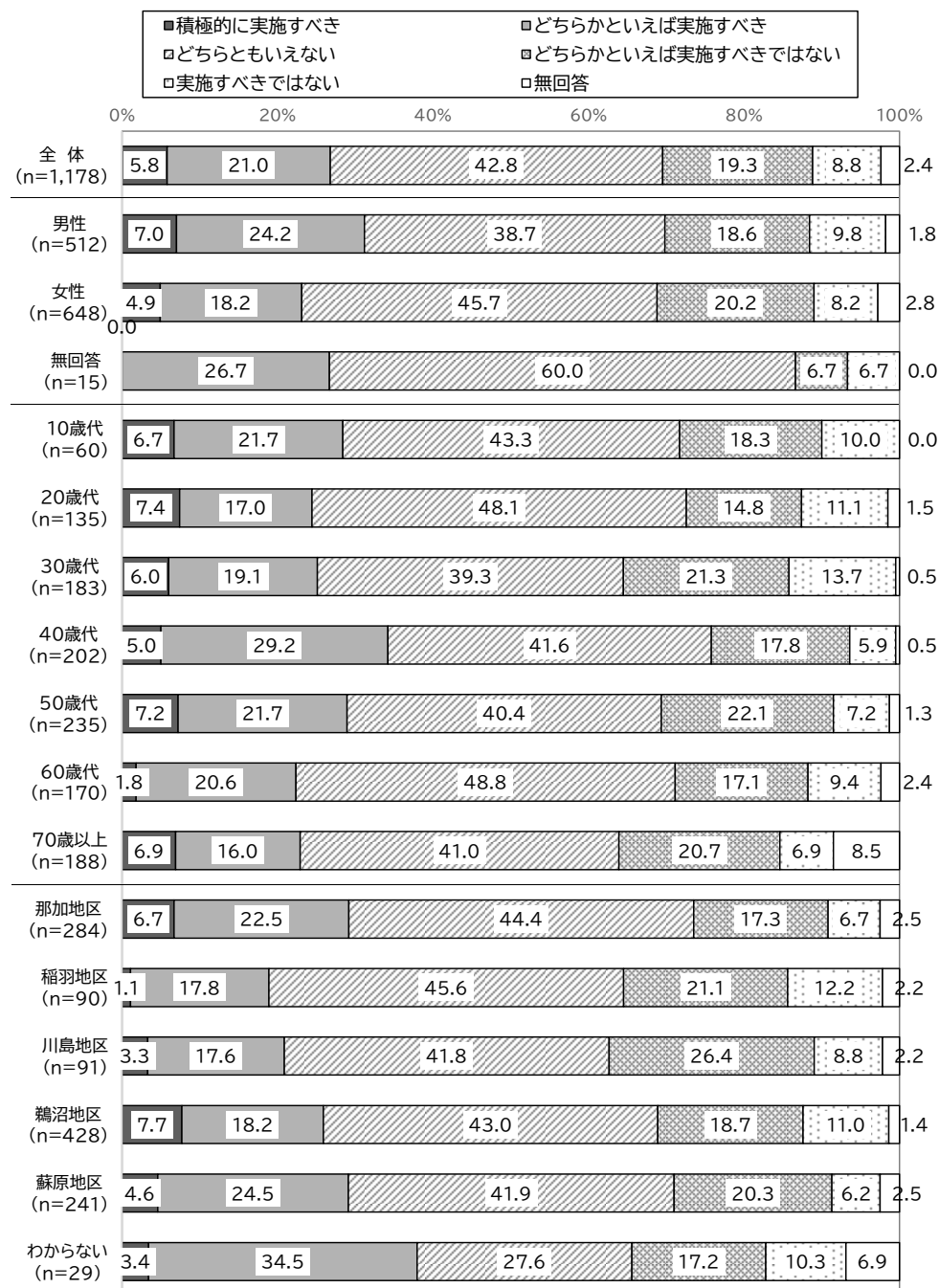
6. 近隣の市町村と共同で施設を運営する

- 全体について、「どちらともいえない」が44.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば実施すべき」が30.5%となっています。また、「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が40.5%、「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が12.5%となっています。
- 性別について、男女とも「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「積極的に実施すべき」が高く、女性は「どちらともいえない」が高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、20歳代は「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が、70歳以上は「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせ割合が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



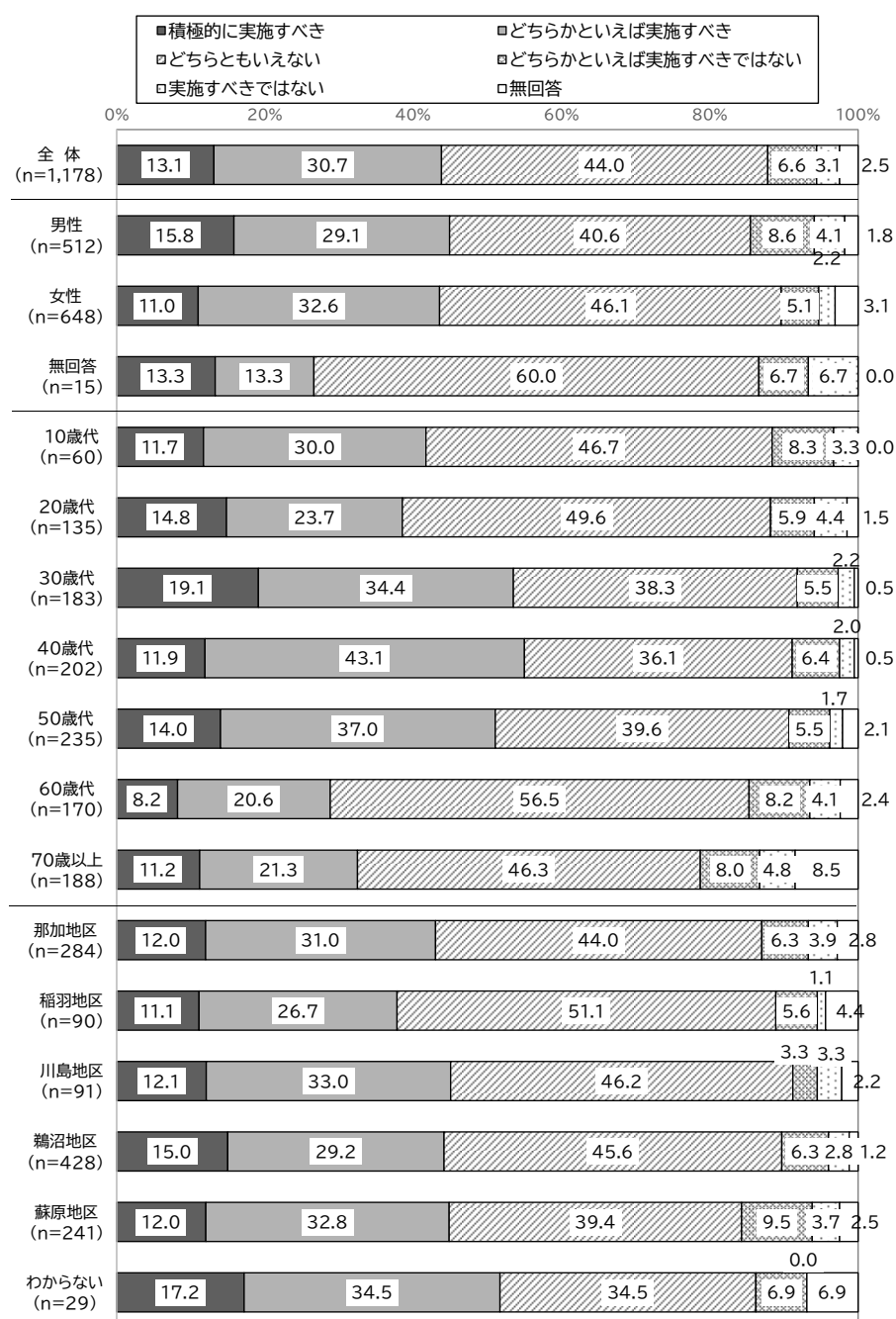
7. 施設におけるサービス相応の負担として、使用料を上げる

- 全体について、「どちらともいえない」が42.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば実施すべき」が21.0%となっています。また、「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が26.8%、「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が28.1%となっています。
- 性別について、男女とも「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「どちらかといえば実施すべき」が高く、女性は「どちらともいえない」が高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



8. 施設の一部や土地を売却、貸付することにより収入を確保する

- 全体について、「どちらともいえない」が44.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば実施すべき」が30.7%となっています。また、「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合が43.8%、「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が9.7%となっています。
- 性別について、男女とも「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が高くなっています。
- 年齢別について、40歳代で「どちらかといえば実施すべき」、その他の年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、40歳代、50歳代は「どちらかといえば実施すべき」が高く、60歳代は「どちらともいえない」が高くなっています。また、60歳代以上は「実施すべきではない」と「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせた割合が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。

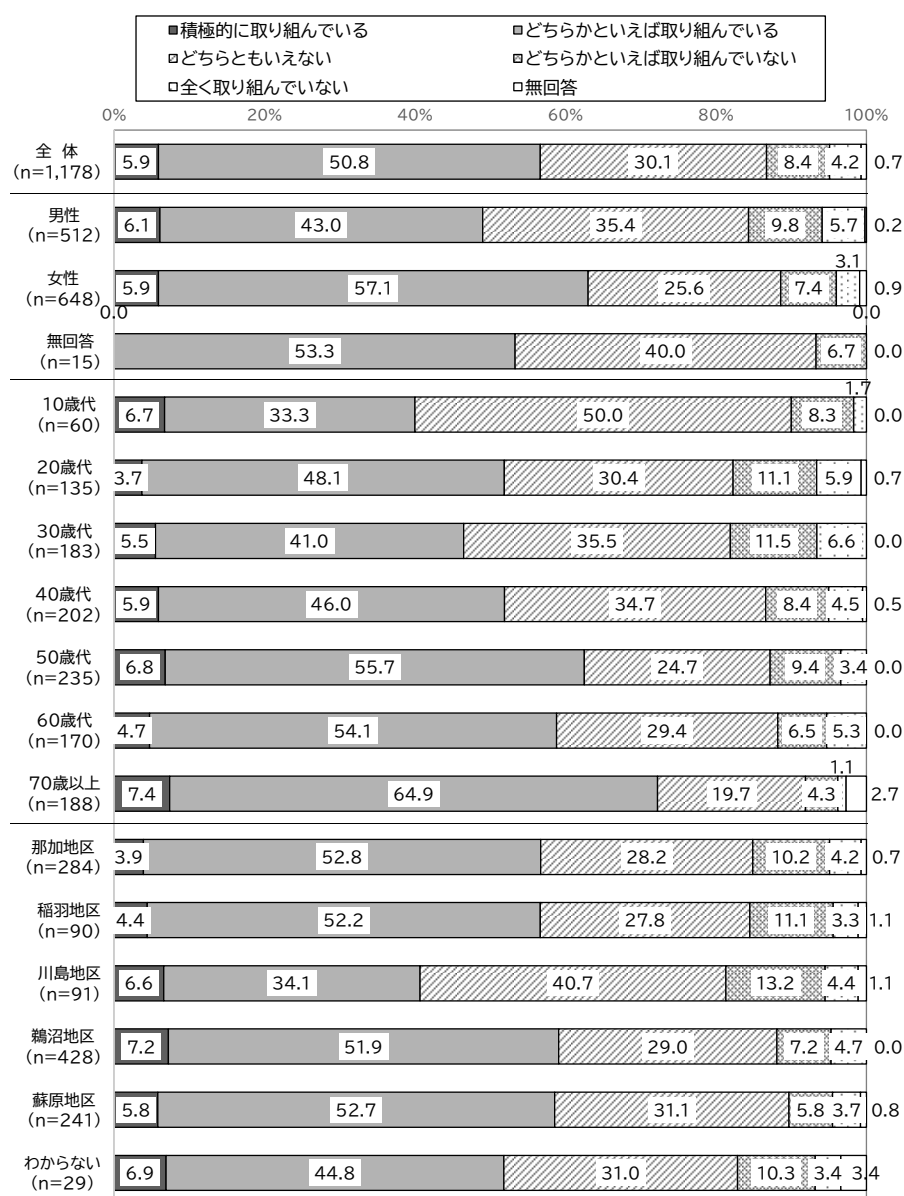


(5) 環境対策についてうかがいます

【1】地球温暖化対策について

問27 あなたは、家庭でできるCO2(二酸化炭素)削減に積極的に取り組んでいますか。(○は1つ)

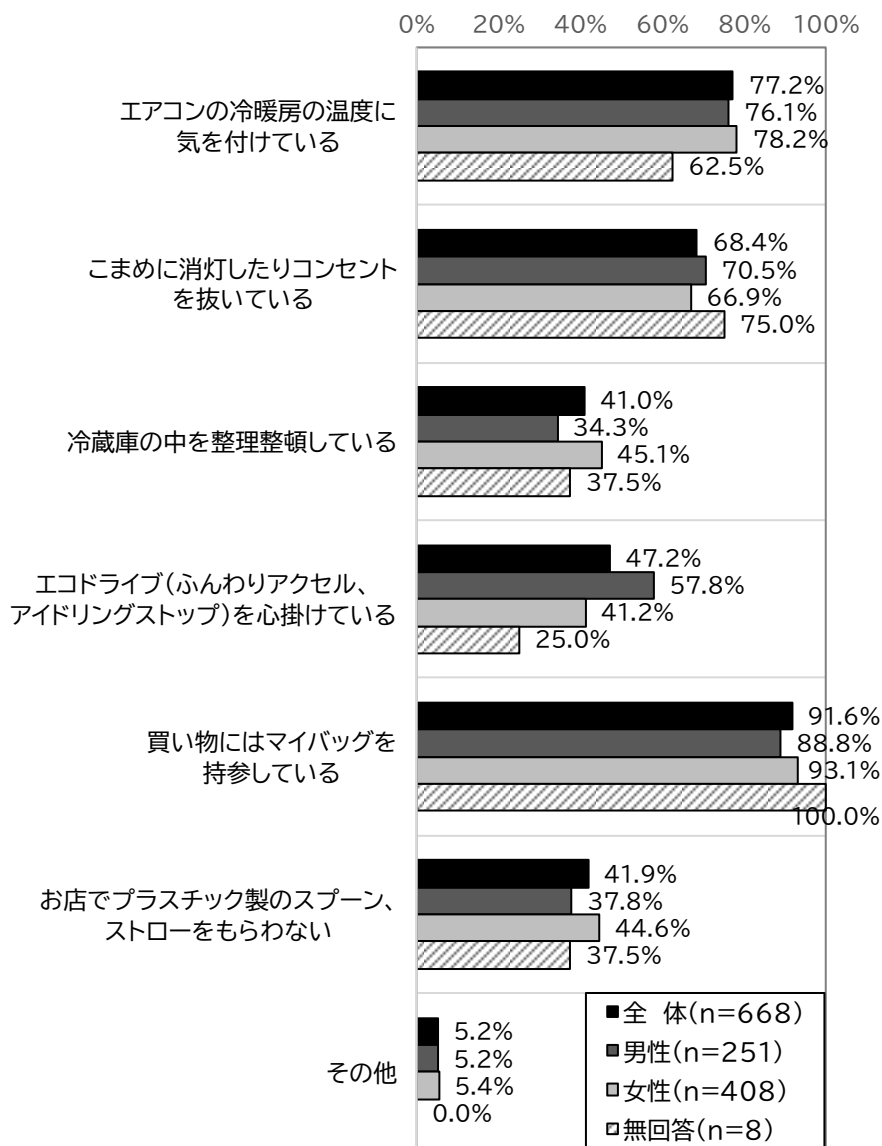
- 全体について、「どちらかといえば取り組んでいる」が50.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が30.1%となっています。
- 性別について、男女とも「どちらかといえば取り組んでいる」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「どちらともいえない」が高く、女性は「どちらかといえば取り組んでいる」が高くなっています。
- 年齢別について、10歳代は「どちらともいえない」が、その他の年代は「どちらかといえば取り組んでいる」が最も高くなっています。また、10歳代は他の年代よりも「どちらともいえない」が高く、70歳以上は「どちらかといえば取り組んでいる」が高くなっています。
- 地区別について、川島地区は「どちらともいえない」が、その他の地区は「どちらかといえば取り組んでいる」が最も高くなっています。



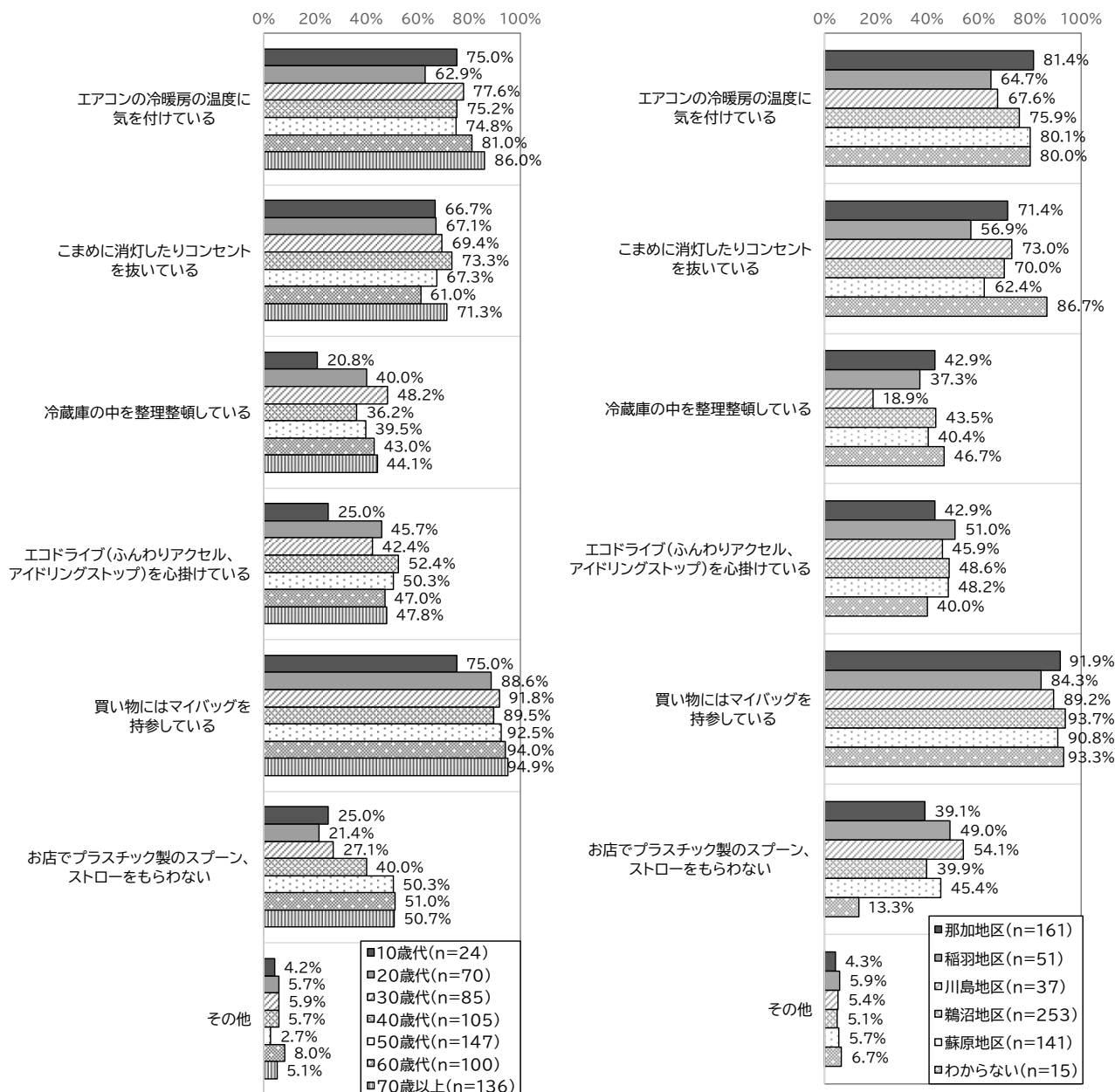
<問27で「1. 積極的に取り組んでいる」または「2. どちらかといえば取り組んでいる」と回答した方におたずねします。>

問28 あなたはどのような取り組みをしていますか。（あてはまるものすべてに○）

- 全体について、「買い物にはマイバッグを持参している」が91.6%と最も高く、次いで「エアコンの冷暖房の温度に気を付けている」が77.2%となっています。
- 性別について、男女とも「買い物にはマイバッグを持参している」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「エコドライブ（ふんわりアクセル、アイドリングストップ）を心掛けている」が高く、女性は「冷蔵庫の中を整理整頓している」が高くなっています。



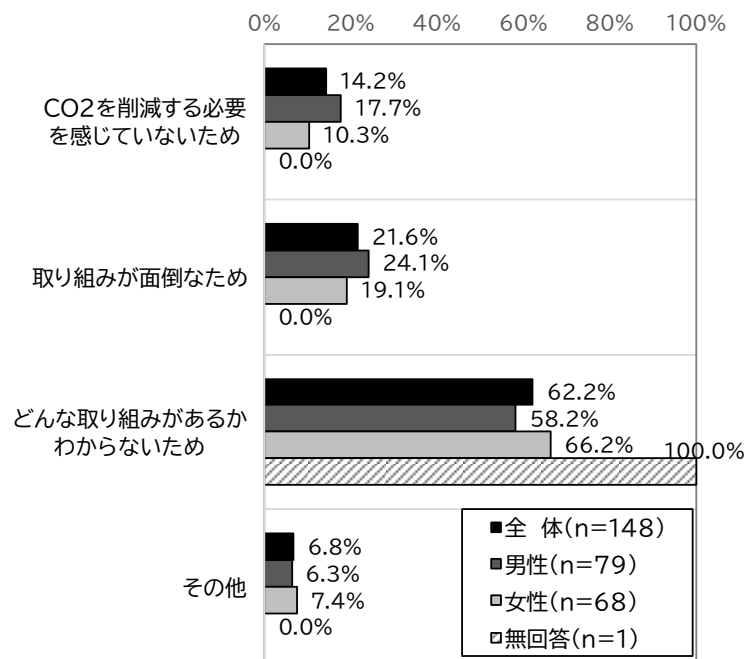
- 年齢別について、10歳代で「エアコンの冷暖房の温度に気を付けている」と「買い物にはマイバッグを持参している」が同率で最も高くなっており、その他の年代で「買い物にはマイバッグを持参している」が最も高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「買い物にはマイバッグを持参している」が最も高くなっています。

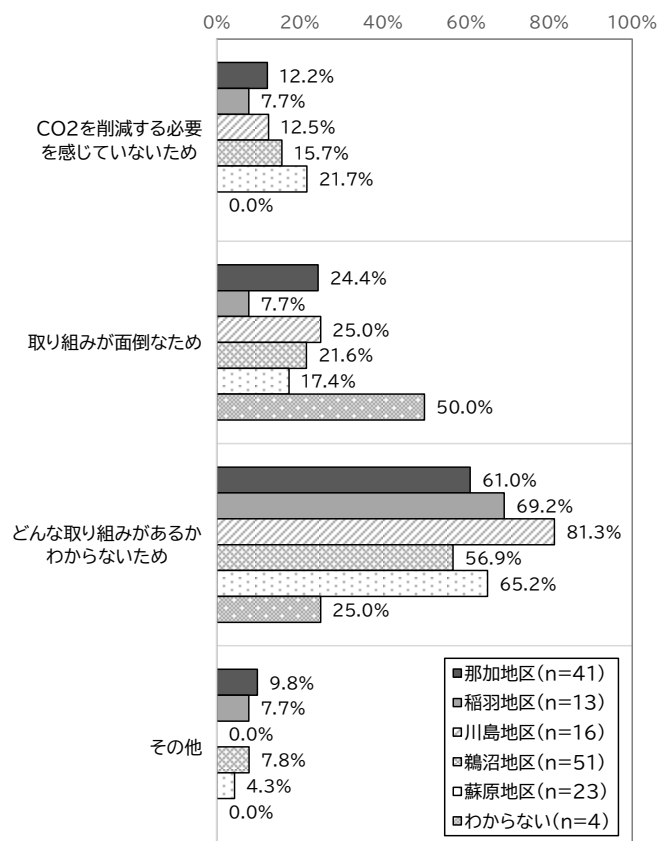
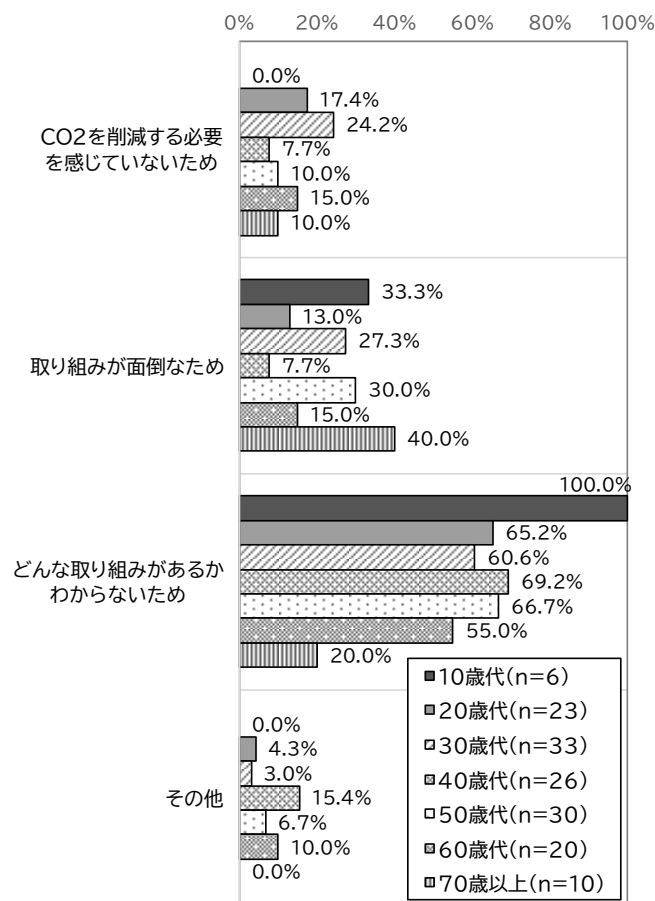


<問27で、「4. どちらかといえば取り組んでいない」または「5. 全く取り組んでいない」と回答した方におたずねします。>

問29 取り組んでいない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

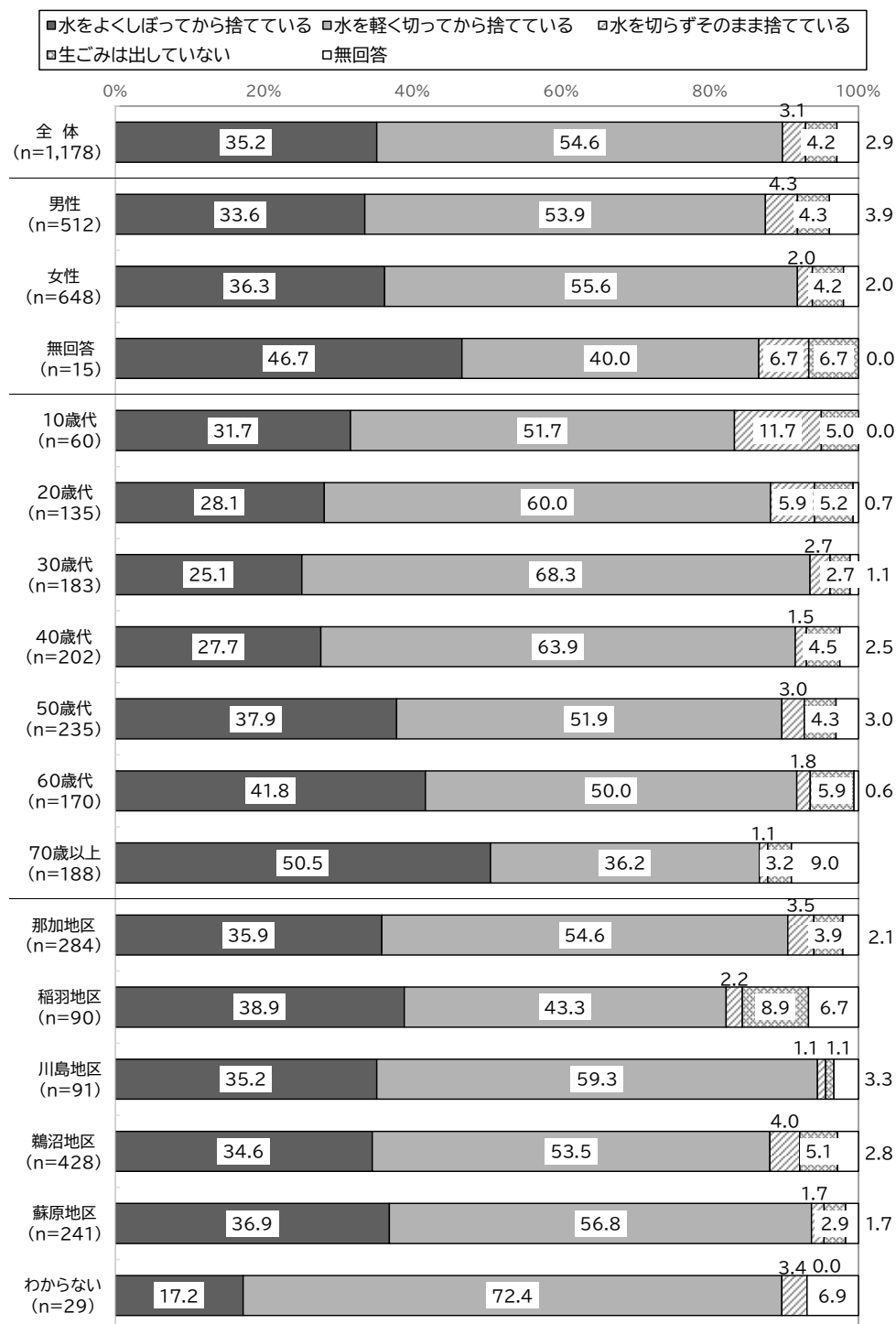
- 全体について、「どんな取り組みがあるかわからないため」が62.2%と最も高く、次いで「取り組みが面倒なため」が21.6%となっています。
- 性別について、男女とも「どんな取り組みがあるかわからないため」が最も高くなっています。
- 年齢別について、70歳以上で「取り組みが面倒なため」、その他の年代で「どんな取り組みがあるかわからないため」が最も高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「どんな取り組みがあるかわからないため」が最も高くなっています。





問30 CO2削減のために、生ごみの水切りや、食品ロス（食べられるのに廃棄されている食品）を減らすことが効果的です。そこで、生ごみを捨てる時の水切りについて、お聞きます。次の中であてはまるものはどれですか。（○は1つ）

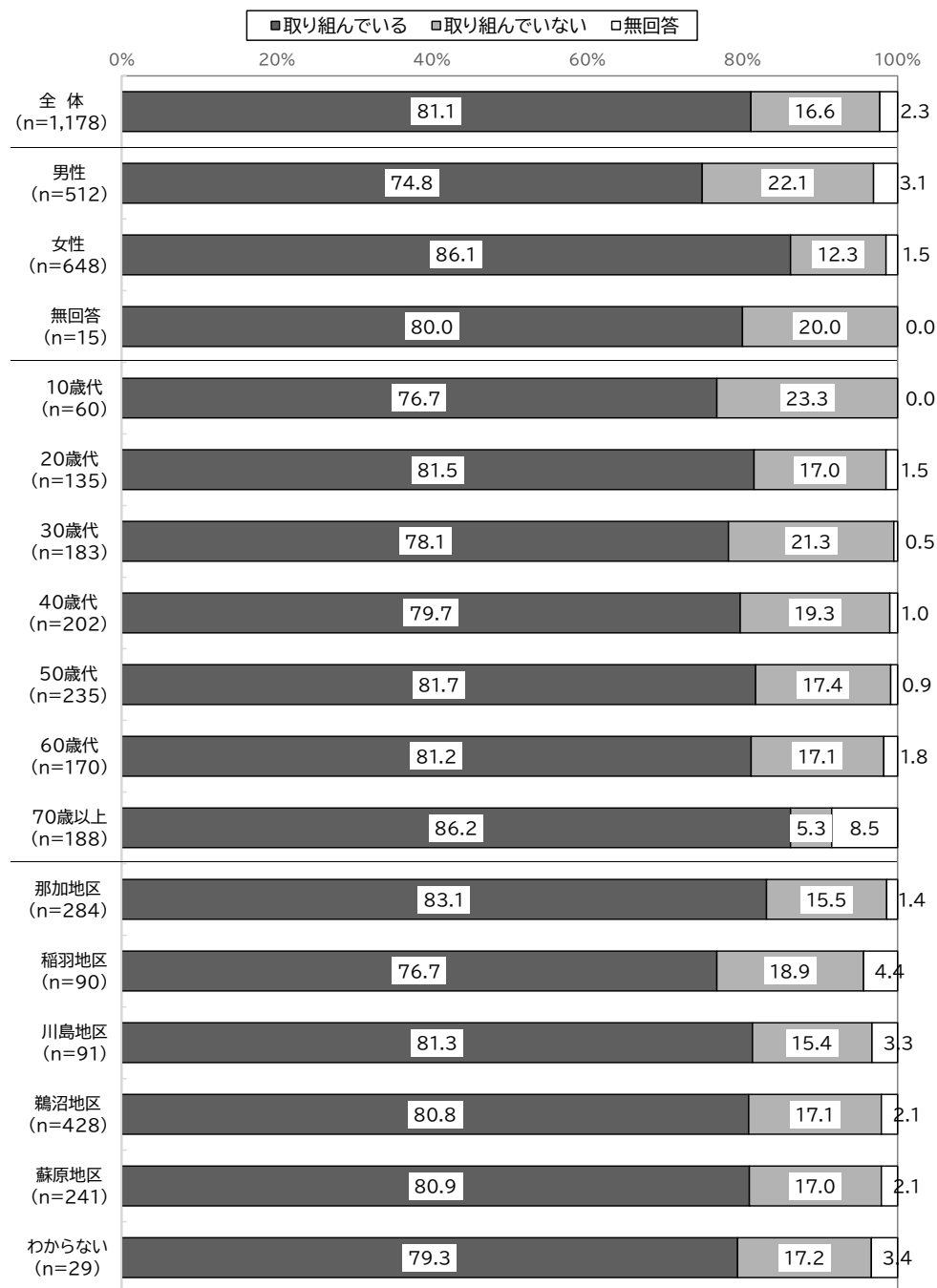
- 全体について、「水を軽く切ってから捨てている」が54.6%と最も高く、次いで「水をよくしぼってから捨てている」が35.2%となっています。
- 性別について、男女とも「水を軽く切ってから捨てている」が最も高くなっています。
- 年齢別について、70歳以上で「水をよくしぼってから捨てている」、その他の年代で「水を軽く切ってから捨てている」が最も高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「水を軽く切ってから捨てている」が最も高くなっています。



【2】食品ロスについて

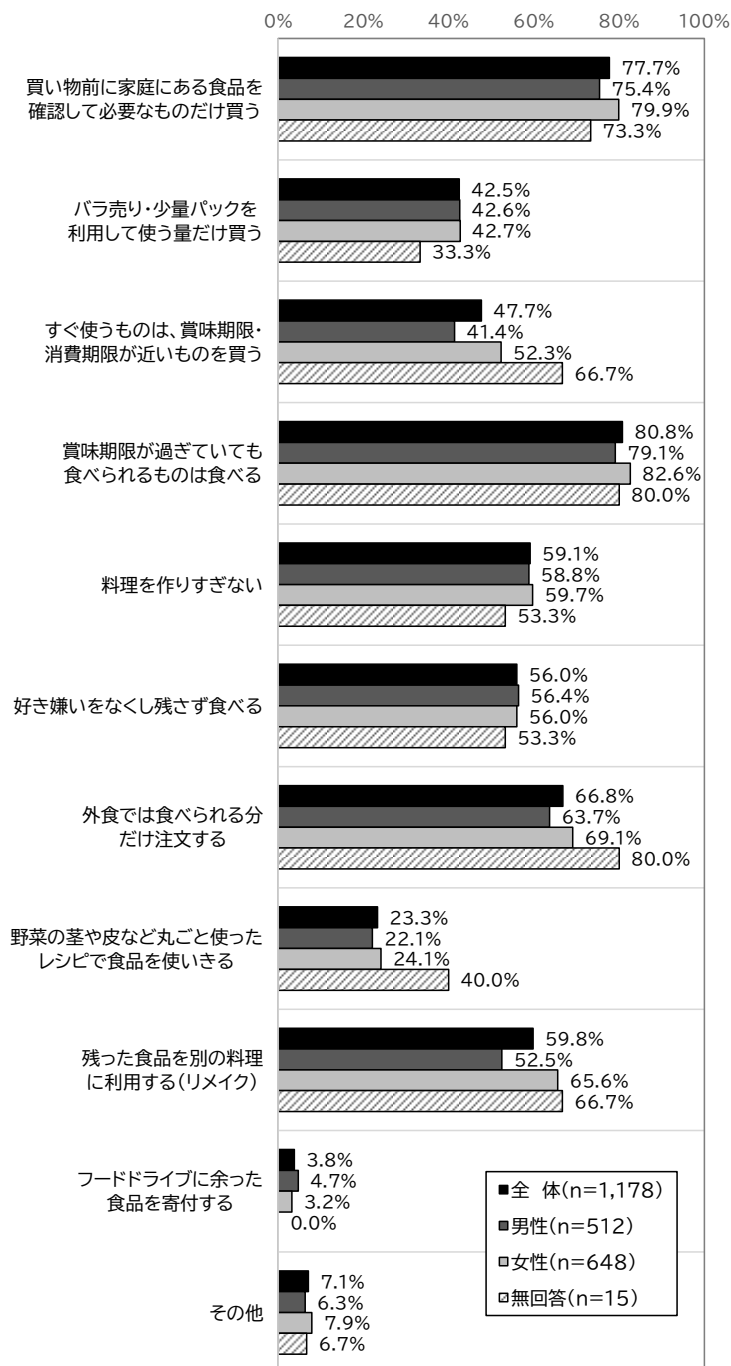
問31 食品ロスを意識して、その削減に取り組んでいますか。（○は1つ）

- 全体について、「取り組んでいる」が81.1%で、「取り組んでいない」が16.6%となっています。
- 性別について、男女とも「取り組んでいる」が高くなっています。また、男性は女性よりも「取り組んでいない」が高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「取り組んでいる」が高くなっています。また、70歳以上は他の年代よりも「取り組んでいる」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「取り組んでいる」が高くなっています。

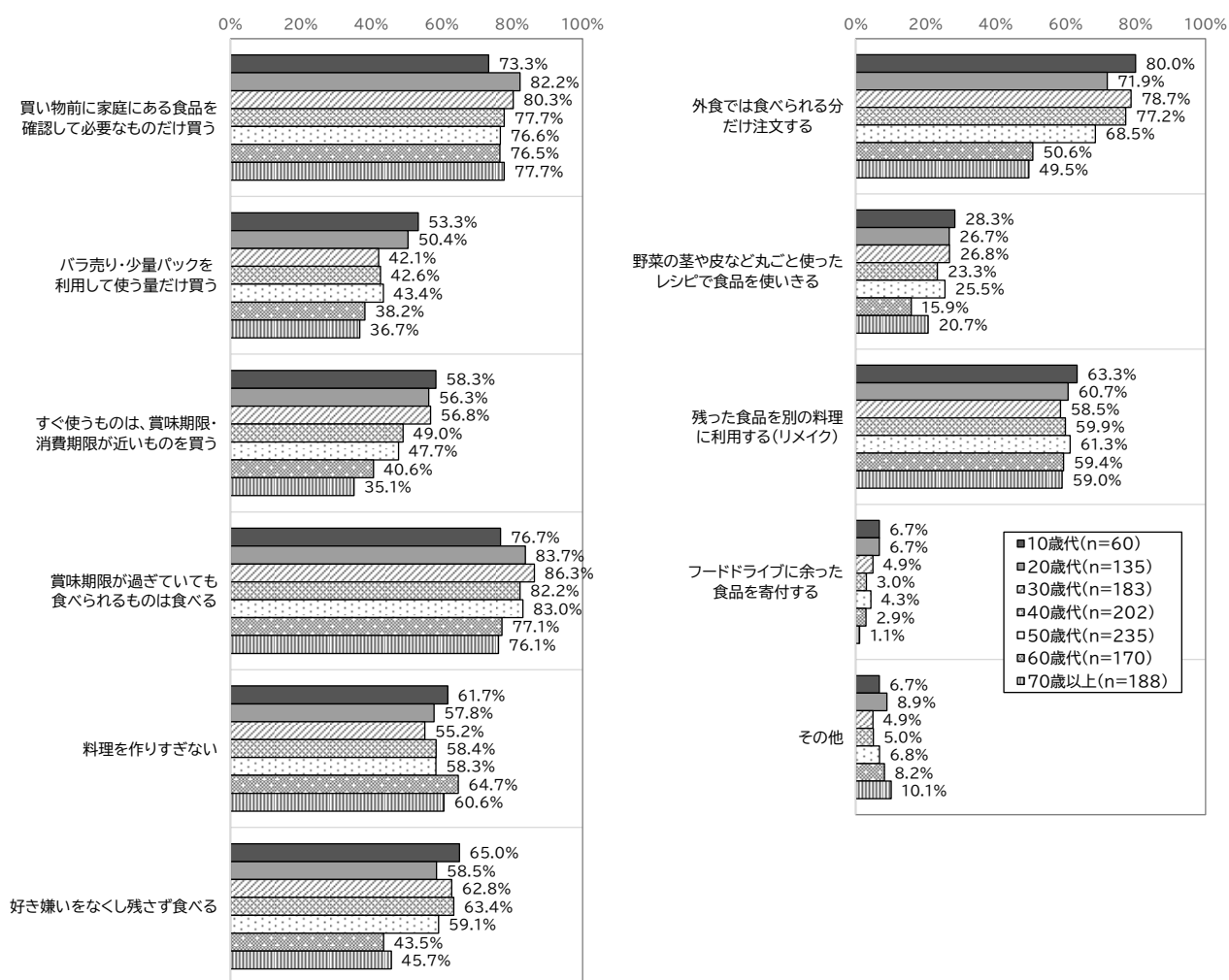


問32 食品ロスを削減するために取り組んでいることは何ですか。(あてはまるものをすべてに○)

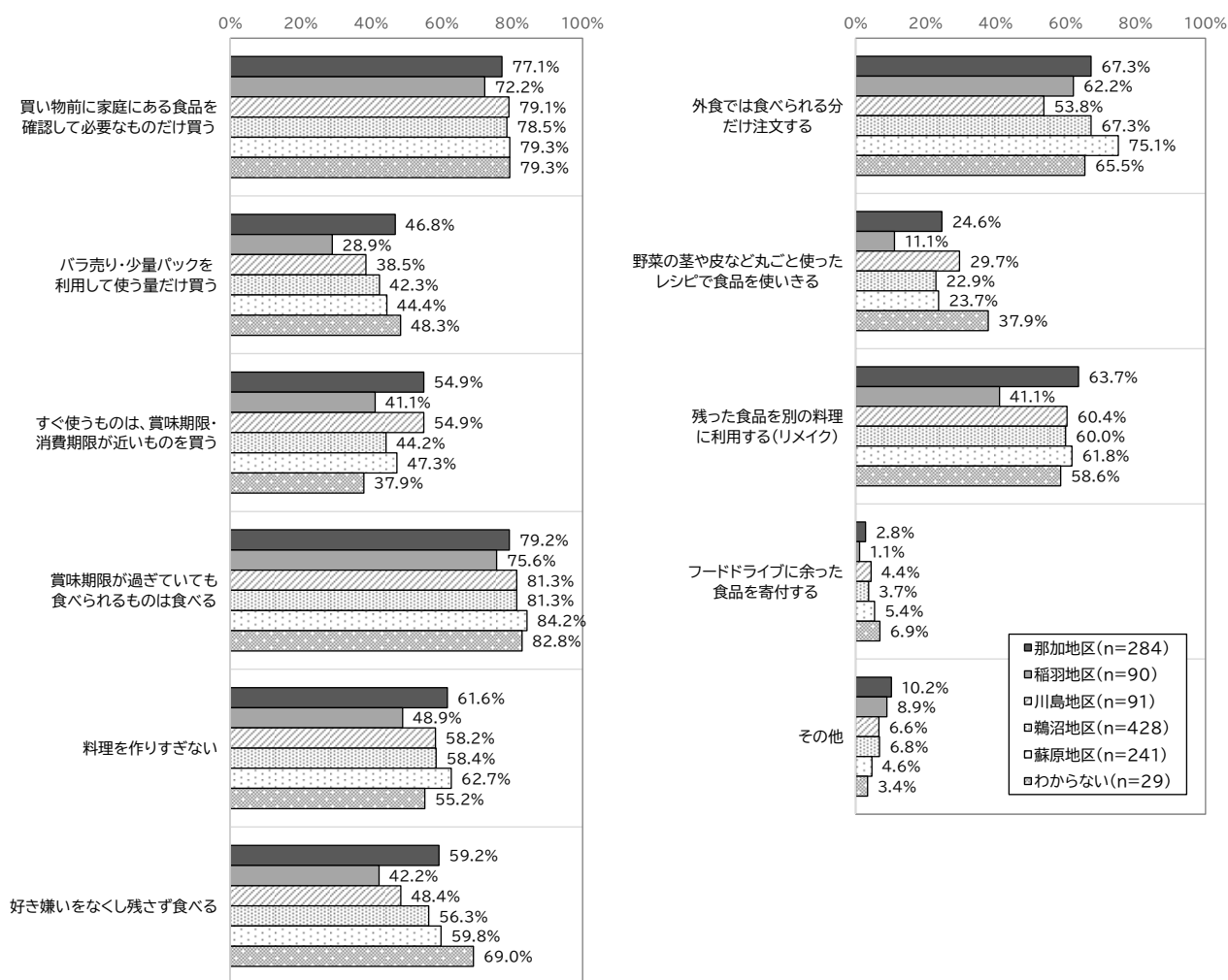
- 全体について、「賞味期限が過ぎていても食べられるものは食べる」が80.8%と最も高く、次いで「買い物前に家庭にある食品を確認して必要なものだけ買う」が77.7%となっています。
- 性別について、男女とも「賞味期限が過ぎていても食べられるものは食べる」が最も高くなっています。



- 年齢別について、10歳代で「外食では食べられる分だけ注文する」が、20歳代から60歳代で「賞味期限が過ぎていても食べられるものは食べる」が、70歳以上で「買い物前に家庭にある食品を確認して必要なものだけ買う」が最も高くなっています。



- 地区別について、全ての地区で「賞味期限が過ぎていても食べられるものは食べる」が最も高くなっています。



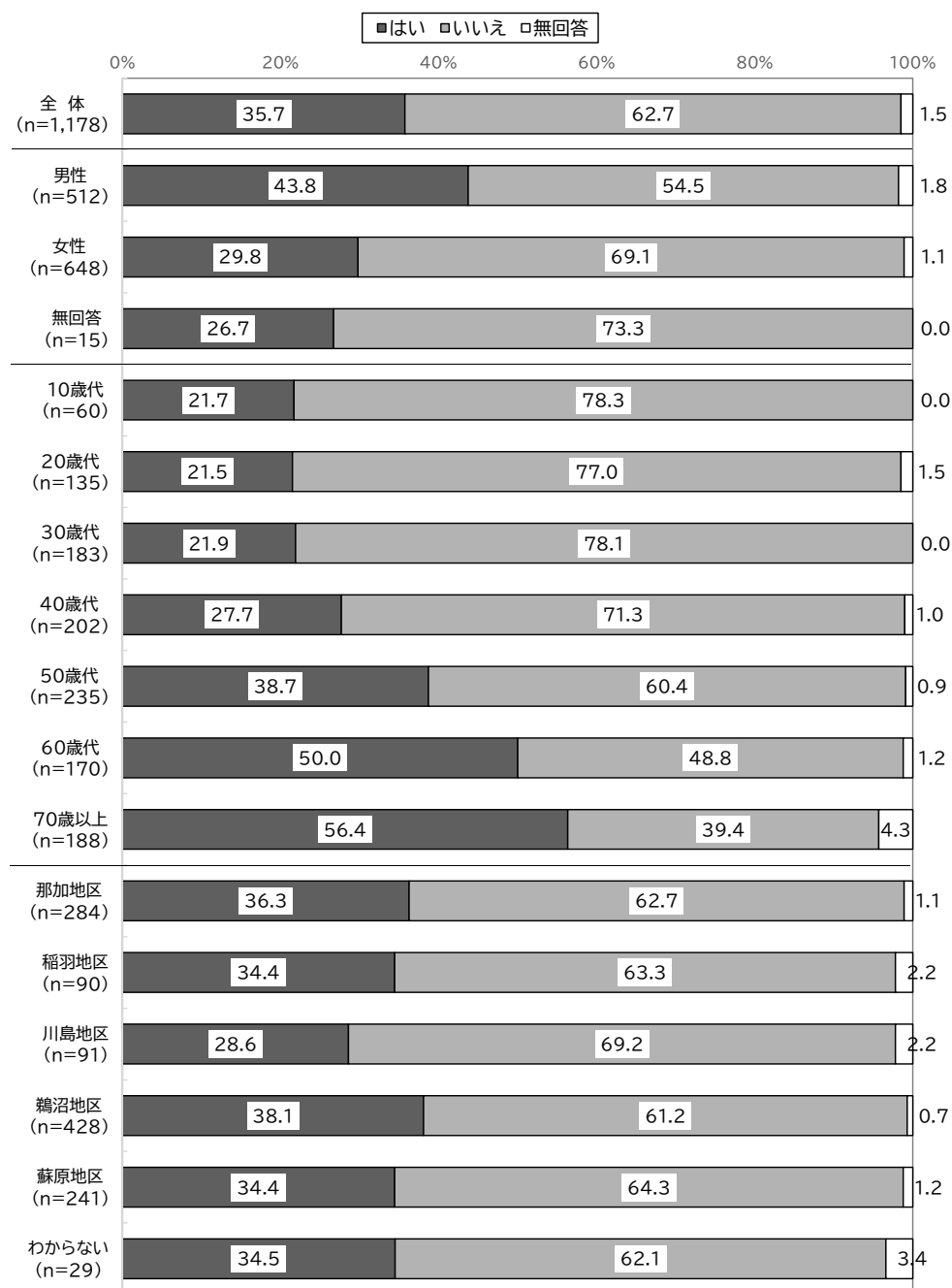
自由記述のため別途「その他・自由意見集」掲載

問33 今後、食品ロス削減をより一層進めていくために、行政（市役所など）や、事業者（食品販売店など）に実施してほしい取り組みはありますか。（自由記述）

【3】残骨灰の処理について

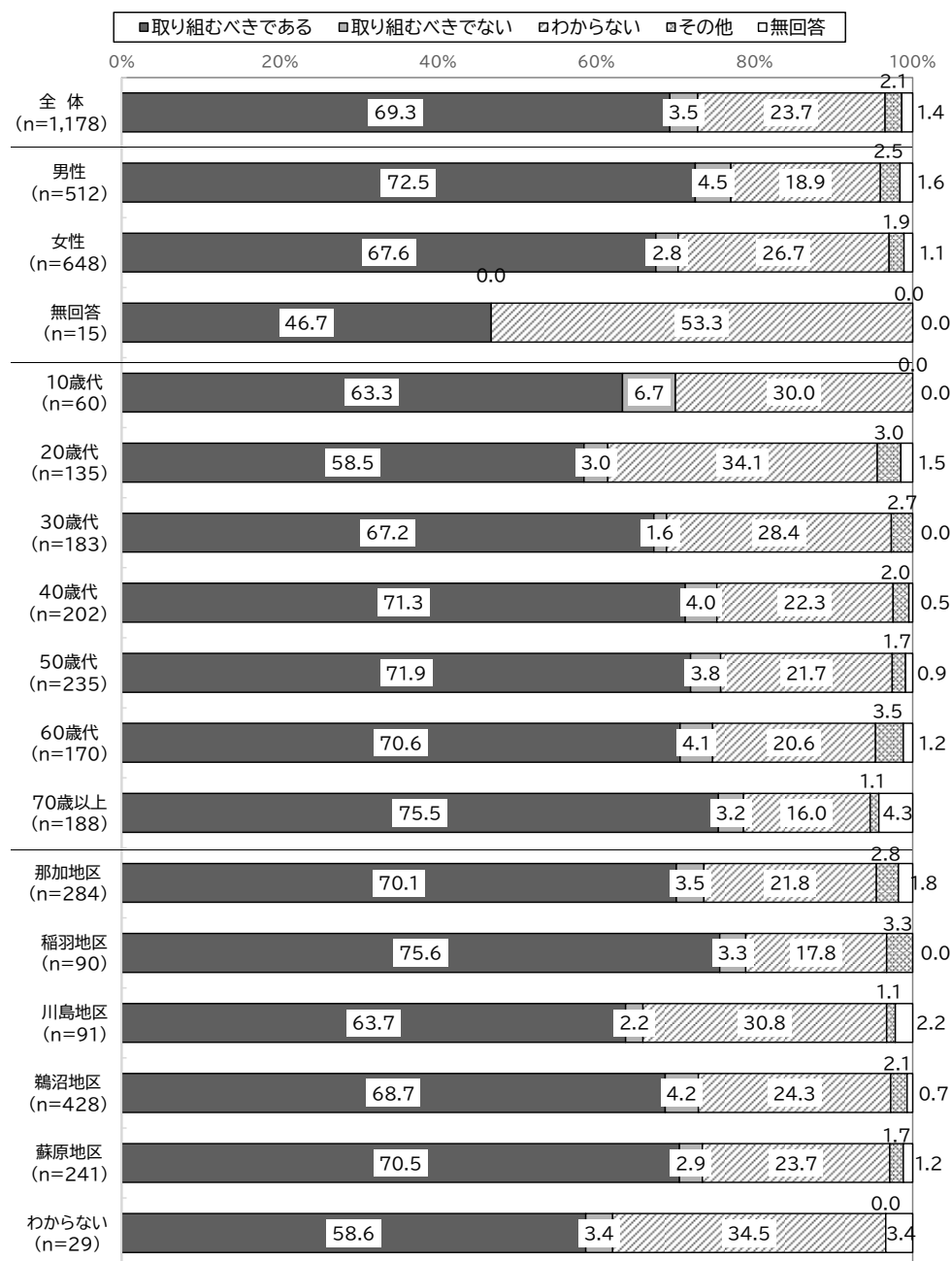
問34 残骨灰には金・銀・プラチナ・パラジウム等の有価物が含まれていることをご存じですか。

- 全体について、「いいえ」が62.7%と高く、「はい」が35.7%となっています。
- 性別について、男女とも「いいえ」が高くなっています。また、女性は男性よりも「いいえ」が高くなっています。
- 年齢別について、10歳代から50歳代で「いいえ」が高く、60歳代と70歳以上で「はい」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「いいえ」が高くなっています。



問35 残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収益を公益（斎場の運営経費など）のために活用する自治体が増加しています。本市において同様の取組みをすることについて、どう思われますか。（○は1つ）

- 全体について、「取り組むべきである」が69.3%と最も高く、次いで「わからない」が23.7%となっています。
- 性別について、男女とも「取り組むべきである」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「取り組むべきである」が高く、女性は「わからない」が高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「取り組むべきである」が最も高くなっています。また、20歳代は他の年代よりも「わからない」が高く、70歳以上は「取り組むべきである」が高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「取り組むべきである」が最も高くなっています。

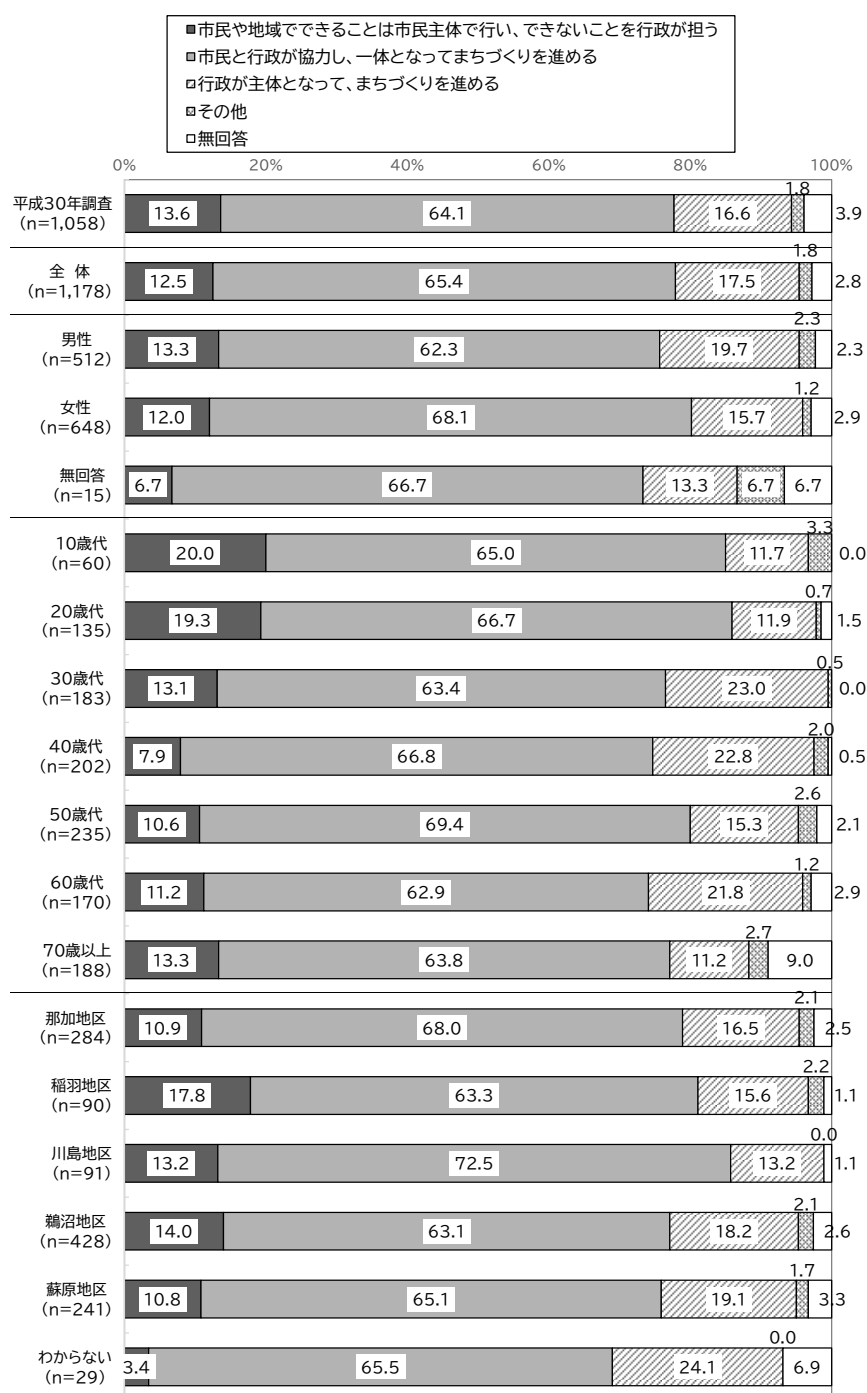


（６）協働のまちづくりについてうかがいます

問36 これからの各務原市のまちづくりを進めていくとき、市民と行政との関係はどうあるべきだと思いますか。

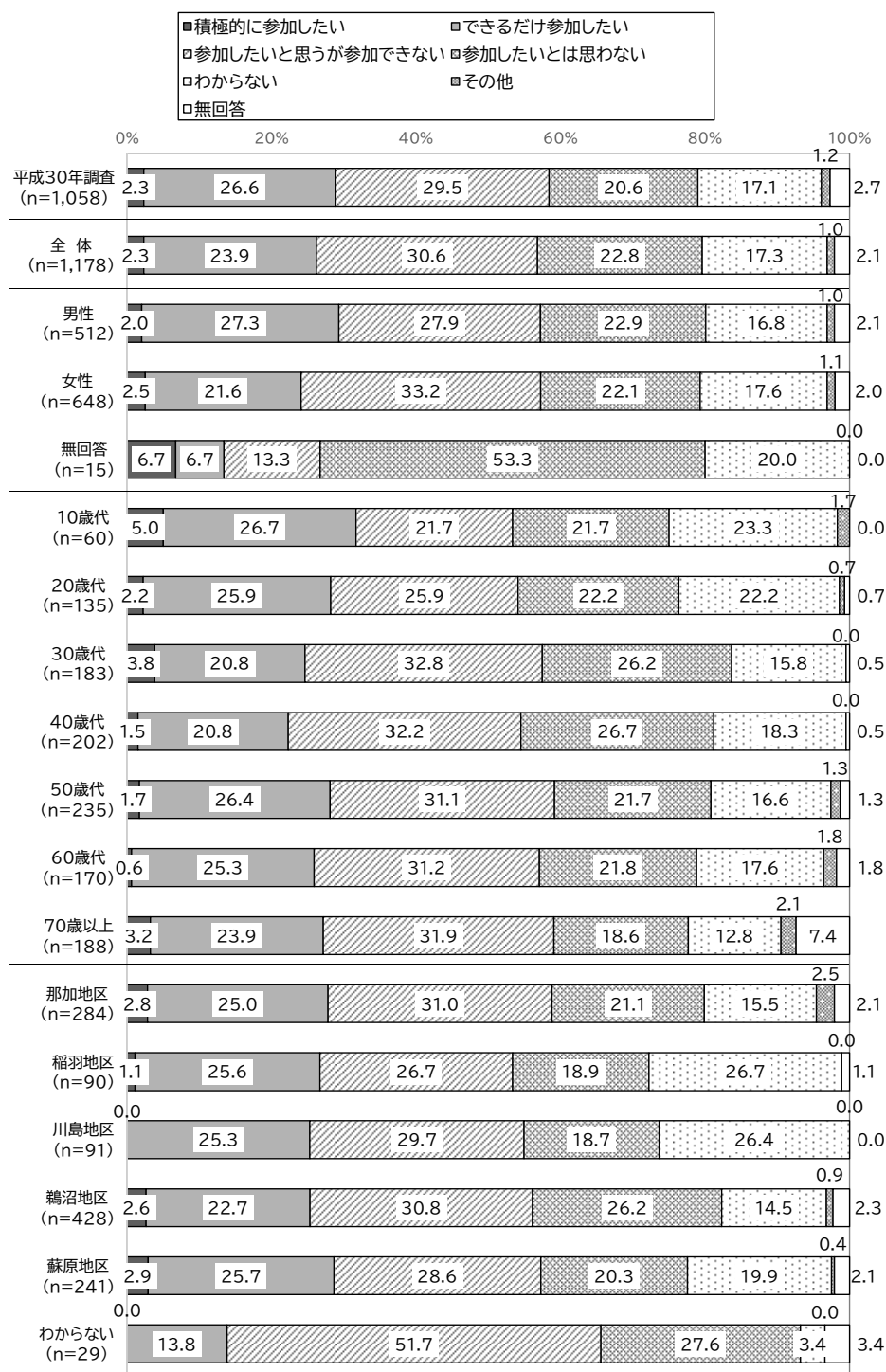
（○は1つ）

- 全体について、「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が65.4%と最も高く、次いで「行政が主体となって、まちづくりを進める」が17.5%となっており、前回調査（平成30年調査）と同様の傾向となっています。
- 性別について、男女とも「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高くなっています。
- 年齢別について、全年代で「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高くなっています。
- 地区別について、全ての地区で「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高くなっています。



問37 あなたは、まちづくり活動に対する市民参加の機会がある場合、参加したいと思いますか。（○は1つ）

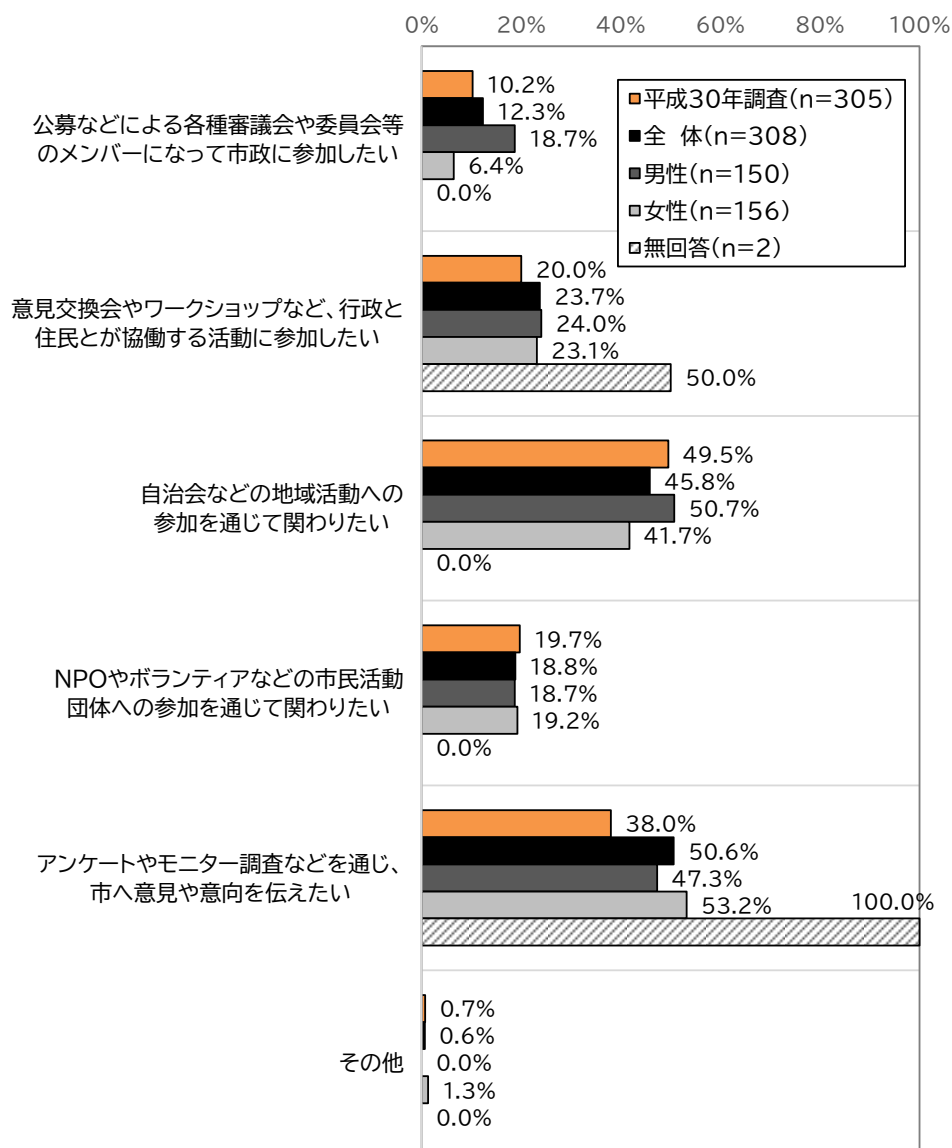
- 全体について、「参加したいと思うが参加できない」が30.6%と最も高く、次いで「できるだけ参加したい」が23.9%となっており、前回調査（平成30年調査）と同様の傾向となっています。
- 性別について、男女とも「参加したいと思うが参加できない」が最も高くなっています。
- 年齢別について、10歳代では「できるだけ参加したい」が、30歳代以上では「参加したいと思うが参加できない」が最も高くなっています。また、20歳代では「できるだけ参加したい」と「参加したいと思うが参加できない」が同率で最も高くなっています。
- 地区別について、稲羽地区は「参加したいと思うが参加できない」と「わからない」が同率で最も高くなっています。その他の地区は「参加したいと思うが参加できない」が最も高くなっています。



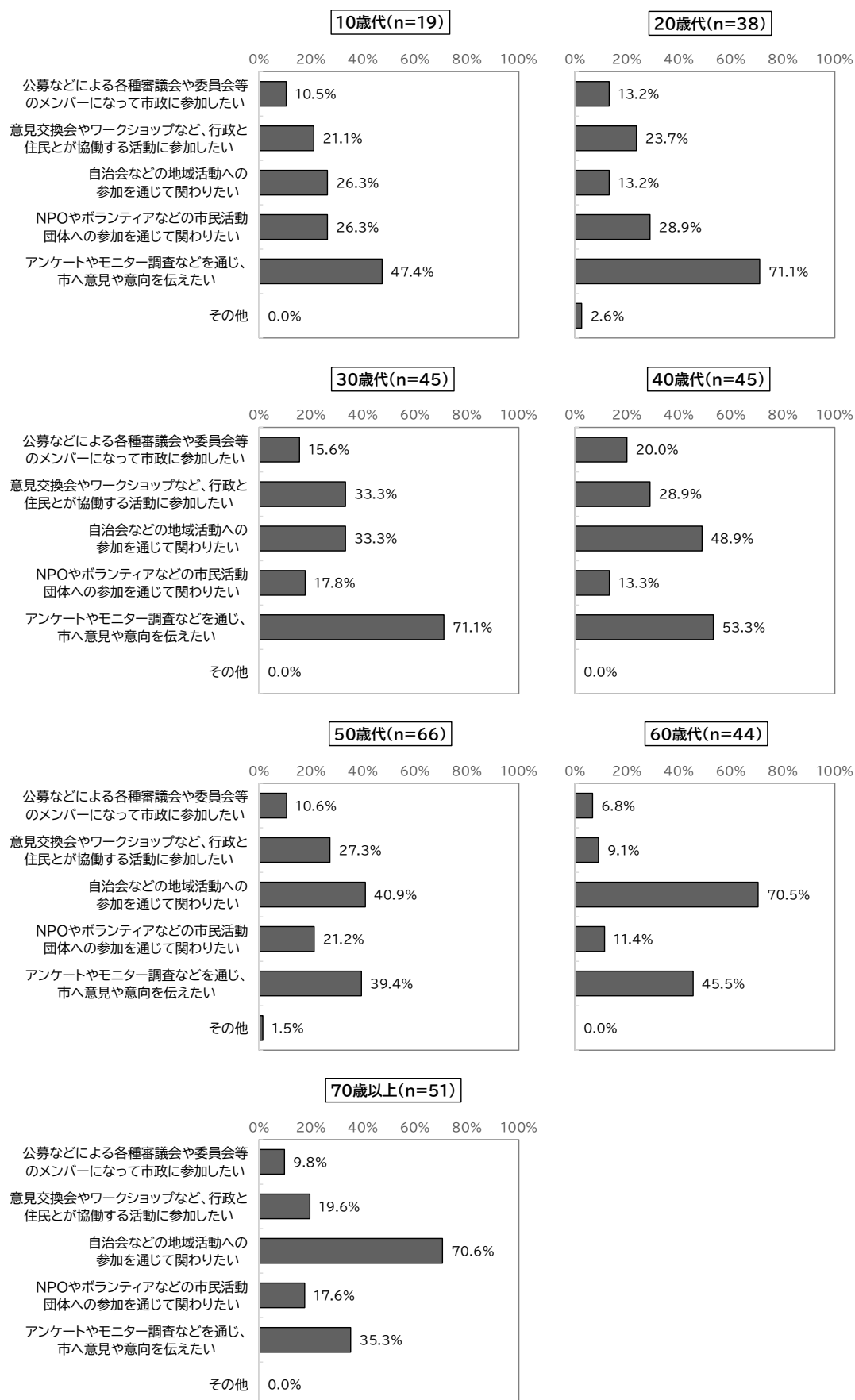
＜問37で「1. 積極的に参加したい」または「2. できるだけ参加したい」と回答した方におたずねします。＞

問38 どのような形で参加したいですか。（あてはまるものすべてに○）

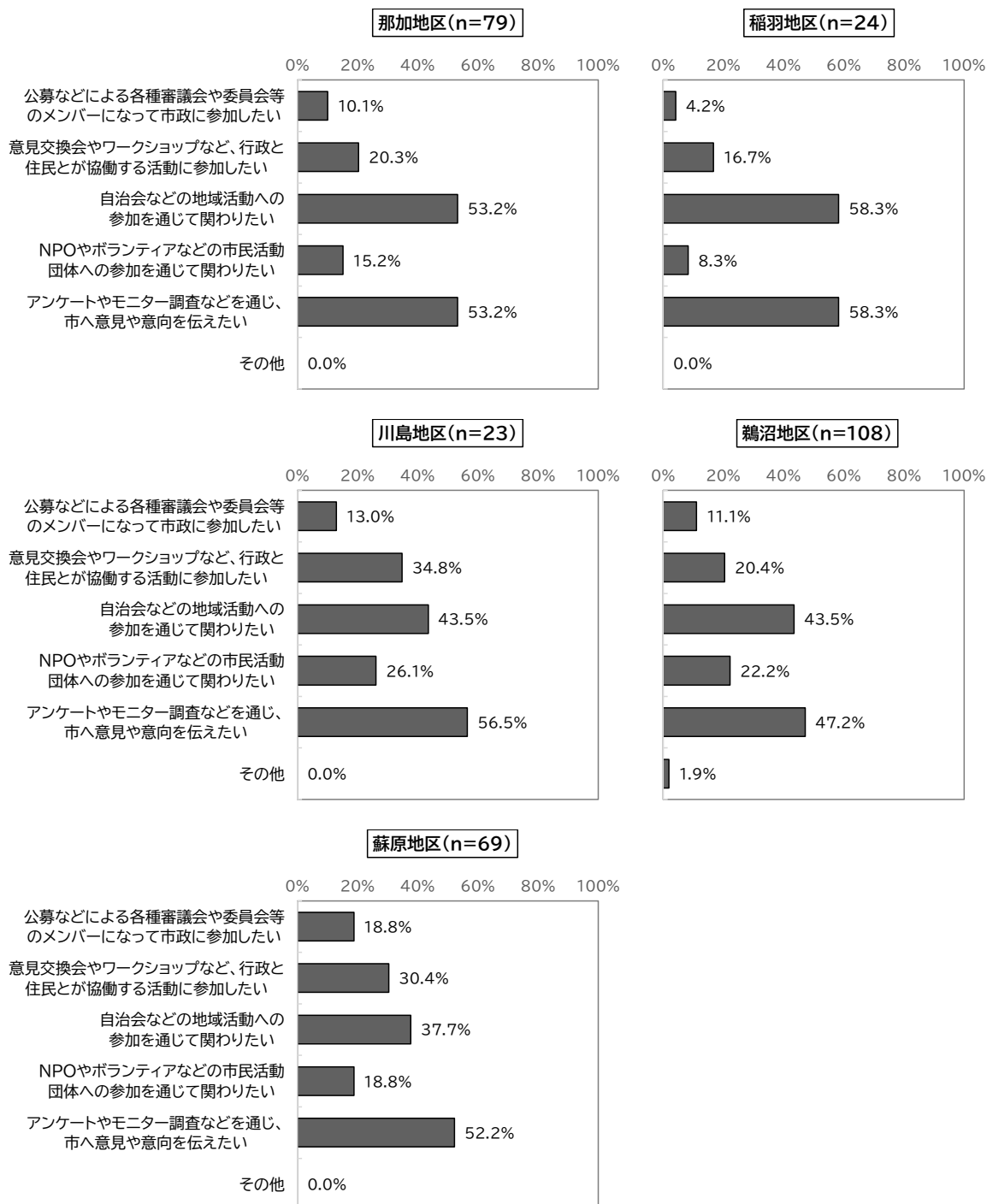
- 全体について、「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が50.6%と最も高く、次いで「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」が45.8%となっています。また、前回調査（平成30年調査）よりも「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」などが高くなっています。
- 性別について、男性で「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」が、女性で「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が最も高くなっています。



- 年齢別について、10歳代から40歳代で「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が、50歳代以上で「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」が最も高くなっています。



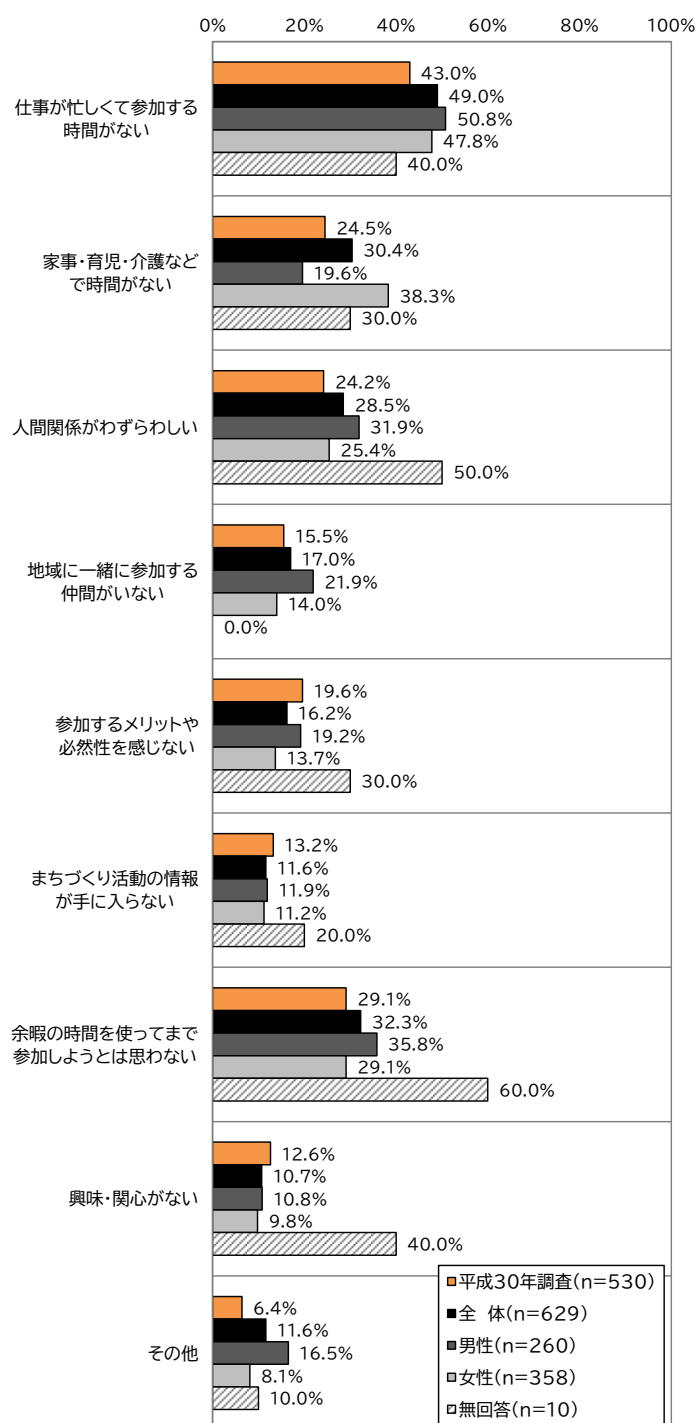
- 地区別について、川島地区、鵜沼地区、蘇原地区は「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が最も高くなっています。那加地区、稲羽地区は「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」と「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が同率で最も高くなっています。



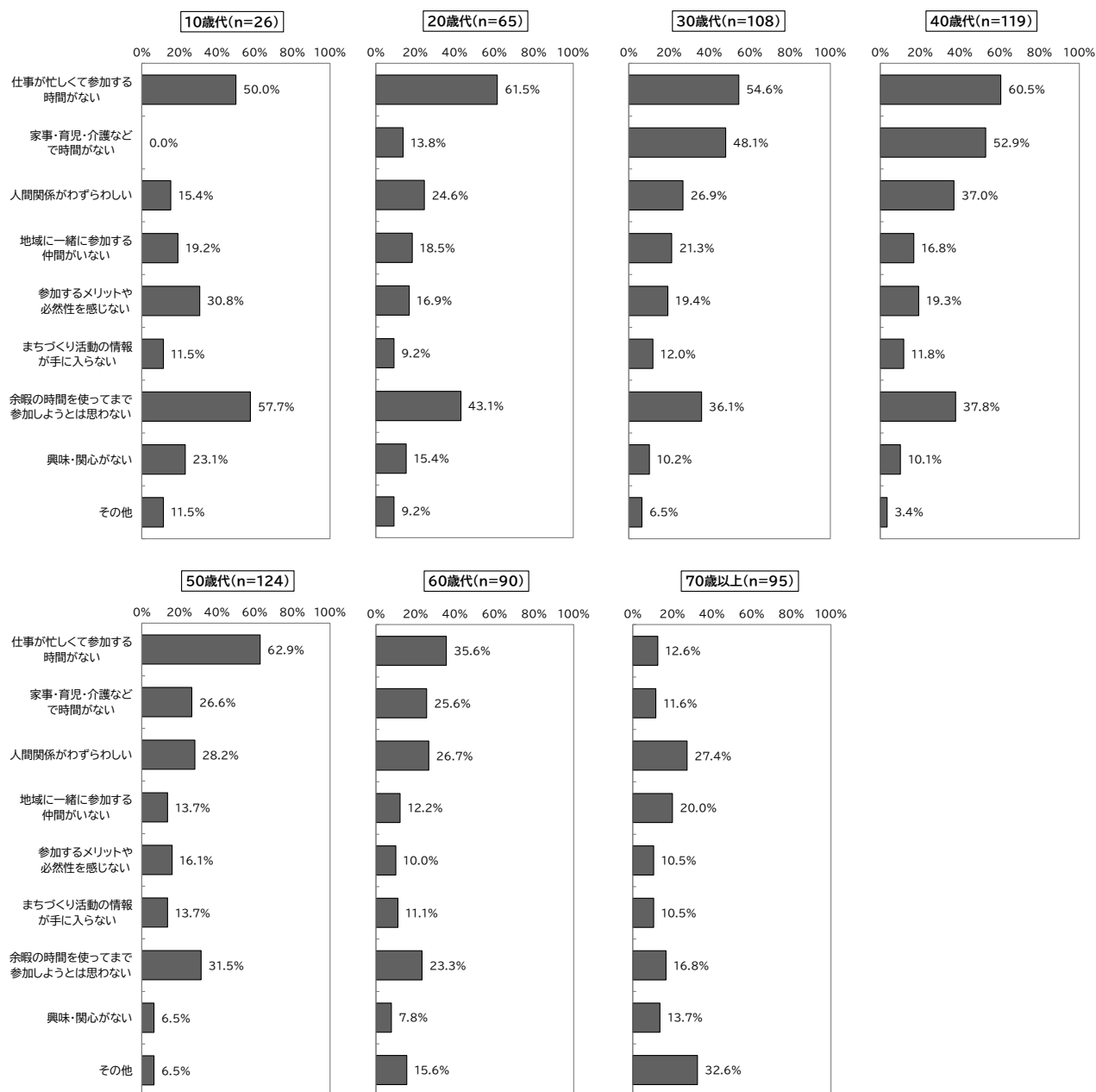
＜問37で「3. 参加したいと思うが参加できない」または「4. 参加したいとは思わない」と回答した方におたずねします。＞

問39 参加できない、または参加したいと思わないと思われる理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

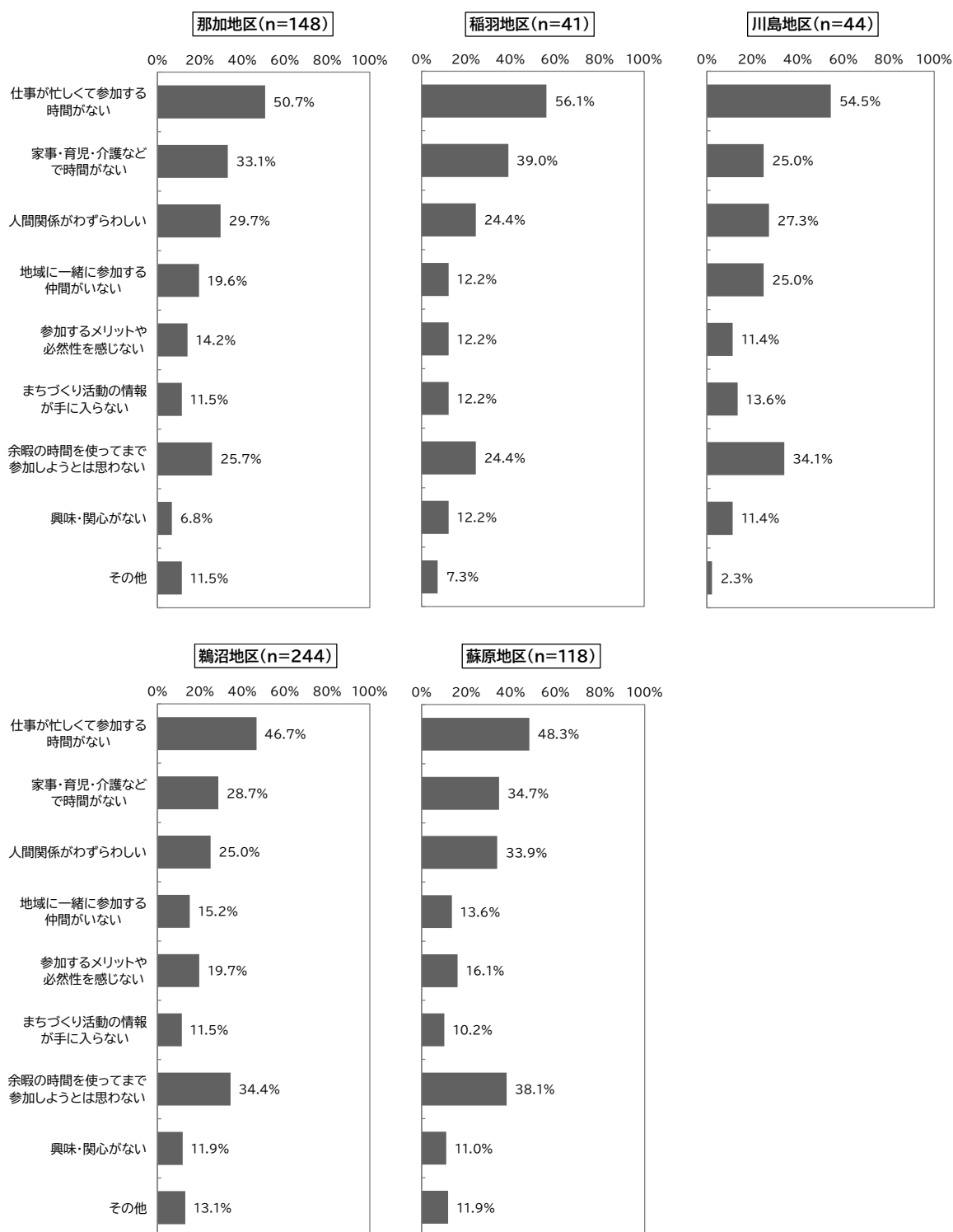
- 全体について、「仕事が忙しくて参加する時間がない」が49.0%と最も高く、次いで「余暇の時間を使ってまで参加しようとは思わない」が32.3%となっています。また、前回調査（平成30年調査）よりも「仕事が忙しくて参加する時間がない」、「家事・育児・介護などで時間がない」、「人間関係がわずらわしい」などが高くなっています。
- 性別について、男女とも「仕事が忙しくて参加する時間がない」が最も高くなっています。また、女性は「家事・育児・介護などで時間がない」が高くなっています。



- 年齢別について、10歳代で「余暇の時間を使ってまで参加しようとは思わない」が、20歳代から60歳代で「仕事が忙しくて参加する時間がない」が最も高くなっており、70歳以上で「人間関係がわずらわしい」が高くなっています。また、10歳代は他の年代よりも「余暇の時間を使ってまで参加しようとは思わない」が高く、30歳代、40歳代は「家事・育児・介護などで時間がない」が高く、50歳代は「仕事が忙しくて参加する時間がない」が高くなっています。



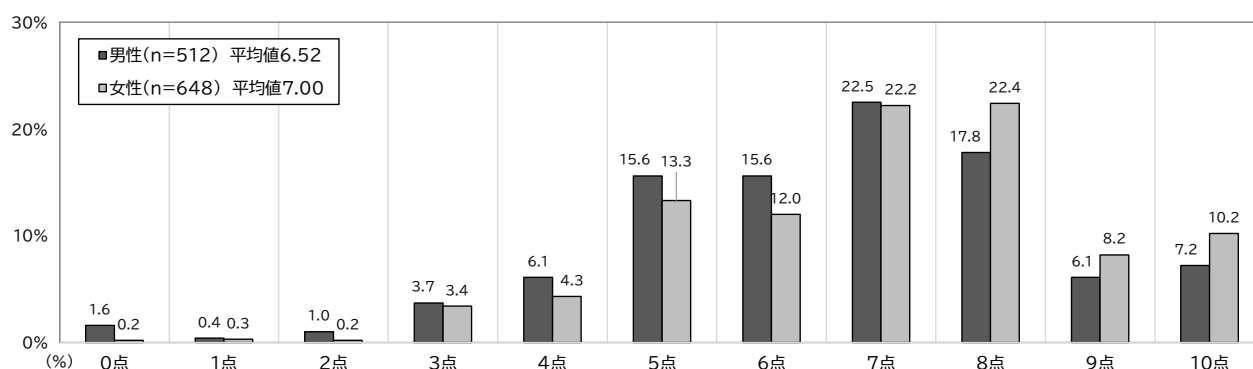
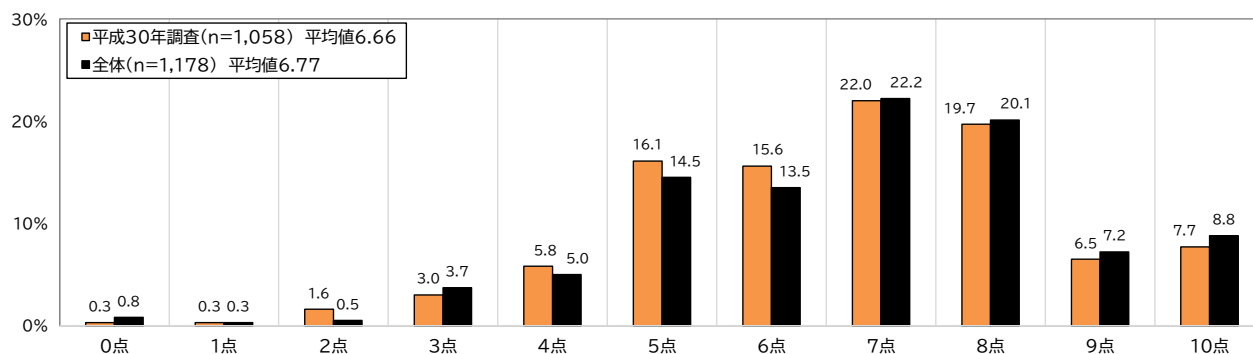
- 地区別について、全ての地区で「仕事が忙しくて参加する時間がない」が最も高くなっています。



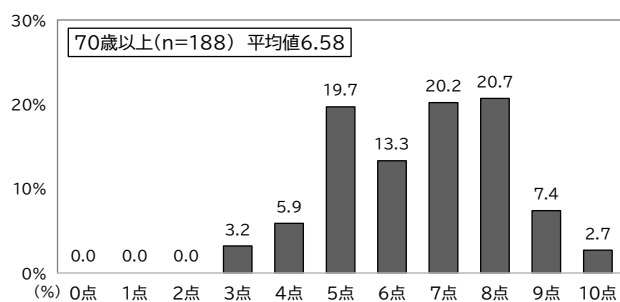
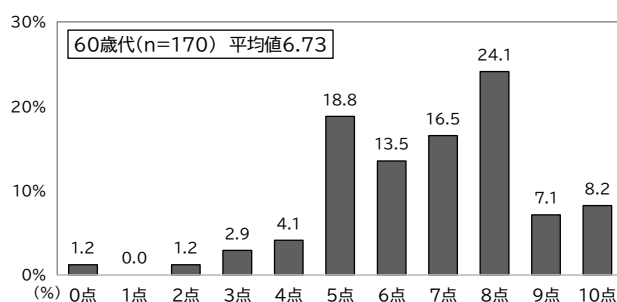
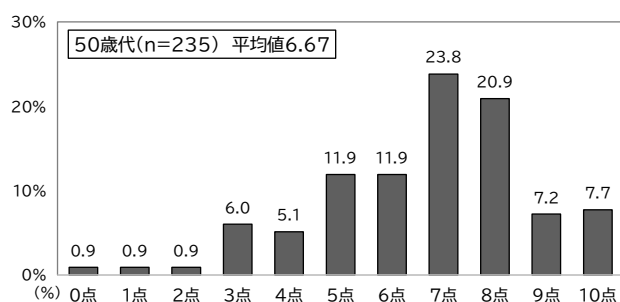
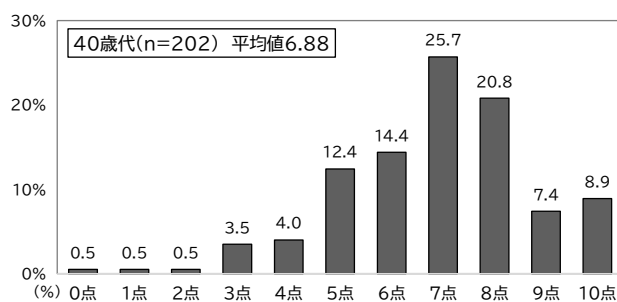
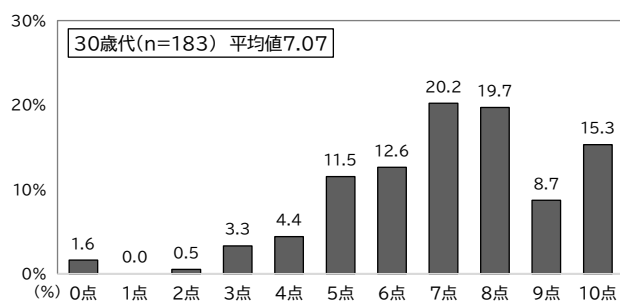
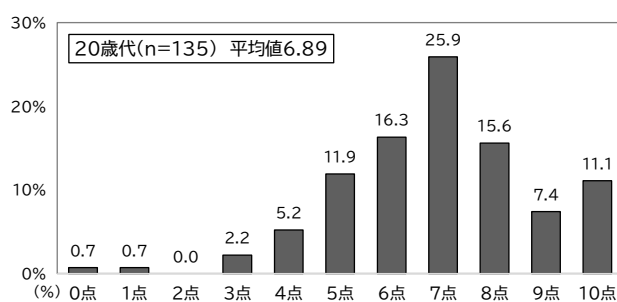
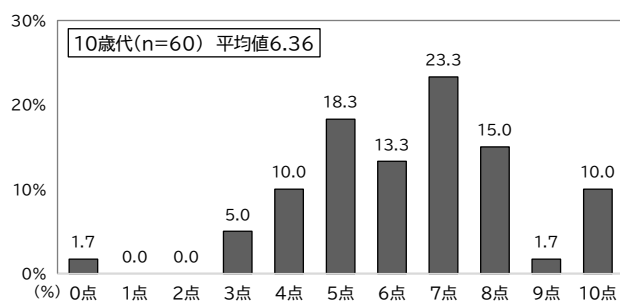
(7) あなたの幸せについてうかがいます

問40 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、何点くらいになると思いますか。(0～10点までの間で、1つに○)

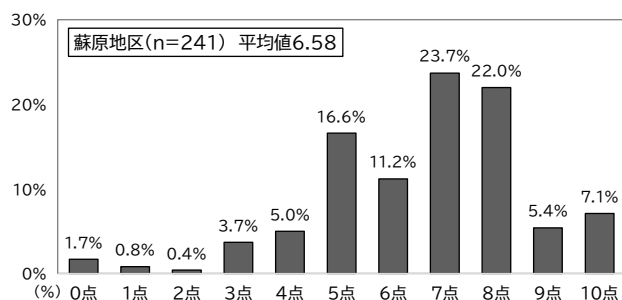
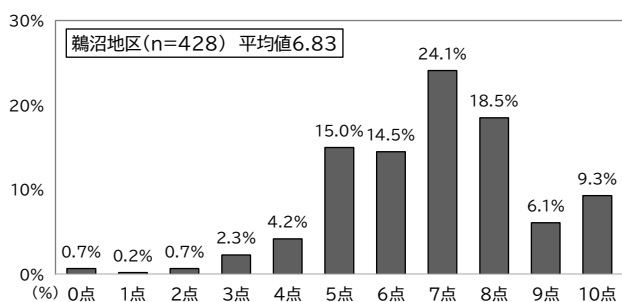
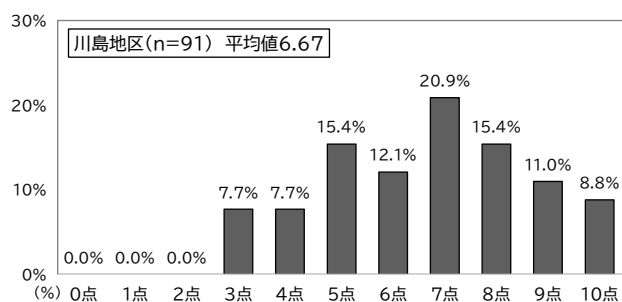
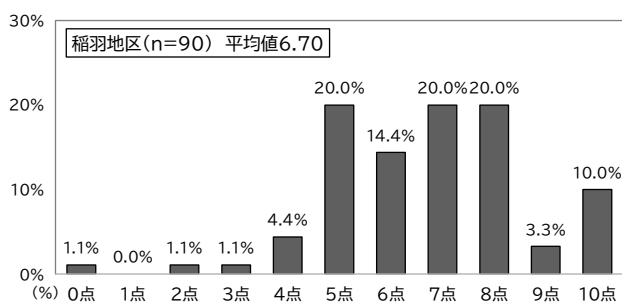
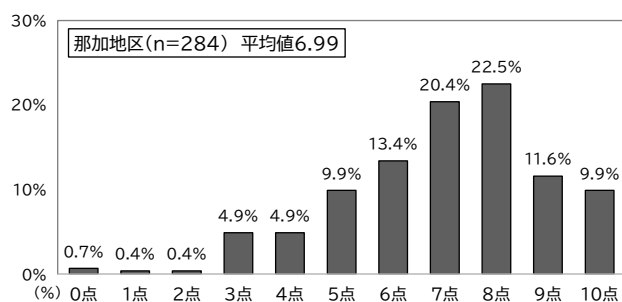
- 全体について、「7点」が22.2%と最も高く、次いで「8点」が20.1%となっています。平均値は6.77となっています。
- 性別について、男性で「7点」が、女性で「8点」が最も高くなっています。平均値は、男性が6.52で、女性が7.00となっています。また、女性は男性よりも「8点」が高くなっています。



- 年齢別について、10歳代から50歳代は「7点」が、60歳代と70歳以上は「8点」が最も高くなっています。平均値は10歳代が6.36、20歳代が6.89、30歳代が7.07、40歳代が6.88、50歳代が6.67、60歳代が6.73、70歳以上6.58となっています。

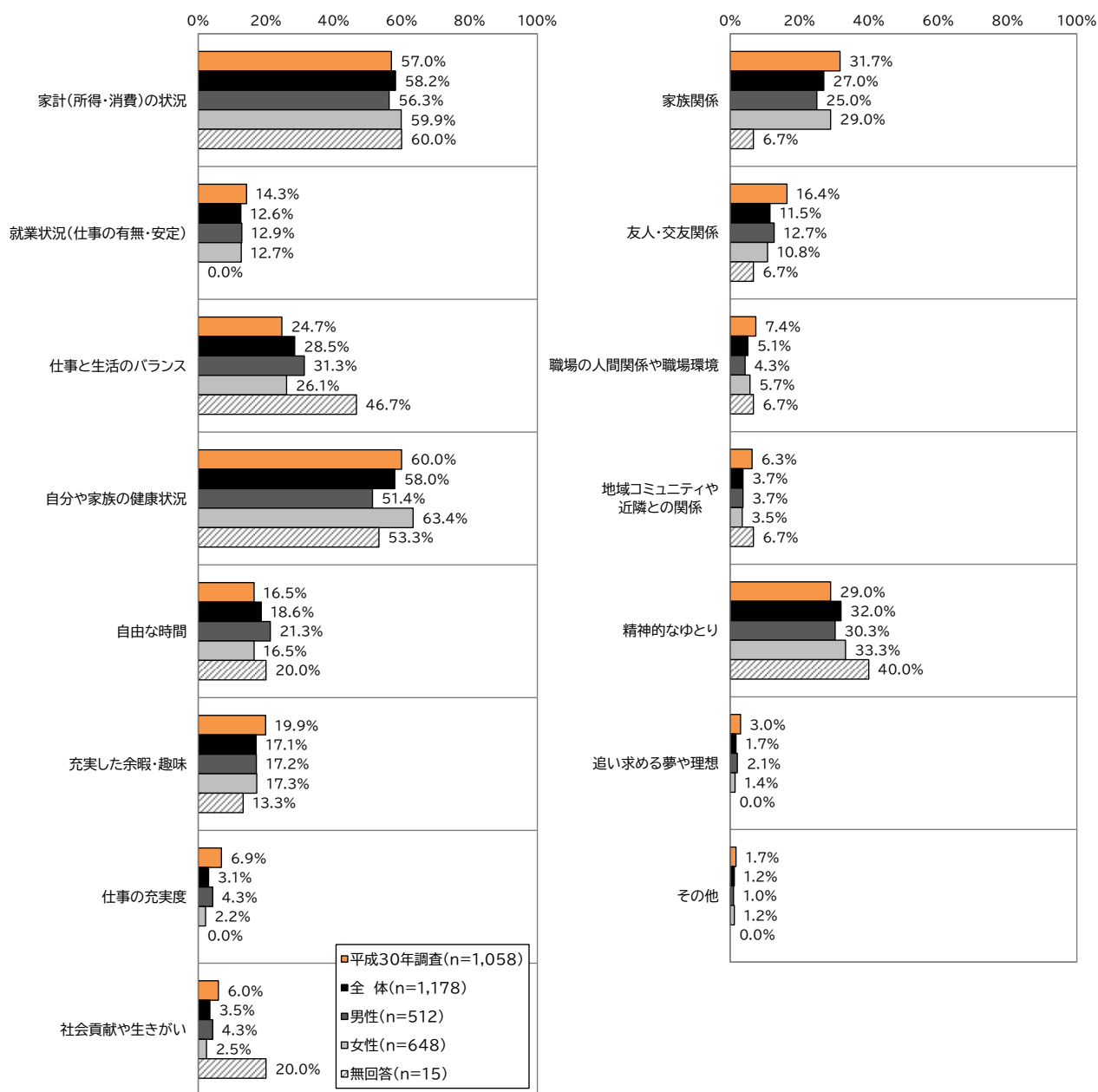


- 地区別について、川島地区、鵜沼地区、蘇原地区は「7点」が、那加地区は「8点」が最も高くなっています。稲羽地区は「5点」、「7点」、「8点」が同率で最も高くなっています。平均値は那加地区が6.99、稲羽地区が6.70、川島地区が6.67、鵜沼地区が6.83、蘇原地区6.58となっています。

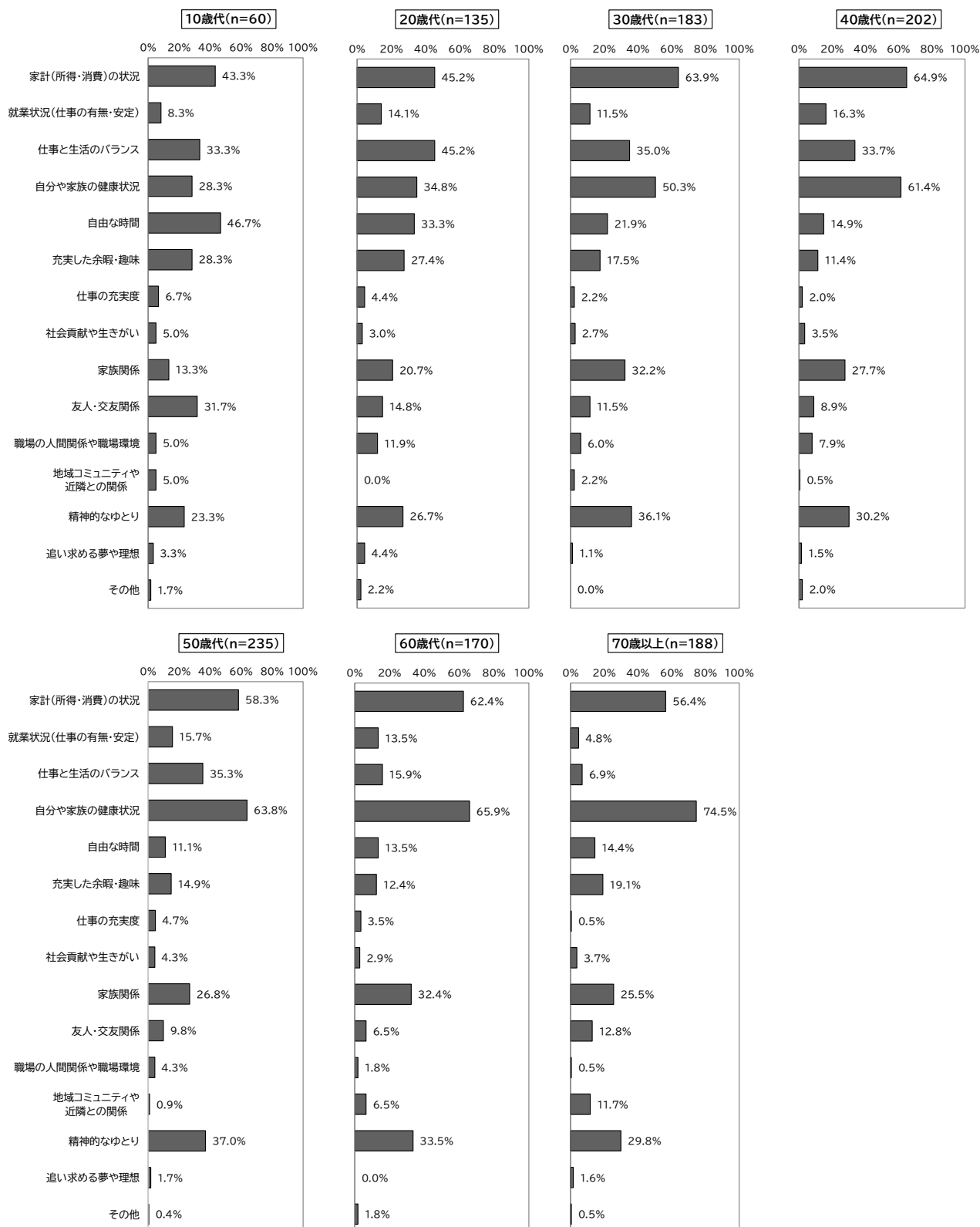


問41 あなたが幸せであるために重要だと思うことは何ですか。（〇は3つまで）

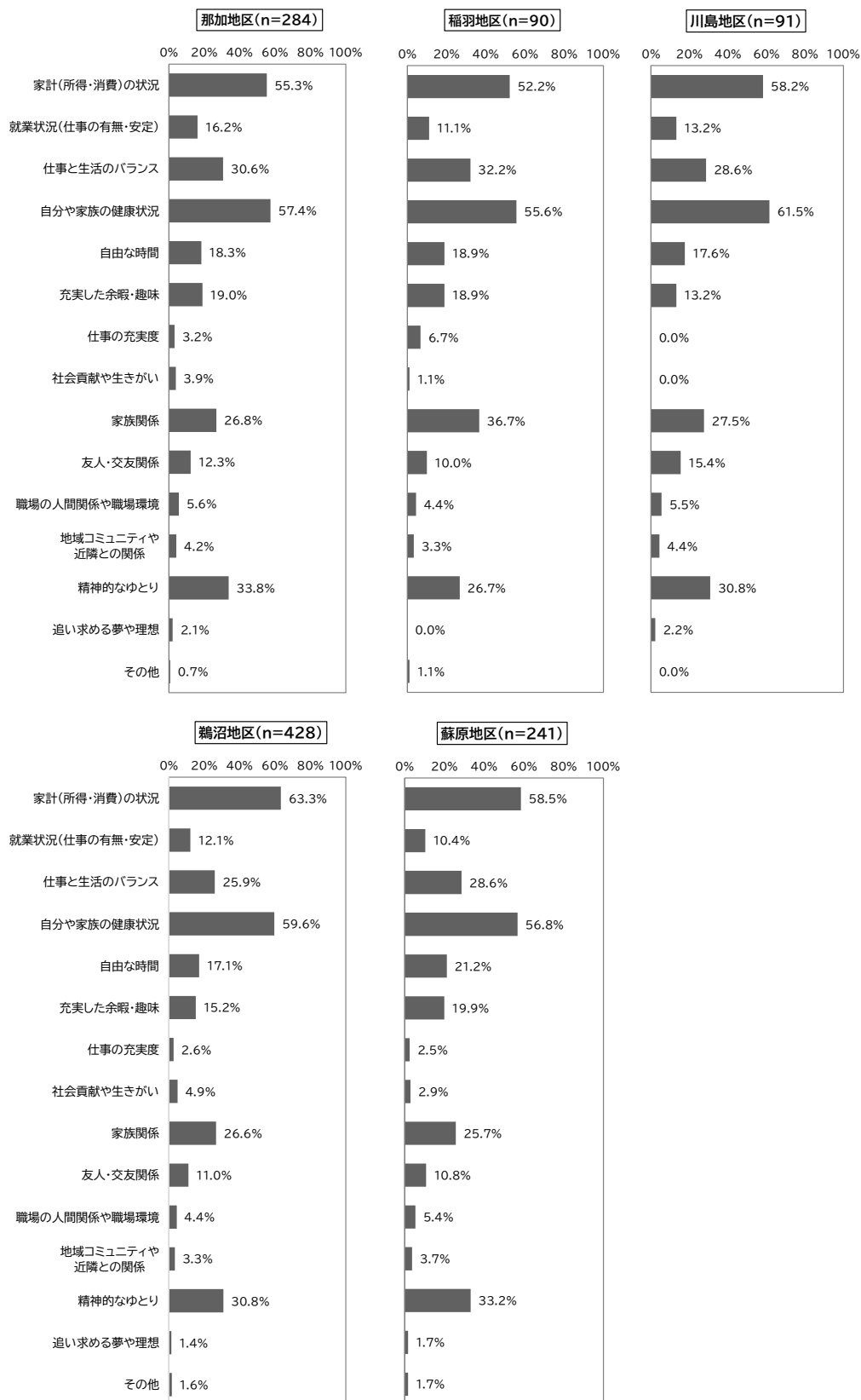
- 全体について、「家計（所得・消費）の状況」が58.2%と最も高く、次いで「自分や家族の健康状況」が58.0%となっています。また、前回調査（平成30年調査）よりも「仕事と生活のバランス」などが高くなっています。
- 性別について、男性で「家計（所得・消費）の状況」が、女性で「自分や家族の健康状況」が最も高くなっています。また、男性は女性よりも「仕事と生活のバランス」が高く、女性は「自分や家族の健康状況」が高くなっています。



- 年齢別について、10歳代で「自由な時間」が、30歳代と40歳代で「家計（所得・消費）の状況」が、50歳代以上で「自分や家族の健康状況」が最も高くなっています。また、20歳代で「家計（所得・消費）の状況」と「仕事と生活のバランス」が同率で最も高くなっています。10歳代は他の年代よりも「自由な時間」、「友人・交友関係」が高く、20歳代は「仕事と生活のバランス」、「自由な時間」が高く、50歳代以上は「自分や家族の健康状況」が高くなっています。



- 地区別について、鵜沼地区、蘇原地区は「家計（所得・消費）の状況」が、那加地区、稲羽地区、川島地区は「自分や家族の健康状況」が最も高くなっています。



(8) 自由意見

自由意見は、別途「その他・自由意見集」掲載

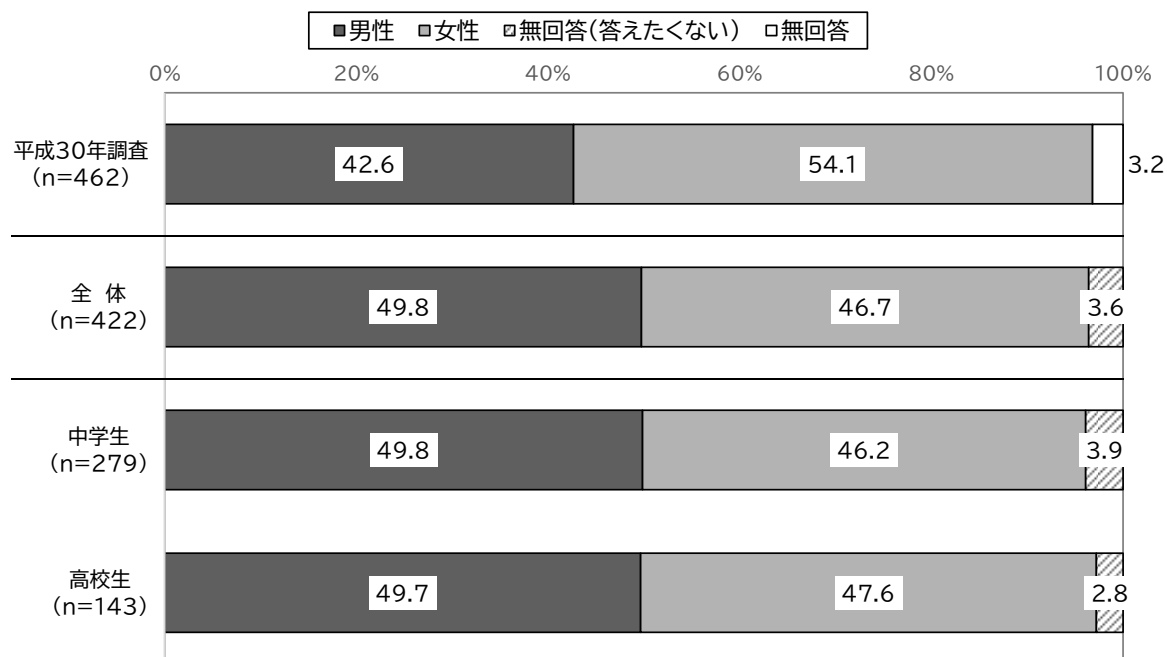
最後に、市政や地域の将来像、今後市として取り組むべきことなどについて、ご意見、ご提言がありましたら自由にお書きください。皆様からお寄せいただいたご意見やご提言は、市政運営の参考とさせていただきます。

2. 市民意識調査（中高生）結果

（１）最初に、あなたご自身についてうかがいます

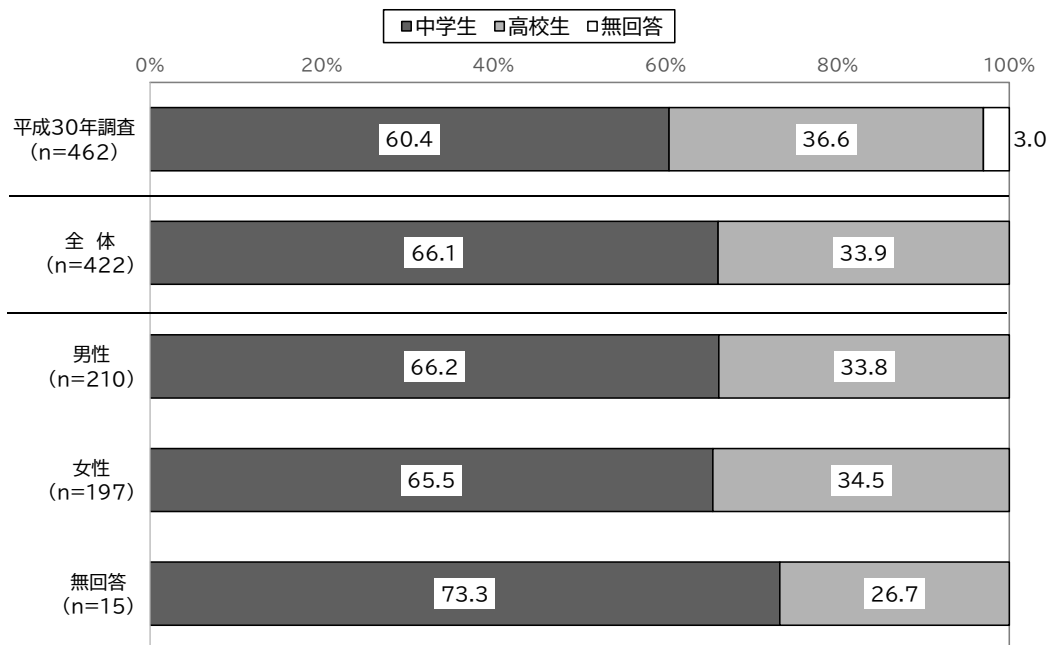
問１ あなたの性別をお答えください。（いずれかに○）

- 性別について、「男性」が49.8%、「女性」が46.7%となっています。
- 学年別について、中学生では男性が49.8%、女性が46.2%となっており、高校生では男性が49.7%、女性が47.6%となっています。



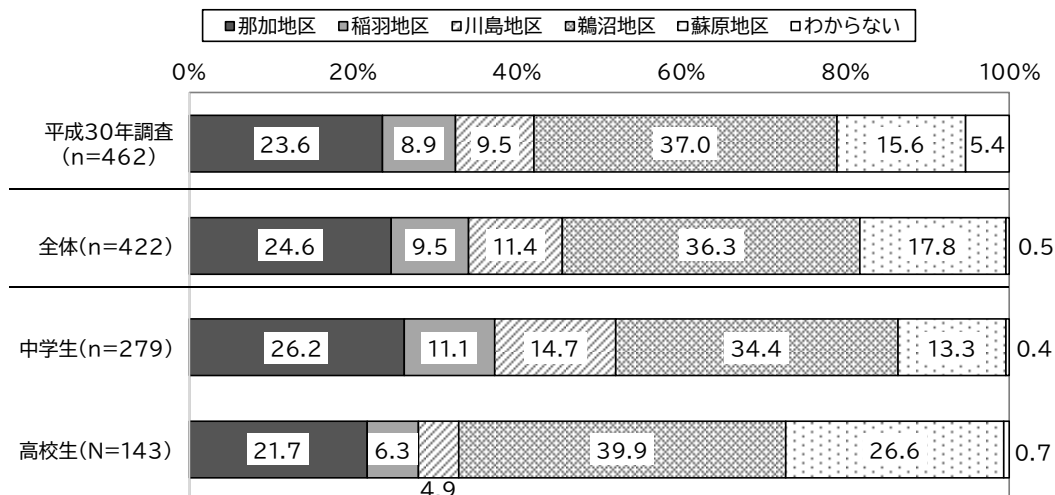
問2 あなたの学年をお答えください。（数字を記入）

- 学年について、中学生が66.1%、高校生の33.9%となっています。
- 性別について、男性は中学生が66.2%、女性が65.5%となっており、高校生は男性が33.8%、女性が34.5%となっています。



問3 あなたがお住まいの校区はどちらですか。（○は1つ）※校区がわからない方は町名を記入

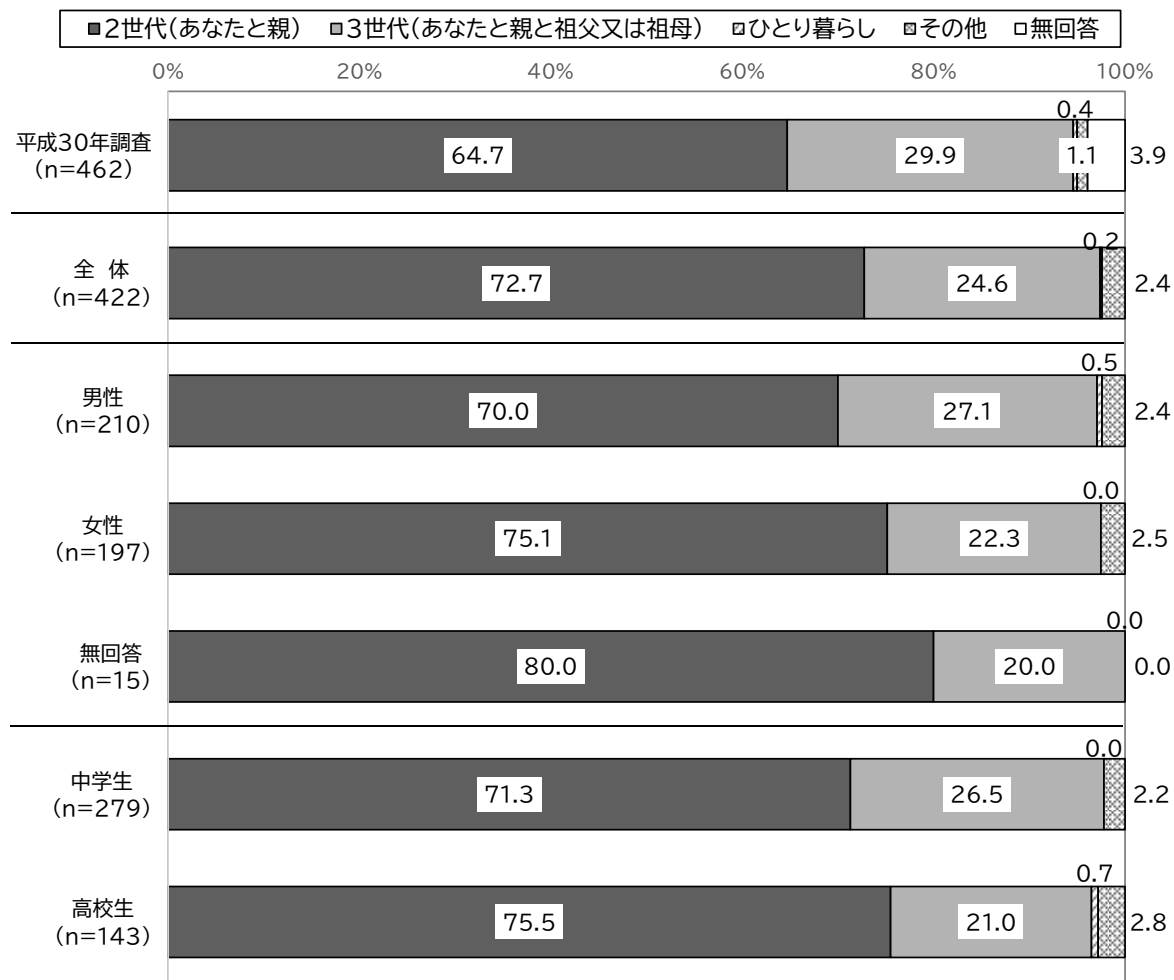
- 居住地の校区を地区ごとに集計したところ、「鵜沼地区」が36.3%と最も高く、次いで「那加地区」が24.6%となっています。
- 学年別について、中学生・高校生ともに「鵜沼地区」が最も多くなっています。



※「校区」から「地区」への集約については、I. 調査の概要を参照

問4 あなたの家族はどのような構成ですか。(○は1つ)

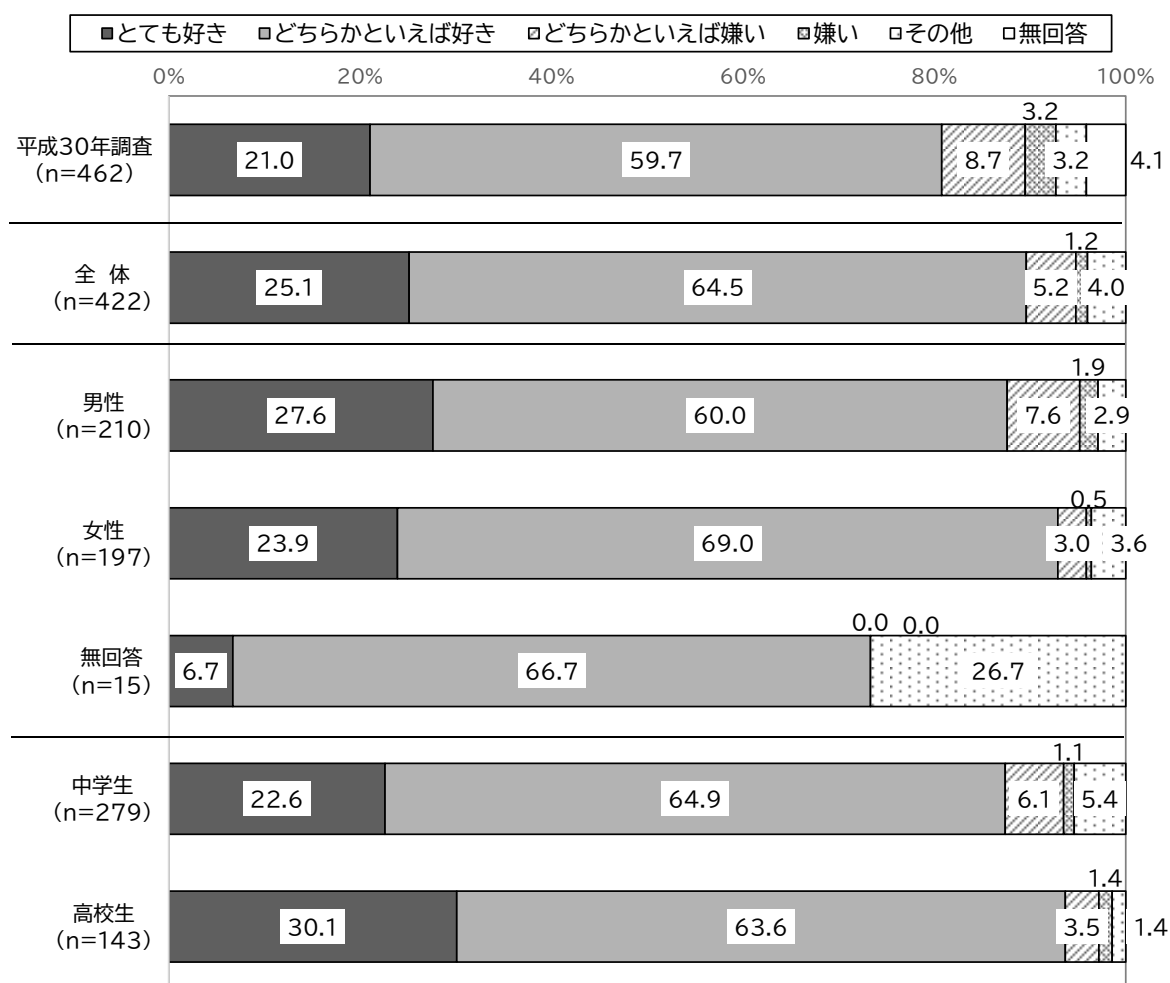
- 家族構成について、「2世代（あなたと親）」が72.7%と最も高く、次いで「3世代（あなたと親と祖父又は祖母）」が24.6%となっています。
- 性別について、男性、女性ともに「2世代（あなたと親）」が最も高くなっています。
- 学年別について、中学生、高校生ともに「2世代（あなたと親）」が最も高くなっています。



(2) 各務原市への愛着や住みやすさについてうかがいます

問5 あなたは各務原市のことが好きですか。(○は1つ)

- 各務原市のことが好きかについて、「とても好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合が89.6%となっています。
- 前回調査（平成30年）に比べ、「とても好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合が高くなっています。
- 性別について、女性は「とても好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合が92.9%で、男性を5.3ポイント上回っています。
- 学年別について、高校生は「とても好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合が93.7%で、中学生を6.2ポイント上回っています。



自由記述のため別途「その他・自由意見集」掲載

＜問 5 で「 1. とても好き」または「 2. どちらかといえば好き」と回答した方におたずねします。＞

問 6 「好き」と思う理由を自由に書いてください。

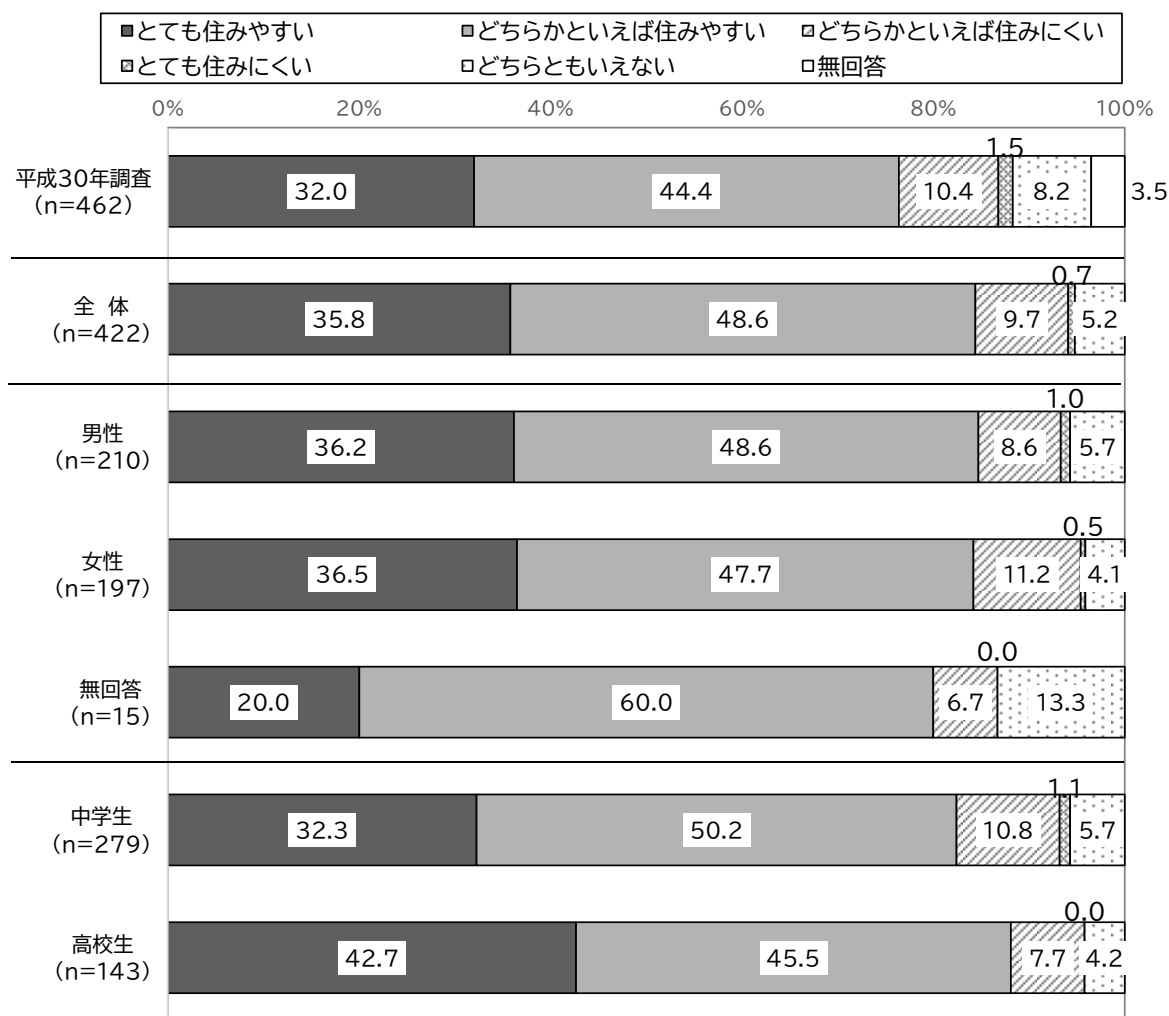
自由記述のため別途「その他・自由意見集」掲載

＜問 5 で「 3. どちらかといえば嫌い」または「 4. 嫌い」と回答した方におたずねします。＞

問 7 「嫌い」と思う理由を自由に書いてください。

問8 あなたは、各務原市の住みやすさについてどのように感じますか。(○は1つ)

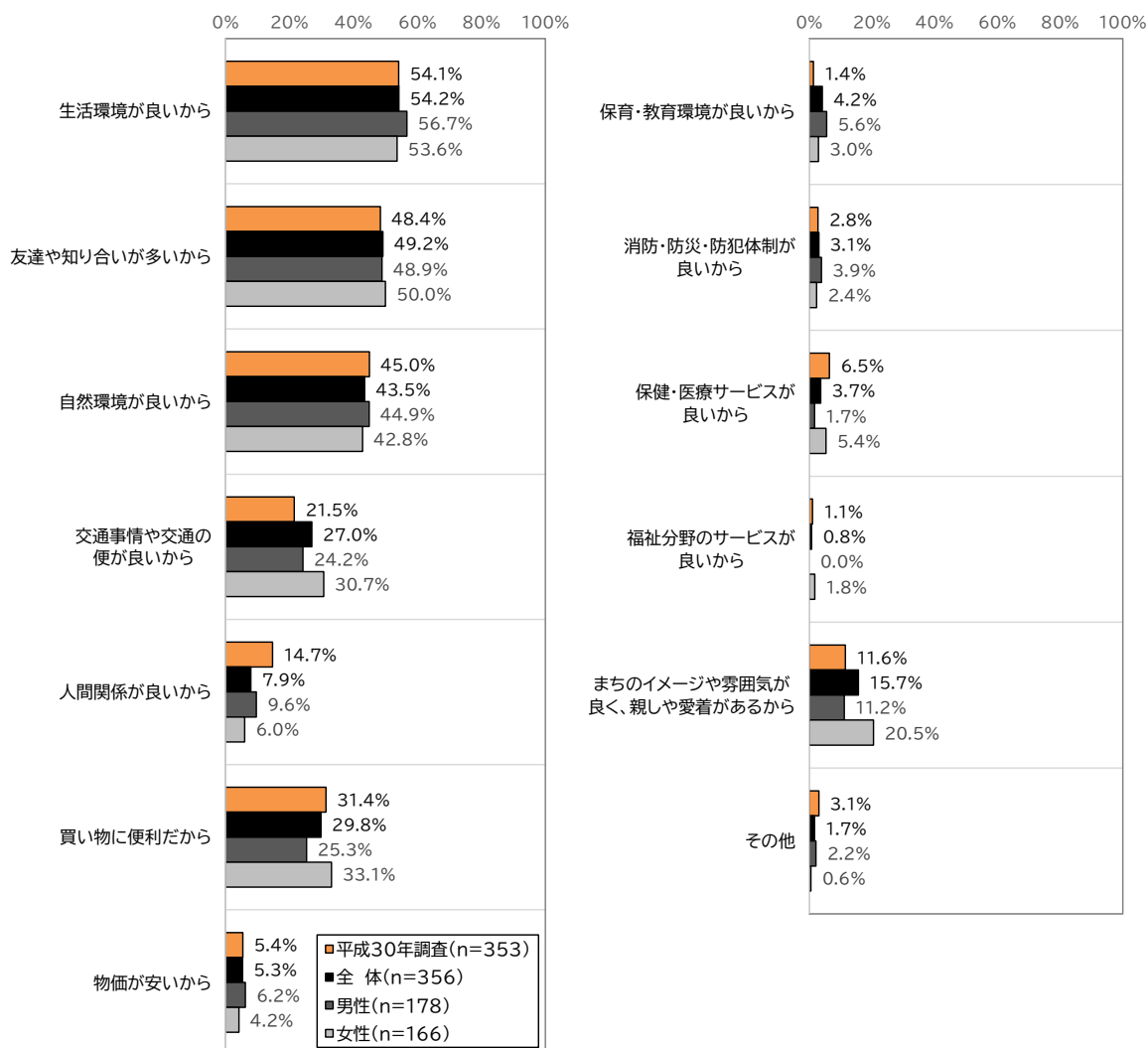
- 各務原市の住みやすさについて、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は84.4%となっています。
- 前回調査（平成30年）に比べ、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が高くなっています。
- 性別について、男性は「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が84.8%で、女性の84.2%とほぼ同率となっています。
- 学年別について、高校生は「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が88.2%で、中学生を5.7ポイント上回っています。

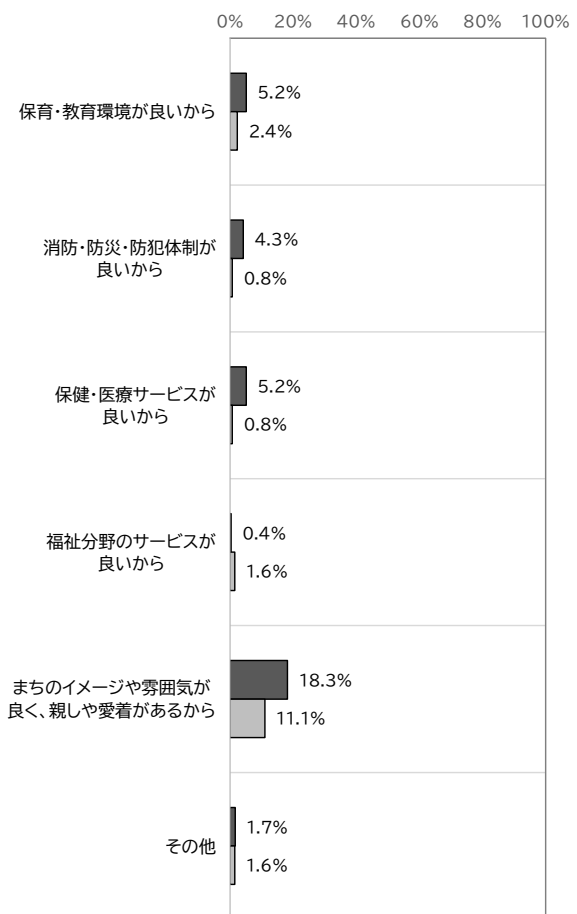
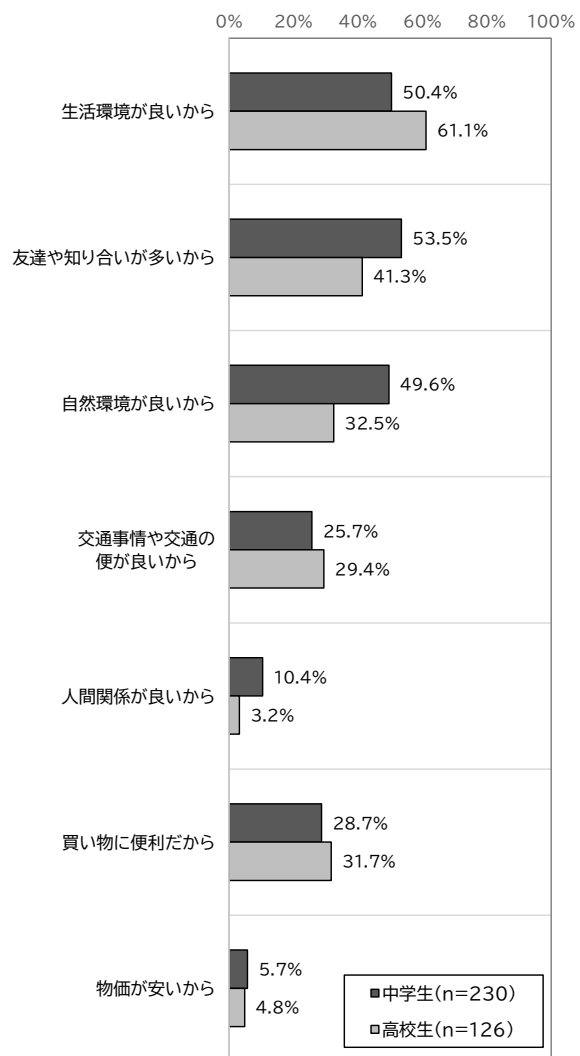


＜問 8 で「 1. とても住みやすい」または「 2. どちらかといえば住みやすい」と回答した方におたずねします。＞

問 9 住みやすいと思われる理由は何ですか。（あてはまる主なもの 3 つまでに○）

- 住みやすいと思う理由について、「生活環境が良いから」が54.2%で最も高く、次いで「友達や知り合いが多いから」が49.2%となっています。
- 性別について、男女ともに「生活環境が良いから」が最も高くなっています。
- 学年別について、中学生は「友達や知り合いが多いから」、高校生は「生活環境が良いから」が最も高くなっています。高校生は中学生に比べ、「生活環境が良いから」が高くなっています。

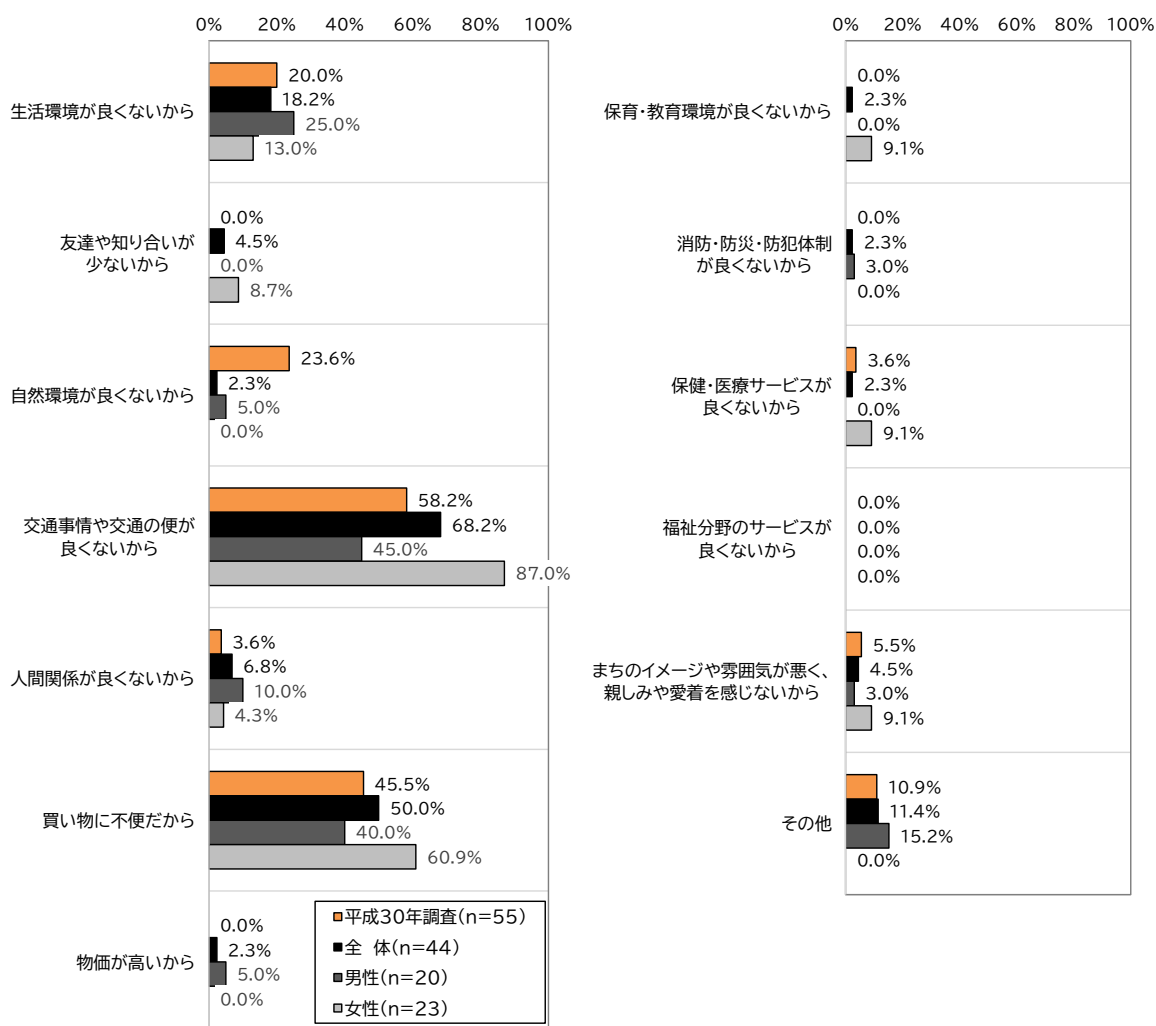


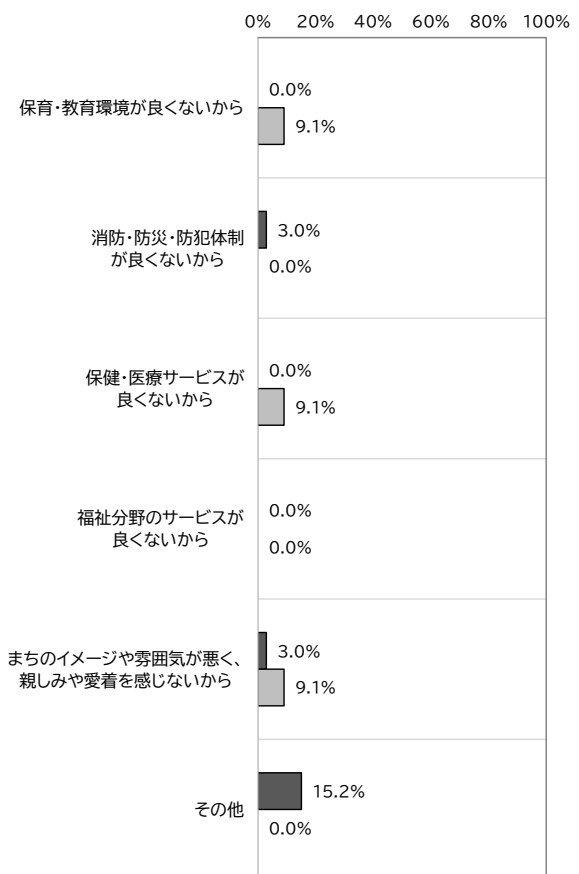
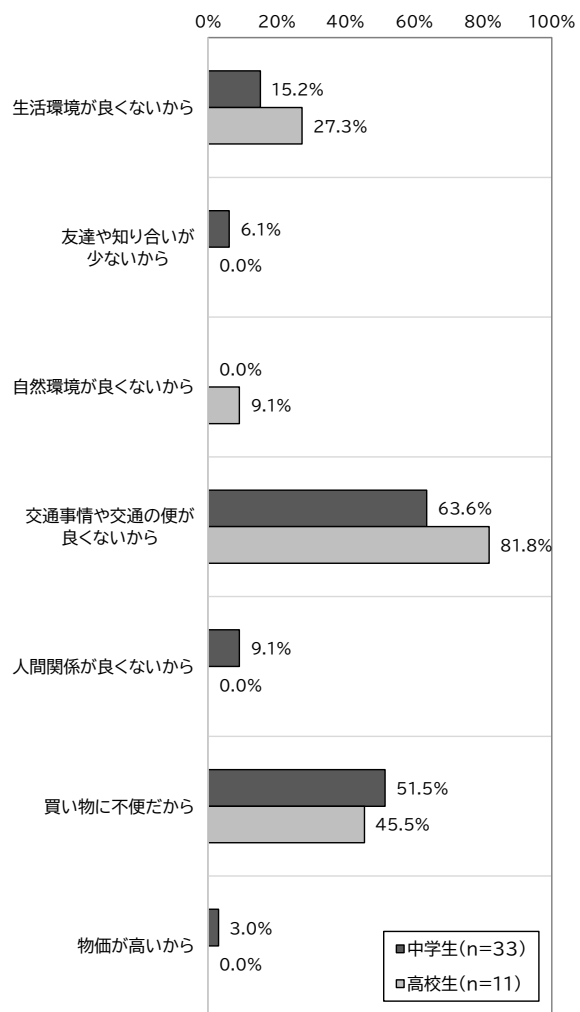


<問8で「3. どちらかといえば住みにくい」または「4. とても住みにくい」と回答した方におたずねします。>

問10 住みにくいと思われる理由は何ですか。(あてはまる主なもの3つまでに○)

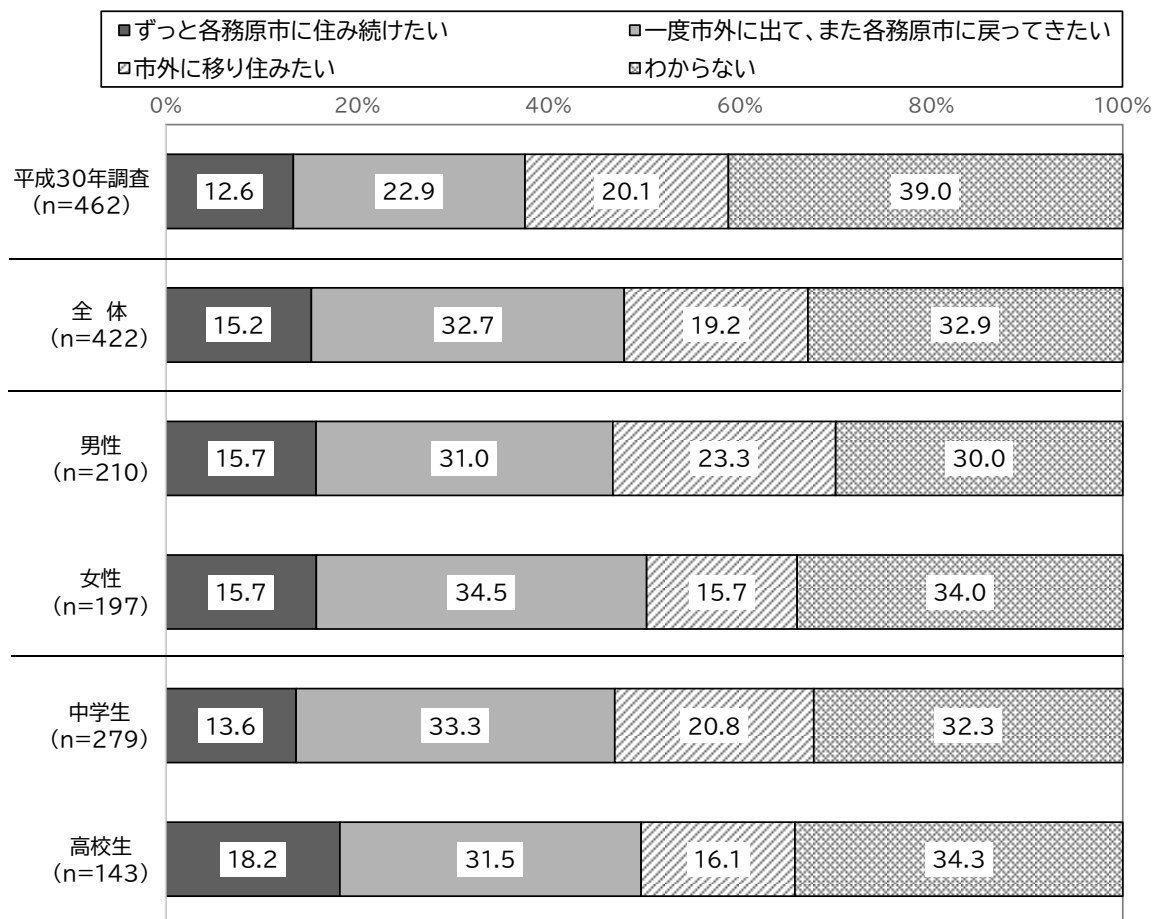
- 住みにくいと思う理由について、「交通事情や交通の便が良くないから」が68.2%で最も高く、次いで「買い物に不便だから」が50.0%となっています。
- 前回調査（平成30年）に比べ、「自然環境が良くないから」などが低くなっています。
- 性別について、男女ともに「交通事情や交通の便が良くないから」が最も高くなっています。
- 学年別について、中学生・高校生ともに「交通事情や交通の便が良くないから」が最も高くなっています。





問11 あなたは将来、各務原市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

- 将来、各務原市に住み続けたいと思うかについて、「わからない」が32.9%と最も高く、次いで「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」が32.7%となっています。
- 前回調査（平成30年）に比べ、「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」が高くなっています。
- 性別について、男性、女性ともに「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」が最も高く、次いで「わからない」が高くなっています。
- 学年別について、中学生は「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」、高校生は「わからない」が最も高くなっています。



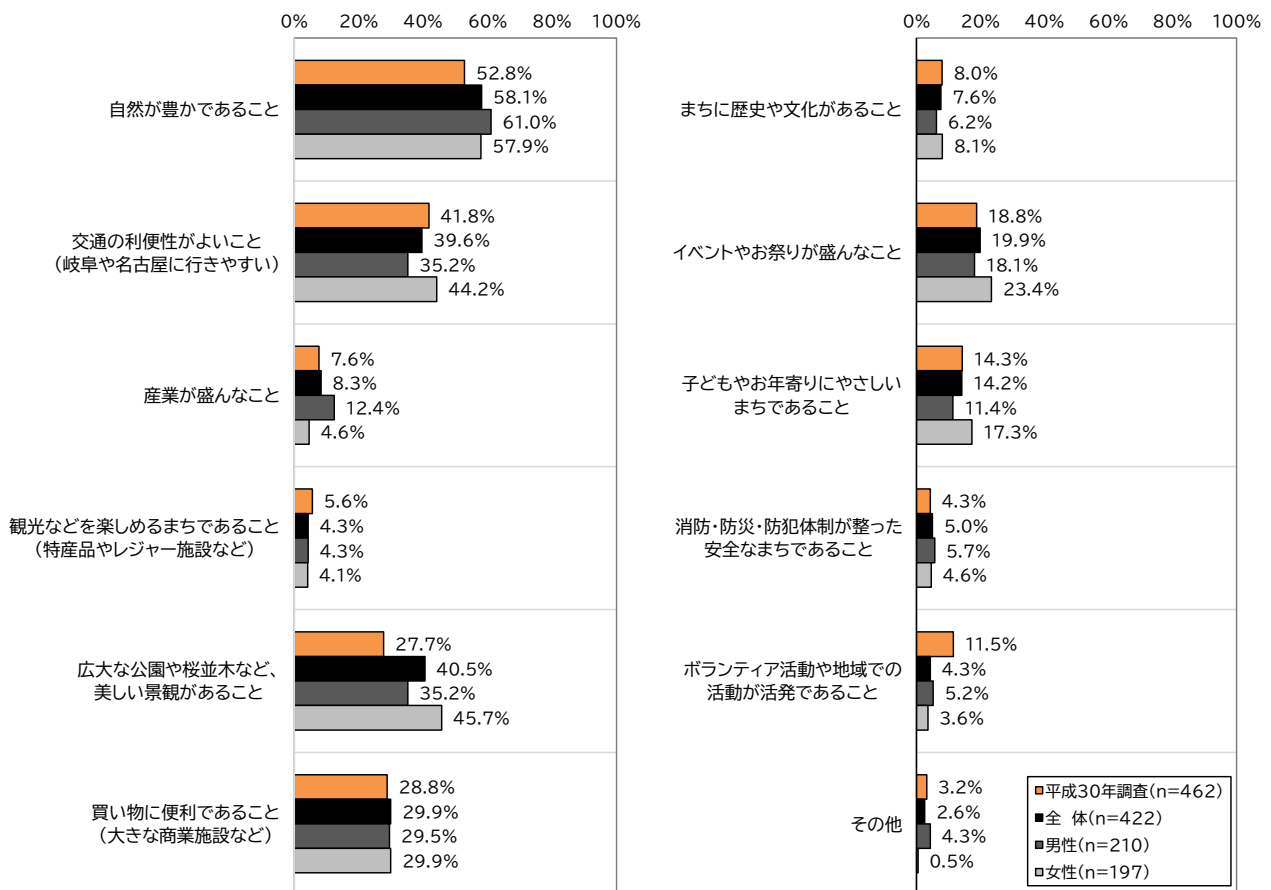
※平成30年調査は令和4年調査の「市外に移り住みたい」が「各務原市には住み続けたくない」である

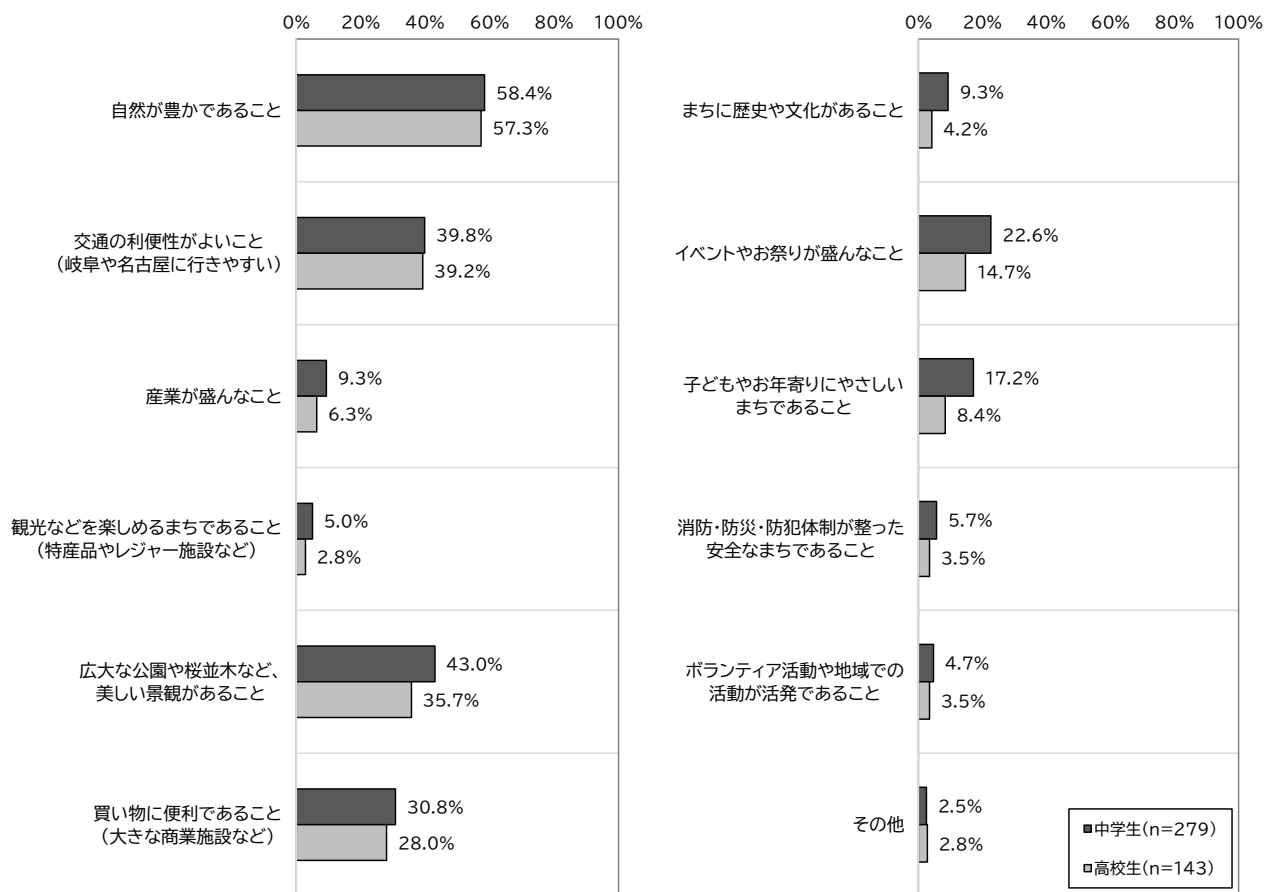
（３）各務原市のまちの魅力についてうかがいます

問12 あなたが思う、各務原市のまちとしての魅力はどのようなことですか。

（あてはまる主なものを3つまでに○）

- 各務原市のまちとしての魅力について、「自然が豊かであること」が58.1%と最も高く、次いで「広大な公園や桜並木など、美しい景観があること」が40.5%、「交通の利便性がよいこと（岐阜や名古屋に行きやすい）」が39.6%となっています。
- 前回調査（平成30年）に比べ、「広大な公園や桜並木など、美しい景観があること」などが高くなっています。
- 性別について、男性、女性ともに「自然が豊かであること」が最も高くなっています。
- 学年別について、中学生、高校生ともに「自然が豊かであること」が最も高く、中学生は「広大な公園や桜並木など、美しい景観があること」、高校生は「交通の利便性がよいこと（岐阜や名古屋に行きやすい）」が次いで高くなっています。



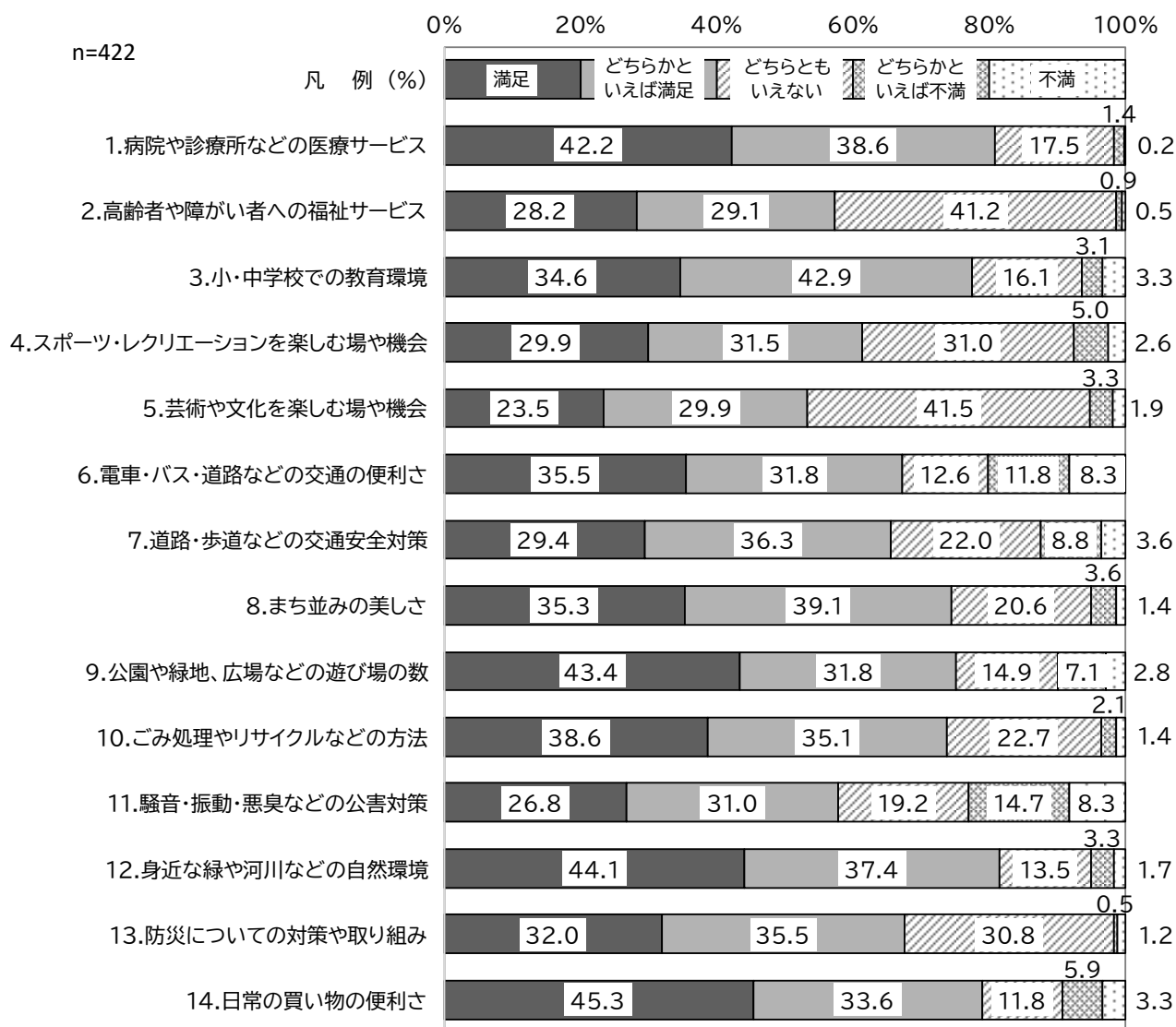


(4) 日常生活における満足度についてうかがいます

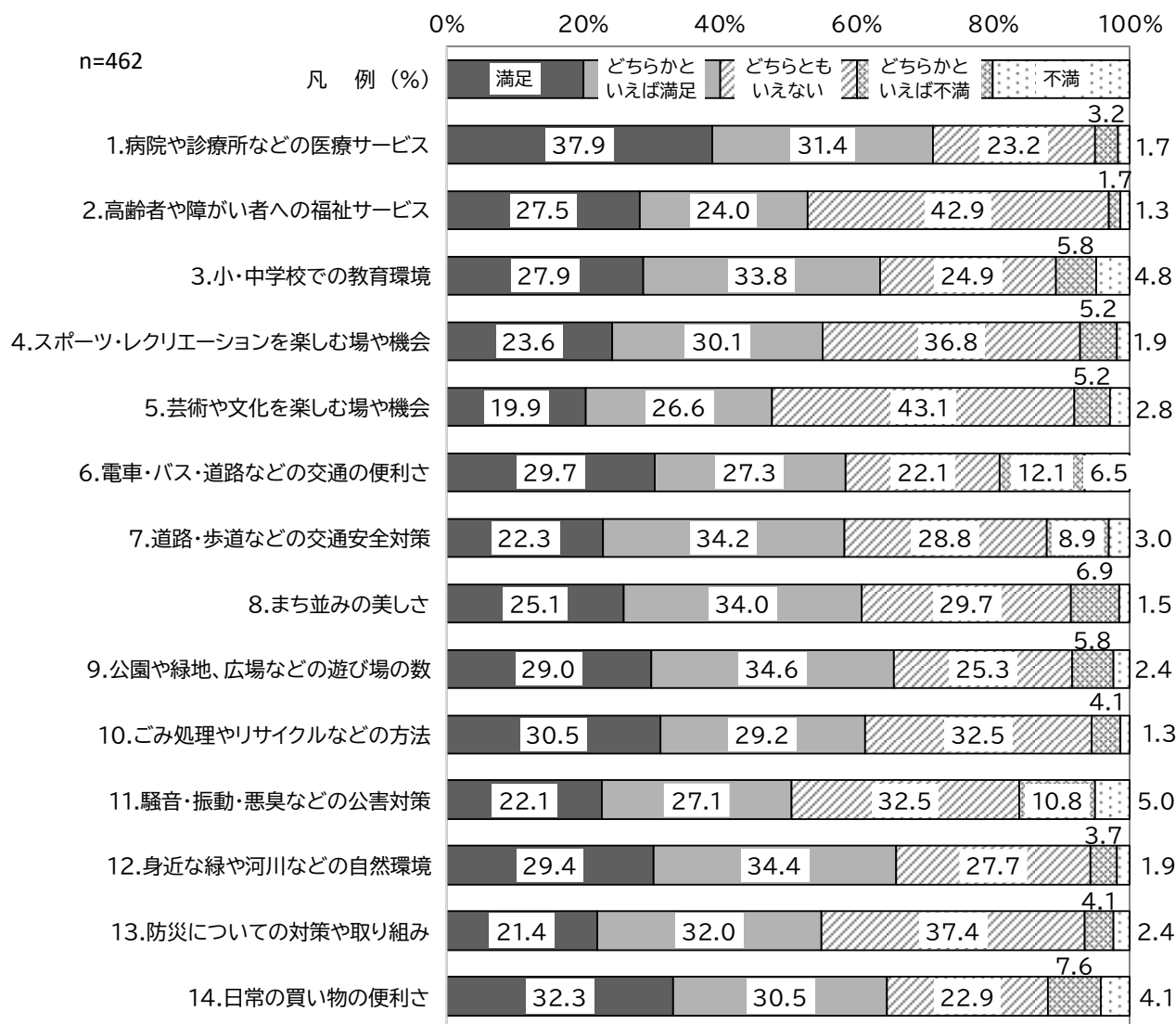
問13 あなたの身近な生活環境について、どの程度満足していますか。

次の1～14の項目について、満足度を1～5の中からそれぞれ1つ選んでください。

- 満足度について、「12.身近な緑や河川などの自然環境」で、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合が81.5%と最も高く、次いで「1.病院や診療所などの医療サービス」が80.8%、「14.日常の買い物の便利さ」が78.9%となっています。
- 「5.芸術や文化を楽しむ場や機会」が53.4%と最も低くなっています。
- 満足度の高い項目では、「3.小・中学校での教育環境」、「12.身近な緑や河川などの自然環境」、「14.日常の買い物の便利さ」などが、前回調査（平成30年）に比べ、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合が高くなっています。また、満足度の低い項目では、「11.騒音・振動・悪臭などの公害対策」などが前回調査に比べ、「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた割合が高くなっています。

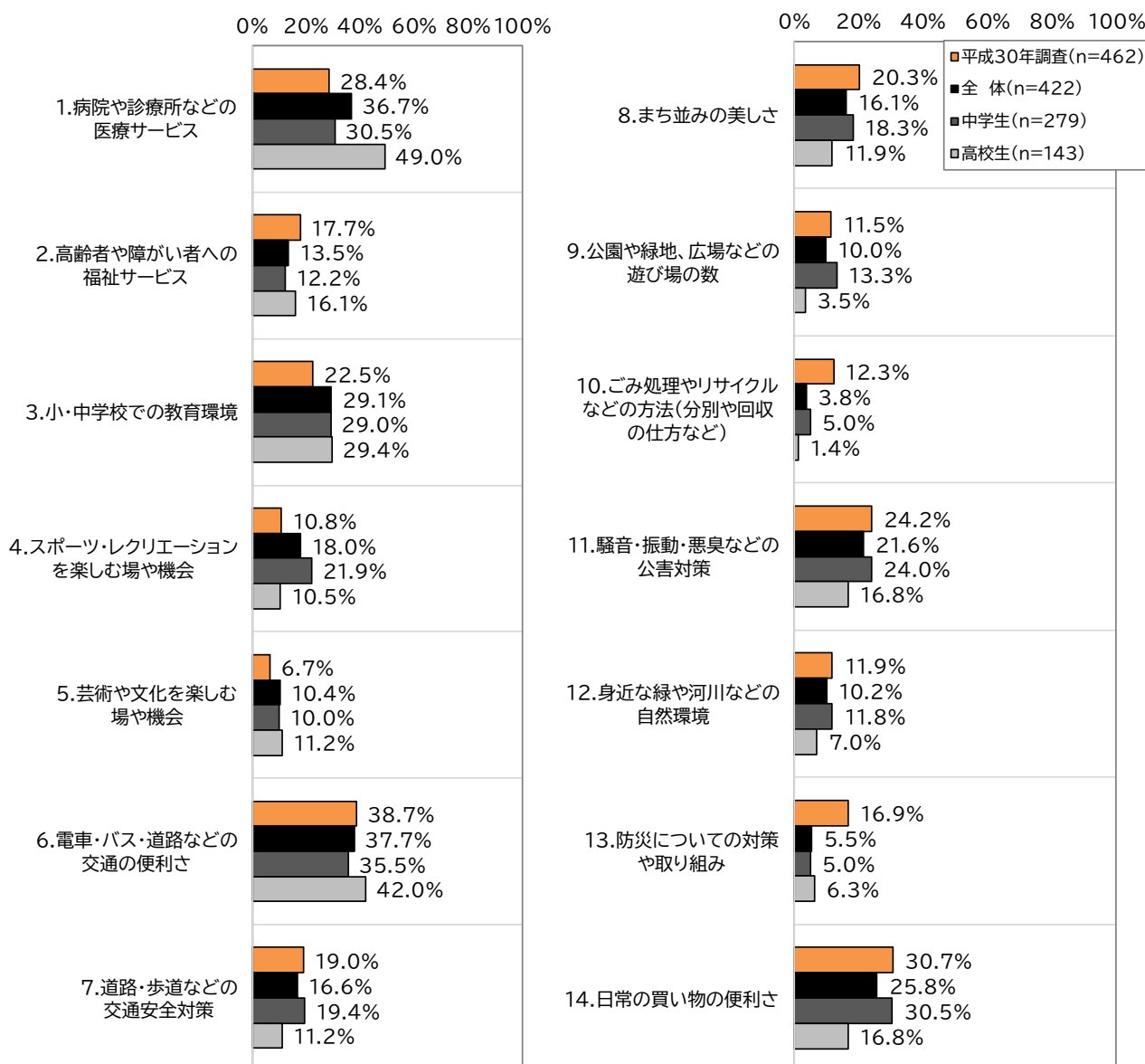


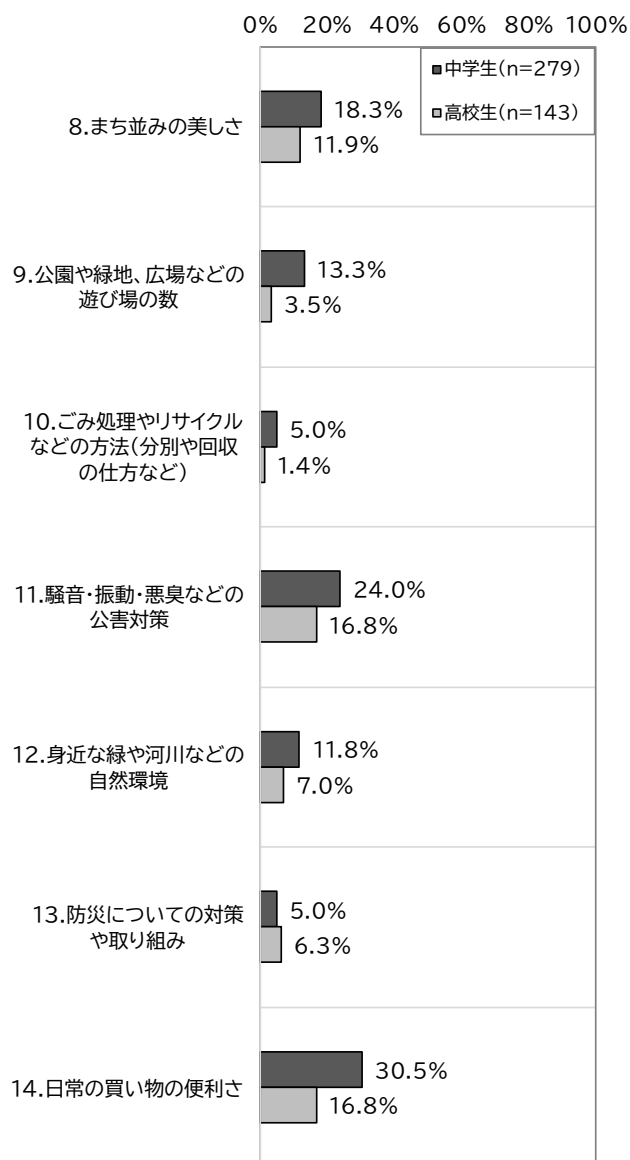
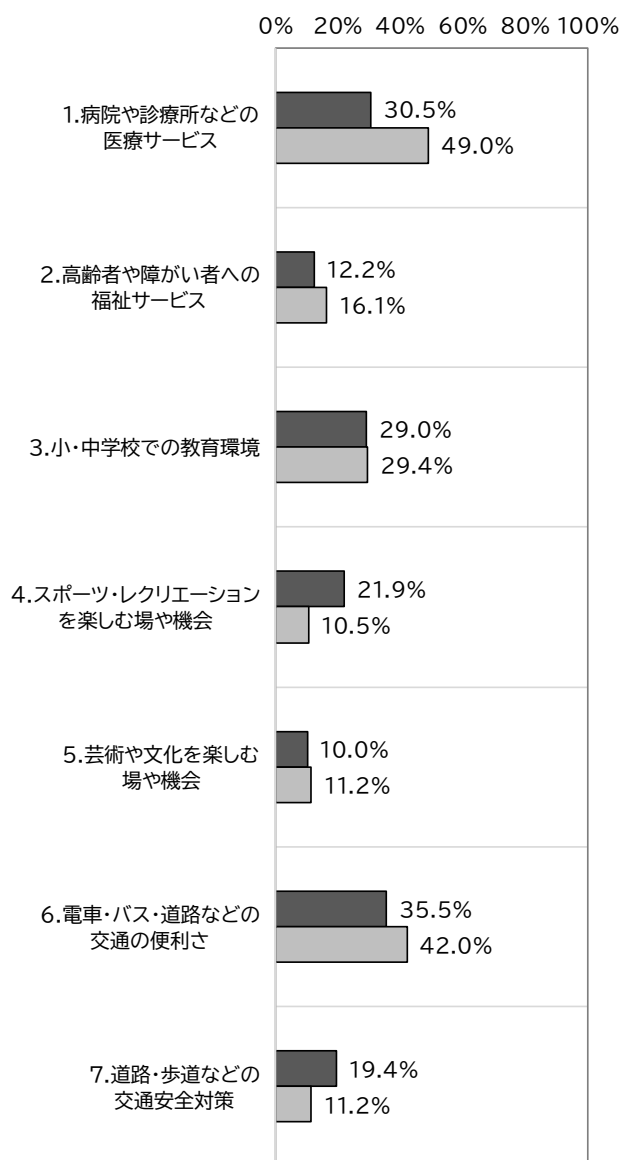
【H30 年調査結果】



問14 あなたの生活環境がより良くなるために、問13の項目の中であなたが特に重要だと思う項目について1～14の項目番号から3つまで選び、番号を記入してください。

- 特に重要と考える項目について、「6.電車・バス・道路などの交通の便利さ」が37.7%と最も高く、次いで「1.病院や診療所などの医療サービス」が36.7%、「3.小・中学校での教育環境」が29.1%となっています。
- 前回調査（平成30年）に比べ、「1.病院や診療所などの医療サービス」、「3.小・中学校での教育環境」などが高くなっています。
- 性別について、男性は「1.病院や診療所などの医療サービス」、「3.小・中学校での教育環境」が同率で最も高く、女性は「6.電車・バス・道路などの交通の便利さ」が最も高くなっています。
- 学年別について、中学生は「6.電車・バス・道路などの交通の便利さ」が最も高いが、高校生よりも低く、高校生は「1.病院や診療所などの医療サービス」が最も高く、中学生よりも高くなっています。



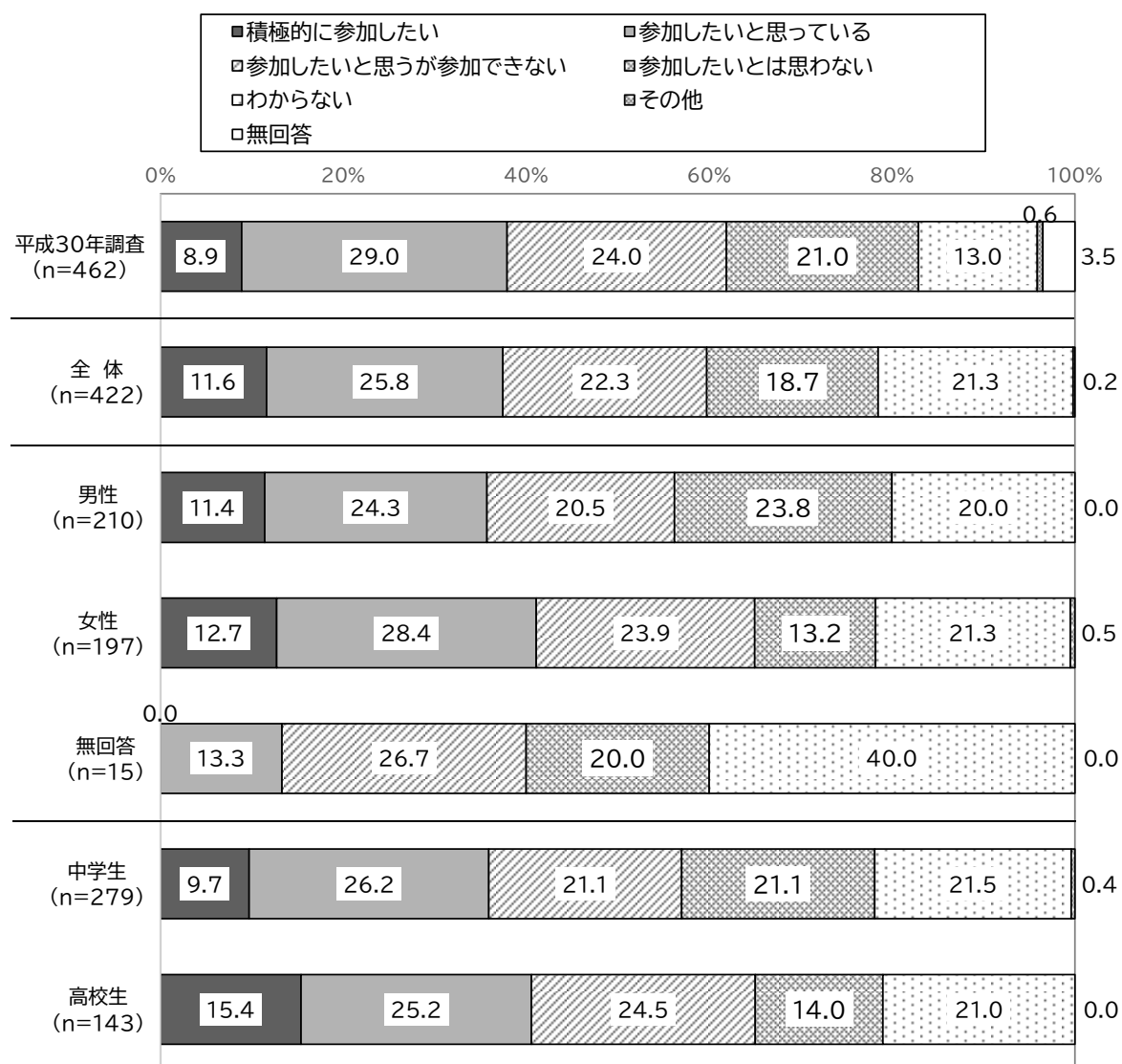


（５）まちづくりへの関心についてうかがいます

問15 あなたは、地域でのボランティア活動や、各務原市のまちをより良くする活動に参加したいと思いますか。

（○は1つ）

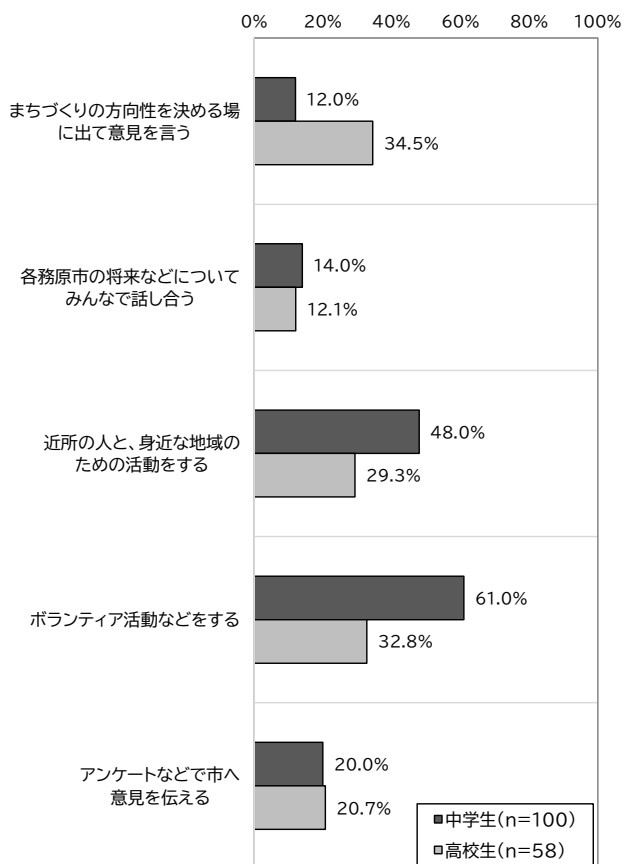
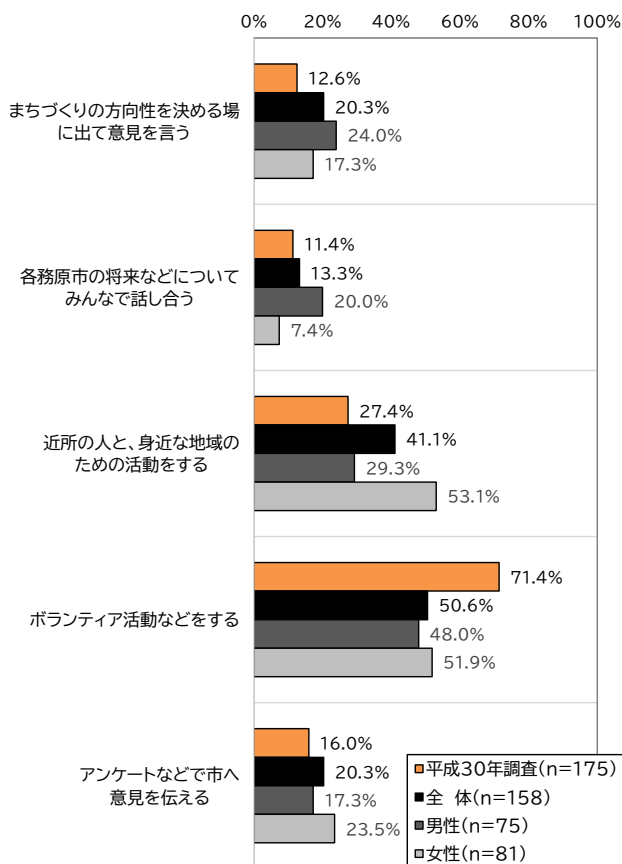
- まちをより良くする活動に参加したいかについて、「参加したいと思っている」が25.8%で最も高く、次いで「参加したいと思うが参加できない」が22.3%となっています。
- 性別について、「積極的に参加したい」と「参加したいと思っている」を合わせた割合では、男性が35.7%、女性が41.1%と女性が5.4ポイント上回っています。
- 学年別について、「積極的に参加したい」と「参加したいと思っている」を合わせた割合では中学生が35.9%、高校生が40.6%と高校生が4.7ポイント上回っています。



<問15で「1. 積極的に参加したい」または「2. 参加したいと思っている」と回答した方におたずねします。>

問16 どのような形で参加したいですか。（あてはまるものすべてに○）

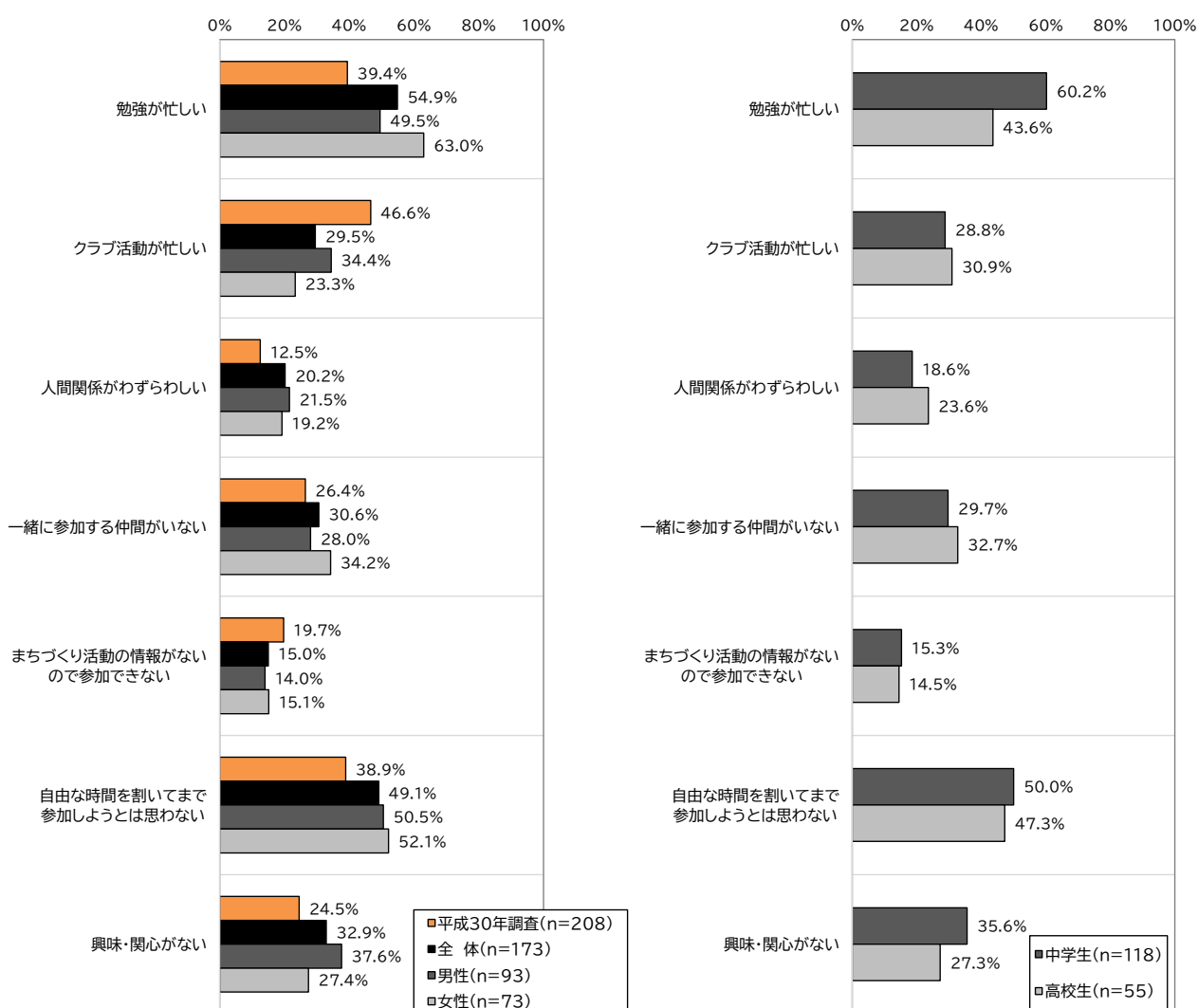
- どのような形で参加したいかについて、「ボランティア活動などをする」が50.6%で最も高く、次いで「近所の人と、身近な地域のための活動をする」が41.1%となっています。
- 前回調査（平成30年）に比べ、「ボランティア活動などをする」が低く、「近所の人と、身近な地域のための活動をする」などが高くなっています。
- 性別について、男性は「ボランティア活動などをする」、女性は「近所の人と、身近な地域のための活動をする」が最も高くなっています。
- 学年別について、中学生は「ボランティア活動などをする」が最も高く、高校生よりも高くなっています。高校生は「まちづくりの方向性を決める場に出て意見を言う」が最も高く、中学生よりも高くなっています。



＜問15で「3. 参加したいと思うが参加できない」または「4. 参加したいとは思わない」と回答した方におたずねします。＞

問17 参加できない、または、参加したいと思わないと思われる理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

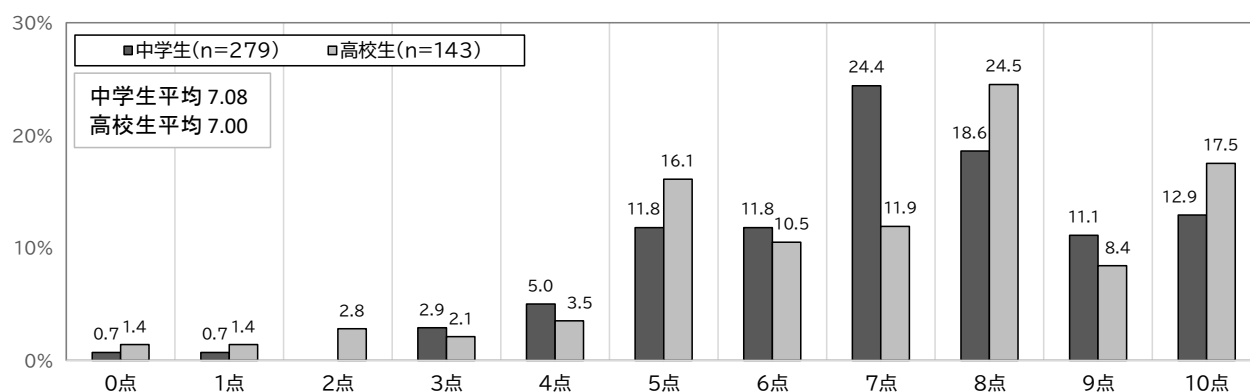
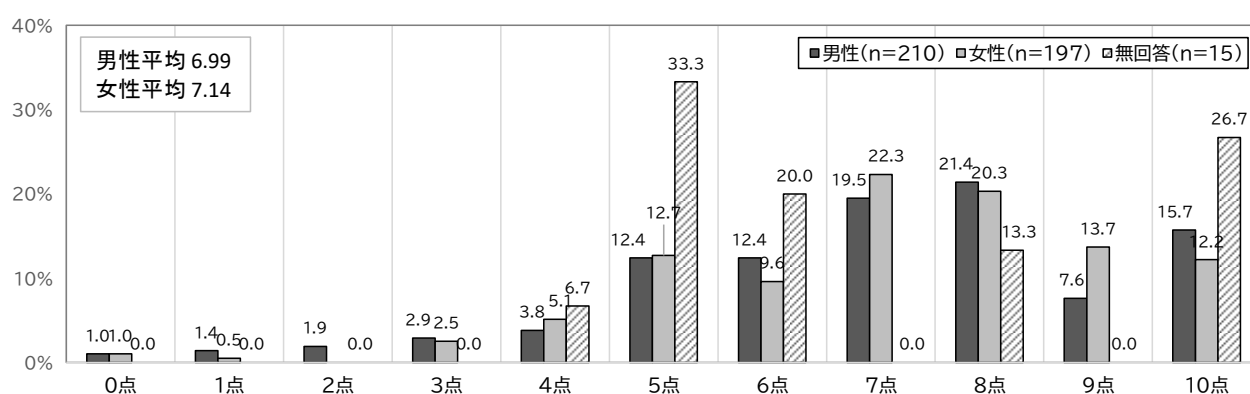
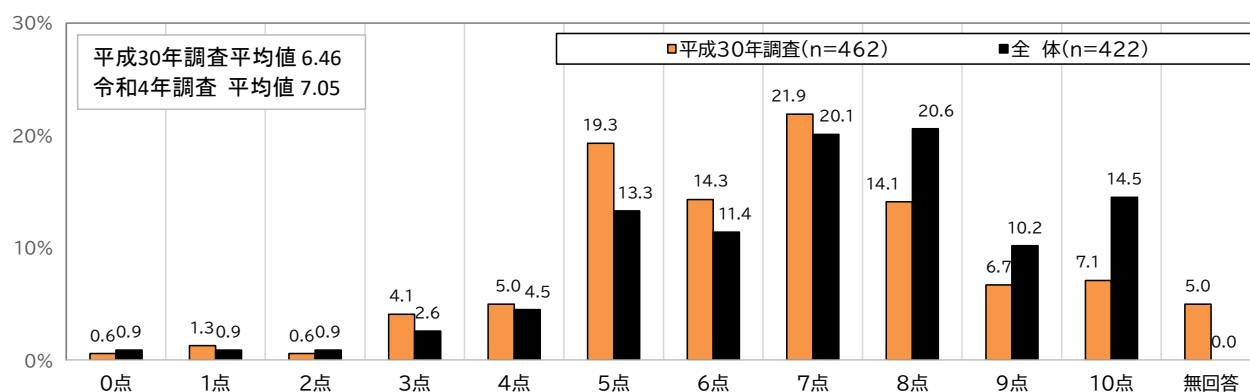
- 参加できないと思う理由について、「勉強が忙しい」が54.9%で最も高く、次いで「自由な時間を割いてまで参加しようとは思わない」が49.1%となっています。
- 前回調査（平成30年）に比べ、「勉強が忙しい」、「自由な時間を割いてまで参加しようとは思わない」などが高くなっています。
- 性別について、男性は「自由な時間を割いてまで参加しようとは思わない」、女性は「勉強が忙しい」が最も高くなっています。
- 学年別について、中学生は「勉強が忙しい」が最も高く、高校生は「自由な時間を割いてまで参加しようとは思わない」が最も高くなっています。



(6) あなたの幸せについてうかがいます

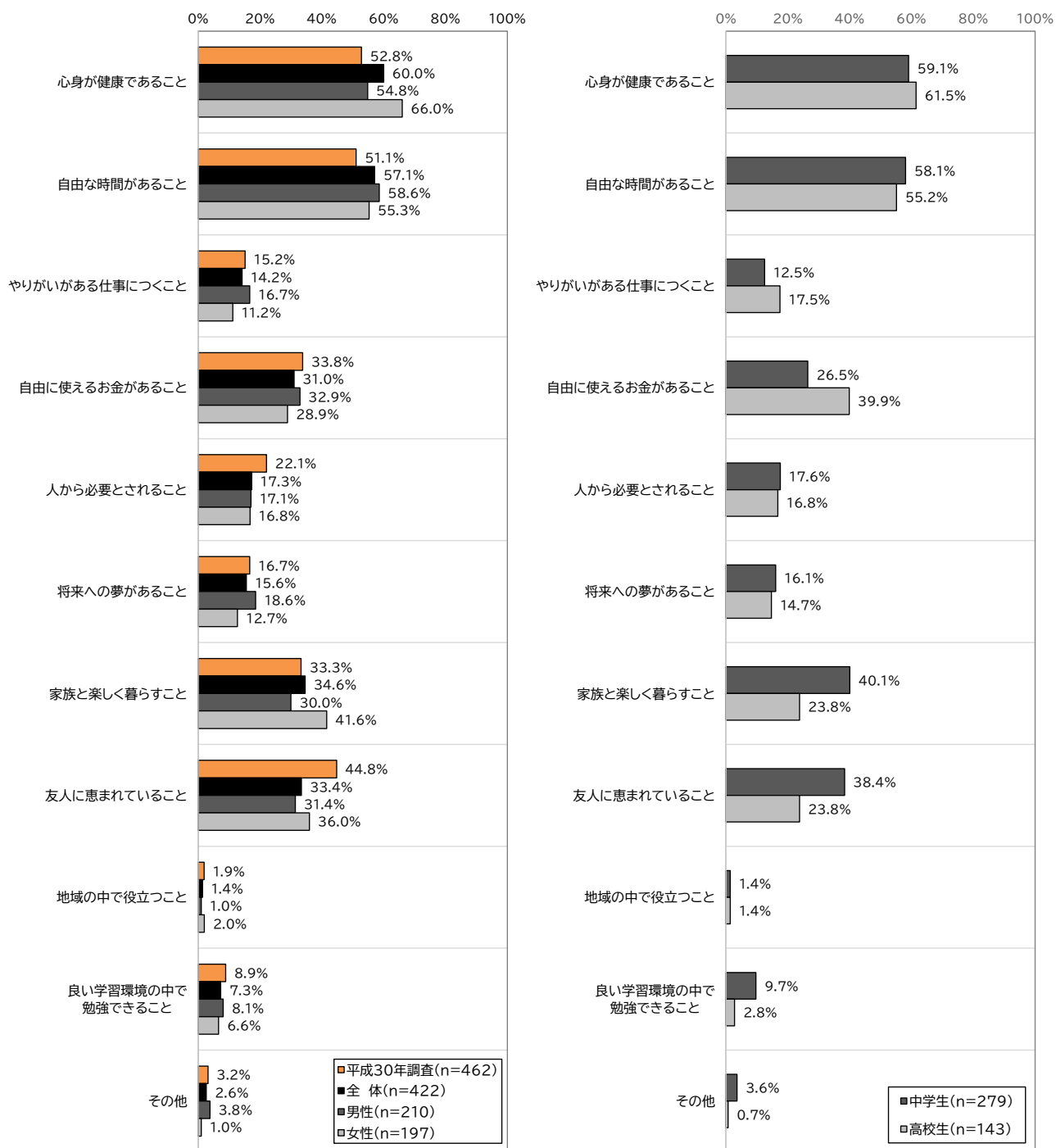
問18 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、何点くらいになると思いますか。(0～10点までの間で1つに○)

- 幸福度について、「8点」が20.6%と最も高く、次いで「7点」が20.1%、「10点」が14.5%となっています。平均値は7.05となっています。
- 前回調査（平成30年）に比べ、「8点」、「9点」、「10点」が高くなっており、平均値は0.59ポイント高くなっています。
- 性別について、男性は「8点」、女性は「7点」が最も高くなっています。平均値は、男性よりも女性の方が高くなっています。
- 学年別について、中学生は「7点」、高校生は「8点」が最も高くなっています。中学生は高校生に比べ「7点」の割合が高くなっています。平均値は、高校生よりも中学生の方が高くなっています。



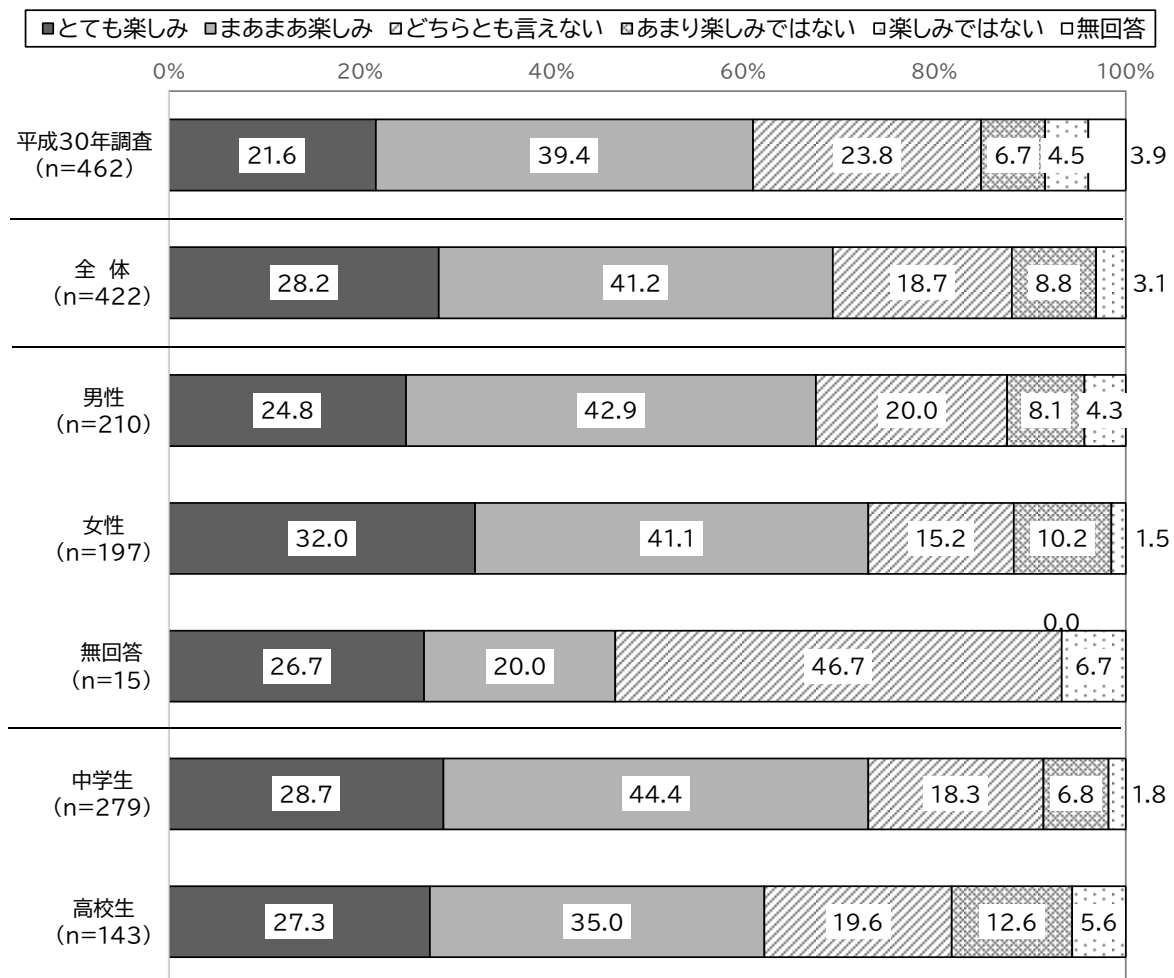
問19 あなたが幸せであるために重要だと思うことは何ですか。（あてはまる主なもの3つまでに○）

- 幸せであるために重要だと思うことについて、「心身が健康であること」が60.0%と最も高く、次いで「自由な時間があること」が57.1%、「家族と楽しく暮らすこと」が34.6%となっています。
- 前回調査（平成30年）に比べ、「心身が健康であること」、「自由な時間があること」などが高くなっています。
- 性別について、男性は「自由な時間があること」、女性は「心身が健康であること」が最も高くなっています。
- 学年別について、中学生、高校生ともに「心身が健康であること」が最も高くなっています。中学生は高校生よりも「家族と楽しく暮らすこと」、「友人に恵まれていること」が高くなっています。高校生は中学生よりも「自由に使えるお金があること」が高くなっています。



問20 あなたは、自分の将来が楽しみですか。(○は1つ)

- 自分の将来が楽しみかについて、「まあまあ楽しみ」が41.2%と最も高く、次いで「とても楽しみ」が28.2%となっています。
- 前回調査（平成30年）に比べ、「とても楽しみ」が高くなっています。
- 性別について、女性は「とても楽しみ」と「まあまあ楽しみ」を合わせた割合が73.1%で、男性の67.7%を5.4ポイント上回っています。
- 学年別について、高校生は「とても楽しみ」と「まあまあ楽しみ」を合わせた割合が62.3%で、中学生の73.1%より10.8ポイント下回っています。



(7) あなたのアイデアをうかがいます

自由記述のため別途「その他・自由意見集」掲載

問21 もし、あなたが各務原市の市長だったらどんな「まちづくり」をしたいですか。

「こんなまちを作りたい！」という思いをお書きください。

- ①まちのキャッチフレーズは？
- ②何に力を入れたいですか？
- ③どんなまちにしたいですか？

自由記述のため別途「その他・自由意見集」掲載

自由意見 最後に、各務原市がもっと住みよく、より良いまちになるためのアイデアや意見などを、ご自由にお書きください。

IV. 調査票

1. 市民意識調査（18歳以上）の調査票

1 最初に、あなたご自身についてうかがいます。

問1 あなたの性別をお答え下さい。（いずれかに○）

1. 男性 2. 女性 3. 無回答

問2 あなたは何歳ですか。（数字を記入）

（ ） 歳

問3 あなたの職業を教えてください。（○は1つ）

1. 農林水産業 2. 自営業 3. 会社員 4. 団体職員・公務員 5. 自由業
6. パート・アルバイト・派遣社員・契約社員 7. 学生 8. 主婦・主夫
9. 無職 10. その他（ ）

＜問3で「1」～「7」と回答した方におたずねします。＞

問4 あなたの通勤（または通学）先はどちらですか。（○は1つ）

1. 各務原市内 2. 各務原市以外（ 市・町・村）

問5 あなたがお住まいの校区はどちらですか。（○は1つ）※校区がわからない方は町名を記入

1. 那加第一小学校 2. 那加第二小学校 3. 那加第三小学校 4. 尾崎小学校
5. 稲羽西小学校 6. 稲羽東小学校 7. 川島小学校 8. 鵜沼第一小学校
9. 鵜沼第二小学校 10. 鵜沼第三小学校 11. 緑苑小学校 12. 八木山小学校
13. 陵南小学校 14. 各務小学校 15. 蘇原第一小学校 16. 蘇原第二小学校
17. 中央小学校 18. わからない（ 町）

問6 あなたがお住まいの住居はどのような形態ですか。（○は1つ）

1. 1戸建て持ち家 2. 分譲マンション 3. 民間の賃貸住宅
4. 公社・公団・公営の賃貸住宅 5. 社宅・寮・官舎 6. その他（ ）

問7 あなたの各務原市での通算居住年数をお答えください。（○は1つ）
※旧川島町での居住年数含む

1. 1年未満 2. 1年以上5年未満 3. 5年以上10年未満
4. 10年以上15年未満 5. 15年以上20年未満 6. 20年以上

問 8

あなたの世帯はどのような家族構成ですか。(○は1つ)

1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 2世代(親と子)
4. 3世代(祖父又は祖母と親と子) 5. その他 ()

2 わたしたちのまち各務原市についてうかがいます。

問 9

各務原市に「自分のまち」といった愛着、親しみを感じますか。(○は1つ)

1. 感じている 2. 感じていない 3. どちらともいえない

問 10

あなたは、各務原市の住みやすさについてどのように感じますか。(○は1つ)

1. とても住みやすい ⇒問 11 へ 2. どちらかといえば住みやすい ⇒問 11 へ
3. どちらかといえば住みにくい ⇒問 12 へ 4. とても住みにくい ⇒問 12 へ
5. どちらともいえない ⇒問 13 へ

＜問 10 で「1. とても住みやすい」または「2. どちらかといえば住みやすい」と回答した方におたずねします。＞

問 11

住みやすいと思われる理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| 1. 生活環境が良いから | 2. 友人・知人が多いから |
| 3. 自然環境が良いから | 4. 交通事情や交通の便が良いから |
| 5. 通勤・通学に便利だから | 6. 買い物に便利だから |
| 7. 人間関係が良いから | 8. 物価が安いから |
| 9. 保育・教育環境が良いから | 10. 消防・防災・防犯体制が良いから |
| 11. 保健・医療サービスが良いから | 12. 福祉分野のサービスが良いから |
| 13. 働く場所があるから | 14. 住民の意見が市政に反映されているから |
| 15. まちのイメージや雰囲気が良く、親しみや愛着があるから | |
| 16. その他 () | |

＜問 10 で「3. どちらかといえば住みにくい」または「4. とても住みにくい」と回答した方におたずねします。＞

問 12 住みにくいと思われる理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1. 生活環境が良くないから | 2. 友人・知人が少ないから |
| 3. 自然環境が良くないから | 4. 交通事情や交通の便が良くないから |
| 5. 通勤・通学に不便だから | 6. 買い物に不便だから |
| 7. 人間関係が良くないから | 8. 物価が高いから |
| 9. 保育・教育環境が良くないから | 10. 消防・防災・防犯体制が良くないから |
| 11. 保健・医療サービスが良くないから | 12. 福祉分野のサービスが良くないから |
| 13. 働く場所がないから | 14. 住民の意見が市政に反映されていないから |
| 15. まちのイメージや雰囲気が悪く、親しみや愛着を感じないから | |
| 16. その他 (|) |

問 13 あなたは、これからも各務原市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

1. ずっと住み続けたい
2. 市外に移り住みたい
- ⇒住みたいまち (市・町・村)
3. わからない

問 14 あなたが、各務原市で最も誇れると思うものは何ですか。(自然、文化、場所、活動など、自由記述)

問 15

あなたは、各務原市にどのようなイメージを持っていますか。（1～15 までの項目について、それぞれあてはまるもの 1 つに○）

項 目	全く そう 思わない	そう 思わない	どちら とも いえない	そう 思う	強く そう 思う
1. 活気のあるにぎやかなまち	1	2	3	4	5
2. 若者にとって魅力的なまち	1	2	3	4	5
3. 自然と都市機能が調和しているまち	1	2	3	4	5
4. 伝統や歴史を感じる文化の香り高いまち	1	2	3	4	5
5. スポーツと健康づくりを推進するまち	1	2	3	4	5
6. 市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち	1	2	3	4	5
7. 高齢になっても生きがいを持って暮らせるまち	1	2	3	4	5
8. 医療や福祉が充実したまち	1	2	3	4	5
9. 保育・教育に積極的な子育てしやすいまち	1	2	3	4	5
10. 防犯、防災体制が整った安全なまち	1	2	3	4	5
11. ボランティア活動や地域のコミュニケーションが活発なまち	1	2	3	4	5
12. 高品質のものづくりなど産業が盛んなまち	1	2	3	4	5
13. 交通や都市基盤が発達した便利なまち	1	2	3	4	5
14. 世界に向けて情報発信するまち	1	2	3	4	5
15. 近隣市町のリーダーとしての役割を担うまち	1	2	3	4	5

問 16	あなたは、各務原市の将来の都市の姿として、どのようなまちになってほしいと思いますか。(○は3つまで)
------	--

1. 活気のあるにぎやかなまち
2. 若者にとって魅力的な個性的でおしゃれなまち
3. 自然と都市機能が調和している環境と共生したまち
4. スポーツ振興や歴史遺産があふれる文化の香り高いまち
5. 市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち
6. 高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち
7. 医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち
8. 教育に積極的で子育てしやすいまち
9. 防犯、防災体制が整った安全なまち
10. ボランティア活動や地域のコミュニケーションが活発なまち
11. 高品質のものづくりなど産業が盛んなまち
12. 交通や都市基盤が発達した便利なまち
13. 世界に向けて情報発信する国際的なまち
14. 近隣市町のリーダーとしての役割を担うまち
15. その他()

問 17	市が展開している次の1～37の施策について、それぞれに対するあなたの満足度、重要度を教えてください。 (満足度、重要度、それぞれにあてはまるもの1つずつに○) ※満足度：これまで市が行ってきた施策についてどの程度満足しているか 重要度：これから市がどの施策に特に力を入れて取り組むことが重要と考えるか
------	--

回答項目 施 策	これまでの満足度					これからの重要度				
	不満	どちらかといえば不満	どちらともいえない	どちらかといえば満足	満足	重要でない	あまり重要でない	どちらともいえない	どちらかといえば重要	重要
思いやりとふれあいのある協働のまち（市民協働）										
1. 市民協働 (対話や協働によるまちづくり 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 自治会・広報活動 (コミュニティ活動への支援、市広報活動の充実 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. 人権・平和 (人権・平和の尊重、男女共同参画、多文化共生の推進 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

回答項目 施策	これまでの満足度					これからの重要度				
	不満	どちらかといえば不満	どちらともいえない	どちらかといえば満足	満足	重要でない	あまり重要でない	どちらともいえない	どちらかといえば重要	重要
心豊かで文化を育む人づくりのまち（教育・文化・スポーツ）										
4. 学校教育 （学校教育の充実、地域資源の活用、施設・設備の充実 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 青少年教育 （地域教育力の向上、家庭教育の充実 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6. 学びの機会 （生涯学習の充実、図書館サービスの充実 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7. 芸術・文化・歴史 （芸術・文化活動の充実、歴史・文化遺産の保護と利活用 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8. スポーツ （スポーツ機会の創出、スポーツ施設の充実 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
豊かな自然と調和する共生のまち（環境）										
9. 環境保護・保全活動 （環境保護・保全活動の推進、環境教育の充実 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10. 循環型社会 （循環型社会の形成、適正な廃棄物の処理 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11. 生活環境 （地球温暖化防止対策の推進、生活排水対策の推進 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
元気があふれる健やかなまち（保健・医療）										
12. 健康づくり （健康づくり活動への支援、こころの健康の保持・増進 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13. 保健・予防 （生活習慣病等予防の推進、母子保健の充実 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14. 地域医療 （救急医療体制の充実、地域医療体制の整備 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
支えあいと笑顔あふれる思いやりのまち（福祉・社会保障）										
15. 地域福祉 （地域福祉の担い手育成、福祉の拠点づくりの推進 等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

回答項目 施策	これまでの満足度					これからの重要度				
	不満	どちらかといえば不満	どちらともいえない	どちらかといえば満足	満足	重要でない	あまり重要でない	どちらともいえない	どちらかといえば重要	重要
16. 社会保障 (国民健康保険制度、介護保険制度等の適正な運用 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17. 高齢者福祉 (地域包括ケア体制の構築、高齢者の自立支援・生活支援、高齢者の生きがいの推進 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18. 障がい児者福祉 (障がい児者の自立支援や社会参加の促進、障がい児者施設の充実 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19. 子ども福祉 (地域ぐるみの子育て支援体制の強化、乳幼児保育・教育の充実 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
いつまでも住み続けたい安全・安心のまち（防災・防犯）										
20. 防災体制 (防災体制の充実、地域防災力の向上 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
21. 消防・救急 (消防力・救急救助体制の強化、地域消防活動の推進 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
22. 防犯・交通安全 (防犯活動の推進、交通安全意識の啓発 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
23. 市民相談 (相談窓口体制の充実、消費者保護の推進 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
便利で快適に暮らせるまち（基盤整備）										
24. 都市空間 (魅力的な都市空間の形成、公園・緑地の保全 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
25. 交通体系 (幹線道路・生活道路の整備 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
26. 上下水道・河川 (水道水の安定供給、公共下水道の整備及び維持管理 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
27. 都市基盤の機能強化 (公共施設の長寿命化、施設の高付加価値化 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

施 策	回 答 項 目	これまでの満足度					これからの重要度				
		不満	どちらかといえば不満	どちらともいえない	どちらかといえば満足	満足	重要でない	あまり重要でない	どちらともいえない	どちらかといえば重要	重要
28. 公共交通	(公共交通ネットワークの形成、ふれあいバスの運行 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
賑わいと創造性を感じる活力あるまち（産業）											
29. 都市ブランド	(かかみがはらブランドの形成・発信 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
30. 工業	(企業誘致と市内企業の活性化、ものづくりの高度化 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
31. 商業	(商業・サービス業の振興、新たな事業や起業への支援 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
32. 観光・交流	(観光資源のブランド化、航空宇宙博物館の充実 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
33. 農業	(農地の保全と活用、地産地消の推進 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
34. 雇用	(多様な人材の育成、就労を支援する環境整備 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
持続可能な自立した地域経営のまち（行財政）											
35. 行政運営	(効率的・効果的な行政運営、公共施設の適正化 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
36. 財政運営	(計画的な財政運営 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
37. 広域連携	(広域行政の推進と連携強化 等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問 18	各務原市のまちづくりとして、ここ5年間で、 <u>特に改善した（＝進展した）と思う取り組み・悪化した（＝進んでいない）と思う取り組み</u> を教えてください。（問 17 の 37 項目の中から、改善したもの、悪化したものそれぞれ3つを選んで数字を記入）
------	---

（１）改善した（＝進展した）

項目番号			
------	--	--	--

（２）悪化した（＝進んでいない）

項目番号			
------	--	--	--

問 19

5年前に比べて「まちづくり」全般について改善したと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. とても改善したと思う | 2. まあ改善したと思う |
| 3. 変わっていない | 4. やや悪化したと思う |
| 5. 悪化したと思う | 6. わからない |

3 人口減少対策についてうかがいます。

平成 27 年度の国勢調査（※）で、各務原市の人口は初めて減少に転じました。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後も人口は減少し続ける見込みとなっており、少子高齢化の更なる進展も予測されています。

（※）国勢調査：日本に住んでいるすべての人及び世帯を対象とする国の統計調査。国内の人口や世帯の実態を明らかにするため、5年ごとに行われます。

問 20

あなたは、各務原市の人口が減少していくことについて、どのように思いますか。
(○は1つ)

- | | | |
|----------------|--------------|--------------|
| 1. 人口減少は望ましくない | 2. どちらともいえない | 3. 人口減少は望ましい |
|----------------|--------------|--------------|
- そう思われる理由 ()

問 21

人口の減少に対して、市はどのように取り組むべきだと思いますか。
(○は1つ)

1. 人口が増加するよう努力すべき
2. 現在程度の人口を維持するよう努力すべき
3. 人口減少の幅が少しでも小さくなるよう努力すべき
4. 人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき
5. わからない
6. その他 ()

問 22

あなたがお住まいの地域で、人口減少や少子高齢化の影響が出ている（と感じる）ことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|-------------------|---------------|--------------|
| 1. 子どもの減少 | 2. 高齢者のみ世帯の増加 | 3. 地域の繋ぎの希薄化 |
| 4. 伝統的行事・祭事の維持が困難 | 5. 空き家の増加 | 6. 商店の閉鎖 |
| 7. 特に発生していない・感じない | | |
| 8. その他 () | | |

問 23

市では、人口減少対策として、＜産業・雇用＞、＜子育て・教育＞、＜魅力向上＞を柱とした取り組みを進めています。あなたは、人口減少対策としてどのような施策が有効だと思いますか。(○は3つまで)

- | | | |
|----------------------|---------------|---------------------|
| 1. 産業の活性化 | 2. 雇用の確保や就労支援 | 3. 産業人材の育成 |
| 4. 結婚・妊娠・出産・産後への支援 | 5. 子育て環境の充実 | 6. 質の高い教育の提供 |
| 7. まちの魅力発信 | 8. 移住・定住の促進 | 9. 魅力あるイベントや観光資源の活用 |
| 10. 他市町村等との広域的な連携・交流 | | |
| 11. その他 () | | |

4 今後の公共施設の在り方についてうかがいます。

今後の公共施設については老朽化に対応する必要がある一方で、財政の見通しや人口減少・少子高齢化の進展等により、将来にわたり現在と同種・同規模で保有し続けることが困難な状況です。そのような中、公共施設を効率的・計画的に管理・運営していくためには、様々な視点からの検討が必要となります。そこで今後の公共施設の在り方についてご意見をうかがいます。

問 24 あなたは今後の公共施設の在り方について、どのように思いますか。(○は1つ)

1. 必要性の低い施設は削減する
2. 建替え時に規模（大きさ・機能）を縮小する
3. 現状維持する
4. その他（ ）

問 25 将来的に、今ある公共施設の総量（施設数）を削減していかなければならなくなった場合、どのような施設から削減していけば良いと思いますか。(○は3つまで)

1. 老朽化した施設
2. 利用度や稼働率が低い施設
3. 一部の個人・団体にしか使われない施設
4. 民間施設等で代替可能な施設
5. 維持管理経費の高い施設
6. 目的や機能が重複する施設
7. その他（ ）

問 26 次の1～8の方策について、それぞれに対するあなたのお考えを教えてください。(それぞれにあてはまるもの1つに○)

方 策	回 答 項 目				
	積極的に実施すべき	どちらかといえば実施すべき	どちらともいえない	どちらかといえば実施すべきではない	実施すべきではない
1. 今ある施設の統廃合、複合化、多機能化によって施設数を減らす	1	2	3	4	5
2. 計画的な保全を行うことにより、施設や設備を長寿命化させる	1	2	3	4	5
3. 民間のノウハウや資金を積極的に活用し、施設の建替えや管理運営を行う	1	2	3	4	5

方 策 \ 回 答 項 目	積極的に実施すべき	どちらかといえば実施すべき	どちらともいえない	どちらかといえば実施すべきではない	実施すべきではない
4. 地域と密着した施設については、地域住民が運営し、維持管理できるようにする	1	2	3	4	5
5. 施設におけるサービス水準を引き下げ、維持管理経費を減らす	1	2	3	4	5
6. 近隣の市町村と共同で施設を運営する	1	2	3	4	5
7. 施設におけるサービス相応の負担として、使用料を上げる	1	2	3	4	5
8. 施設の一部や土地を売却、貸付することにより収入を確保する	1	2	3	4	5

5 環境対策についてうかがいます。

(1) 地球温暖化対策について

問 27

あなたは、家庭でできる CO2(二酸化炭素)削減に積極的に取り組んでいますか。
(○は1つ)

1. 積極的に取り組んでいる
2. どちらかといえば取り組んでいる
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば取り組んでいない
5. 全く取り組んでいない

<問 27 で「1. 積極的に取り組んでいる」または「2. どちらかといえば取り組んでいる」と回答した方におたずねします。>

問 28

あなたはどのような取り組みをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. エアコンの冷暖房の温度に気を付けている
2. こまめに消灯したりコンセントを抜いている
3. 冷蔵庫の中を整理整頓している
4. エコドライブ(ふんわりアクセル、アイドリングストップ)を心掛けている
5. 買い物にはマイバッグを持参している
6. お店でプラスチック製のスプーン、ストローをもらわない
7. その他 ()

＜問 27 で、「4. どちらかといえば取り組んでいない」または「5. 全く取り組んでいない」と回答した方におたずねします。＞

問 29	取り組んでいない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
-------------	--------------------------------

1. CO2 を削減する必要を感じていないため
2. 取り組みが面倒なため
3. どんな取り組みがあるかわからないため
4. その他 ()

問 30	CO2 削減のために、生ごみの水切りや、食品ロス（食べられるのに廃棄されている食品）を減らすことが効果的です。 そこで、生ごみを捨てる時の水切りについて、お聞きします。 次の中であてはまるものはどれですか。(○は 1 つ)
-------------	---

1. 水をよくしぼってから捨てている
2. 水を軽く切ってから捨てている
3. 水を切らずそのまま捨てている
4. 生ごみは出していない

(2) 食品ロスについて

問 31	食品ロスを意識して、その削減に取り組んでいますか。(○は 1 つ)
-------------	-----------------------------------

1. 取り組んでいる
2. 取り組んでいない

問 32	食品ロスを削減するために取り組んでいることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)
-------------	---

計画的に買い物する

1. 買い物前に家庭にある食品を確認して必要なものだけ買う
2. バラ売り・少量パックを利用して使う量だけ買う

賞味期限^{※1}と消費期限^{※2}の違いを正しく理解する

3. すぐ使うものは、賞味期限・消費期限が近いものを買う
4. 賞味期限が過ぎていても食べられるものは食べる

使いきる、食べきる

5. 料理を作りすぎない
6. 好き嫌いをなくし残さず食べる
7. 外食では食べられる分だけ注文する
8. 野菜の茎や皮など丸ごと使ったレシピで食品を使いきる

それでも残ってしまったら

9. 残った食品を別の料理に利用する（リメイク）
10. フードドライブ^{※3}に余った食品を寄付する
11. その他 ()

※1 賞味期限：食品をおいしく食べられる期限で、期限を多少過ぎても食べられる

※2 消費期限：食品を安全に食べられる期限

※3 フードドライブ：各家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、これを必要としている団体などに寄付する活動

今後、食品ロス削減をより一層進めていくために、行政（市役所など）や、事業者（食品販売店など）に実施してほしい取り組みはありますか。（自由記述）

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins or other markings on the paper.

(3) 残骨灰の処理について

「残骨灰」とは、火葬後に骨上げされなかった骨などのことです。

各務原市では、市営斎場で発生する残骨灰について、礼節を持って丁重に供養するとともに、環境衛生上問題のないように有害物質を適正に処理することを条件に、引き取りから最終埋葬地への納骨の実施などを民間事業者にも業務委託しています。一方で、残骨灰には、金・銀・プラチナ・パラジウム等の有価物が含まれており、残骨灰を売却して斎場整備や運営の財源に充てている自治体もあることから、今後の市営斎場運営の参考にするためご意見をうかがいます。

残骨灰には金・銀・プラチナ・パラジウム等の有価物が含まれていることをご存じですか。

1. はい 2. いいえ

残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収益を公益（斎場の運営経費など）のために活用する自治体が増加しています。本市において同様の取組みをすることについて、どう思われますか。（○は1つ）

1. 取り組むべきである
2. 取り組むべきでない
3. わからない
4. その他 ()

6 協働のまちづくりについてうかがいます。

問 36

これからの各務原市のまちづくりを進めていくとき、市民と行政との関係はどうあるべきだと思いますか。(○は1つ)

1. 市民や地域でできることは市民主体で行い、できないことを行政が担う
2. 市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める
3. 行政が主体となって、まちづくりを進める
4. その他 ()

問 37

あなたは、まちづくり活動に対する市民参加の機会がある場合、参加したいと思いますか。(○は1つ)

1. 積極的に参加したい ⇒問 38 へ
2. できるだけ参加したい ⇒問 38 へ
3. 参加したいと思うが参加できない ⇒問 39 へ
4. 参加したいとは思わない ⇒問 39 へ
5. わからない
6. その他 ()

<問 37 で「1. 積極的に参加したい」または「2. できるだけ参加したい」と回答した方におたずねします。>

問 38

どのような形で参加したいですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 公募などによる各種審議会や委員会等のメンバーになって市政に参加したい
2. 意見交換会やワークショップなど、行政と住民とが協働する活動に参加したい
3. 自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい
4. NPOやボランティアなどの市民活動団体への参加を通じて関わりたい
5. アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい
6. その他 ()

<問 37 で「3. 参加したいと思うが参加できない」または「4. 参加したいとは思わない」と回答した方におたずねします。>

問 39

参加できない、または参加したいと思わないと思われる理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事が忙しくて参加する時間がない
2. 家事・育児・介護などで時間がない
3. 人間関係がわずらわしい
4. 地域と一緒に参加する仲間がいない
5. 参加するメリットや必然性を感じない
6. まちづくり活動の情報が手に入らない
7. 余暇の時間を使ってまで参加しようとは思わない
8. 興味・関心がない
9. その他 ()

7 あなたの幸せについてうかがいます。

現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、何点くらいになると思いますか。(0～10点までの間で、1つに○)

とても不幸 ←————→ とても幸せ

0点 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10点

あなたが幸せであるために重要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

1. 家計（所得・消費）の状況
2. 就業状況（仕事の有無・安定）
3. 仕事と生活のバランス
4. 自分や家族の健康状況
5. 自由な時間
6. 充実した余暇・趣味
7. 仕事の充実度
8. 社会貢献や生きがい
9. 家族関係
10. 友人・交友関係
11. 職場の人間関係や職場環境
12. 地域コミュニティや近隣との関係
13. 精神的なゆとり
14. 追求める夢や理想
15. その他（ ）

8 自由意見

最後に、市政や地域の将来像、今後市として取り組むべきことなどについて、ご意見、ご提言がありましたら自由にお書きください。皆様からお寄せいただいたご意見やご提言は、市政運営の参考とさせていただきます。

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

2. 市民意識調査（中高生）の調査票

1 最初に、あなたご自身についてうかがいます。

問1 あなたの性別をお答えください。（いずれかに○）

1. 男性 2. 女性 3. 無回答

問2 あなたの学年をお答えください。（数字を記入）

1. 中学（ ）年生 2. 高校（ ）年生

問3 あなたがお住みの校区はどちらですか。（○は1つ）※校区がわからない方は町名を記入

- | | | | |
|------------|----------------------|-------------|-------------|
| 1. 那加第一小学校 | 2. 那加第二小学校 | 3. 那加第三小学校 | 4. 尾崎小学校 |
| 5. 稲羽西小学校 | 6. 稲羽東小学校 | 7. 川島小学校 | 8. 鵜沼第一小学校 |
| 9. 鵜沼第二小学校 | 10. 鵜沼第三小学校 | 11. 緑苑小学校 | 12. 八木山小学校 |
| 13. 陵南小学校 | 14. 各務小学校 | 15. 蘇原第一小学校 | 16. 蘇原第二小学校 |
| 17. 中央小学校 | 18. わからない（ ）町 | | |

問4 あなたのご家族はどのような構成ですか。（○は1つ）

1. 2世代（あなたと親） 2. 3世代（あなたと親と祖父又は祖母）
3. ひとり暮らし 4. その他（ ）

2 各務原市への愛着や住みやすさについてうかがいます。

問5 あなたは各務原市のことが好きですか。（○は1つ）

- | | |
|------------------|------|
| 1. とても好き | ⇒問6へ |
| 2. どちらかといえば好き | ⇒問6へ |
| 3. どちらかといえば嫌い | ⇒問7へ |
| 4. 嫌い | ⇒問7へ |
| 5. その他（ ） | |

<問5で「1. とても好き」または「2. どちらかといえば好き」と回答した方におたずねします。>

問6 「好き」と思う理由を自由に書いてください。

＜問5で「3. どちらかといえば嫌い」または「4. 嫌い」と回答した方におたずねします。＞

問7

「嫌い」と思う理由を自由に書いてください。

問8

あなたは、各務原市の住みやすさについてどのように感じますか。(○は1つ)

- | | | | |
|------------------|-------|------------------|-------|
| 1. とても住みやすい | ⇒問9へ | 2. どちらかといえば住みやすい | ⇒問9へ |
| 3. どちらかといえば住みにくい | ⇒問10へ | 4. とても住みにくい | ⇒問10へ |
| 5. どちらともいえない | ⇒問11へ | | |

＜問8で「1. とても住みやすい」または「2. どちらかといえば住みやすい」と回答した方におたずねします。＞

問9

住みやすいと思われる理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| 1. 生活環境が良いから | 2. 友達や知り合いが多いから |
| 3. 自然環境が良いから | 4. 交通事情や交通の便が良いから |
| 5. 人間関係が良いから | 6. 買い物に便利だから |
| 7. 物価が安いから | 8. 保育・教育環境が良いから |
| 9. 消防・防災・防犯体制が良いから | 10. 保健・医療サービスが良いから |
| 11. 福祉分野のサービスが良いから | |
| 12. まちのイメージや雰囲気良く、親しみや愛着があるから | |
| 13. その他 (|) |

＜問8で「3. どちらかといえば住みにくい」または「4. とても住みにくい」と回答した方におたずねします。＞

問10

住みにくいと思われる理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------------------|----------------------|
| 1. 生活環境が良くないから | 2. 友達や知り合いが少ないから |
| 3. 自然環境が良くないから | 4. 交通事情や交通の便が良くないから |
| 5. 人間関係が良くないから | 6. 買い物に不便だから |
| 7. 物価が高いから | 8. 保育・教育環境が良くないから |
| 9. 消防・防災・防犯体制が良くないから | 10. 保健・医療サービスが良くないから |
| 11. 福祉分野のサービスが良くないから | |
| 12. まちのイメージや雰囲気が悪く、親しみや愛着を感じないから | |
| 13. その他 (|) |

問 11

あなたは将来、各務原市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

1. ずっと各務原市に住み続けたい
2. 一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい
3. 市外に移り住みたい

⇒住みたいまち (

市・町・村)

4. わからない

3 各務原市のまちの魅力についてうかがいます。

問 12

あなたが思う、各務原市のまちとしての魅力はどのようなことですか。
(○は3つまで)

1. 自然が豊かであること
2. 交通の利便性がよいこと (岐阜や名古屋に行きやすい)
3. 産業が盛んなこと
4. 観光などを楽しめるまちであること (特産品やレジャー施設など)
5. 広大な公園や桜並木など、美しい景観があること
6. 買い物に便利であること (大きな商業施設など)
7. まちに歴史や文化があること
8. イベントやお祭りが盛んなこと
9. 子どもやお年寄りにやさしいまちであること
10. 消防・防災・防犯体制が整った安全なまちであること
11. ボランティア活動や地域での活動が活発であること
12. その他 (

)



4 日常生活における満足度についてうかがいます。

問 13

あなたの身近な生活環境について、どの程度満足していますか。

次の 1～14 の項目について、満足度を 1～5 の中からそれぞれ 1 つ選んでください。

項目番号	項 目	不 満	どちらかといえば不 満	どちらともいえない	どちらかといえば満足	満 足
1	病院や診療所などの医療サービス	1	2	3	4	5
2	高齢者や障がい者への福祉サービス	1	2	3	4	5
3	小・中学校での教育環境	1	2	3	4	5
4	スポーツ・レクリエーションを楽しむ場や機会	1	2	3	4	5
5	芸術や文化を楽しむ場や機会	1	2	3	4	5
6	電車・バス・道路などの交通の便利さ	1	2	3	4	5
7	道路・歩道などの交通安全対策	1	2	3	4	5
8	まち並みの美しさ	1	2	3	4	5
9	公園や緑地、広場などの遊び場の数	1	2	3	4	5
10	ごみ処理やリサイクルなどの方法（分別や回収の仕方など）	1	2	3	4	5
11	騒音・振動・悪臭などの公害対策	1	2	3	4	5
12	身近な緑や河川などの自然環境	1	2	3	4	5
13	防災についての対策や取り組み	1	2	3	4	5
14	日常の買い物の便利さ	1	2	3	4	5

問 14

あなたの生活環境がより良くなるために、問 13 の項目の中であなたが特に重要だと思う項目について 1～14 の項目番号から 3 つまで選び、番号を記入してください。

特に重要だと思うこと

項目番号			
------	--	--	--

5 まちづくりへの関心についてうかがいます。

問 15

あなたは、地域でのボランティア活動や、各務原市のまちをより良くする活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1. 積極的に参加したい | ⇒問 16 へ |
| 2. 参加したいと思っている | ⇒問 16 へ |
| 3. 参加したいと思うが参加できない | ⇒問 17 へ |
| 4. 参加したいとは思わない | ⇒問 17 へ |
| 5. わからない | ⇒問 18 へ |
| 6. その他 (|) ⇒問 18 へ |

＜問 15 で「1. 積極的に参加したい」または「2. 参加したいと思っている」と回答した方におたずねします。＞

問 16

どのような形で参加したいですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. まちづくりの方向性を決める場に出て意見を言う | |
| 2. 各務原市の将来などについてみんなで話し合う | |
| 3. 近所の人と、身近な地域のための活動をする | |
| 4. ボランティア活動などをする | |
| 5. アンケートなどで市へ意見を伝える | |
| 6. その他 (|) |

＜問 15 で「3. 参加したいと思うが参加できない」または「4. 参加したいとは思わない」と回答した方におたずねします。＞

問 17

参加できない、または、参加したいと思わないと思われる理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 勉強が忙しい | |
| 2. クラブ活動が忙しい | |
| 3. 人間関係がわずらわしい | |
| 4. 一緒に参加する仲間がいない | |
| 5. まちづくり活動の情報がないので参加できない | |
| 6. 自由な時間を割いてまで参加しようとは思わない | |
| 7. 興味・関心がない | |
| 8. その他 (|) |

6 あなたの幸せについてうかがいます。

現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、何点くらいになると思いますか。(0～10点までの間で1つに○)

とても不幸 ←————→ とても幸せ
 0点 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10点

あなたが幸せであるために重要だと思うことは何ですか。(○は3つまで)

1. 心身が健康であること
2. 自由な時間があること
3. やりがいがある仕事につくこと
4. 自由に使えるお金があること
5. 人から必要とされること
6. 将来への夢があること
7. 家族と楽しく暮らすこと
8. 友人に恵まれていること
9. 地域の中で役立つこと
10. 良い学習環境の中で勉強できること
11. その他 ()

あなたは、自分の将来が楽しみです。(○は1つ)

1. とても楽しみ
2. まあまあ楽しみ
3. どちらとも言えない
4. あまり楽しみではない
5. 楽しみではない

7 あなたのアイデアをうかがいます。

もし、あなたが各務原市の市長だったらどんな「まちづくり」をしたいですか。
「こんなまちを作りたい!」という思いをお書きください。

①まちのキャッチフレーズは？（ ）

②何に力を入れたいですか？（ ）

③どんなまちにしたいですか？（ ）

自由意見

最後に、各務原市がもっと住みよく、より良いまちになるためのアイデアや意見などを、ご自由にお書きください。

以上で質問はすべて終了です。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。

調査票は、先生の指示にしたがって提出してください。

